

## 南部地域活性化推進に関する調査研究



# 南部地域活性化推進に関する調査研究

豊中市都市経営部 とよなか都市創造研究所

研究員 平田 誠一郎



# 目次

第1章 はじめに.....	1
1-1. 調査研究の背景と目的.....	1
1-2. 豊中市による南部地域活性化施策.....	2
1-3. とよなか都市創造研究所による南部地域に関する調査研究.....	7
1-4. 本調査研究での問い.....	8
1-5. 本調査研究の方法.....	9
1-6. 報告書の構成.....	9
（付記）豊中市の地域区分について.....	10
第2章 データから見る南部地域の現状.....	11
2-1. 人口・世帯——人口減少の度合いの変化.....	11
2-2. 社会動態——転入が超過する年代の増加.....	15
2-2-1. 転入・転出の状況.....	15
2-2-2. 子育て世帯の動向.....	17
2-2-3. 単身での転入.....	18
2-2-4. 市内転居.....	19
2-3. 自然動態.....	21
2-4. 市内各地域における従業者数・事業所数.....	24
2-5. コミュニティの状況.....	29
2-5-1. 地域自治.....	29
2-5-2. 市民公益活動.....	29
2-6. 小括.....	30
第3章 地域のイメージと人との関わりについてのアンケート.....	31
3-1. アンケートの概要について.....	31
3-1-1. アンケートの趣旨.....	31
3-1-2. アンケート調査の実施概要.....	32
3-1-3. アンケート調査結果の集計と分析について.....	33

3-2. 回答者の属性について .....	35
3-2-1. 年齢・性別 .....	35
3-2-2. 世帯 .....	36
3-2-3. 職業 .....	37
3-2-4. 住宅 .....	38
3-2-5. 社会経済的制約 .....	39
3-3. 地域環境と地域での生活について .....	41
3-3-1. 地域環境評価 .....	41
3-3-2. 「食」について .....	49
3-3-3. 「スポーツ」について .....	54
3-3-4. 「音楽」について .....	57
3-4. 社会関係について .....	61
3-4-1. 信頼 .....	61
3-4-2. 団体への所属 .....	64
3-4-3. 交友関係 .....	67
3-4-4. 日常での社会関係 .....	70
3-4-5. 地域の子どもの関わり .....	77
3-4-6. 防災・防犯 .....	81
3-4-7. 地域の祭り .....	84
3-5. 主観的幸福度・満足度 .....	86
3-6. 地域の印象 .....	88
3-6-1. 商店街のイメージ .....	88
3-6-2. 「身近な緑」のイメージ .....	92
3-6-3. 居住地域の印象 .....	93
3-7. 地域への愛着・居住意向・地域生活への満足度 .....	96
3-8. 地域の良いところ---自由記述回答から .....	101
3-9. 幸福度・満足度に関する回帰分析 .....	104
3-10. 小括 .....	110

第4章 地域の魅力について「聴く」 .....	111
4-1. インタビューの概要.....	111
4-2. 南部地域を語るトピック .....	112
4-2-1. 人への関わり .....	112
4-2-2. 地域の開放性.....	114
4-2-3. 個店のネットワーク .....	114
4-2-4. 事業などのスタートに適した街 .....	116
4-2-5. 日常と観光資源 .....	117
4-2-6. 居場所と拠点.....	117
4-2-7. 南部（庄内）の歴史と現在 .....	119
4-3. 小括.....	121
第5章 おわりに.....	122
5-1. 調査研究の主な結果.....	122
5-2. 地域資源の可視化とアンケート調査について .....	122
5-3. 地域の開放性と「人が交わる場」の重要性.....	123
5-4. 今後の課題.....	123
参考文献 .....	125
謝辞 .....	126
資料 .....	127



# 第1章 はじめに

## 1-1. 調査研究の背景と目的

豊中市南部地域——人情味あふれる下町、ものづくりのまち、音楽大学のまち、さまざまなイメージがあるが、そのイメージを確かな形で捉えてみたいということが本調査研究の出発点である。

豊中市南部地域は大阪府の北摂地域に位置する豊中市の市域の中で、市内を横切る名神高速道路以南の地域である。大阪市に隣接していることで通勤に便利であり、昭和時代の高度経済成長期に多くの人口が豊中市に流入する中、手頃な価格の賃貸住宅が多く建設され人口が急増した。しかし地方から都市部への人口の流入減少、郊外の開発による人口移動により、昭和45年（1970年）を境にして南部地域の人口は減少へと転じることになる（豊中市2018:1）。

豊中市の人口が現在も増加を続ける一方、南部地域の人口は減少傾向をたどっている。もちろん日本全国の人口が減少期となる中、人口の減少自体は珍しいことではない。しかしながら、南部地域は市内の他地域と比べ高齢化の度合いが高く、子どもやその親世代では市内の他地域や市外へ移り住む人が、地域内に引っ越してくる人の数を上回っている。20代の人口の動きは活発であるが、転入・転出ともに多い。こうした人口構成は、都市部ではあるが少子高齢化が顕著に進んだことを示している。

人口の減少と並んで南部地域の課題として示されているのは、子どもたちの学習課題や市有施設の老朽化などである（豊中市2018:1）。これらの課題については、市の施策においても様々な取り組みが行われている。特に庄内地域における6つの小学校と3つの中学校を2つの義務教育学校に再編する「庄内地域における『魅力ある学校』づくり計画」に基づく事業と、市有施設の複合化・多機能化に加え地域課題の解決や地域ブランドの創造に資する機能を集約した「(仮称)南部コラボセンター」の建設は、近年の取り組みの中でも大規模なものである。豊中市による南部地域活性化に関する事業は、現在進行形で進んでいる。

このような状況にあって南部地域はいま大きな変化を迎えようとしている。さまざまな活性化施策によって地域課題への取り組みが進められる中、地域の姿や地域のイメージの現状はどのようになっているのであろうか。

本調査研究では、変化のただなかにある南部地域の現状を把握するとともに、地域のイメージの中でも特に「ポジティブ」な部分を把握することを目的としている。というのも、これまでのとよなか都市創造研究所での調査研究においては、アンケート調査結果を地域ごとに集計した場合、南部地域においてネガティブな回答が見られる場合が多かったからである。この結果はもちろん地域課題を指し示しているが、一方でこれらのアンケートで焦点を当てていないところに、南部地域の良さがあるのではないかとすることも考えられる。そこで今回の調査研究ではアンケートのテーマ及び選択肢を工夫したうえで、地域イメージに関する調査を行った。また南部地域での人のつながりに着目してソーシャル・キャピタル（社会関係資本）に関する質問項目も重点的に盛り込んだ。

さらにアンケートと合わせて本調査研究では、南部地域での地域活動に携わっている方々にも少数ではあるがインタビュー調査を行った。ここでは、具体的なエピソードを通じて南部地域の魅力・良いところについてまとめた。

これらの研究を総合して南部地域のイメージを描き出し、地域活性化へ寄与する視点をまとめていくこととしたい。



## 1-2. 豊中市による南部地域活性化施策

豊中市では、南部地域活性化を重点的な施策として取り組んできた。ここでは市による施策について、本調査研究の前提として関連する点をまとめていきたい。

### (1) 南部地域活性化構想・南部地域活性化基本計画

豊中市では平成 30 年（2018 年）1 月に「南部地域活性化構想」をまとめ、これからの南部地域のまちづくりの方向性を定めている。さらに、市では令和 2 年（2020 年）2 月には南部地域活性化構想の推進に向けた「南部地域活性化基本計画」を策定している。

豊中市南部地域活性化構想は「これまでの取組みをふまえるとともに、地域特性や社会環境の変化に伴う課題を整理し、市民・事業者と行政が共有できる中長期的なまちづくりの方向性を示すことで、さまざまな施策を一体的に推し進め、まちの活性化に向けた取組みにつなげることを目的とします」（豊中市 2018:1）とあるように、南部地域の課題を集約し、今後の施策の基本となるものである。

構想の策定に際しては、本市の取り組みと、市民を対象とした 3 つのワークショップ（庄内地域における「魅力ある学校」づくり計画・(仮称)南部コラボセンター基本構想・豊中市南部地域活性化構想策定に向け実施したワークショップ）での結果を踏まえ、まちづくりの「3 つの柱」と「6 つの目標」が定められている（図表 1）。

図表 1 まちづくりの「3 つの柱」と「6 つの目標」

わたしたちが思い描くまち	
3 つの柱	6 つの目標
Ⅰ. 子どもたちの元気があふれるまちづくり	目標Ⅰ-1. 全国のモデルとなる教育先進地になる
	目標Ⅰ-2. 地域のつながりを活かした子育て・子育て環境をつくる
Ⅱ. 誰もが安全に安心して暮らせるまちづくり	目標Ⅱ-1. 災害に強く、安心して暮らせるまちをつくる
	目標Ⅱ-2. 個々の力を活かし、誰もが活躍できる環境をつくる
Ⅲ. にぎわいとゆとりのあるまちづくり	目標Ⅲ-1. 界隈性を活かし、新たなにぎわいを創出する
	目標Ⅲ-2. 快適でゆとりのあるまちをつくる

（豊中市 2018:1）

これらの「3 つの柱」と「6 つの目標」を見てみると、例えば「目標Ⅰ-2」における「地域のつながり」や「目標Ⅲ-1」における「界隈性」など、南部地域の特色に立脚した内容となっている。地域の特性を活かしたまちづくりの方向性が定められているのである。

上記の南部地域活性化構想を推進するため、令和2年（2020年）2月に策定された南部地域活性化基本計画では、「心地よくなって、個性豊かで、新しい！ 豊中の“南の玄関口”は、新しいことにチャレンジする次の時代の人材を育てる“みらいへの玄関口”というコンセプトを掲げ、次の3つのステップでまちづくりを進めるとしている（図表2）。

図表2 南部地域活性化基本計画における「3つのステップ」

ステップⅠ	<p>特色ある学びのフィールドと地域の連携を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育学校と大阪音楽大学、地域内の事業所との連携</li> <li>・南部コラボセンターを核とした多世代・多文化の交流と地域のつながり・最先端技術を活かした子育て・子育ての仕組みづくり</li> <li>・「ICTフィールド」としての最先端技術の教育・保育分野への活用</li> <li>・現在の小学校区単位の地域コミュニティを大切にしながら多世代・多様な主体との連携によるコミュニティ強化</li> </ul>
ステップⅡ	<p>地域の拠点や核をつなげ、人を呼び込む機能を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内駅周辺など既存の商業・サービス施設の集積を維持・強化しながらのにぎわい創出の誘導</li> <li>・義務教育学校・南部コラボセンターなど新拠点設置や公共施設再編による跡地への新たな機能導入による地域の拠点・核の役割発揮</li> <li>・未整備の都市計画道路の整備とともに阪急服部天神駅以南の区域について東西方向の道路円滑化、駅へのアクセス性向上、安全で快適な交通環境の検討</li> <li>・南部地域内を東西、南北に繋げる地域内連携軸を整え、新大阪など周辺部からも人を呼び込むネットワークの強化</li> </ul>
ステップⅢ	<p>様々なライフスタイルが実践でき、住み続けたい環境をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立地適正化計画による「一般形居住誘導区域」は、災害に強くより安心して暮らせる地域として、子どもを産み、育てやすい住環境を充実</li> <li>・「一般形居住誘導区域」以外では、新大阪駅に近いことから起業やフリーランスなど柔軟で新しい暮らし方を志向する層の増加が期待されるため、自由で創造的なライフスタイルの実践を促す</li> <li>・「ICTフィールド」として南部地域全体の防犯や防災、医療・福祉での安全・安心をICT技術の活用により高め、歴史ある産業と新しい技術産業の操業環境を整え、産業のまちとしての価値を高める</li> </ul>

豊中市（2020）から作成

以上のコンセプトとステップを踏まえて、計画では地域に「心地のいい暮らしゾーン」「イノベーション推進ゾーン」の2つのゾーンを設定し、南部地域のまちの将来像を描いている。「心地のいい暮らしゾーン」は庄内駅を中心とした商業活動と大阪音楽大学などの文化活動と住みやすい環境を組み合わせたゾーンである。「イノベーション推進ゾーン」は三国塚口線以南・阪神高速道路池田線以西で既

存の事業所の操業環境と住環境に加え、新しい働き方や暮らし方の価値観を持つ人々を呼び込み産業や生活のイノベーションが生まれていくゾーンであるとする。

つまり、地域資源を活かした住環境の充実と、これまでの産業の集積に加え起業やフリーランスで働く層を呼び込みイノベーションを促していくというまちづくりのステップとゾーニングが描かれているわけである。また、義務教育学校への統合によって生じた学校跡地の活用についても本計画と連動して検討される。

そして「20年後の地域の姿」を見据えて、目標値も設定されている。地域の人口については現状を維持、高齢化率については市平均まで低下すること、年少人口については令和2年2月現在の現状である10.6%から12.3%まで上昇することが目指されている。すなわち、この計画で描かれている南部地域の将来像では、「人口減少・高齢化に歯止めをかけ、子育て世帯を呼び込んだ適正な人口構成になっていく」（豊中市2020：21）と考えられているのである。

では次にこの計画とも関わっている重要なプロジェクトを中心に、具体的な取り組みを見ていくことにしよう。

## （2）（仮称）南部コラボセンター

豊中市では、南部地域にある既存の公共施設の再編を進めるため「（仮称）南部コラボセンター」の建設を進めている。「（仮称）南部コラボセンター」は、整備検討会議や市民とのラウンドテーブルを経て平成26年3月にまとめられた「（仮称）南部コラボセンター基本構想」に基づくもので、以下の5つの基本方針を定め、施設整備を進めることとなった。

- ① 地域へのほこりと南部地域のブランドを市民が主体となって創造する
- ② 生活面の課題を改善し、「いきいきと」「充実した」暮らしと福祉を実現する
- ③ 地域を担う次世代を地域全体で育む
- ④ 老朽化し、散在する公共施設やサービスをとりまとめ、市民サービスの拠点を形成する
- ⑤ 地域の教育環境の再編と連動、連携して地域ぐるみの教育に取り組む～（仮称）南部コラボセンターの機能を補うサテライト機能の設置～

（豊中市2014：14-15）

上記の基本方針とともに、基本構想では（仮称）南部コラボセンターのビジョンを「子どもに夢を！地域に輝きを！南部地域がまとまる、つながる、元気になる」というキャッチフレーズで示している。そして「生活、学習等支援拠点機能」「交流拠点機能」「地域ブランド創造拠点機能」「市民活動コーディネート機能」「市民サービス拠点機能」の5つの機能を併せ持つ施設として整備する構想がまとめられた。

現在の状況としては、次に取り上げる小中学校の再編と並行して施設の建設が行われているところである。小中学校の統合によって開校される義務教育学校と隣接する形で一体化された整備が進められており、1階には（仮称）市民活動支援センター、保健センター、子育て支援センター、公民館、2階には図書館、児童生徒支援機能、貸室、3階には市役所出張所、介護予防センター、キャリアセンタ

一、貸室、4階には公民館、その他貸室が入居する複合施設となり、令和5年（2023年）2月の開設が予定されている。

### （3）庄内地域における「魅力ある学校づくり」計画

上記の（仮称）南部コラボセンターの建設と並行して進められているのが、南部地域の中でも阪急宝塚線より西側の地域にある小中学校を再編し、2校の義務教育学校に統合するという「庄内地域における『魅力ある学校づくり』計画」である。市民とのワークショップやそれをもとにした連絡会での意見交換などを経て、平成29年（2017年）8月に豊中市教育委員会によって計画がまとめられた。

この地域にはもともと6つの小学校と3つの中学校があったが、計画によればそれぞれの学校が児童数・生徒数の減少により小規模校化が進行し、人間関係の固定化や教育活動の制約などの課題が深刻化しているという。また、家庭事情を背景とした生活・学習課題に直面している子どもたちが、厳しい生活を背景に、自分に自信がもてない、将来の夢や目標がもてない状況があり、そのような子どもたちが自信と誇りを持てるように育んでいく必要もあるとしている（豊中市教育委員会2017：1）。

そこで学校規模を確保するとともに、小中学校の教員が一体となった教育の質的充実などの観点から「既存の小・中学校を再編し、新たな施設一体型小中一貫校を設置する『魅力ある学校』づくり計画」（豊中市教育委員会2017：2）が策定された。

計画されている義務教育学校では、自尊感情や自己肯定感など「学ぶ意欲の土台となる資質・能力」の向上を基礎として、①義務教育9年間を通じた特色ある教育活動、②発達段階に応じた学年段階の区切り「4-3-2制」、③「地域とともにある学校」から、「つながる力」「まなぶ力」「つくる力」を培い、「自ら考え、行動し、仲間とともに豊かな社会をつくる子ども」という「めざす子ども像」を実現する仕組みを作るとしている（豊中市教育委員会2020：2）。

具体的には、上記①の特色ある教育活動として「1～9年生までの異学年交流」や「5年生からの一部教科担任制」「英語教育やICT教育の充実や地域、生き方、表現などの特色ある教育」が掲げられ、②の「4-3-2制」によって9年間の接続の円滑化を図り、③の「地域とともにある学校」ではこれまで以上に保護者や地域住民の参画を得て学校を運営する仕組みを構築するとしている。また、先に取り上げた（仮称）南部コラボセンターとの連携による「公共図書館との連携」「家庭学習や家庭教育の支援」「教育相談機能の充実」が掲げられている（豊中市教育委員会2020：2-3）。

また現在の状況<sup>1</sup>としては、（仮称）南部コラボセンターと隣接する敷地内に、地域の北側に属する学校を統合した義務教育学校・（仮称）庄内さくら学園の建設が進んでおり、令和5年（2023年）4月に開校予定である。地域の南側・西側を統合した義務教育学校は（仮称）南校として令和8年（2026年）4月の開校をめざして検討中である。

---

<sup>1</sup>（仮称）庄内さくら学園は、庄内小学校・野田小学校・島田小学校・第六中学校・第十中学校を再編するものである。義務教育学校の開校に先立つ令和2年（2020年）4月、庄内小学校が野田小学校と同居する形で移設されるとともに、第六中学校と第十中学校が統合し庄内さくら学園中学校として第十中学校の校舎を使って開校した。義務教育学校の（仮称）庄内さくら学園は第六中学校・庄内小学校の敷地に（仮称）南部コラボセンターと合わせて整備される。

また、（仮称）南校は庄内南小学校・庄内西小学校・千成小学校・第七中学校を再編し、千成小学校・せんなりこども園の敷地に整備される予定である。

#### (4) 南部地域の活性化に向けた社会実験

これまで述べてきたように南部地域では学校再編が進行中であるが、再編により生じた学校跡地の活用について豊中市は令和2年度(2020年度)に「豊中市南部地域の学校跡地に関する個別活用計画」を策定した(豊中市2021)。この計画では、学校跡地利活用の基本コンセプトを①子どもたちの未来につながるまちづくりをめざす、②まちの魅力、地域活性化の拠点とする、③将来的な財政負担を抑えることを前提とする、の3点としている。そのうえで先に紹介した南部地域活性化基本計画の「心地よくなって、個性豊かで、新しい! 豊中の“南の玄関口”は、新しいことにチャレンジする次の時代の人材を育てる“みらいへの玄関口”という基本コンセプトと掛け合わせて、「地域に根差した固有の魅力づくり」から関係人口・交流人口、愛着を持ち住まう人口の増加を「学校跡地に関する個別活用計画」の趣旨とした。ここで地域に根差した固有の魅力づくりに関わる地域資源として、「音楽」「ものづくり」「スポーツ」「食」の4要素を学校跡地の活用に盛り込むことが示されている。

学校跡地の利活用は令和5年(2023年)以降に始まることから、現在は都市経営部創造改革課によって地域資源の4要素を「地域内外の人々がまちなかや暮らしのなかで、体感できるような社会実験を行い、南部地域の魅力向上」<sup>2</sup>につなげるイベントが企画・実施されている。

イベントは長期間にわたる定常的社会実験と、定常的社会実験の内容を1日で集中して行う集中的社会実験の2つに分けられている。令和3年度(2021年度)には定常的社会実験として、庄内駅前にある豊南市場の営業時間外を活用してスケートボードやインラインスケートのコース開放やスケート教室を行う「豊南市場ナイトパーク」、阪急庄内駅東口前の通りで楽器の演奏や歌を楽しむことができる「スキナ音楽をシェアする駅前通り」が実施された(いずれも期間は10月23日から11月20日までの土・日曜)。

また集中的社会実験は、定常的社会実験が終了した翌日である11月21日(日)に行われ、野田中央公園を会場として「音楽」「ものづくり」「スポーツ」「食」の4要素が体感できる「まちごと暮らスクール」として実施された。この日の社会実験では、さまざまなアーティストが出演するステージや飛び入り参加可能のオープンマイク(音楽)、企業によるクラフトショップ(ものづくり)、スケボーなどが楽しめる広場(スポーツ)、キッチンカーの出店(食)が企画され、それぞれに関連するワークショップも行われた。

これらの社会実験の実施報告<sup>3</sup>では、定常的社会実験の来場者・参加者の満足度は非常に高く、集中的社会実験の企画に対する来場者の評価も非常に高かった。またこれらの社会実験では地域の事業者からの協力も得ることができているとのことであった。

以上、豊中市による南部地域活性化施策について、本調査研究に関連すると考えられるものを紹介してきた。(仮称)南部コラボセンターの整備と義務教育学校の開校による学校再編によって、地域に新たな動きが生じていることがここからも読み取れる。以上の状況は、本調査研究の前提ともなるものである。では次に、本調査研究のもう1つの前提として、とよなか都市創造研究所による南部地域に関するこれまでの研究について見ていくこととする。

<sup>2</sup> 豊中市ホームページ「南部地域の魅力向上に向けたイベント(社会実験)の実施」([https://www.city.toyonaka.osaka.jp/machi/nanbu-a-activation/miryokukoujou\\_jikken.html](https://www.city.toyonaka.osaka.jp/machi/nanbu-a-activation/miryokukoujou_jikken.html), 2022年3月1日閲覧)。

<sup>3</sup> 豊中市都市経営部創造改革課「南部地域の魅力向上事業～まちごと暮らスクール～実施報告」([http://www.city.toyonaka.osaka.jp/machi/nanbu-a-activation/machigoto\\_classchool.files/houkokusho.pdf](http://www.city.toyonaka.osaka.jp/machi/nanbu-a-activation/machigoto_classchool.files/houkokusho.pdf), 2022年3月1日閲覧)。

### 1-3. とよなか都市創造研究所による南部地域に関する調査研究

とよなか都市創造研究所では、これまでに南部地域をテーマとした調査研究を4つ行っている。次に掲げる図表3では、本報告書も含めた5つの調査研究の概要をまとめた。既存の研究の詳細については、とよなか都市創造研究所のホームページ ([www.tium-toyonkaka-osaka.jp](http://www.tium-toyonkaka-osaka.jp)) に各報告書が掲載されているのでそちらを参照されたいが、以下、簡単に各報告書の内容を概観し、本調査研究との関連性を述べる。

平成24年度(2012年度)の「道路整備に伴う居住者特性の変化の調査―庄内駅西部地区を事例として―」では、庄内駅西部地区における人口の構成や変化をまとめ、高齢化率の上昇などを小地域ごとにまとめ地図上に示している。

平成25年度(2013年度)の「道路整備に伴う居住者特性の変化の調査Ⅱ―庄内駅西部地区における都市更新状況を踏まえて―」では、市全域と南部地域の人口の変化を踏まえたうえで、庄内駅周辺を4つのエリアに分けて建物の更新度を調査するとともに、特に当時新たに開通した都市計画道路「穂積菰江線」沿道の建物更新状況に注目し、道路開通が沿道の建物の更新に一定の効果があるとしている。

平成28年度(2016年度)の調査研究は「南部地域の活性化に向けた調査研究Ⅰ」と題され、地域活性化に向けた取り組みを研究したものである。この年度の調査研究では、地域活性化を「人口」「産業・経済」「コミュニティ」のネガティブな状況(停滞局面)からポジティブな状況(活性局面)への移行と捉え、南部地域でどのような停滞局面が見られるのかについて現状分析を行った。ここでは大阪音楽大学生や若年層の豊中市民へのアンケート調査を行い、南部地域の若い世代では地域の環境評価や生活満足度が低い傾向があり、社会的つながりについても比較した他地域に比べ弱いなどの結果が得られている。そしてこれを受け、学生をターゲットとした店舗、単身者をターゲットとした居場所、子育て世代をターゲットとした音楽を媒介としたつながりという3つの方向性を活性化の案として挙げて

図表3 とよなか都市創造研究所による南部地域に関する調査研究

年度	タイトル	主な内容
平成24年度 (2012年度)	道路整備に伴う居住者特性の変化の調査― 庄内駅西部地区を事例として―	庄内駅西部地区における人口・世帯構成の推移などを小地域単位で分析
平成25年度 (2013年度)	道路整備に伴う居住者特性の変化の調査Ⅱ― 庄内駅西部地区における都市更新状況を ふまえて―	固定資産税データをもとに庄内駅西部に整備された都市計画道路「穂積菰江線」沿道の建物更新状況を調査
平成28年度 (2016年度)	南部地域の活性化に向けた調査研究Ⅰ	南部地域の人口を分析するとともに、大阪音楽大学生や若年層へのアンケート調査等を通じて、地域への意識や地域での行動を分析
平成29年度 (2017年度)	南部地域の活性化に向けた調査研究Ⅱ	庄内駅周辺での学生の滞留行動の調査 インタビュー調査により居住地選択や地域環境の評価等について分析
令和3年度 (2022年度)	南部地域活性化推進に関する調査研究	南部地域の人口の分析およびアンケート調査・インタビュー調査による地域のイメージや人との関わりの分析

いる。また、平成 28 年度（2016 年度）の調査研究は本調査研究での人口の分析やアンケート項目での参照点となっているところも多くある。

平成 29 年度（2017 年度）は前年度に続いて南部地域の活性化を取り上げているが、まず活性化について「人口」×「活動（産業・経済・コミュニティ）」と捉えなおしたうえで、前年の研究で南部地域のネガティブな側面が強調されすぎているという危惧があるとして、地域のポジティブな側面を意識して調査分析を行った。またアンケート調査の量的分析を中心とした前年度の研究に対し、庄内駅周辺での音大生や若年層の滞留状況分析、質問紙の自由記述データの分析、20 代～40 代の南部地域居住者へのインタビュー調査など、質的分析を中心としたものとなっている。結果としては、庄内駅周辺で滞留している学生が少ないこと、「治安」に関するネガティブなイメージを抱く人は転出志向が強く、「人間関係」に関するポジティブなイメージを抱く人は定住志向が強いことが挙げられ、インタビュー調査からは地域の「引力」「斥力」について分析が加えられた。地域の引力については地域出身者に限られるものが多く、地域外の子育て世代へ訴求できる政策的アプローチとしては生活利便性のアピールや治安、子育て環境の改善が挙げられている。また、平成 29 年度研究で示されたポジティブな側面を意識するということは、本調査研究にも共有されている視点である。

以上を受けて、本調査研究では現在変化が生じつつある南部地域について、特にそのイメージや人との関わりの点から捉えなおしてみようということを主題としている。これは平成 29 年度の調査研究で示されたようにポジティブな側面を意識するということ、質問紙調査にも拡張するという試みである。そこで設問内容をより南部地域の地域資源を意識したものにしたり、具体的な行動面などに反映させたりすることで、地域の特性をより細部から把握するようにした。また、人口分析を行い、地域活動のキーパーソンへのインタビューも参考にすることで、前回調査研究から 4 年が経過した時点での総合的な現状把握の要素も今回の報告書に含めることとした。

なお、とよなか都市創造研究所では調査研究事業のほかにも、地域の課題解決を担う人材を育成する「とよなか地域創生塾」運営の事業も行っている。この「とよなか地域創生塾」のカリキュラムの一つに豊中市南部地域を対象としたフィールドワークがあり、まちあるきとして地域でのさまざまな居場所や拠点などを例年訪問している。また同様のまちあるきを、令和 3 年度（2021 年度）は研究所で受け入れている大学生のインターンシップでのプログラムとしても実施した。

また令和 3 年度には、豊中市総務部人事課が主催するグループ研究支援事業において、とよなか都市創造研究所が主管課となり市職員の政策形成能力向上を図る取り組みとして、「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）を活用した南部地域活性化」をテーマとした公募職員によるグループ研究を行った。この中でも南部地域のまちあるきを実施している。なお、本調査研究報告書の第 4 章におけるインタビュー協力者の多くは、これらのまちあるきの際に協力を依頼した方である。

#### 1-4. 本調査研究での問い

以上に述べてきた本調査研究の前提を踏まえて、本調査研究の問いをここで示しておきたい。大きく言えば本調査の研究の問いは、南部地域のイメージがどのようなものであるかということである。また前節で述べたように、できるだけポジティブな側面を意識してイメージを把握するという狙いもある。この問いに答えるため、南部地域の現状について把握するとともに、南部地域の特性に応じて、食・スポーツ・音楽といった地域資源に関わる活動や人との関わりについてアンケートを用いて調査し、また

地域のキーパーソンからの聞き取りも行う。そこで、さきほどの問いをさらに細分化して述べれば、次の通りとなる。

- ・ 人口など南部地域の現状はどのようなものであるか。
- ・ 南部地域の特性に応じたアンケートによる地域評価はどのようなものであるか。
- ・ 南部地域の良いところ、魅力とはどのようなものであるか。

以下では、上記を基本的な問いとして本調査研究を進めていくこととする。

#### 1-5. 本調査研究の方法

先に述べた問いに応じて、本調査研究を次の方法によって進めていくこととする。

まず南部地域の現状把握については、人口データ分析を中心として行う。ここでは住民基本台帳に基づく人口データから近年の南部地域の人口の推移等を調べていく。

続いて南部地域の特性に応じたアンケートによる地域評価については、郵送による質問紙調査を実施し、その結果の集計と統計的分析を通じ、地域住民の意識や行動などから考察していく。

さらにアンケート調査の結果も踏まえつつ、地域をよく知るキーパーソンへのインタビューを通じて、地域活性化に関する本調査研究の視点を深化させていくこととする。

以上が本調査研究の方法である。

#### 1-6. 報告書の構成

以上に述べた問いと方法に応じて、本調査研究報告書の構成を以下の通りとする。

「第1章 はじめに」では本調査研究の背景と目的について述べ、調査研究の前提として豊中市による南部地域活性化施策やとよなか都市創造研究所による南部地域を対象とした調査研究について整理し、本調査研究の問いや方法を提示する。

「第2章 データから見る南部地域の現状」では、人口データの推移から南部地域の現状を把握することを中心としつつ、経済活動やコミュニティの状況についても触れる。

「第3章 地域のイメージと人との関わりについてのアンケート」では、豊中市民を対象としたアンケートの結果から、南部地域の特性を把握していく。

「第4章 地域の魅力について「聴く」」では、インタビュー内容を引用しつつ、南部地域の魅力や良いところに関するトピックを抽出する。

「第5章 おわりに」では、調査研究全体を振り返り、本調査研究の報告書の結論を述べることとする。



(付記) 豊中市の地域区分について

本章の最後に、付記として本調査研究報告書で用いられる豊中市内の地域区分について説明する。本報告書では、豊中市都市計画マスタープランによる7つの地域区分を用いている。人口データの分析、アンケート結果の集計・分析において用いられている地域名は以下に示した地域区分によるものである。

### 豊中市地域区分

地 域	地 域 区 分
北東部	千里ニュータウンおよび上新田からなる地域
北 部	大阪中央環状線以北の地域及び千里緑地以西の地域
東 部	北大阪急行・御堂筋線沿線地域で天竺川以東および名神高速道路以北の地域
中北部	阪急宝塚線沿線地域で千里緑地以西および旧大阪中央環状線以北の地域
中 部	阪急宝塚線沿線地域で旧大阪中央環状線以南および名神高速道路以北の地域
西 部	阪神高速道路および大阪国際空港周辺緑地以西の地域と阪急蛸池駅周辺の地域
南 部	名神高速道路以南の地域



## 第2章 データから見る南部地域の現状

第1章では本調査研究の背景・目的と研究手法、報告書の構成について述べた。ここからは現在の南部地域の姿を様々な観点から捉えていくことになるが、まず第2章では人口データを中心に取り上げ、近年の推移を見ていくこととする。

南部地域に関する統計データについては、とよなか都市創造研究所（2017）によって、平成23年（2011年）から平成27年（2015年）の5年間にわたり人口・経済についてまとめられている。本調査研究でもこれを引き継ぐ形で、平成28年（2016年）から令和2年（2020年）までの5年間について、データをまとめた。先の報告書と合わせて、10年間の南部地域の推移を見ることもできる<sup>4</sup>。

### 2-1. 人口・世帯——人口減少の度合いの変化

まず、南部地域を含めた豊中市全体の人口の推移を見てみよう。図表4は住民基本台帳による豊中市の人口を、都市計画マスタープランによる市内7地域の区分に合わせて集計したものである<sup>5</sup>。豊中市全体の人口は増加の状態が続いている一方、南部地域の人口は緩やかにではあるが減少が続いている。

図表4 豊中市の人口

	人口（人）					H28（2016）を100としたときの値				
	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)
北東部	55,302	56,295	56,643	57,603	57,641	100.0	101.8	102.4	104.2	104.2
北部	54,472	54,734	54,817	54,650	54,626	100.0	100.5	100.6	100.3	100.3
東部	43,477	43,870	44,437	44,663	45,366	100.0	100.9	102.2	102.7	104.3
中北部	92,573	92,837	92,786	92,923	93,069	100.0	100.3	100.2	100.4	100.5
中部	81,381	81,615	81,976	82,052	82,349	100.0	100.3	100.7	100.8	101.2
西部	17,548	17,634	17,598	17,581	17,569	100.0	100.5	100.3	100.2	100.1
南部	59,283	59,054	58,376	58,982	58,763	100.0	99.6	98.5	99.5	99.1
市全域	404,036	406,039	406,633	408,454	409,383	100.0	100.5	100.6	101.1	101.3

資料：住民基本台帳（各年12月末現在）

南部地域の人口は、平成28年（2016年）の値を100%としたとき、平成30年（2018年）には98.5%にまで減少しているが、その後99%台に増加している。ここ5年間を通して見ると微減である。では、比較する期間をさらにさかのぼってここ10年の推移を見るとどのような状況であろうか。上記の数値は住民基本台帳からであり外国人人口も含まれているが、平成24年（2012年）に改正住民基本台帳法が施行される以前、住民基本台帳の対象者は日本人のみであった。そこで日本人の人口のみを集計し、この10年間の推移をまとめたのが図表5である。

<sup>4</sup> 前回の研究（とよなか都市創造研究所2017）では住民基本台帳での人口は外国人を含まずに集計されている。

<sup>5</sup> なお、豊中市全体の人口についてはとよなか都市創造研究所、2022a、『少子高齢社会における人口の変化と市政への影響に関する調査研究Ⅳ—人口の現状把握および人口把握手法の精緻化—』を参照されたい。

図表 5 最近 10 年間の人口の推移（日本人のみ）

	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)
北東部	50,321	51,160	52,044	52,858	54,312	54,742	55,656	56,058	57,008	57,041
北部	52,376	52,434	52,972	52,893	53,338	53,587	53,755	53,818	53,639	53,754
東部	42,622	43,276	43,048	43,065	43,008	43,095	43,461	44,005	44,212	44,903
中北部	88,822	89,486	90,489	91,136	91,724	91,645	91,849	91,736	91,654	91,780
中部	79,008	79,349	79,884	79,904	80,104	80,491	80,686	80,974	80,961	81,246
西部	17,106	17,184	17,209	17,232	17,235	17,142	17,199	17,124	17,070	17,088
南部	61,208	60,440	59,940	59,401	58,525	58,276	57,998	57,324	57,754	57,536
市全域	391,463	393,329	395,586	396,489	398,246	398,978	400,604	401,039	402,298	403,348

(単位：人)

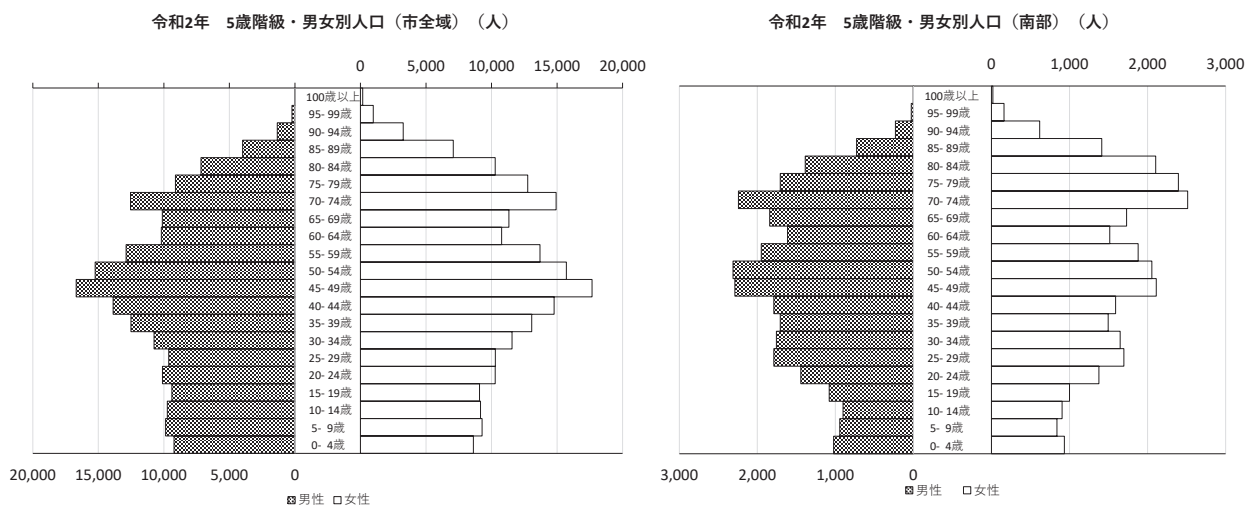
平成23年（2011年）を100としたときの値

	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)
南部	100.0	98.7	97.9	97.0	95.6	95.2	94.8	93.7	94.4	94.0
市全域	100.0	100.5	101.1	101.3	101.7	101.9	102.3	102.4	102.8	103.0

資料：住民基本台帳（各年 12 月末現在）

図表 5 では合わせて日本人人口の増減率の推移を南部地域と市全域について示した。平成 23 年（2011 年）から令和 2 年（2020 年）までの 10 年間で、市全域については 3%の増加、南部地域については 6%の減少となっている。ただし南部地域に関しては平成 30 年（2018 年）以降ほぼ横ばいの動きを見せており、この 3 年間については人口減少に歯止めがかかっていると見ることもできる。この要因については、年齢別の人口構成割合と社会増減、自然増減の観点から考えられるので、順を追ってデータを見ていく<sup>6</sup>。

図表 6 市全域・南部 年齢・男女別人口



資料：住民基本台帳（令和 2 年 12 月末現在）

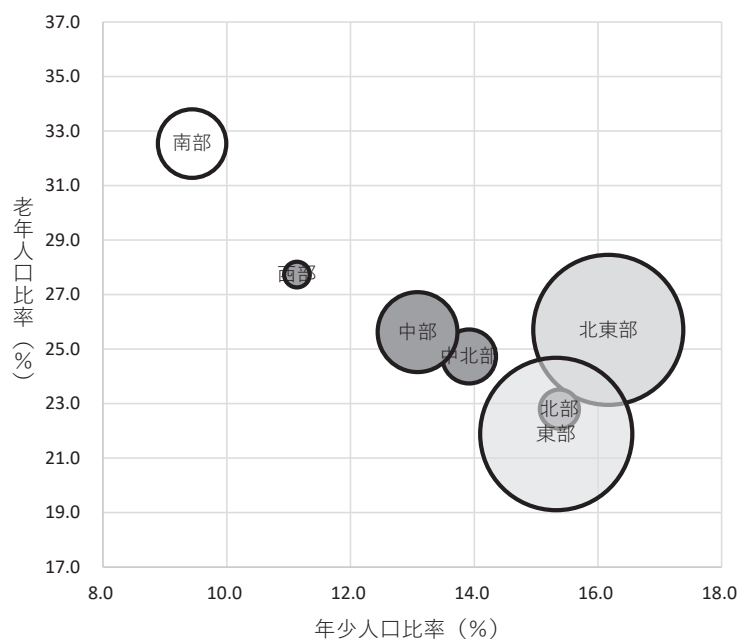
<sup>6</sup> これ以降のデータは外国人人口を含めて集計している。

まず年齢別の人口については、令和 2 年（2020 年）末時点の状況を前ページの図表 6 に男女別の人口ピラミッドで示した。左側の図が市全域、右側の図が南部地域である。市全域に比べて南部地域では高齢者の人口比率が高いことがグラフからも見て取れる。年齢を 5 歳刻みで集計したところ、最多となる年齢層は市全域において男女ともに 45～49 歳であるのに対し、南部地域は男性が 50～54 歳で女性は 70～74 歳である。また南部地域男性の 70～74 歳も、最多である 50～54 歳とほぼ横並びで 45 歳～49 歳とともに人口の多い年齢層を形成している。

また人口ピラミッドの形状から、市全域と南部地域で年齢による人口構成が大きく異なることが分かる。南部地域は市全域に比べ、高齢者の比率が高く、特に女性においてその傾向は顕著である。そして年少人口（0 歳～14 歳）と 15 歳～19 歳の割合も市全域と比較すると少なく、子どもや若者の人口割合が少ない「つぼ型」のピラミッド形状が、南部地域でよりはっきりと表れていることが分かる。

このような人口構成は南部地域の特徴である。以下に示した図表 7 は人口増加率と老年・年少人口比率をひとつのグラフに示したものである。令和 2 年（2020 年）末時点の老年人口比率を縦軸、年少人口比率を横軸に取り、地域ごとの数値を配置した点に、各地域の人口増加率（平成 28 年～令和 2 年）を反映した円を描いた。円の中心が、各地域の縦軸・横軸の値であり、人口が増加していれば色付き、減少していれば白色の円となっている。円の大きさは増加あるいは減少の度合いを示している。

図表 7 市内 7 地域別 人口増加率（H28～R2）と老年・年少人口比率（R2）の関係



資料：住民基本台帳（各年 12 月末現在）

このグラフからは、南部地域の老年人口比率（65 歳以上の比率）が市内の他地域に比べて高く、年少人口比率（14 歳以下の比率）が低いことが同時に見て取れる。市内の他地域と比べて、南部地域では少子高齢化の進行の度合いが大きいことがここからも分かる。合わせて図表 8 に南部地域における 3 つの年齢区分について人口比率の推移を表に示した。

図表 8 年齢区分による人口比率の推移

		(単位：%)							
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
		(2013)	(2014)	(2015)	(2016)	(2017)	(2018)	(2019)	(2020)
南部	年少人口 (0-14歳)	10.3	10.1	9.9	9.8	9.7	9.5	9.5	9.4
	生産年齢人口 (15-64歳)	58.9	58.1	57.5	57.4	57.3	57.3	57.7	58.0
	老年人口 (65歳以上)	30.8	31.8	32.6	32.9	33.0	33.2	32.7	32.5
	小計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

資料：住民基本台帳（各年 12 月末現在）

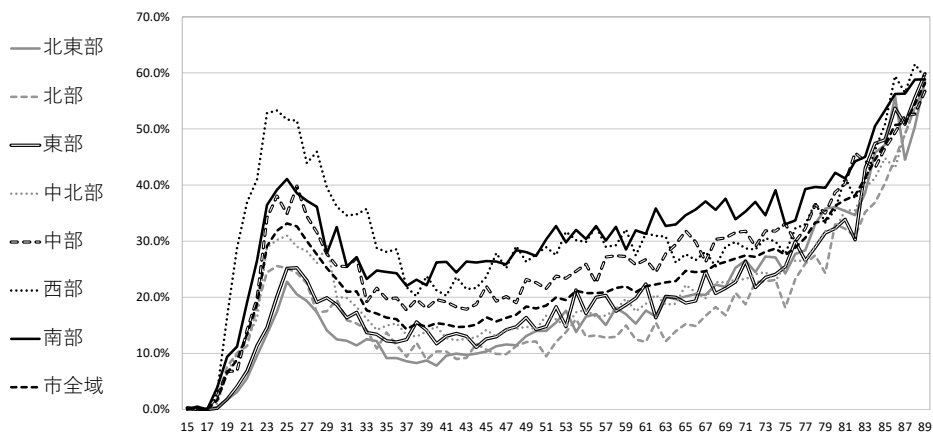
世帯数についても確認しておこう。図表 9 は豊中市全域と 7 地域ごとの世帯数である。各地域とも世帯数は増加傾向にある。世帯数増加の理由として一般的に単身世帯の増加が挙げられるが、ここでは豊中市全域と南部地域における単身世帯の状況を見ておこう。図表 10 は 15 歳~89 歳での単身者比率（世帯人員が 1 人の世帯数<sup>7</sup>を年齢別人口数で除した割合）について、市全域と 7 地域を比較したものである。全体的に南部地域において単身世帯の比率が高い。

図表 9 豊中市全域と 7 地域ごとの世帯数

	世帯数 (世帯)					H28 (2016) を100としたときの値				
	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)
北東部	24,629	25,057	25,177	25,683	25,773	100.0	101.7	102.2	104.3	104.6
北部	22,650	22,898	23,048	23,158	23,291	100.0	101.1	101.8	102.2	102.8
東部	19,053	19,344	19,638	19,859	20,275	100.0	101.5	103.1	104.2	106.4
中北部	41,258	41,490	41,745	42,173	42,521	100.0	100.6	101.2	102.2	103.1
中部	39,404	39,683	40,078	40,450	40,952	100.0	100.7	101.7	102.7	103.9
西部	9,018	9,164	9,285	9,396	9,471	100.0	101.6	103.0	104.2	105.0
南部	31,461	31,653	31,541	32,170	32,462	100.0	100.6	100.3	102.3	103.2
市全域	187,473	189,289	190,512	192,889	194,745	100.0	101.0	101.6	102.9	103.9

資料：住民基本台帳（各年 12 月末現在）

図表 10 豊中市 7 地域における年齢別単身者比率



資料：住民基本台帳（令和 2 年 12 月末現在）

<sup>7</sup> とよなか都市創造研究所（2017）での集計と同様、住民基本台帳で各住民に割り当てられた世帯番号に着目し、同じ世帯番号が 2 つ以上でない世帯を、世帯人員が 1 人の世帯としている。

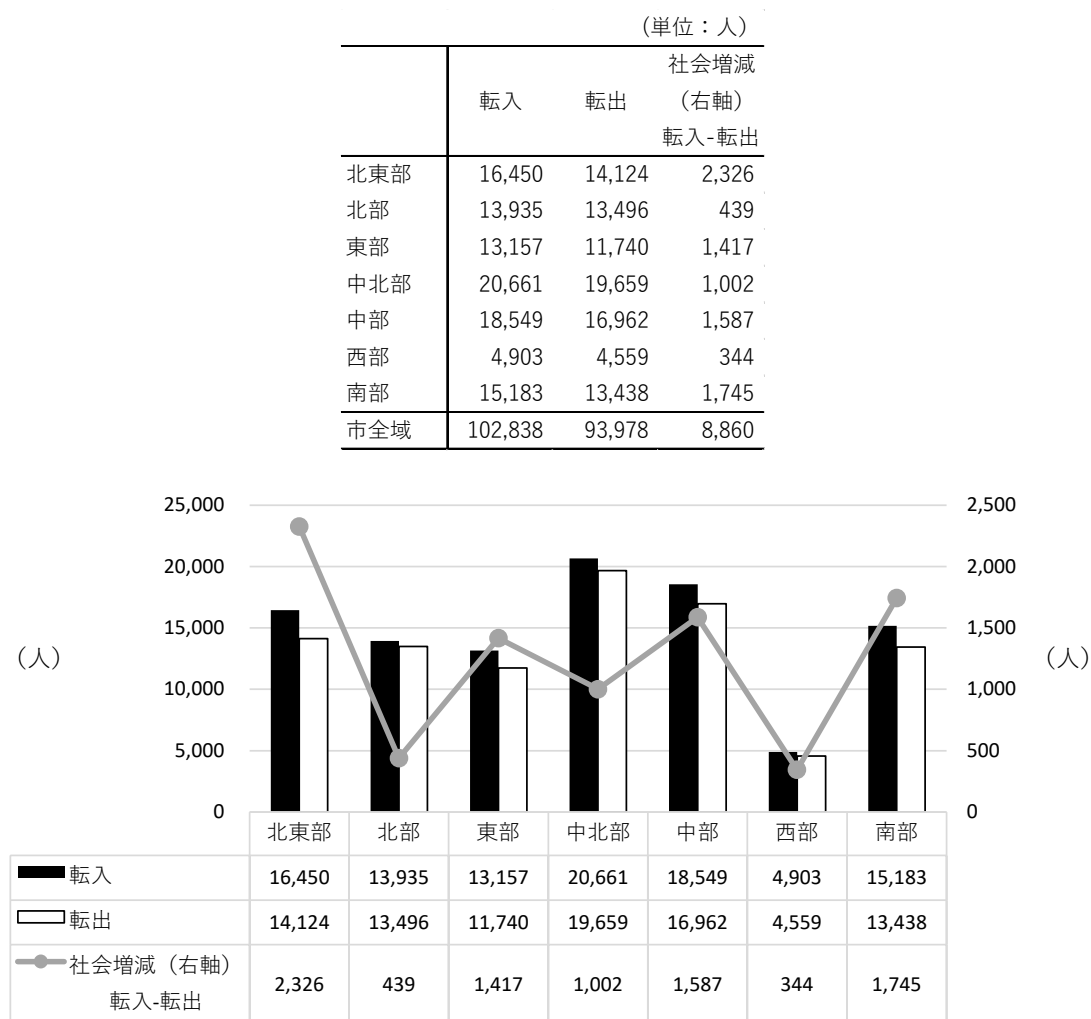
以上に示した人口比率から考えられることは、老年人口比率が高いことにより人口の自然減が多いことである。そして年少人口が少ないため自然増も少ないと考えられる。それにもかかわらず人口減少にある程度歯止めがかかっているのであれば、自然増減で減少している人口に相当する社会増があるということになる。そこで人口動態について見ていきたい。

## 2-2. 社会動態——転入が超過する年代の増加

### 2-2-1. 転入・転出の状況

まず社会動態から人口の推移を見ていくこととする。図表 11 は平成 28 年（2016 年）から令和 2 年（2020 年）にかけての豊中市への転入者数、豊中市からの転出者数を合計したものである。ここで特筆すべきは、南部地域を含め、すべての地域において転入が転出を上回り、社会増となっていることである。この点は前回の調査（とよなか都市創造研究所 2017）で見られなかった点であり、これまで転出が転入を超過していた南部地域の状況から変化している。このことの要因を以下にデータを示しながら考えていくこととする。

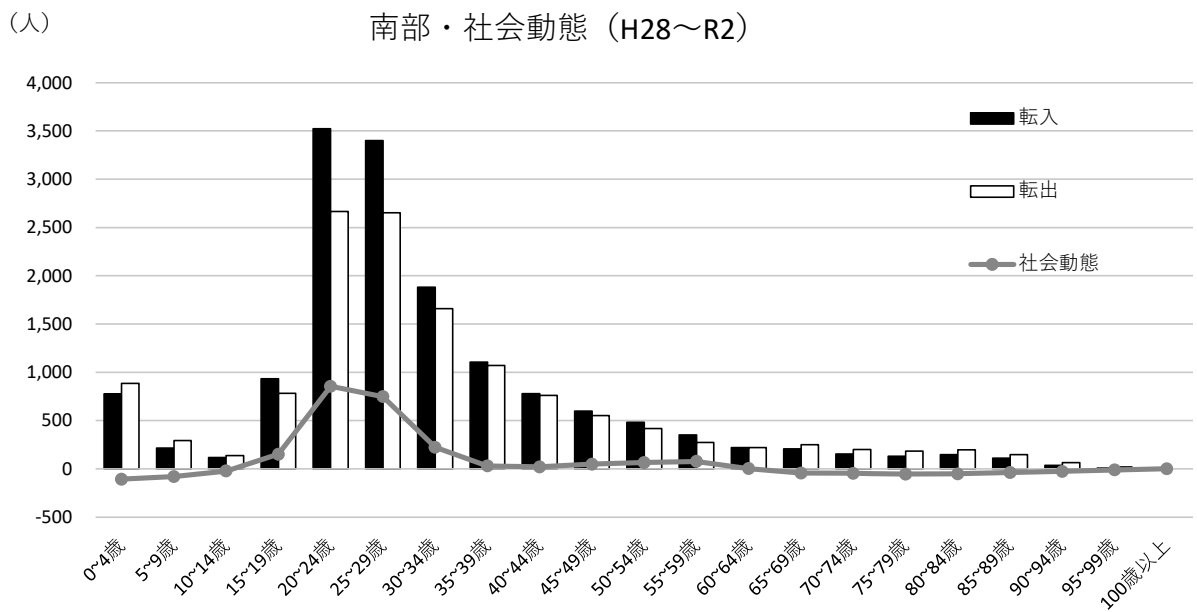
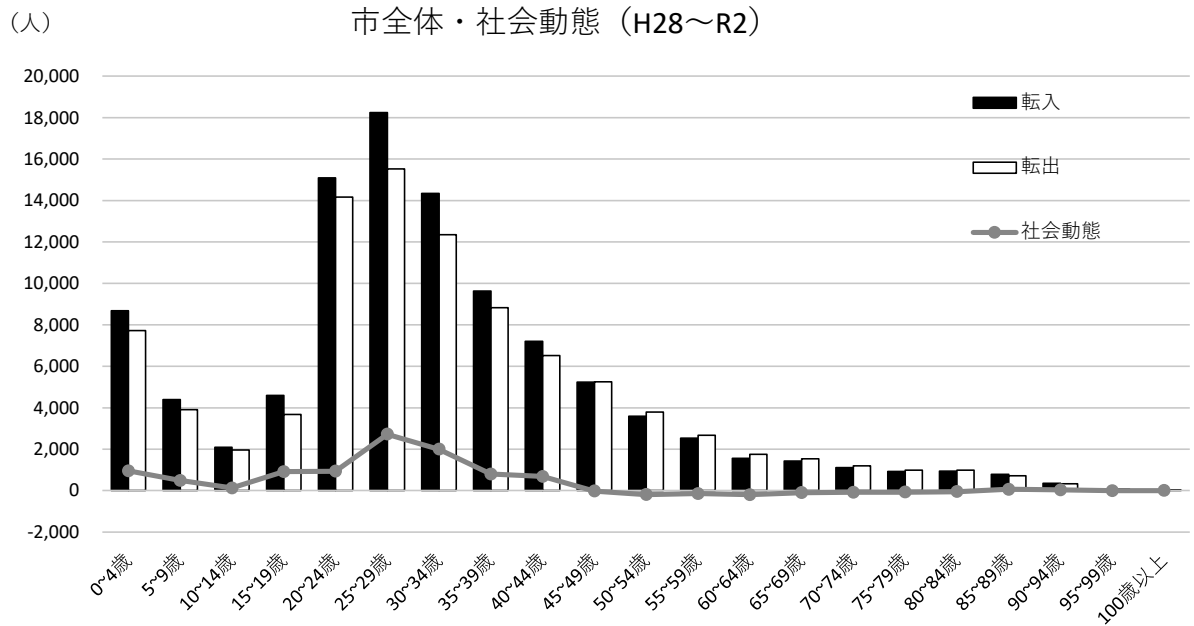
図表 11 豊中市全域と 7 地域ごとの転入・転入（H28～R2 年度）



資料：住民基本台帳（各年度 3 月末現在）

図表 12 は市全域と南部地域における年齢 5 歳刻みでの社会動態を示したものである。市全域においては、0 歳から 44 歳までのすべての年齢層において転入が転出を上回る社会増となっており、45 歳以上については多くの年齢層で転出が転入を上回り社会減となっている。これに対し南部地域では、0 歳から 14 歳までの年齢層では転出が転入を上回り社会減であるが、15 歳から 64 歳までの年齢層では転入超過の社会増である。65 歳以上はほとんどの年齢層が社会減となっている。

図表 12 市全域と南部地域における年齢別社会動態 (H28～R2 年度)



資料：住民基本台帳 (各年度 3 月末現在)

転入・転出状況の概観の最後に、豊中市を除く大阪府内・兵庫県との社会増減を確認しておく。図表 13 は、大阪府全体および大阪府内で豊中市との転出入が多い 5 市について、豊中市との移動をまとめたものである。ここでは豊中市全域と 7 地域ごとに対大阪府での社会増減を示しているが、南部地域については、大阪市・吹田市に対して転入超過である一方、箕面市・池田市に対しては転出超過である。

また図表 14 は、兵庫県全体および兵庫県内で豊中市との転出入が多い 5 市について、豊中市との移動をまとめたものである。ここでも南部地域の状況に着目すると、兵庫県全域に対して転出超過であり、特に尼崎市、川西市への転出が多くを占めている。

図表 13 市内 7 地域別 対大阪府の社会増減 (H28～R2 年度)

(単位：人)

	北東部	北部	東部	中北部	中部	西部	南部	市全域
大阪市	513	▲ 16	648	491	626	504	703	3,469
吹田市	220	▲ 105	▲ 166	37	51	145	83	265
箕面市	▲ 77	▲ 367	▲ 74	▲ 406	▲ 85	11	▲ 19	▲ 1,017
池田市	27	▲ 172	▲ 12	▲ 144	54	57	▲ 220	▲ 410
茨木市	54	▲ 5	1	▲ 48	59	35	▲ 43	53
その他	312	361	63	380	360	402	▲ 49	1,829
大阪府全域	1,049	▲ 304	460	310	1,065	1,154	455	4,189

資料：住民基本台帳（各年度 3 月末現在）

図表 14 市内 7 地域別 対兵庫県の社会増減 (H28～R2 年度)

(単位：人)

	北東部	北部	東部	中北部	中部	西部	南部	市全域
尼崎市	5	▲ 10	98	35	1	18	▲ 102	45
神戸市	9	▲ 27	27	▲ 4	35	75	14	129
川西市	18	▲ 42	▲ 53	▲ 118	20	4	▲ 42	▲ 213
西宮市	28	▲ 17	▲ 23	16	22	31	▲ 17	40
宝塚市	19	18	▲ 25	▲ 95	1	6	10	▲ 66
その他	63	36	26	▲ 31	120	161	▲ 92	283
兵庫県全域	142	▲ 42	50	▲ 197	199	295	▲ 229	218

資料：住民基本台帳（各年度 3 月末現在）

## 2-2-2. 子育て世帯の動向

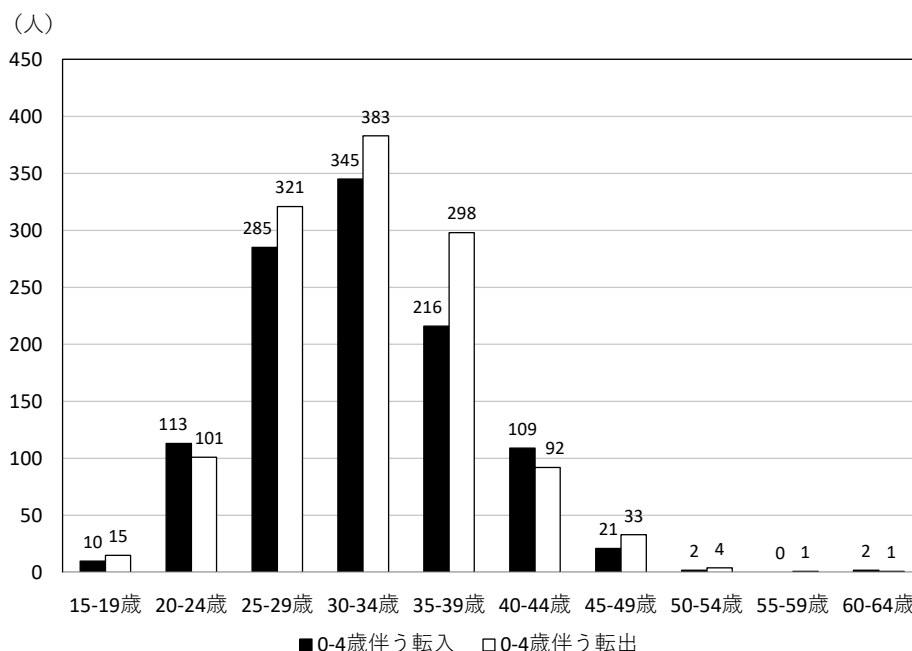
以下では、転入・転出者の属性にさらに着目して社会動態を見ていきたい。

まず初めに取り上げるのは、子育て世帯の動向である。ここでは年齢別の社会動態に関連して、南部地域の転入・転出人口のうち、0 歳から 4 歳までを伴う移動の有無について図表 15 にまとめた。生産年齢人口（15 歳～64 歳）の転入・転出者のうち、0～4 歳の子どもを伴って移動した人の数を年齢別に集計している。



転入・転出ともに0歳から4歳までを伴う場合は、30～34歳が最も多く、次いで25～29歳、その次に35～39歳が多くなっている。そして、その3つの年齢層ではいずれも転出が転入を上回っている。合計すると0歳から4歳までの乳幼児がいる子育て世帯に限っていえば、転出超過であるといえる。

図表 15 南部地域0-4歳を伴う転入・転出（生産年齢人口・H28～R2年度）



資料：住民基本台帳（各年度3月末現在）

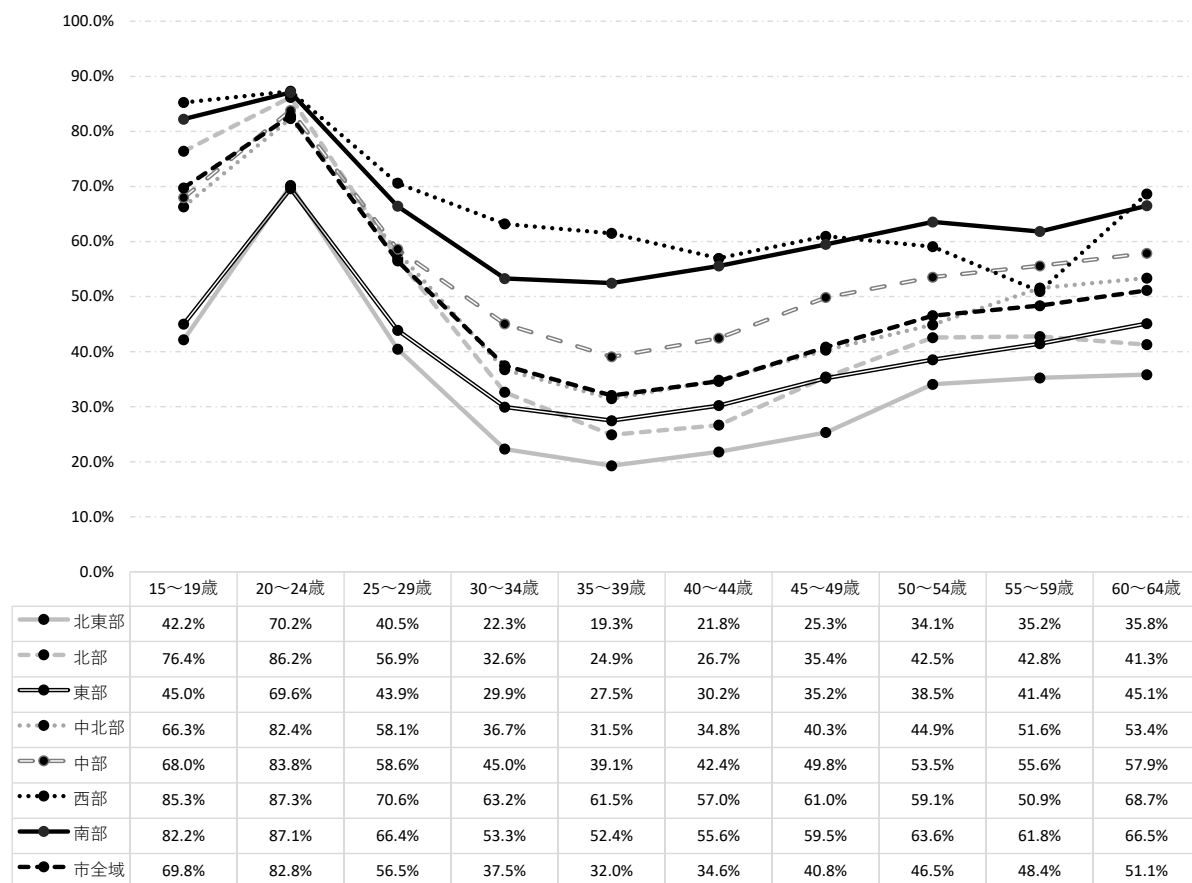
### 2-2-3. 単身での転入

しかしながら、平成28年（2016年）～令和2年（2020年）の社会動態全体を見ると20代・30代においても転入が転出を上回っている。つまり、乳幼児がいる子育て世帯は南部地域では転出が超過であるが、それを上回る転入が他の世帯では生じているということである。

そこで、先に図表10で示したように南部地域では単身者の比率が市全域を上回っていることから、その動向を見てみることにした。次ページに掲げた図表16は豊中市全域及び7地域における生産年齢にある転入者のうち、単身で転入してきた人の割合である。もっとも、この中には単身で転入し、もともと豊中市内に先に居住していた世帯に加わるケースが含まれることも考えられる（単身赴任していた人が家族と一緒に住むようになる等）。ただし、一般に移動後も単身で居住することが多いと思われる20歳～24歳が多いという構成から判断して、大まかな動向をつかむのには有用であると考えられる。

図表16で示したように、南部地域と西部地域において単身での転入者の比率が高い。年齢層により西部の方が割合の高いところもあるが、転入者全体で見ると南部は西部の約3倍の人数であるため、実際にはかなり多くの数の人が南部地域に単身で転入しているといえる。ここから考えるに、南部地域への転入者には、単身で移動してくる人が他地域に比べ多く含まれるということであり、先に図表15で示した20代～30代の乳幼児がいる世帯の転出超過という状況に対して、単身での転入が多いという人口移動の構図を描くことができる。

図表 16 単身で転入する人の比率（生産年齢人口・H28～R2 年度）



資料：住民基本台帳（各年度 3 月末現在）

#### 2-2-4. 市内転居

以上では、南部地域における市外との転入・転出について見てきた。次に地域での人口移動という点で、市内での転居についても確認しておきたい。図表 17 は、平成 28 年度（2016 年度）から令和 2 年度（2020 年度）までの市内転居の実数をまとめたものである。また図表 18 は、同時期の市内転居について比率をまとめたものである。

南部地域について見ていく。まず、転居後が南部地域である場合については、図表 17 に示した実数（「後・南部」の列）から割合を求めると、自地域内での転居（75.0%）に次いで、中部地域から（11.6%）、東部地域から（4.2%）、西部地域から（3.6%）、中北部地域から（3.5%）と続く。また転居前が南部地域である場合には、図表 18 に示した比率がそのまま当てはまり、自地域内転居（72.0%）に次いで、中部地域へ（12.3%）、東部地域へ（4.8%）、中北部地域へ（4.4%）、西部地域へ（4.0%）と続く。

図表 17 市内転居（実数）（H28～R2 年度）

（単位：人）

	転居後							市全域
	後・北東部	後・北部	後・東部	後・中北部	後・中部	後・西部	後・南部	
前・北東部	6,620	630	412	614	195	80	102	8,653
前・北部	645	5,813	236	1,438	344	203	130	8,809
前・東部	540	282	3,951	809	858	93	442	6,975
前・中北部	675	1,567	746	9,146	1,997	594	367	15,092
前・中部	207	454	1,022	2,109	9,998	578	1,230	15,598
前・西部	54	166	91	616	655	1,284	379	3,245
前・南部	119	157	526	480	1,361	442	7,937	11,022
市全域	8,860	9,069	6,984	15,212	15,408	3,274	10,587	69,394

資料：住民基本台帳（各年度 3 月末現在）

図表 18 市内転居（比率）（H28～R2 年度）

（単位：％）

	転居後							市全域
	後・北東部	後・北部	後・東部	後・中北部	後・中部	後・西部	後・南部	
前・北東部	76.5	7.3	4.8	7.1	2.3	0.9	1.2	100.0
前・北部	7.3	66.0	2.7	16.3	3.9	2.3	1.5	100.0
前・東部	7.7	4.0	56.6	11.6	12.3	1.3	6.3	100.0
前・中北部	4.5	10.4	4.9	60.6	13.2	3.9	2.4	100.0
前・中部	1.3	2.9	6.6	13.5	64.1	3.7	7.9	100.0
前・西部	1.7	5.1	2.8	19.0	20.2	39.6	11.7	100.0
前・南部	1.1	1.4	4.8	4.4	12.3	4.0	72.0	100.0
市全域	12.8	13.1	10.1	21.9	22.2	4.7	15.3	100.0

資料：住民基本台帳（各年度 3 月末現在）

次ページに示した図表 19 は、市内転居による地域ごとの人口増減をまとめたものである。中部地域と南部地域は他地域への転居出が多く、特に南部地域から他地域への転居出が相対的に多くなっていることが確認できる。市内転居は他市との転入・転出に比べ全体の規模は小さいが、図表 20 に見られるように、南部地域について転入・転出と転居を合わせて見た場合、35～39 歳、40～44 歳については地域外に移動した人口が地域内への移動を上回っている。これは転入のみの場合に両年代とも転入が転出を上回っているのとは異なる傾向である。この 2 つの年代が子育て世代であるということを考えると、転入・転出の場合と同様、子育て世代が地域外に移動するケースが考えられる。

しかしながら、これまで見てきた通り、南部地域の人口における社会動態は基本的に地域内への移動が地域外への移動を超過している。そのうえで、人口の減少が続いているのは自然動態の影響にもよると考えられる。そこで、次に自然動態を確認してみることにする。

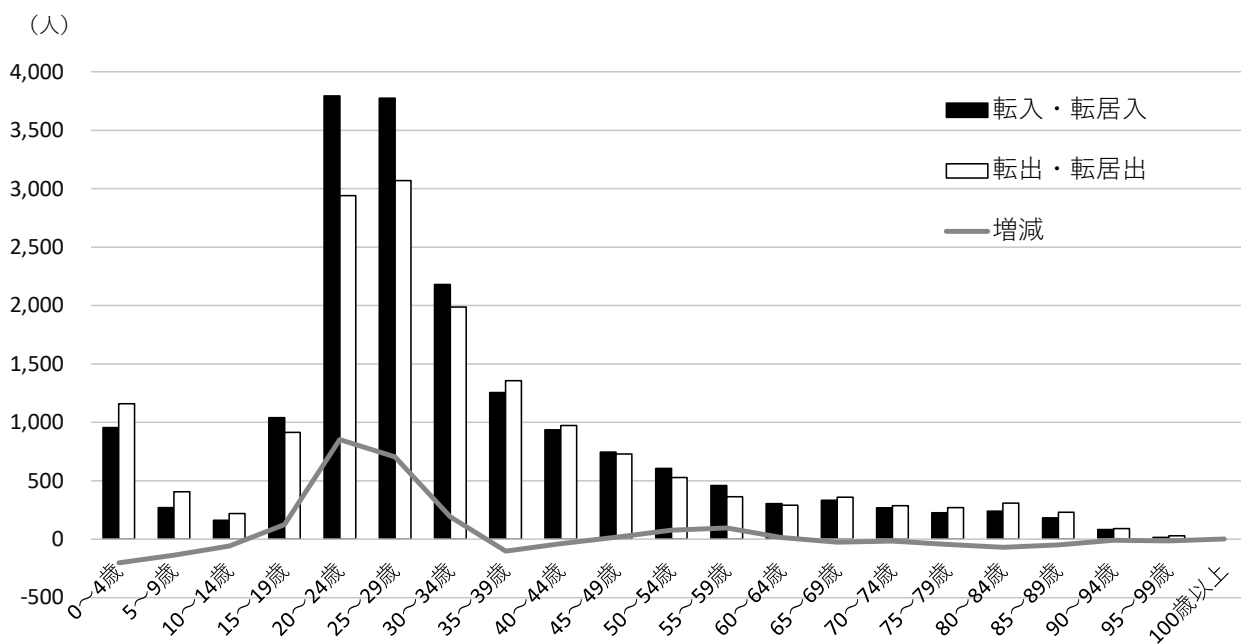
図表 19 市内転居による人口増減（7 地域）（H28～R2 年度）

（単位：人）

	転居入	転居出	転居増減 転居入-転居出	自地域内転居
北東部	2,240	2,033	207	6,620
北部	3,256	2,996	260	5,813
東部	3,033	3,024	9	3,951
中北部	6,066	5,946	120	9,146
中部	5,410	5,600	▲ 190	9,998
西部	1,990	1,961	29	1,284
南部	2,650	3,085	▲ 435	7,937

資料：住民基本台帳（各年度 3 月末現在）

図表 20 南部地域における転出入及び市内転居出入による人口増減（H28～R2 年）



資料：住民基本台帳（各年度 3 月末現在）

### 2-3. 自然動態

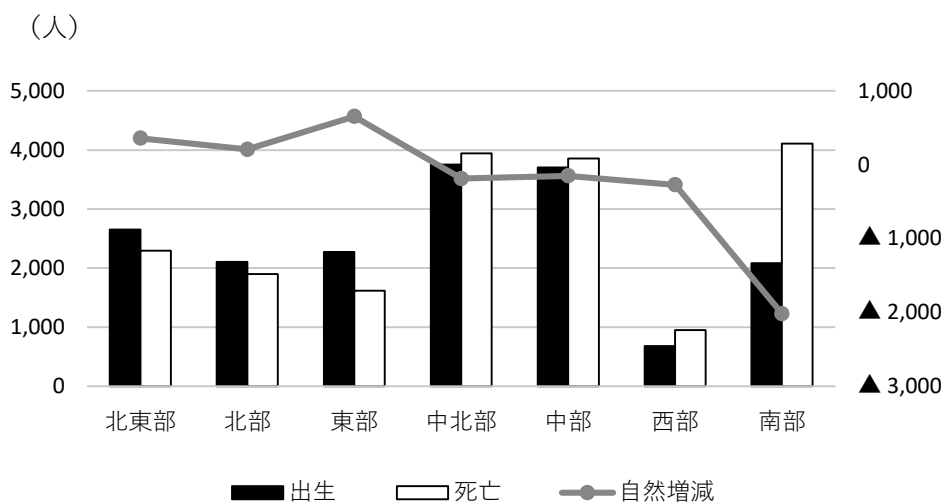
豊中市における出生と死亡の数を比較し、自然増減（出生から死亡を引いた数）を確認してみる。図表 21 は平成 28 年度（2016 年度）から令和 2 年度（2020 年度）までの出生と死亡の数を地域別にまとめたものである。上側を数値、下側をグラフとして図示した。

このようにして見ると、南部地域においては自然減が自然増を上回っており、その度合いも市内の他地域と比べて大きいことが分かる。これは南部地域における高齢化率の高さに起因するものと考えられる。つまり、移動による人口増加を上回る形で、自然減が生じているということである。

図表 21 豊中市における出生と死亡（H28～R2 年度）

(単位：人)

	出生	死亡	自然増減 出生-死亡
北東部	2,655	2,297	358
北部	2,108	1,900	208
東部	2,272	1,618	654
中北部	3,756	3,943	▲ 187
中部	3,706	3,855	▲ 149
西部	681	951	▲ 270
南部	2,086	4,104	▲ 2,018
市全域	17,264	18,668	▲ 1,404



資料：住民基本台帳(各年度 3 月末現在)

また、自然動態における出生に関連して、人口推計で出生率の代替指標として用いられることもある子ども女性比を参照することとする。次ページの図表 22 は、0~4 歳の子どもの人口を、15 歳から 49 歳の女性の人口で除した数値である子ども女性比を地域別にまとめたものである。西部地方、南部地方の数値が相対的に低くなっていることが確認できる。

有配偶率も合わせて確認しておく。次ページの図表 23 は住民基本台帳上での続柄が「妻」となっている 20 代~40 代の女性の数を集計したものである。20 歳代では、南部地域での女性有配偶率は他地域に比べ相対的に高いが、30 代、40 代になるにつれ相対的に低くなっていく傾向が確認できる。

次に年齢階層別の人口における男女比を図表 24 に示した。市全域と南部地域を比較したグラフとなっており、15 歳から 74 歳までの各年齢層において、南部地域は市全域に比べて男性の比率が高くなっている。

図表 22 子ども女性比 (R2)

	0～4歳	15～49歳女性	子ども女性比
北東部	2,946	12,118	0.24
北部	2,416	11,931	0.20
東部	2,387	10,304	0.23
中北部	3,927	19,990	0.20
中部	3,589	17,785	0.20
西部	623	3,670	0.17
南部	1,957	10,921	0.18
市全域	17,845	86,719	0.21

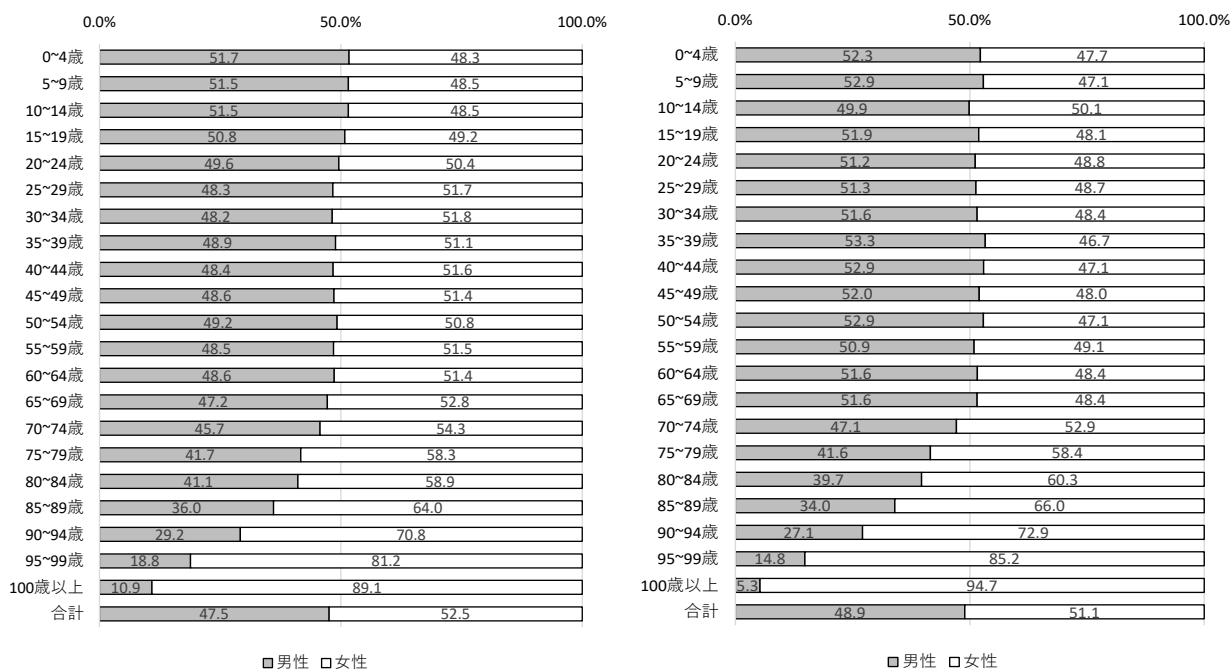
資料:住民基本台帳(令和2年12月末現在)

図表 23 7地域別 20～40代女性の続柄「妻」率 (R2)

		北東部	北部	東部	中北部	中部	西部	南部	市全域
20歳代	女性人口(人)	2,167	2,704	2,227	4,897	4,392	1,108	3,074	20,569
	続柄=妻の女性(人)	359	370	475	729	792	205	679	3,609
	「有配偶率」(%)	16.6	13.7	21.3	14.9	18.0	18.5	22.1	17.5
30歳代	女性人口(人)	3,578	3,100	3,123	5,448	5,205	1,023	3,144	24,621
	続柄=妻の女性(人)	2,547	2,013	2,081	3,397	3,117	534	1,698	15,387
	「有配偶率」(%)	71.2	64.9	66.6	62.4	59.9	52.2	54.0	62.5
40歳代	女性人口(人)	5,112	4,610	3,901	7,443	6,455	1,221	3,702	32,444
	続柄=妻の女性(人)	3,750	3,360	2,802	5,073	4,073	700	1,914	21,672
	「有配偶率」(%)	73.4	72.9	71.8	68.2	63.1	57.3	51.7	66.8

資料:住民基本台帳(令和2年12月末現在)

図表 24 年齢階級別の男女比 (R2) (左側:市全域・右側:南部)



資料:住民基本台帳(令和2年12月末現在)

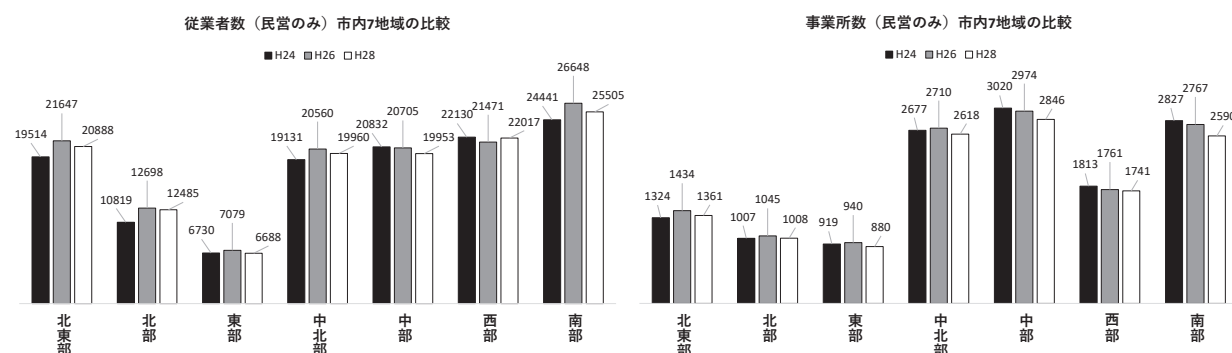
以上、人口データから南部地域の現状を見てきた。要約すれば、南部地域の人口減少は緩やかになってきており、その要因として社会動態における転入が超過していることが挙げられる。ただし、自然動態を見れば自然減が多いため人口の減少が続いているということである。また社会動態においては、子育て世帯の市内他地域・他市への移動が多いという点も特徴として挙げることができる。

## 2-4. 市内各地域における従業者数・事業所数

次に、経済・産業分野に関するデータとして、経済センサスを用いて豊中市内での従業者数・事業所数を確認しておく。経済センサスは総務省と経済産業省が全国の事業所・企業の活動状況を調査したものであり、小地域ごとにもデータが集計されているため、地域の経済・産業の動向を示す指標として活用できるものである。経済センサスには「基礎調査」と「活動調査」の2種類があり、今回は平成24年（2012年）と平成28年（2016年）に実施された経済センサス活動調査、平成26年（2014年）に実施された経済センサス基礎調査から、従業者数・事業所数を豊中市内の7地域別に集計した。なお、従業者数・事業者数ともに民営のみとなっているのは、平成24年（2012年）の経済センサス活動調査が民営のみを対象としているためである。

以下の図表25には、市内7地域ごとの従業者数・事業所数をまとめた。南部地域の状況を見ると、平成28年（2016年）では平成26年（2014年）に比べ従業者数・事業者数とも減少しているが、地域ごとに比較した場合は南部地域の従業者数が市内で最も多く、事業所数では3番目に多い。

図表 25 市内7地域ごとの従業者数（左）、事業所数（右）（H24、H26、H28）



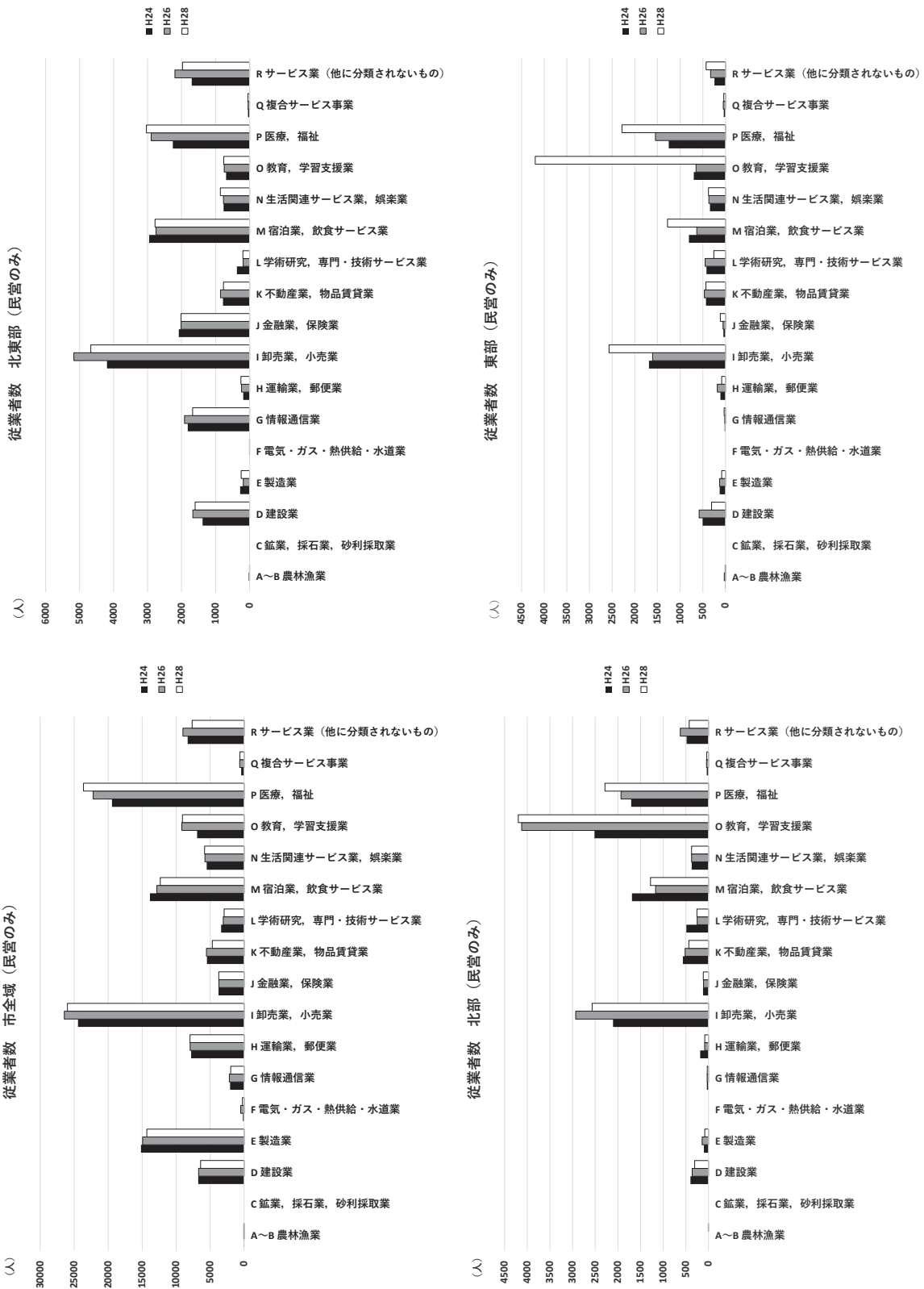
（資料：経済センサス）

次ページ以降の図表26と図表27に従業者数、事業者数をそれぞれまとめている。参考のため市全域及び市内の他地域についても集計しているが、ここでは南部地域のデータを確認しておく。従業者数を見ると、南部地域では年度が進むにつれ、市内他地域と同様、医療・福祉の分野での従業者数が伸びている。それ以外の分野では、製造業では微減傾向であり、卸売業・小売業では平成26年（2014年）にいったん増加した上で、平成28年（2016年）には微減しているという結果が見られる。

事業所数で見ると南部地域でも医療・福祉分野での事業所数が伸びており、建設業、製造業、卸売業・小売業、宿泊業・飲食業で減少傾向が見られる。

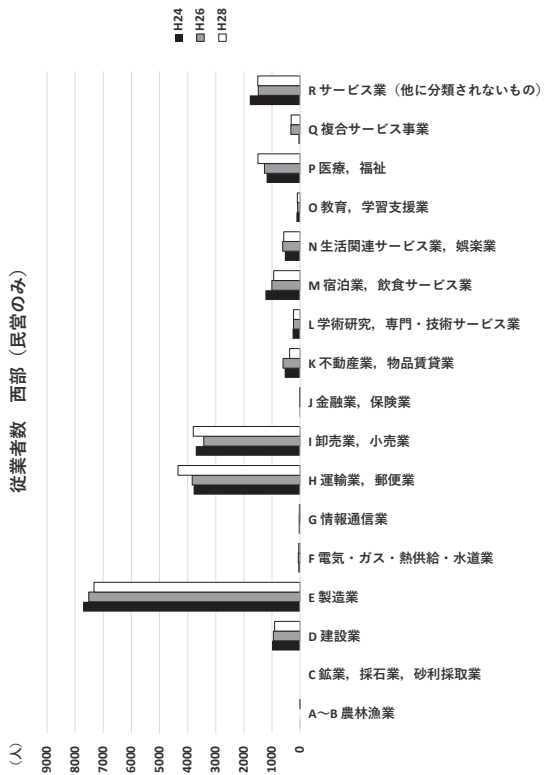
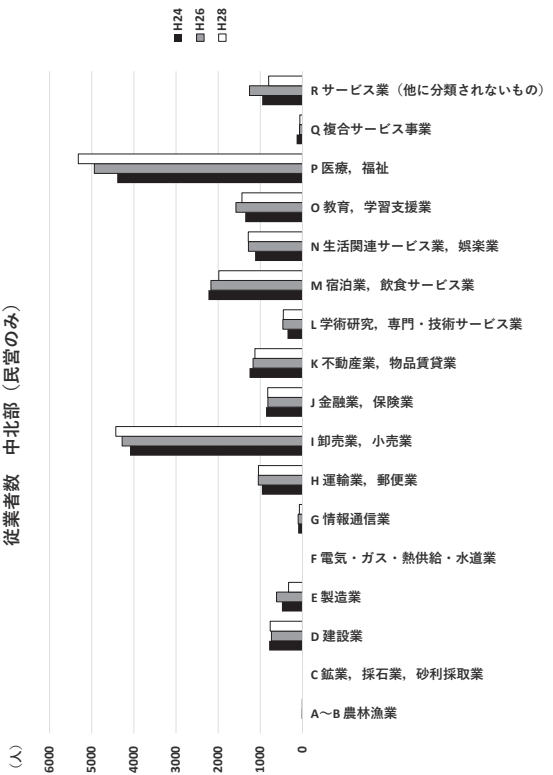
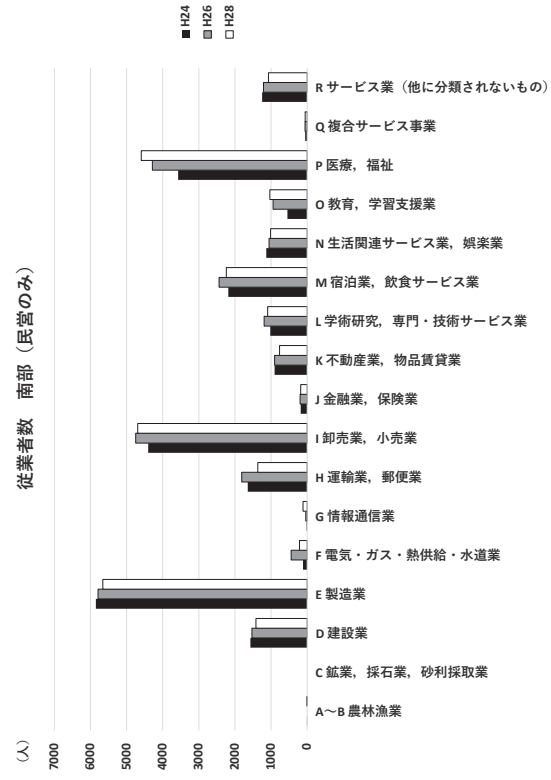
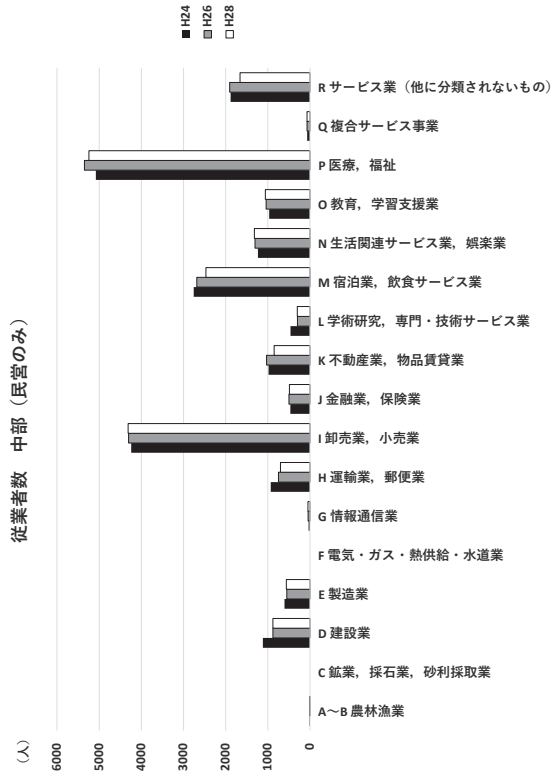
以上を総合して見ると、経済センサスの従業者数・事業所数に関しては、南部地域における全体的な傾向は大きく変わっていないということが確認できる。

図表 26 豊中市内7地域別の従業者数

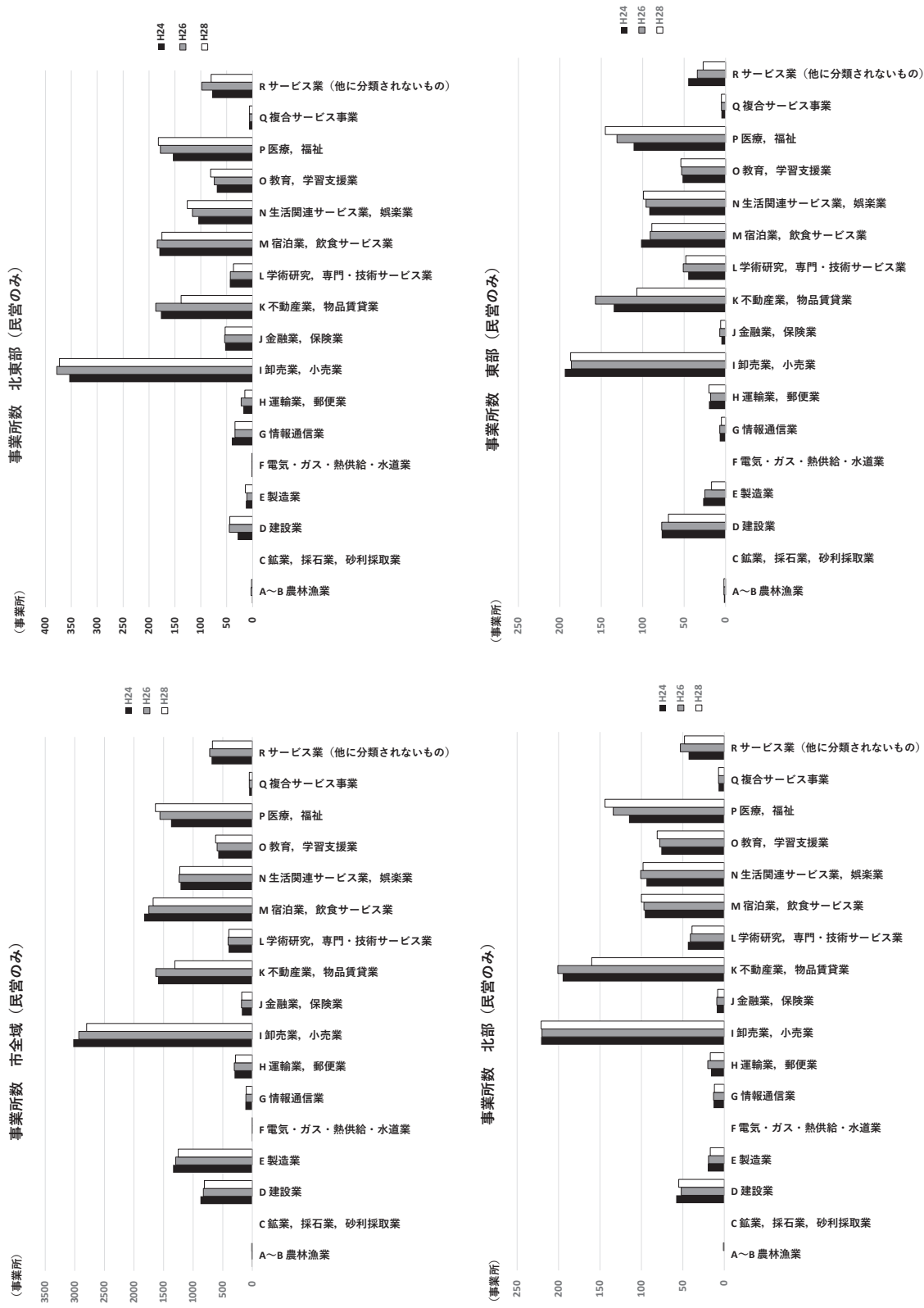


資料：経済センサス

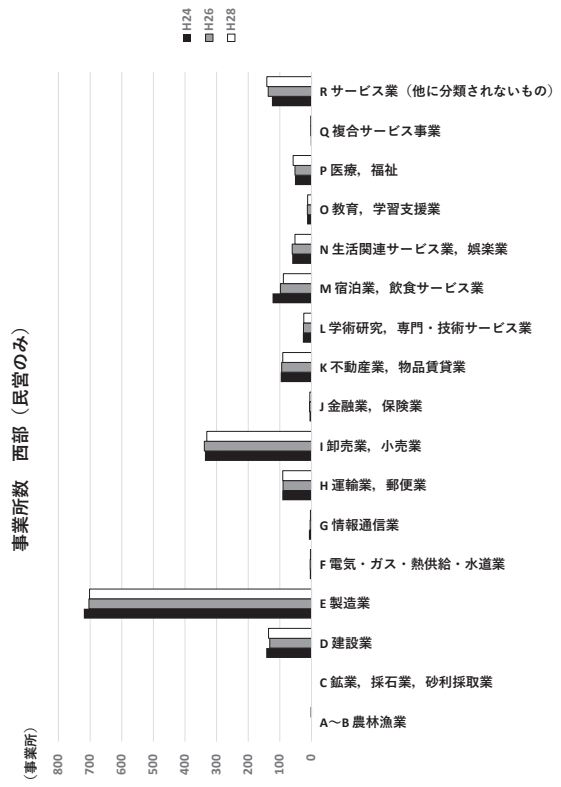
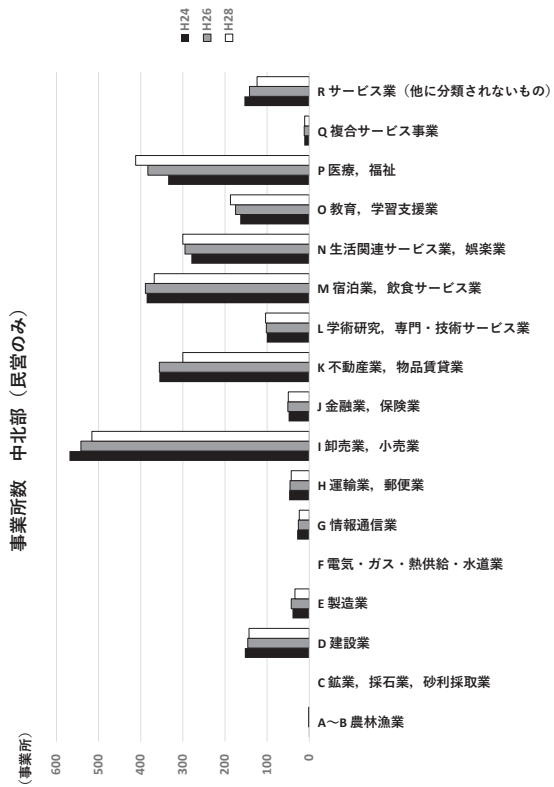
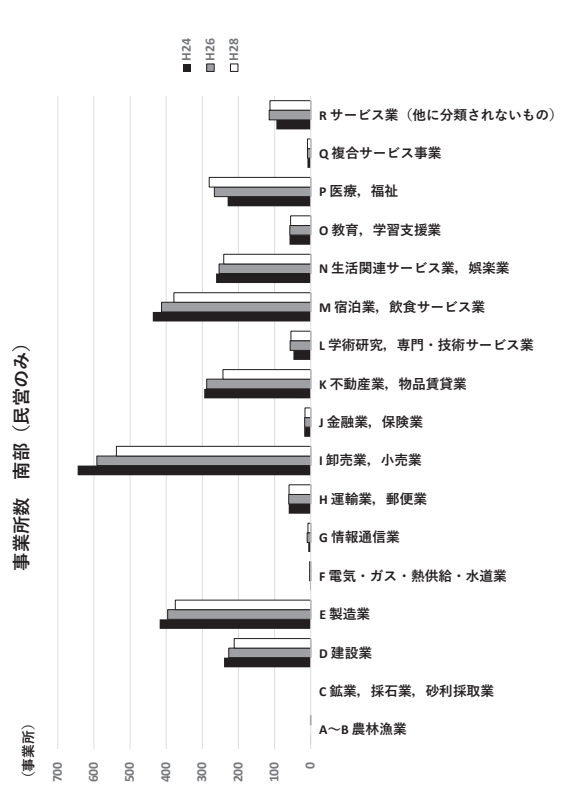
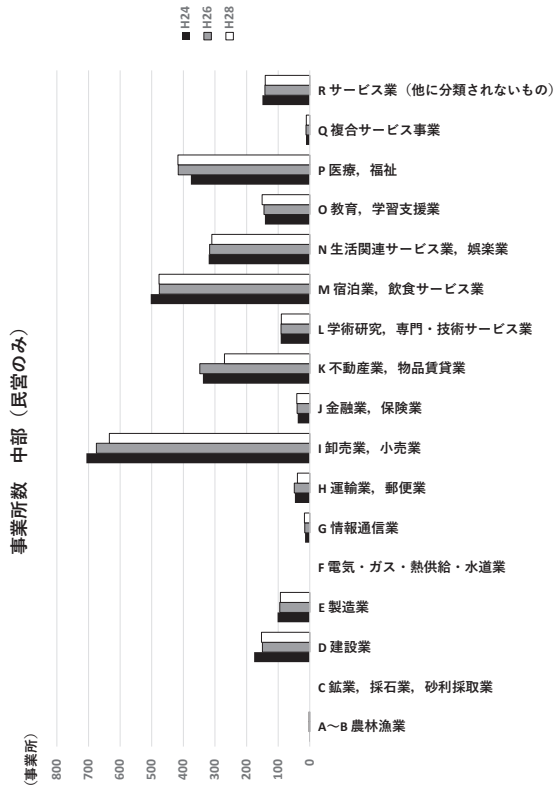




図表 27 豊中市内7地域別の事業所数



資料：経済センサス



## 2-5. コミュニティの状況

### 2-5-1. 地域自治

続いて、コミュニティの状況について簡単にではあるが触れておきたい。南部地域は自治会の加入率が高い傾向がある。以下の図表 28 に示したのは、平成 29 年（2017 年）4 月末現在の自治体加入率である。当時の豊中市全体の加入率を上回る小学校区が 8 校区中 5 小学校区ある。

図表 28 南部地域の小学校区における自治体加入率（平成 29 年）

小学校区	豊南	高川	庄内	庄内南	庄内西	野田	島田	千成	豊中市全体
加入率 (%)	52.0	44.7	41.7	55.6	44.1	29.3	34.5	69.7	42.0

資料：南部地域活性化基本構想に掲載されたコミュニティ政策課資料に基づく統計

### 2-5-2. 市民公益活動

自治会への加入率と合わせて、市民公益活動の状況を見ておく。図表 29 は市内に主たる事業所の所在地を置く NPO 法人の数をまとめたものである。南部地域には市内の NPO 法人のうち 12.38% の 13 法人が主たる事業所を置いている。人口 1 万人あたりに換算すると 2.22 となるが、これはとよなか都市創造研究所（2017）による同様の集計（南部地域に主たる事業所を置く NPO 法人は 17 法人で市全域の 17.35%、人口 1 万人あたり 2.90）と比較すると、法人数、比率ともに減少している。また前回の集計では人口 1 万人あたりの数が市全域を上回っていたが、今回では市全域を下回っている。

ただし、これもとよなか都市創造研究所（2017）で述べられているように、主たる事業所と活動圏域は同じとは限らず、また参加者の居住地も様々である。また市民公益活動の担い手は NPO 法人だけではないので、ここで示した数値は、参考として捉えておくこととしたい。

図表 29 市内に主たる事業所の所在地を置く NPO の数

	NPO数 (団体)	構成比 (%)	R3人口 (人)	人口 1万人対
北東部	12	11.43	57,608	2.08
北部	14	13.33	54,571	2.57
東部	5	4.76	45,302	1.10
中北部	30	28.57	93,124	3.22
中部	29	27.62	82,141	3.53
西部	2	1.90	17,560	1.14
南部	13	12.38	58,430	2.22
市全域	105	100.00	409,383	2.56

資料：(NPO の主たる事業地) 内閣府「NPO 法人ポータルサイト」(<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal>, 2022 年 2 月 20 日閲覧・検索)、(人口) 住民基本台帳 (令和 3 年 4 月 1 日現在)

## 2-6. 小括

以上、本章では人口データを中心に、南部地域の現状について見てきた。そのポイントをここで確認しておくこととする。

先にも述べたようにまず南部地域の人口は微減の状態にあるが、以前に比べると人口減少のペースは緩やかになってきていると考えられる。その要因としては市外からの転入が超過するようになったことを挙げることができる。一方で、死亡による自然減は市内 7 地域の中でも最も多く、人口減少の要因となっている。

市外からの転入が超過しているものの、市内転居を合わせると、子どもとその親世代に当たる 40 歳前後の地域外への移動の超過が見られる。そこで、子育て世代の動向は、今後の地域の人口にとってもキーポイントとなるだろう。

しかしながら、今回の調査研究においては転入の増加など、前回調査研究と異なる傾向も認められる点をポイントとして改めて指摘しておきたい。このことは地域の状況の変化を示すものであるといえる。今後の推移にも引き続き着目していくことが重要である。

このほか、本章では地域の産業の状況、コミュニティの状況についても簡単にではあるが確認を行った。

続く第 3 章では、人びとの意識や行動に着目し、地域のイメージや食・音楽・スポーツなどの行動、人びとのつながり、関わりといった点から南部地域の特色を捉えていくこととしたい。地域の状況が大きな変化の途上にあるとすれば、地域の捉え方、とりわけその良いところや魅力を把握することは今後の活性化の推進について寄与する視点を見出す手がかりの一つになるのではないかと思われる。

### 第3章 地域のイメージと人との関わりについてのアンケート

#### 3-1. アンケートの概要について

##### 3-1-1. アンケートの趣旨

本章では、豊中市民を対象として行ったアンケートの結果から、市内 7 地域を比較しての地域のイメージやソーシャルキャピタル（社会関係資本）の把握を試みる。ここから南部地域の特性を明らかにしていきたい。

まず本調査研究で用いるアンケートの設計について述べる。第1章「はじめに」で述べたように、本調査研究ではこれまでのアンケートでネガティブな回答の多かった南部地域も含め、設問や選択肢に工夫を施したアンケートを実施することで、地域の良さや魅力を明らかにしようとするものである。

アンケートの設計にあたっては、従来のアンケートに比べ具体的な行動や状況を設問に取り入れ、ソーシャルキャピタル（人との関わり）や地域資源を意識できるようにした<sup>8</sup>。アンケートの基本的な構成は、以下の図表 30 の通りである。

図表 30 アンケートの構成

「豊中市における地域のイメージと人との関わりについてアンケート」31問				
調査テーマ	サブテーマ		問数	
地域の良いところ	地域について ①	地域の現状	居住歴 地域環境評価	4
		食・スポーツ・音楽	南部の地域資源 具体的な行動など	3
	社会関係について	ソーシャルキャピタル	信頼、団体加入、 近所づきあい、具体的関わり、子ども、 防災防犯、祭り	7
	生活	幸福度・満足度	普段の暮らしについて	2
	環境	街並みの印象・身近な緑	一般的イメージ	2
	地域について ②	地域の印象、愛着度、定住志向、 地域居住満足度、自由記述	地域への帰属感や満足度など	4
デモグラフィック項目			一般的なデモグラフィック項目	9

<sup>8</sup> 都市の状況の把握には島原・HOME'S 総研（2016）を参考にしている。島原万丈は、住環境についてのアンケートを行うため、センシュアス・シティ（官能都市）という概念を立て、従来には見られなかった、人間の感性に基づく設問を作成している。「ヤン・ゲールに倣って、都市生活者のアクティビティ、基本的な活動を測ることにしました。どんな施設がどれぐらいたくさんあるのかではなく、どんな暮らしをしているのか、そのまちで人はどんな行動を取っているのかといった「動詞」で都市を評価することにしたのです」（島原・HOME'S 総研 2016:59）。本調査研究でのアンケートにおいても、地域環境評価、社会関係についての質問項目において、行動を軸とした設問を置いている。

「地域の良いところ」をメインの調査テーマとし、サブテーマとして「地域について①」（地域の現状、食・スポーツ・音楽について）、「社会関係について」（信頼や団体加入など社会的なつながり）、「生活に関する評価」（幸福度・満足度）、「都市の環境」（街並みの印象、身近な緑のイメージ）、「地域について②」（地域の印象や地域への愛着度等）を設定した。設問の詳細については、後で回答結果を示す際に触れるほか、本報告書の巻末資料として調査票を付している。そこで、ここでは調査研究の上で重要な点のみを述べる。

まずサブテーマ「地域について①」では、とよなか都市創造研究所（2017）でも取り上げた地域環境評価に加えて、南部地域活性化基本構想でも打ち出されている南部地域の地域資源のうち、「食・音楽・スポーツ」の3つに焦点を当てた質問を作成した<sup>9</sup>。これは地域住民の日常生活にかかわりの深い要素であり、南部地域と他の地域での目立った違いの有無を調べるためのものである。

続く「社会関係について」では、人への一般的信頼や町内会への加入などソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の測定に用いられる基本的な指標の他、地域での人々との関わりについて具体的な生活場面を想定した質問を作成している。

「生活に関する評価」では、幸福度、個人の生活への満足度について一般的に使われる質問を行った。これらの指標については、後述の地域生活満足度と合わせて他の質問との関係を分析する。

「都市の環境」については、南部地域の特徴的なスポットとしての「商店街」に関するイメージと、これまでのアンケートで南部地域において否定的評価が多かった「身近な緑」のイメージを調査している。またこのサブテーマの質問は、とよなか都市創造研究所（2022b）において試行的に実施したWEB調査での、画像を用いた質問を考察するための資料も兼ねている<sup>10</sup>。

「地域について②」では、地域の印象や愛着度、定住志向など、主に意識の面から地域について質問している。これらは行動面に重点を置いた「地域について①」の質問と対照的な構成となっている。

アンケートの末尾には、年齢、職業や年収など、対象者の属性に関する基本的な質問（デモグラフィック項目）を設けた。これはアンケートの回答全般と回答者の基本的属性の関連を調べるための質問である。

### 3-1-2. アンケート調査の実施概要

続いてアンケートの実施概要について述べる。図表 31 に示したように、豊中市在住の市民 2,000 人を対象とし、令和 3 年（2021 年）の 10 月から 11 月にかけて実施した。対象者の抽出に際しては、令和 3 年（2021 年）8 月 31 日現在の住民基本台帳から地域別・年齢別・性別の抽出率に基づいて行った。抽出率については、令和 3 年（2021 年）4 月 1 日現在の住民基本台帳の人口比（地域・年齢・性別）をもとに計算している。図表 32 に抽出数の詳細を示した。

なお、今回の調査では全体の対象者数を 2,000 人と設定しており、西部地域の抽出数自体が人口比により少なくなっている。実際の回答数はさらに少ないため、回答結果についても西部地域のみでの集計は参考として取り扱うこととする。

<sup>9</sup> スポーツ、音楽に関する質問項目の作成に当たっては、総務省統計局「令和 3 年社会生活基本調査」の調査票を参考にした。

<sup>10</sup> WEB 調査については、とよなか都市創造研究所（2022b）を参照されたい。

図表 31 アンケートの実施概要

調査票タイトル	豊中市における地域のイメージと人との関わりについてのアンケート
調査期間	令和3年(2021年)10月22日(金)～11月5日(金)
対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市在住の18歳～69歳の市民2,000人</li> <li>・令和3年(2021年)8月31日現在の住民基本台帳から、地域別・年齢別・性別の抽出率に基づき無作為抽出</li> <li>・抽出率は令和3年(2021年)4月1日現在の住民基本台帳の人口比より算出</li> </ul>
調査方法	郵送での配布・回収(調査期間中にお礼状兼催促状を1回送付)
主な質問項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域について①(地域の現状、食・スポーツ・音楽について)等</li> <li>・社会関係について(信頼や団体加入など社会的なつながり)等</li> <li>・生活について主観的評価(幸福度・満足度)</li> <li>・都市の環境(街並みの印象、身近な緑のイメージ)</li> <li>・地域について②(地域の印象や地域への愛着度等)</li> </ul>
有効回答数	789件(有効回答率39.5%)

### 3-1-3. アンケート調査結果の集計と分析について

以下、アンケート調査結果を示していくにあたり、結果のまとめ方について述べる。まずは、回答者の属性(年齢、性別等)についてまとめていく。続いて調査票での質問の順序に従って、設問ごとに回答を地域別に集計したもの(クロス集計)を図で示す。

各設問とも無回答のものは欠損値とした。地域別の集計および分析に際しては基本的に欠損値を除外している。全体のサンプル数が制限されているため地域別に見た場合回答数が少ない項目もあり、個々のクロス集計表の検定については行っていない。それゆえ、統計学的には必ずしも母集団の傾向を正確に示すものとは言えないが、回答結果に限定した傾向を読み取ることは可能である。

ただし、一部の設問については回答を集約し、統計的検定を行っている。

また分析については、南部地域の特性を明らかにするという目的から、南部地域で肯定的回答が多かった質問項目などについて、満足度や幸福度に関する主観的評価への影響を見ていくこととする。



図表 32 アンケート対象者の抽出数

■「南部地域活性化推進に関する調査研究」に係る質問紙調査 地域・年齢・性別抽出数

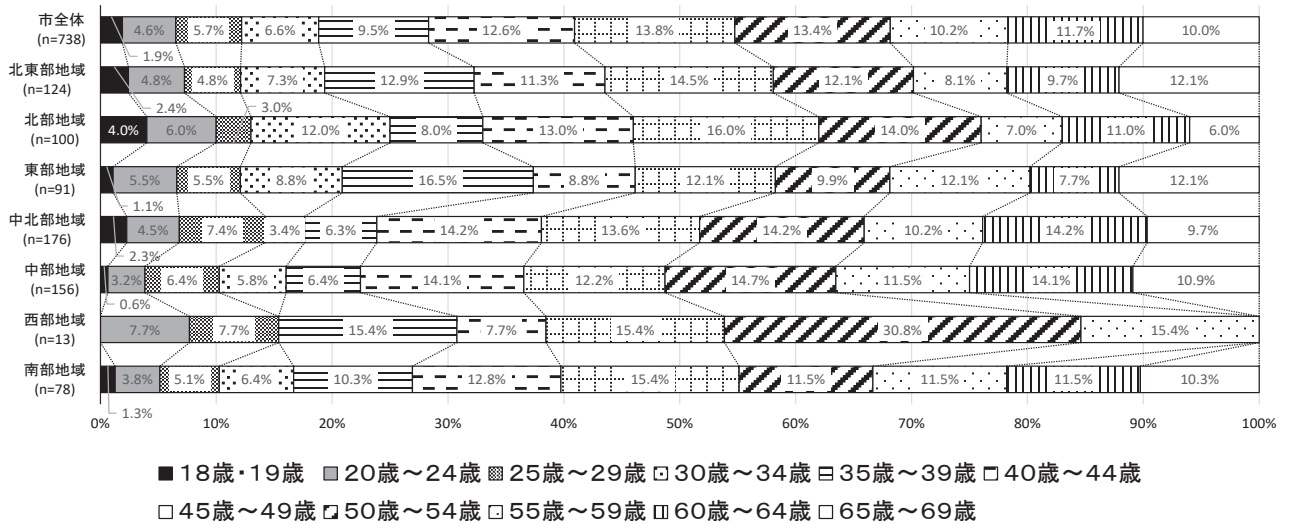
地域	年齢	男性	女性	男女計	地域	年齢	男性	女性	男女計
北東部	18～19歳	4	4	8	中部	18～19歳	6	6	12
	20～24歳	8	9	17		20～24歳	15	16	31
	25～29歳	6	8	14		25～29歳	16	18	34
	30～34歳	9	11	20		30～34歳	18	19	37
	35～39歳	14	17	31		35～39歳	20	21	41
	40～44歳	16	18	34		40～44歳	22	23	45
	45～49歳	18	21	39		45～49歳	27	27	54
	50～54歳	17	19	36		50～54歳	24	25	49
	55～59歳	13	14	27		55～59歳	20	21	41
	60～64歳	10	11	21		60～64歳	16	17	33
65～69歳	9	12	21	65～69歳	16	18	34		
計	124	144	268	計	200	211	411		
北部	18～19歳	5	5	10	西部	18～19歳	1	1	2
	20～24歳	12	12	24		20～24歳	4	4	8
	25～29歳	9	9	18		25～29歳	5	4	9
	30～34歳	9	11	20		30～34歳	4	4	8
	35～39歳	12	13	25		35～39歳	4	4	8
	40～44歳	14	16	30		40～44歳	4	4	8
	45～49歳	18	20	38		45～49歳	6	5	11
	50～54歳	16	17	33		50～54歳	5	5	10
	55～59歳	13	15	28		55～59歳	4	4	8
	60～64歳	10	12	22		60～64歳	3	3	6
65～69歳	10	11	21	65～69歳	3	4	7		
計	128	141	269	計	43	42	85		
東部	18～19歳	3	3	6	南部	18～19歳	4	3	7
	20～24歳	8	8	16		20～24歳	11	11	22
	25～29歳	8	9	17		25～29歳	14	13	27
	30～34歳	10	11	21		30～34歳	13	13	26
	35～39歳	12	13	25		35～39歳	13	12	25
	40～44歳	13	14	27		40～44歳	14	12	26
	45～49歳	16	16	32		45～49歳	17	16	33
	50～54歳	13	13	26		50～54歳	18	16	34
	55～59歳	11	12	23		55～59歳	15	14	29
	60～64歳	8	9	17		60～64歳	13	12	25
65～69歳	8	9	17	65～69歳	14	13	27		
計	110	117	227	計	146	135	281		
中北部	18～19歳	7	7	14					
	20～24歳	19	20	39					
	25～29歳	17	18	35					
	30～34歳	18	20	38					
	35～39歳	21	23	44					
	40～44歳	24	26	50					
	45～49歳	28	31	59					
	50～54歳	27	30	57					
	55～59歳	23	25	48					
	60～64歳	19	20	39					
65～69歳	17	19	36						
計	220	239	459						

### 3-2. 回答者の属性について

#### 3-2-1. 年齢・性別

回答者の年齢については以下図表 33 の通りである。また性別については以下図表 34 の通りである。全体的に女性の回答者の割合が高い。

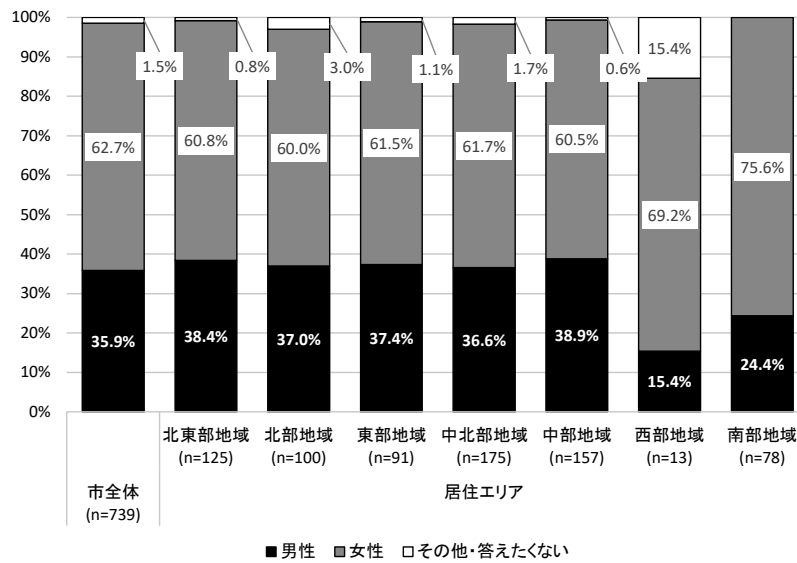
図表 33 回答者の年齢



地域	18歳・19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳
市全体(n=738)	14 1.8%	34 4.4%	42 5.3%	49 6.5%	70 9.0%	93 12.3%	102 13.7%	99 13.6%	75 10.4%	86 11.5%	74 10.3%
北東部地域(n=124)	3 2.3%	6 4.7%	6 4.7%	9 7.0%	16 12.5%	14 10.9%	18 14.1%	15 11.7%	10 7.8%	12 9.4%	15 11.7%
北部地域(n=100)	4 4.0%	6 5.9%	3 3.0%	12 11.9%	8 7.9%	13 12.9%	16 15.8%	14 13.9%	7 6.9%	11 10.9%	6 5.9%
東部地域(n=91)	1 1.1%	5 5.4%	5 5.4%	8 8.7%	15 16.3%	8 8.7%	11 12.0%	9 9.8%	11 12.0%	7 7.6%	11 12.0%
中北部地域(n=176)	4 2.3%	8 4.5%	13 7.3%	6 3.4%	11 6.2%	25 14.1%	24 13.6%	25 14.1%	18 10.2%	25 14.1%	17 9.6%
中部地域(n=156)	1 0.6%	5 3.2%	10 6.3%	9 5.7%	10 6.3%	22 13.9%	19 12.0%	23 14.6%	18 11.4%	22 13.9%	17 10.8%
西部地域(n=13)	0 0.0%	1 7.7%	1 7.7%	0 0.0%	2 15.4%	1 7.7%	2 15.4%	4 30.8%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%
南部地域(n=78)	1 1.3%	3 3.8%	4 5.1%	5 6.3%	8 10.1%	10 12.7%	12 15.2%	9 11.4%	9 11.4%	9 11.4%	8 10.1%

(単位)各地上段:人 各地下段:%

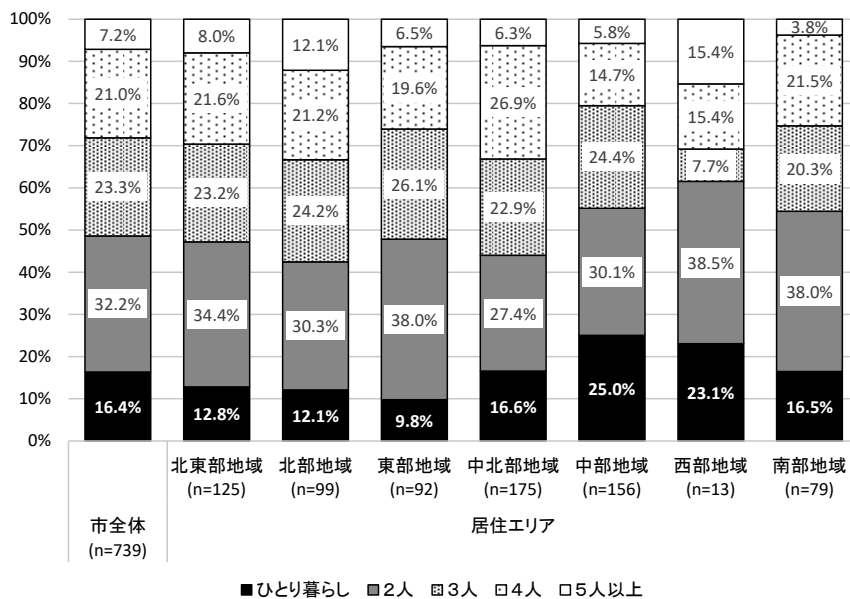
図表 34 回答者の性別



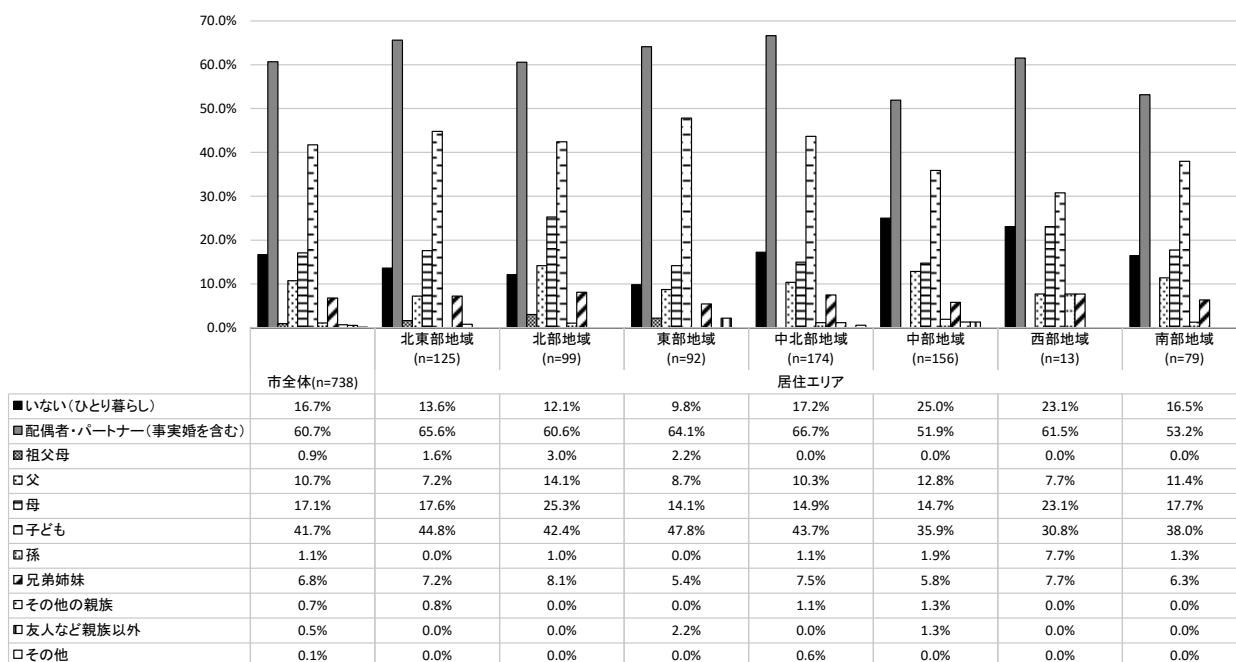
### 3-2-2. 世帯

世帯の規模として同居人数を尋ねている（図表 35）。第 2 章で見た通り、南部地域は人口データの上では単身世帯の割合が高いが、ここでは市全体の平均に近い割合である。また同居している人（図表 36）を見ると、中部・南部地域において、「配偶者・パートナーと住む人」の割合がやや少なくなるが、南部地域の「子どもと住んでいる」と答える人の割合は市全体と大きく変わらない。

図表 35 同居人数



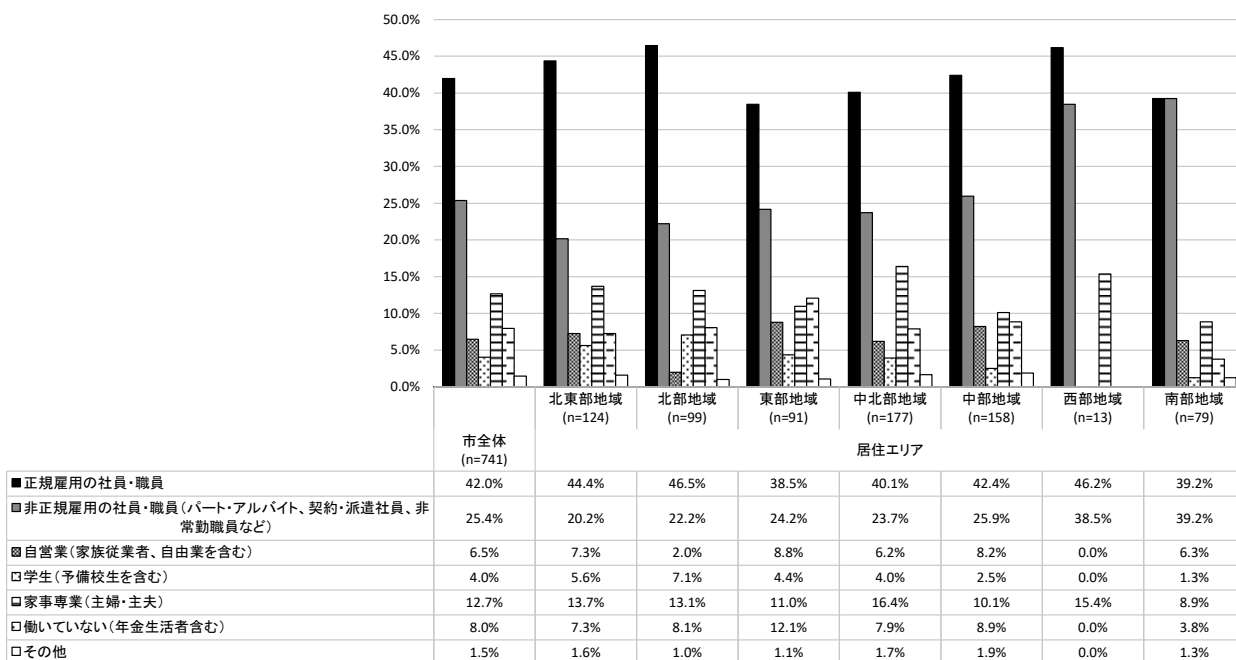
図表 36 一緒に住んでいる人（複数回答）



### 3-2-3. 職業

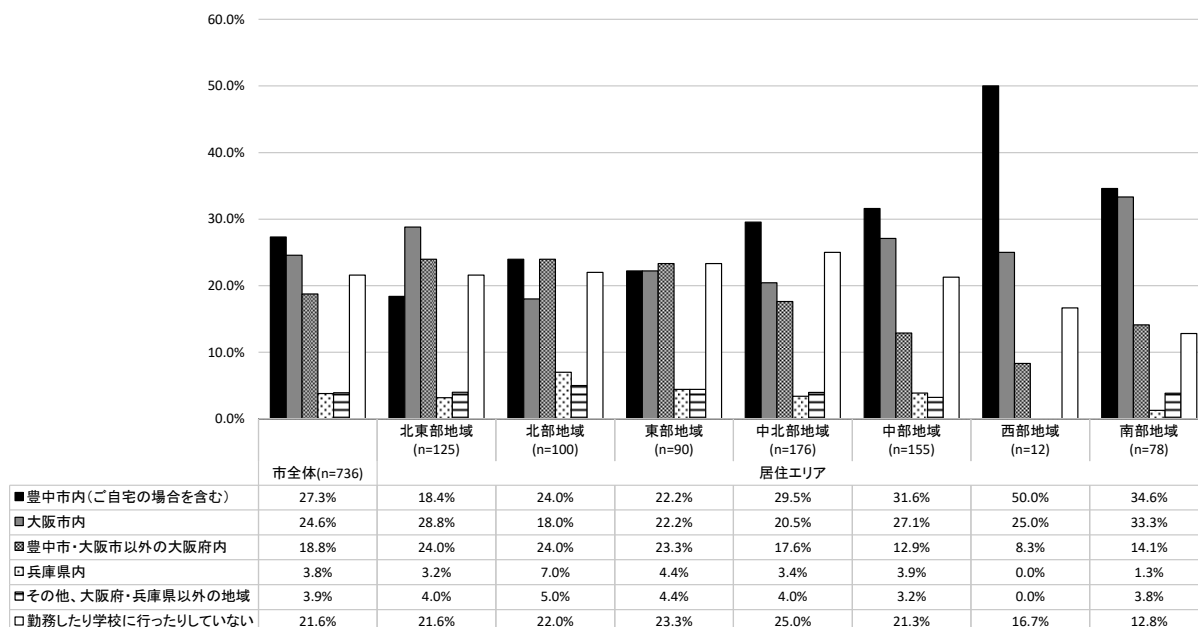
職業（図表 37）については、南部地域の回答では市全体での傾向に対して、正規雇用の社員・職員の割合は大きく変わらない。一方で非正規雇用の社員・職員の割合が正規雇用と同じ程度であることが特徴的である。南部地域の回答では、家事専業や「働いていない」と答える人が相対的に少なく、社員・職員の割合が多いことが分かる。

図表 37 職業



通勤先・通学先について尋ねたところ、下記図表 38 のような回答を得た。南部地域は豊中市内・大阪市内に通うと答えた人の割合が市全体や他地域の多くに比べ、相対的に多い。

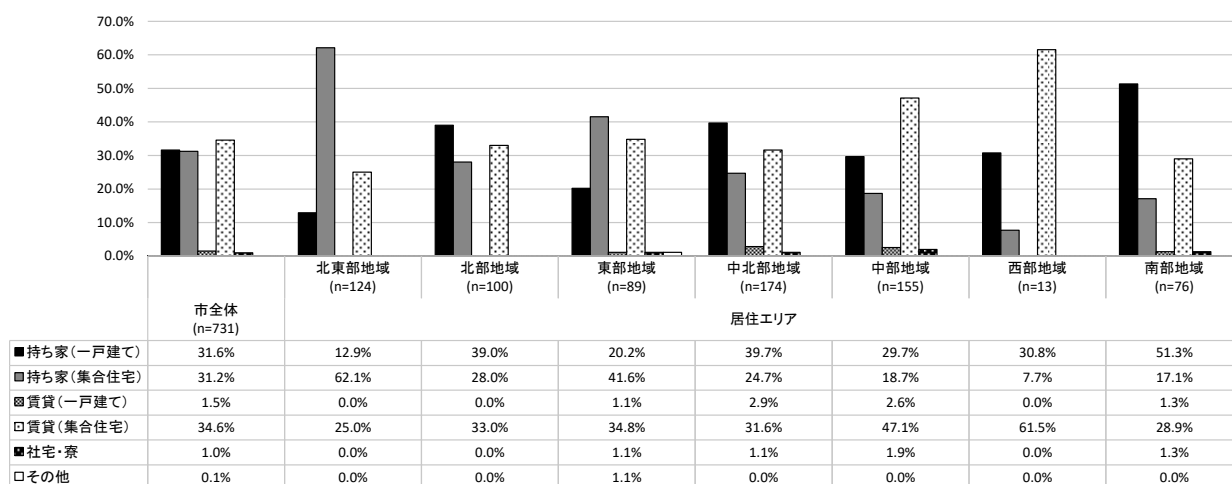
図表 38 通勤先・通学先



### 3-2-4. 住宅

住宅の種類については以下図表 39 の通りである。北東部地域において持ち家の集合住宅、中部地域において賃貸の集合住宅、南部地域において持ち家の一戸建ての回答比率が多い。

図表 39 住宅の種類



### 3-2-5. 社会経済的制約

収入と学歴についても今回のアンケート調査で尋ねているが、これらの項目についてはとよなか都市創造研究所（2017）での集計と同様、社会経済的制約に関する合成変数を回答から作成した。作成方法も上記とほぼ同じである（とよなか都市創造研究所 2017:92-93）<sup>11</sup>。

まず収入に関しては、回答者の1年間の世帯の所得を尋ねている。世帯の所得は各選択肢の中間値を用いた（例えば「100～150万円未満」の選択肢を選んだ場合は125万円、「400～500万円未満」の選択肢の場合は450万円となる）。学歴については、教育年数に換算した（「高校」は12年、「短大」「専門学校」は14年、「大学」は16年、「大学院」は18年とし、「その他」は分析から除外している）。

このようにして得られた2つの変数をそれぞれ標準化して、平均値を算出した<sup>12</sup>。そのうえで、合成された変数を、得点の低い方から「制約最大」「制約大」「制約小」「制約最小」のおおよそ4分位になるように区分している。

平成19年（2017年）の以前の調査研究と同様、社会経済的制約と他の属性との関係を示したのが図表40である。前回は対象者を若年層に限定しているため単純に比較はできないが、年齢は制約が小さくなるにつれて下がっている<sup>13</sup>。また女性比率については、制約大の割合がやや多い。単身世帯割合は制約が大きくなるにつれて大きくなり、非正規雇用割合も制約が大きくなるにつれて大きくなっていく。大きな傾向としては、前回調査研究と同様であると考えられる。

図表 40 社会経済的制約と各属性の関係

	平均年齢 (n=721)	女性割合 (n=716)	単身世帯割合 (n=718)	非正規雇用割合 (n=717)
制約最大	53.5歳	57.6%	24.2%	35.5%
制約大	47.4歳	71.7%	18.4%	28.6%
制約小	46.6歳	58.7%	17.3%	22.2%
制約最小	45.6歳	55.7%	7.7%	17.1%
合計	48.1歳	61.0%	16.7%	25.7%

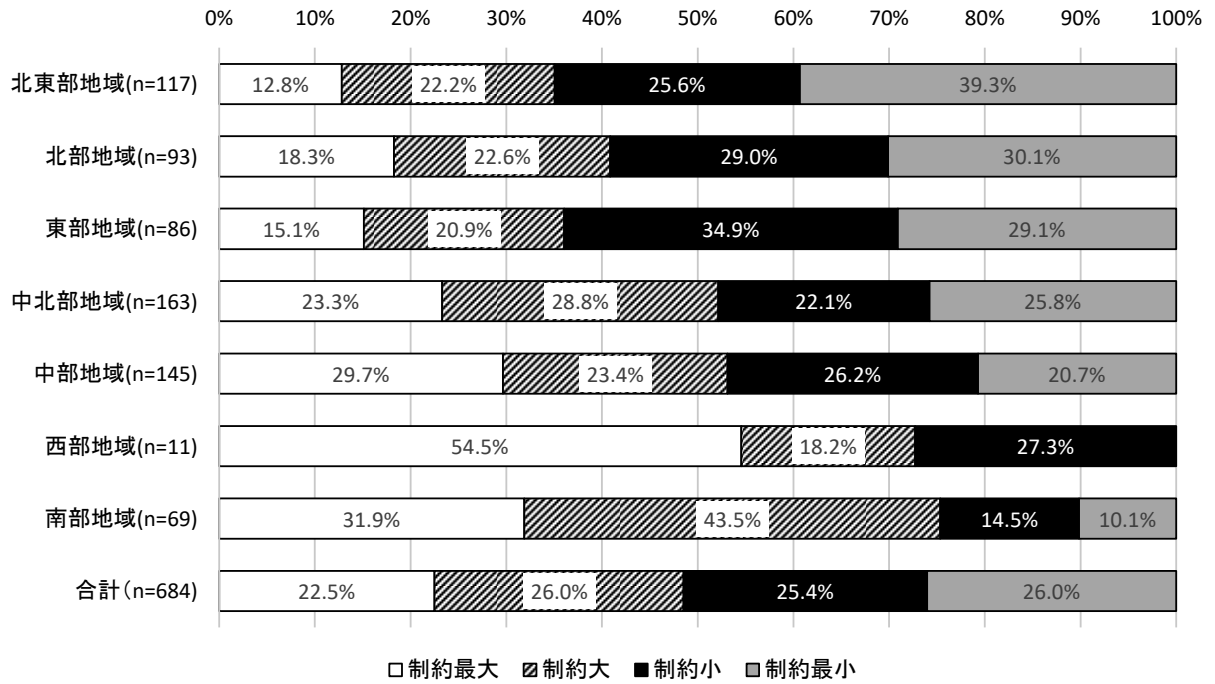
次に社会経済的制約と地域とのクロス集計を行った（図表41）。サンプル数が少ない西部地域を除いて見ると、「制約最大」「制約大」にあてはまる回答が、南部地域では他地域と比べて多くなっていることが分かる。これも対象年齢の違いはあるが、前回調査研究と同様の傾向を示している。ただしこの社会経済的制約の変数は、有効な回答を4分位にしているものであり、回答者の中での相対的な傾向を示すものであることに留意されたい。

<sup>11</sup> 平成29年（2017年）の調査研究報告書での合成変数作成に際しては、お茶の水女子大学（2014）が参考にされている。また上記の調査研究と、今回の調査研究とでは、アンケートでの世帯収入の選択肢の幅が異なり、今回の方がより選択肢を細かく設定している。

<sup>12</sup> ここでいう「標準化」とは、それぞれの変数群を平均値0、標準偏差1となるように変換することである。

<sup>13</sup> 年齢については、アンケート選択肢の中央値をもとに集計している。

図表 41 地域と社会的制約のクロス集計



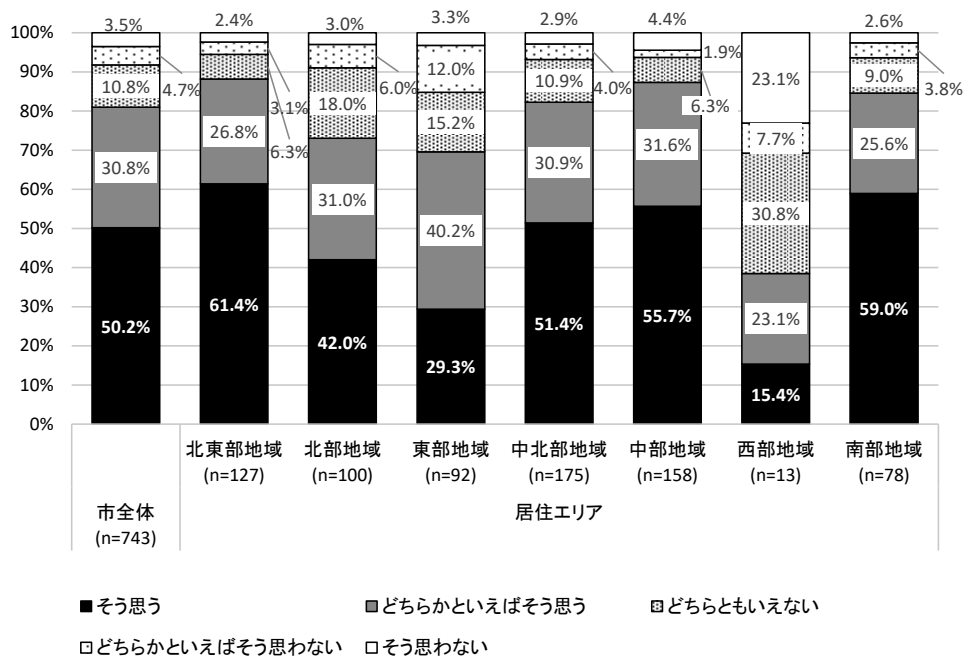
### 3-3. 地域環境と地域での生活について

#### 3-3-1. 地域環境評価

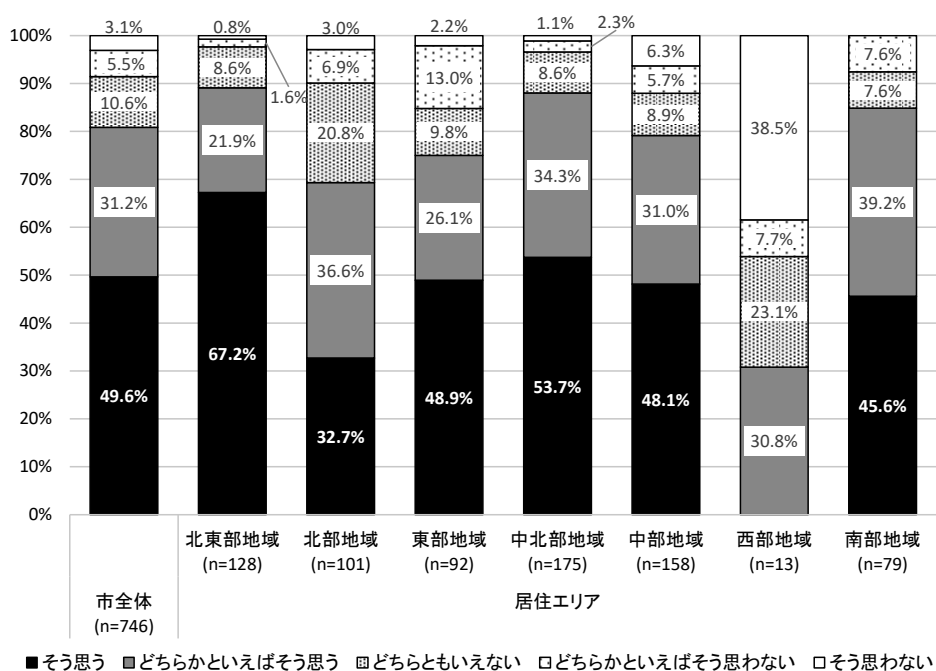
以下では、今回のアンケート調査の主題のひとつである地域の評価について見ていくこととする。

買い物の利便性（図表 42）については、南部地域は北東部地域と並んで「そう思う」と答える人の割合が多い。鉄道やバスでの移動（図表 43）については「そう思う」は市全体をやや下回るが、「どちらかといえばそう思う」を加えた場合、市全体を上回る。

図表 42 買い物が便利な地域である



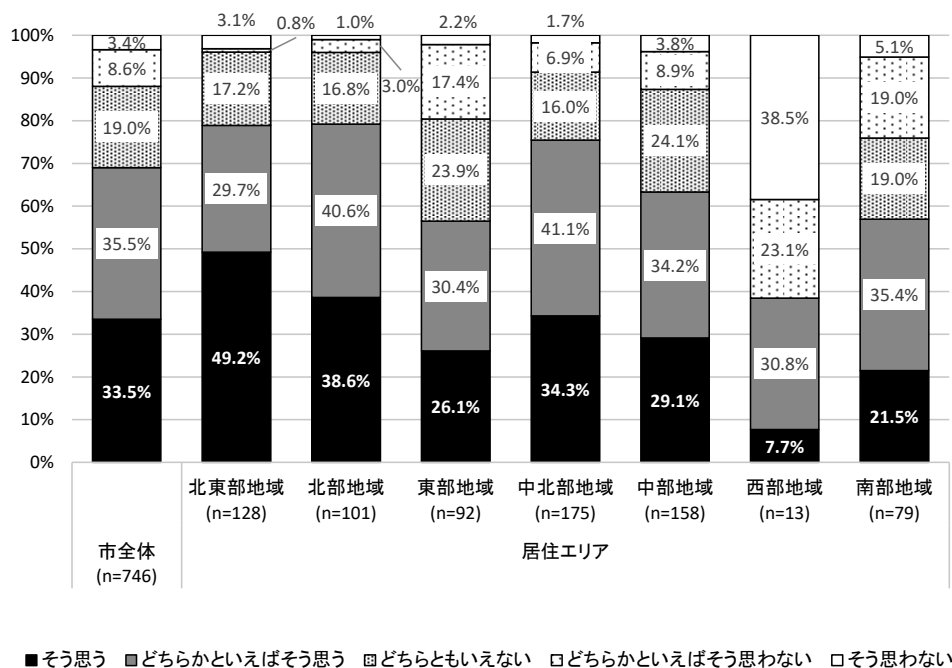
図表 43 鉄道やバスでの移動が便利な地域である





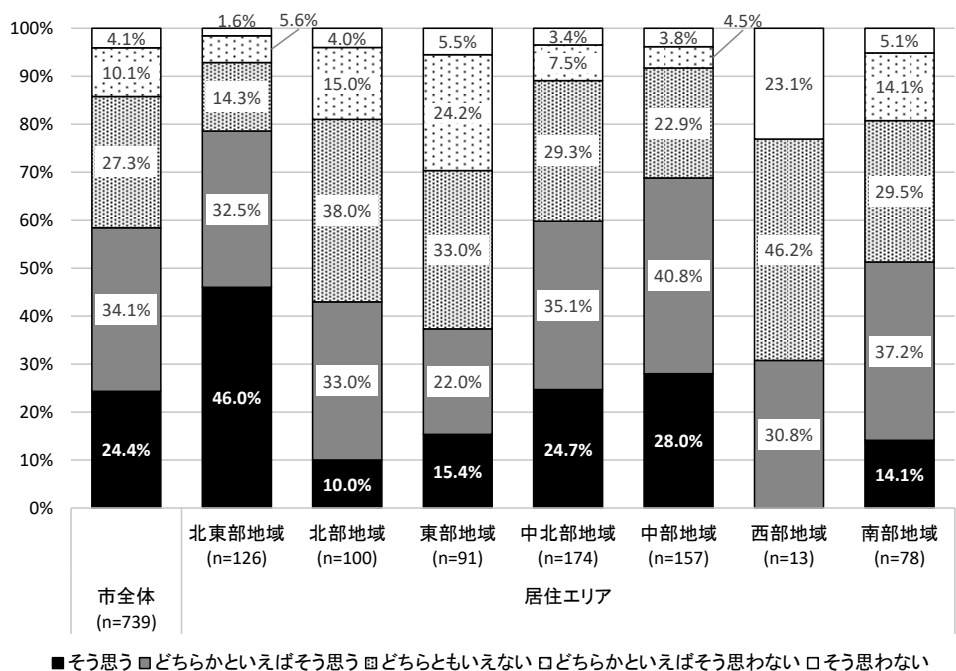
病院の利用のしやすさ（図表 44）については南部地域で「そう思う」と答える人は市全域に比べ少ない。公共施設の利用のしやすさ（図表 45）についても同様である。

図表 44 病院が利用しやすい地域である



■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ▨ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない

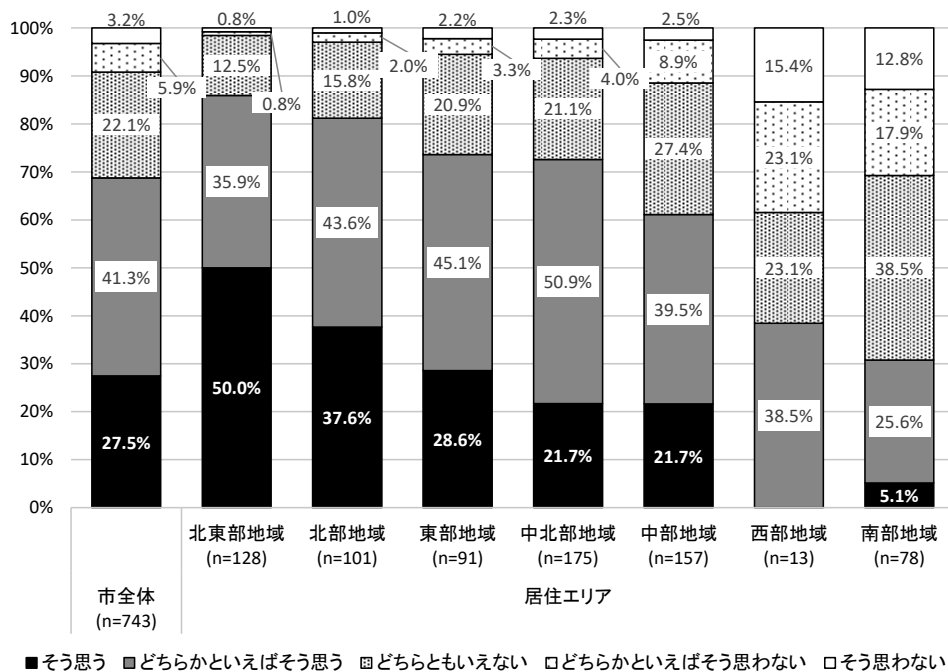
図表 45 公共施設が利用しやすい地域である



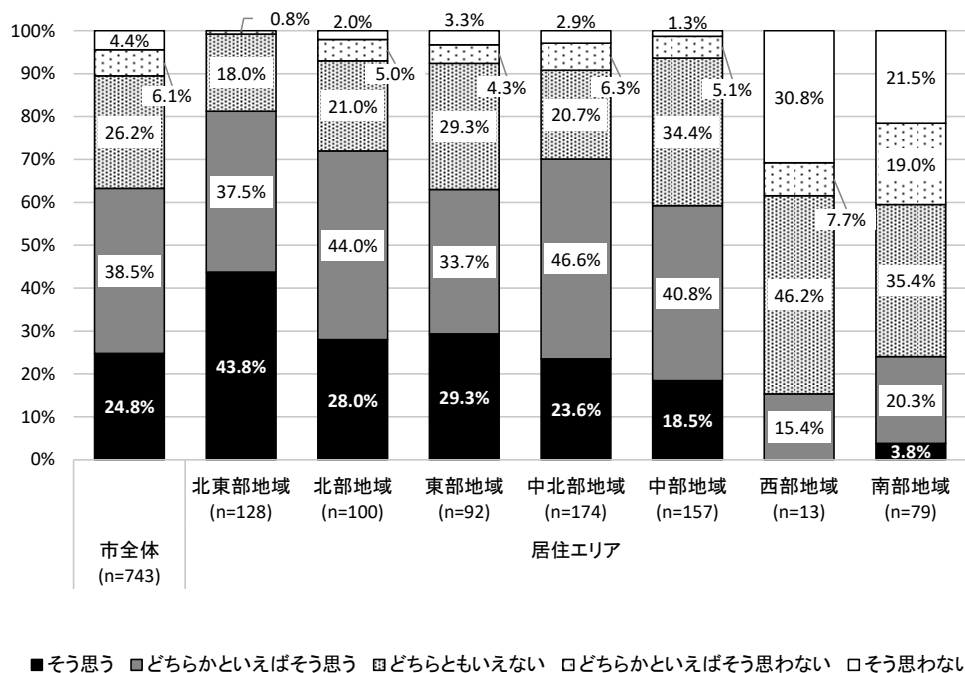
■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ▨ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない

続いて、防犯・防災での安心感について尋ねた（図表 46・図表 47）。いずれも北東部地域で「そう思う」と答える人の比率が高く、南部地域でこれらの設問に対しての肯定的回答は少ない。

図表 46 防犯面で安心できる地域である

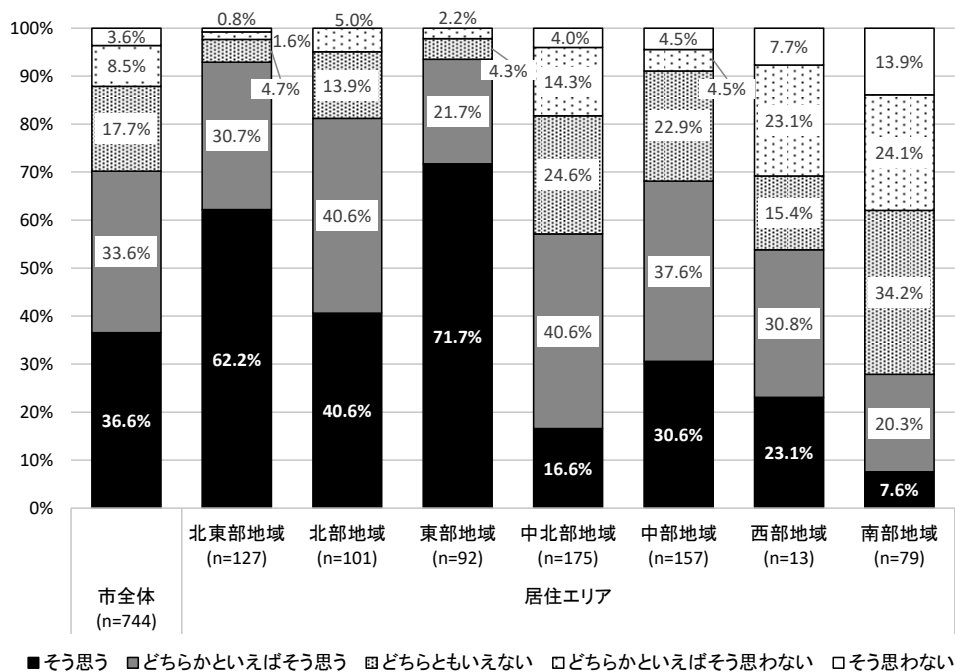


図表 47 災害に対して安全な地域である

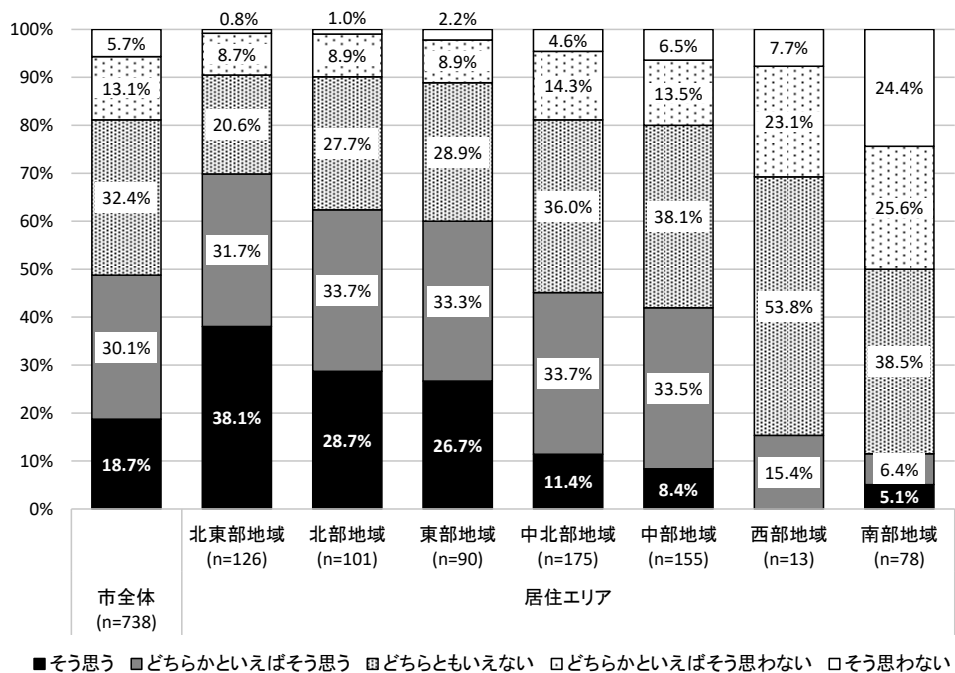


身近な緑の充実度について、南部地域で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える人は他地域に比べ全体的に少ない（図表 48）<sup>14</sup>。「まちなみの魅力」についても同様である。

図表 48 身近な緑が充実した地域である



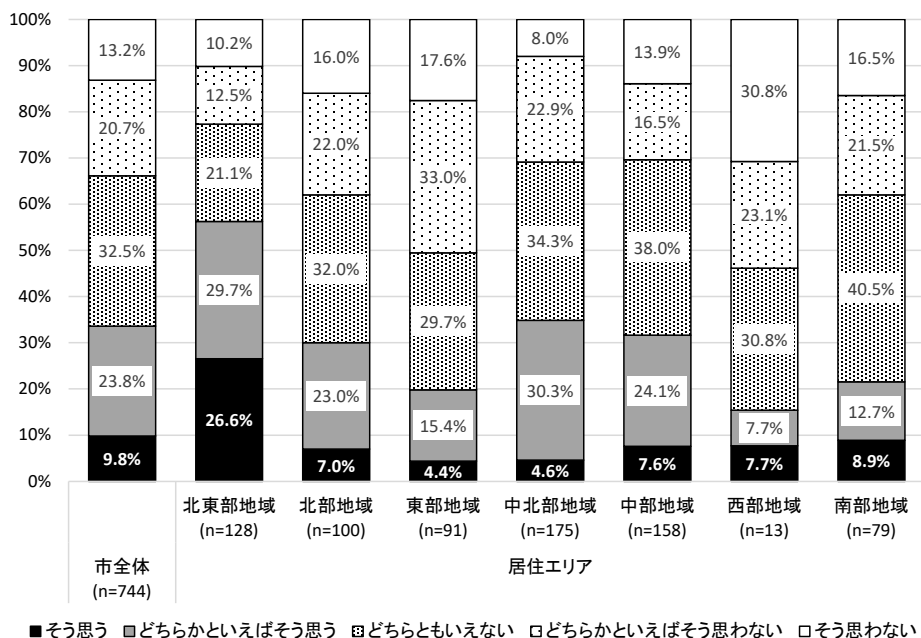
図表 49 まちなみが魅力的な地域である



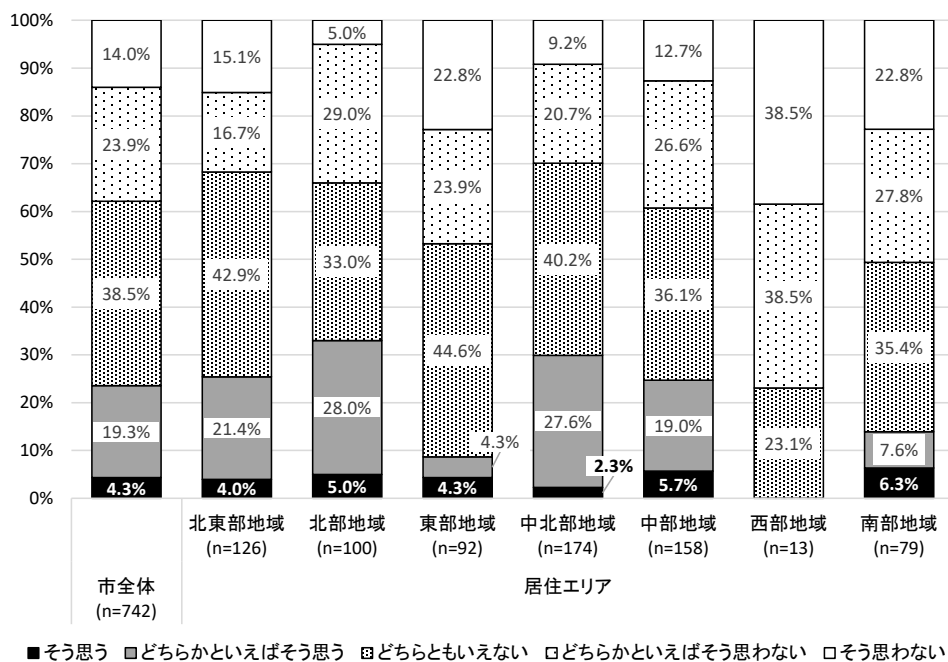
<sup>14</sup> 「身近な緑」については後述の「地域の印象」で具体的イメージを取り上げている（図表 140）。

駅周辺の商業地の魅力については、南部地域で「そう思う」と答える人が7地域の中で2番目に多い(図表50)。「自分好みの飲食店」についても同様である(図表51)。「どちらかといえばそう思う」を含めると傾向に変化が見られるが、肯定度の強い回答については南部地域が相対的に多い。

図表 50 駅周辺の商業地が魅力的な地域である

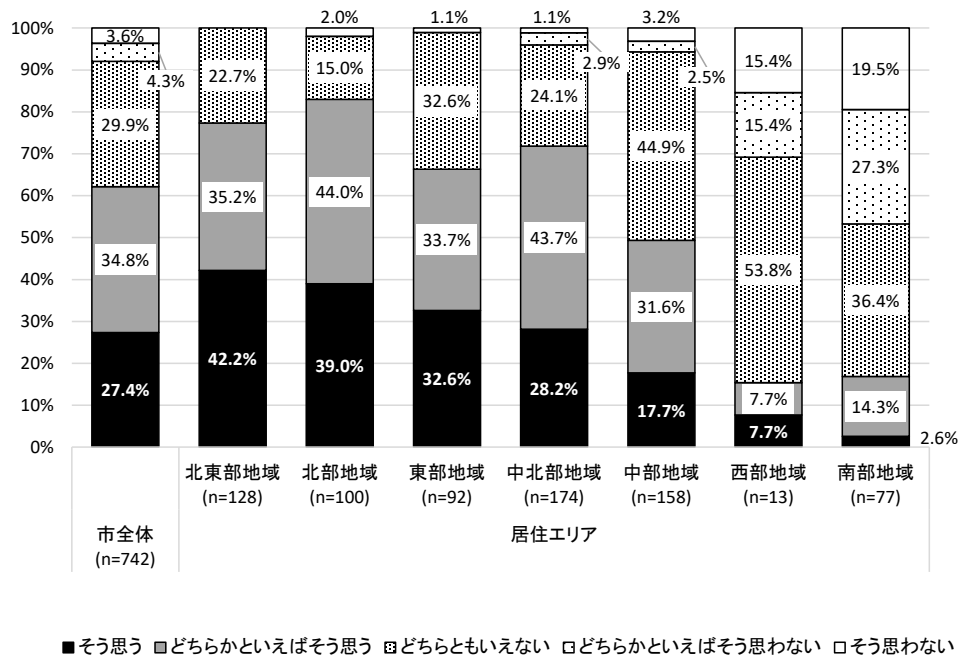


図表 51 自分好みの飲食店が充実した地域である

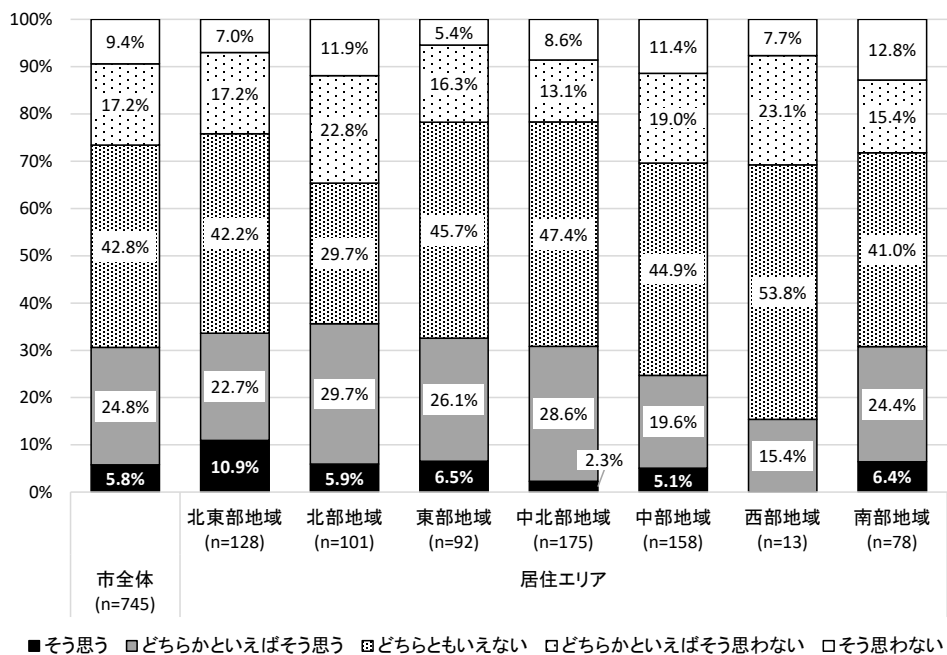


「子どもの教育環境としての良好さ」については、南部地域での肯定的回答は他の多くの地域に比べて少なかった（図表 52）。「住民同士のつながり」については、「そう思う」と答える人が市全体を上回っており、「どちらかといえばそう思う」人も市全体に近い（図表 53）。

図表 52 子どもの教育環境として良好な地域である

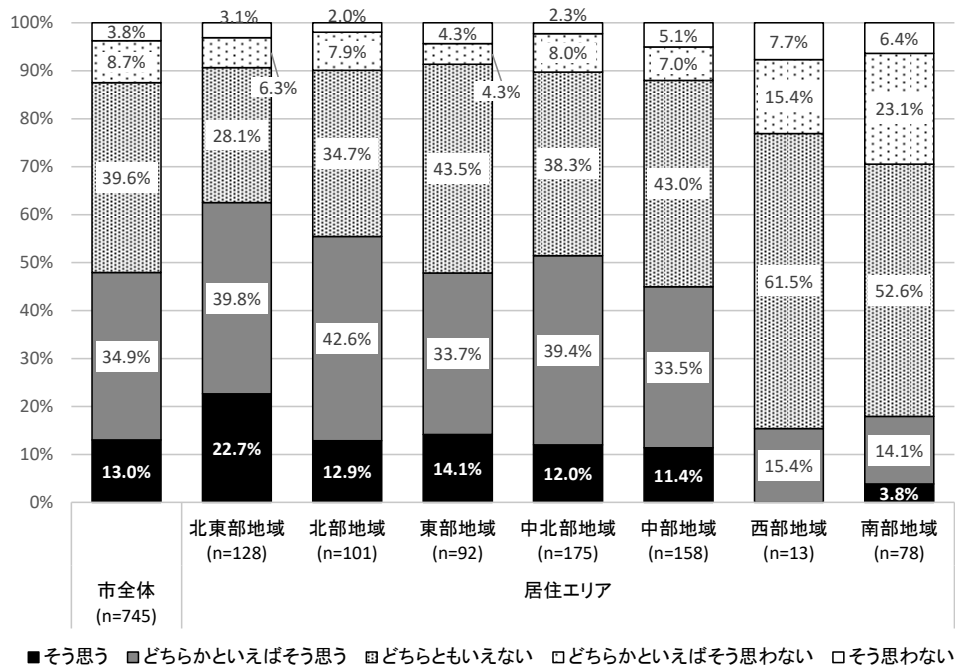


図表 53 住民同士のつながりがある地域である



「若い世代の暮らしやすさ」については、南部地域は他の地域の多くに比べて肯定的回答が少ない（図表 54）。

図表 54 若い世代が暮らしやすい地域である

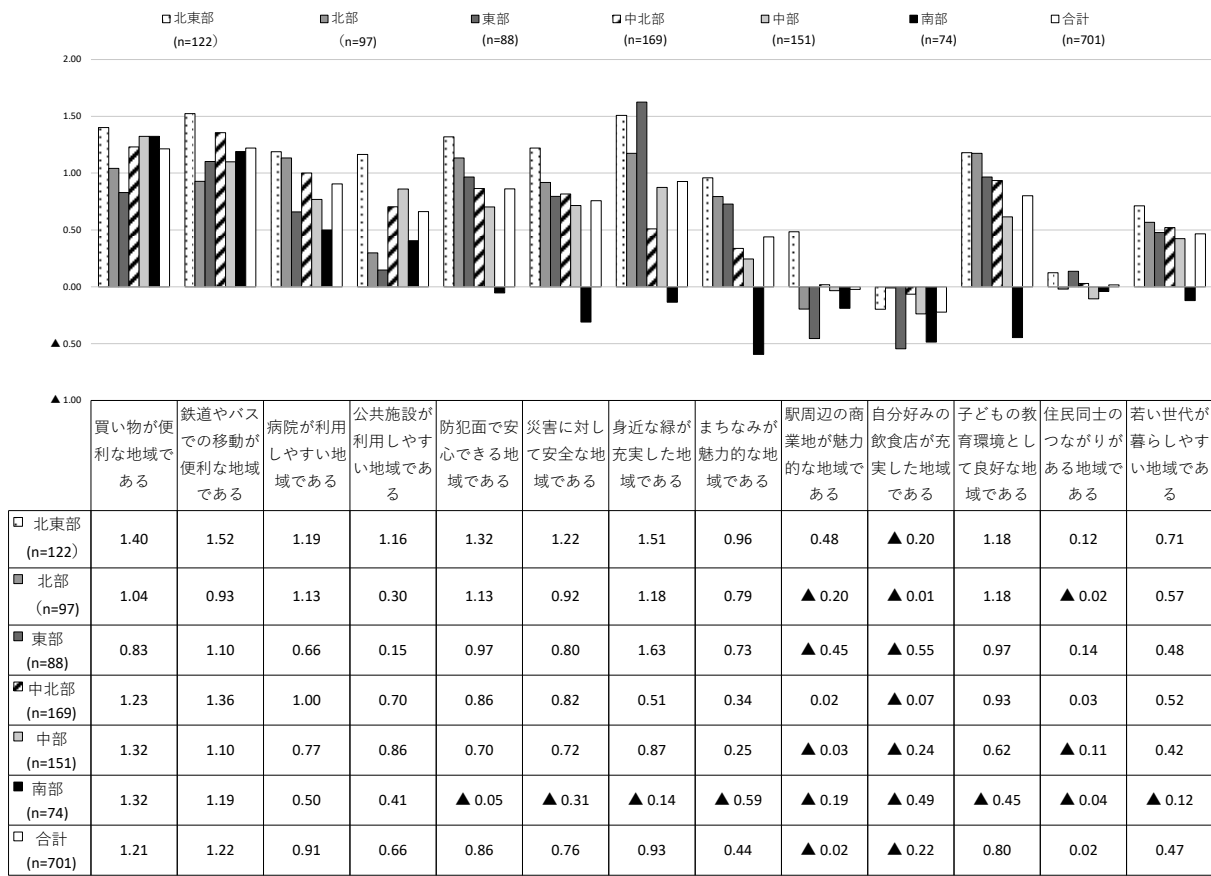


以上の地域環境評価を集約したのが、次ページの図表 55 である。すでに示した単純集計とは異なり、「そう思う」に 2 点、「どちらかといえばそう思う」に 1 点、「どちらともいえない」に 0 点、「どちらかといえばそう思わない」に -1 点、「そう思わない」に -2 点を与え、それぞれの選択肢を選んだ回答者数を掛け合わせたものを足し合わせたうえで、各地域の回答者数で割って平均値を出したものである。

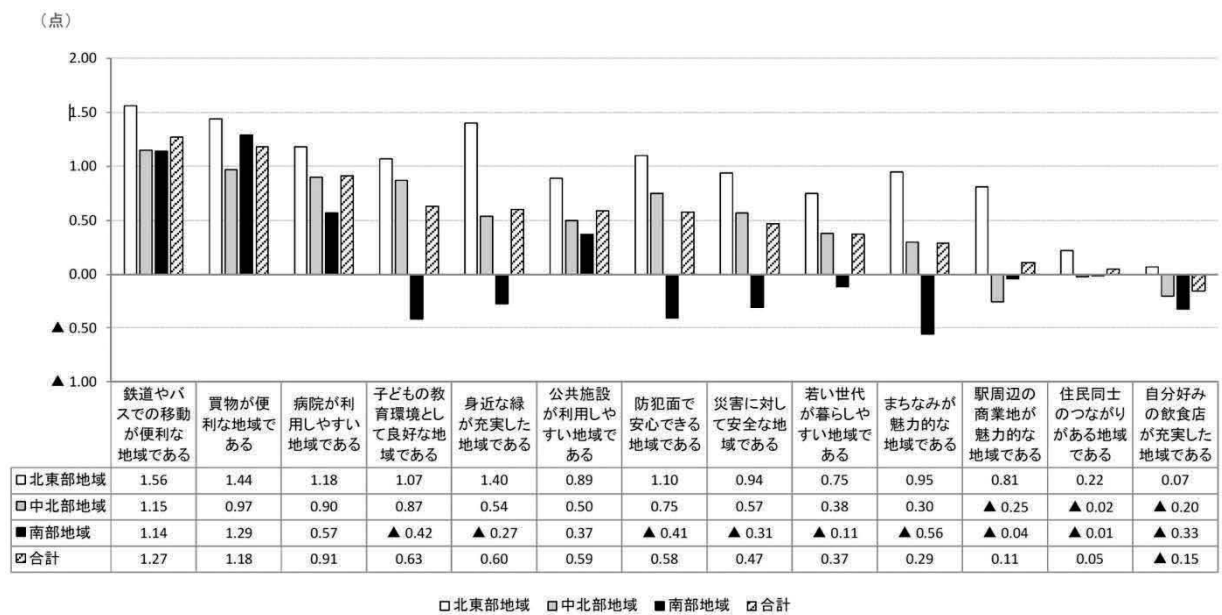
このように数値化してみると、南部地域では比較してマイナスの平均値が出る設問が多い。ただし、「自分好みの飲食店が充実している」（図表 51）「住民同士のつながりがある」（図表 53）のように「そう思う」のみを取れば市全体を上回る設問もあるので、平均値ではなく強い肯定を見ればプラス評価といえる場合もある。また、この数値化の方法は平成 28 年度にとよなか都市創造研究所が実施した「南部地域の活性化に向けた研究 I」でも取り上げたものでもあり、前回調査研究との比較も可能であるので、合わせて前回の結果を図表 56 に示した。前回調査が若い世代（18-39 歳）を対象としており、対象とする地域も北東部・中北部・南部の 3 地域であること、設問の配列順が異なるなどの違いはあるが、南部地域ではおおむね前回と同様の結果が得られている。

以上の結果から、これまでと同様の質問項目では年齢の違い等はあっても南部地域の回答からはおおむね同様の結果が得られ、地域環境に関してはネガティブな評価が比較して多いことが確認できる。しかし、ここからが今回の調査研究の問いに関わる部分であるが、地域環境等に関する設問の問い方を変えてみれば異なった評価も得られるのではないだろうか。上記の設問は地域環境に関する全般的なものであるが、より個別的・具体的な問いについて、項を改めて見ていくことにしよう。

図表 55 地域環境評価



図表 56 前回調査時の地域環境評価 (参考)

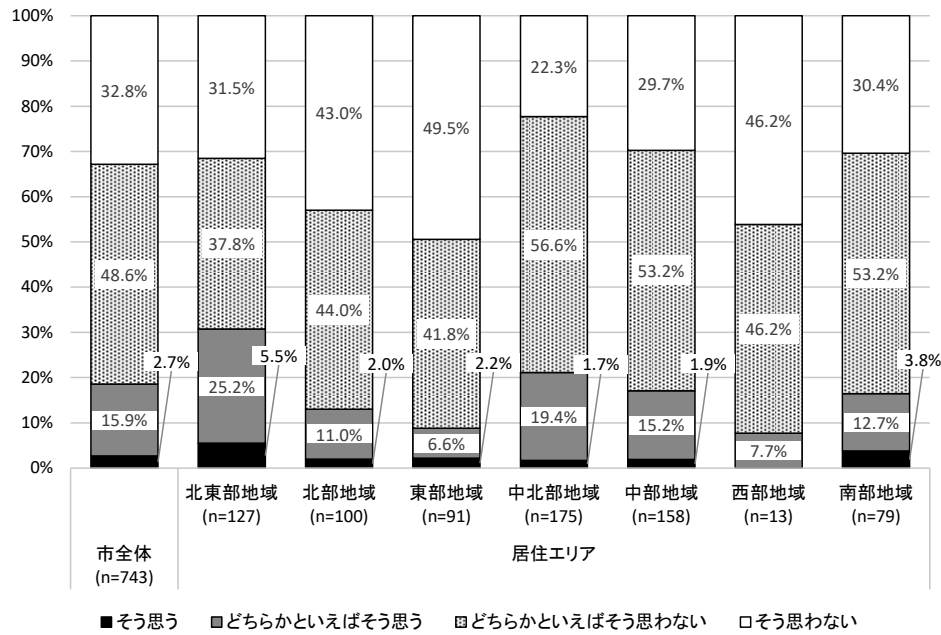


(とよなか都市創造研究所 2017:96)

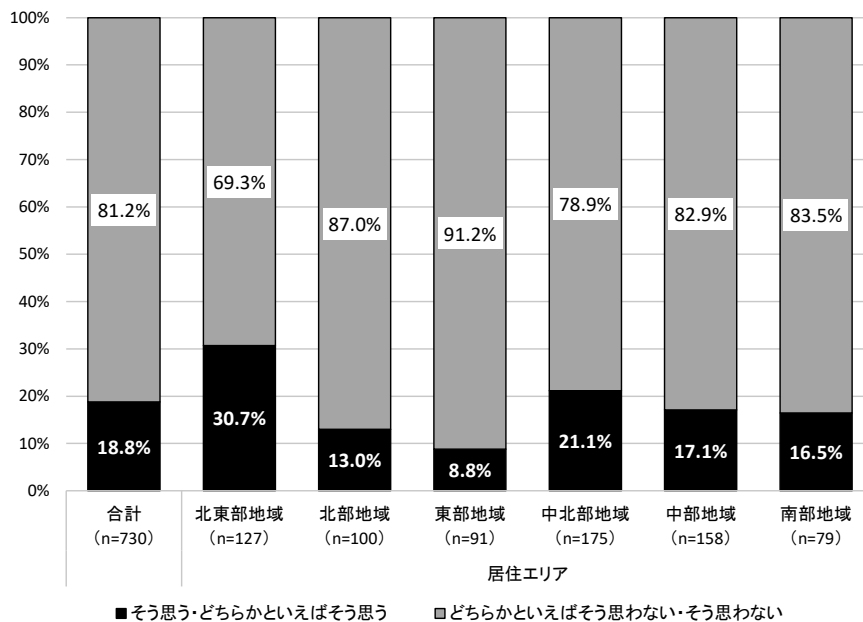
### 3-3-4. 「食」について

ここからはより具体的な設問についての回答を見ていく。南部地域の地域資源の一つである「食」について尋ねた。「食に関するイベントの盛んさ」については、南部地域では「そう思う」と答える人が北東部に次いで 2 番目に多い (図表 57)。肯定的回答・否定的回答を集約した場合には西部を除く 6 地域を比較して南部地域は四番目の多さとなるが (図表 58)、先に見たように「強い肯定」の割合は比較的高いと言える。

図表 57 食に関するイベントが盛んである



図表 58 食に関するイベントが盛んである (集約)

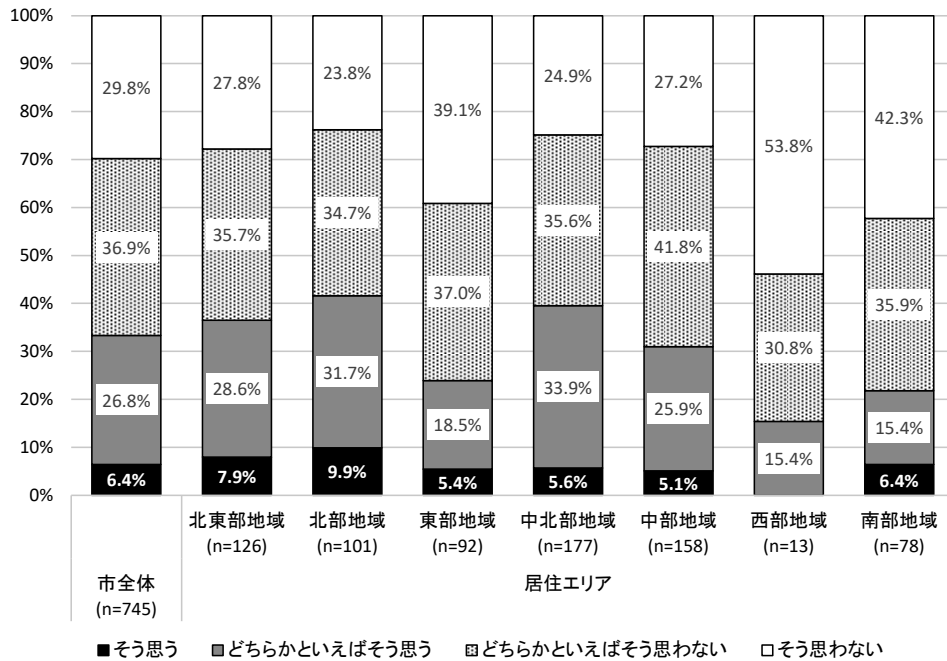


カイ 2 乗値 21.218 有意確率 0.001

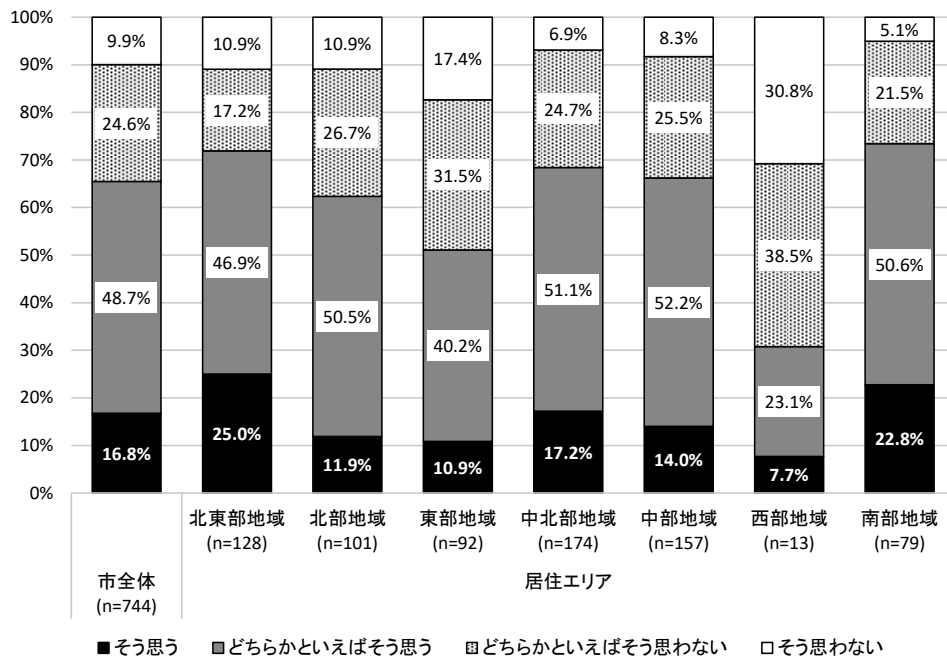


続いては「ランチをするお気に入りの店があるか」について尋ねた。南部地域では「そう思う」と答える人が7地域の中で3番目に多い(図表59)。これも強い肯定は他地域に比較して比較的多い割合だが、肯定的回答を集約すると比較的少なくなる。また「新鮮な食材を買える店がある」については「そう思う」が2番目に多く、市全体を大きく上回る(図表60)。

図表 59 ランチをするお気に入りの店がある

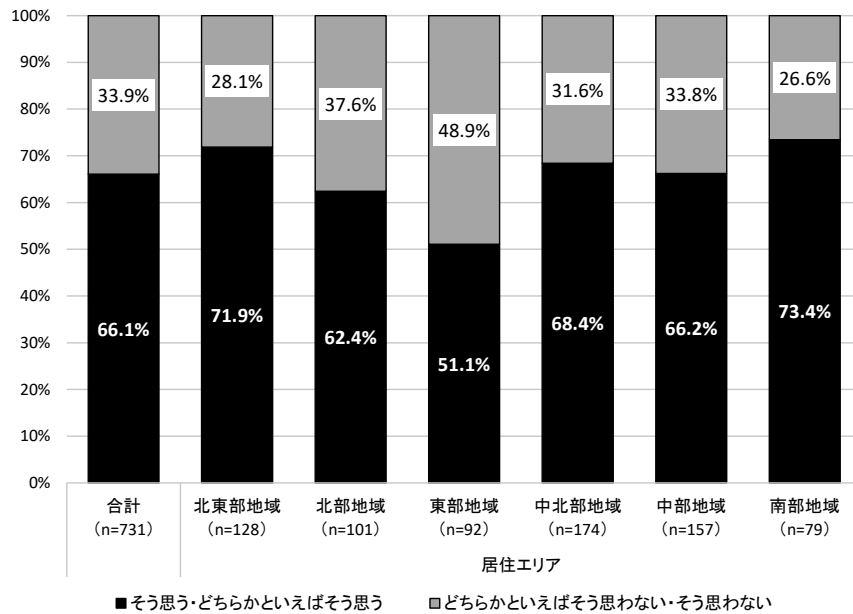


図表 60 新鮮な食材が買える店がある



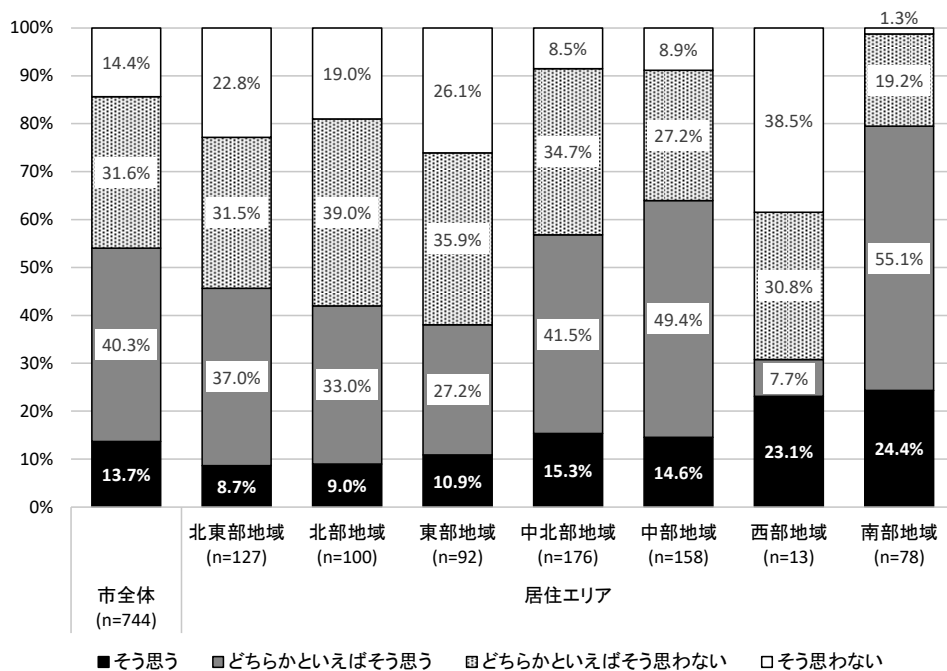
また、先の「新鮮な食材が買える店がある」について肯定的回答・否定的回答を集約した場合、南部地域は肯定的回答の割合が最も多くなる（図表 61）。これは南部地域の一つの特色と考えられる。また、「食料品を安く買える」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」ともに南部地域が最も割合が多い（図表 62）。

図表 61 新鮮な食材が買える店がある（集約）



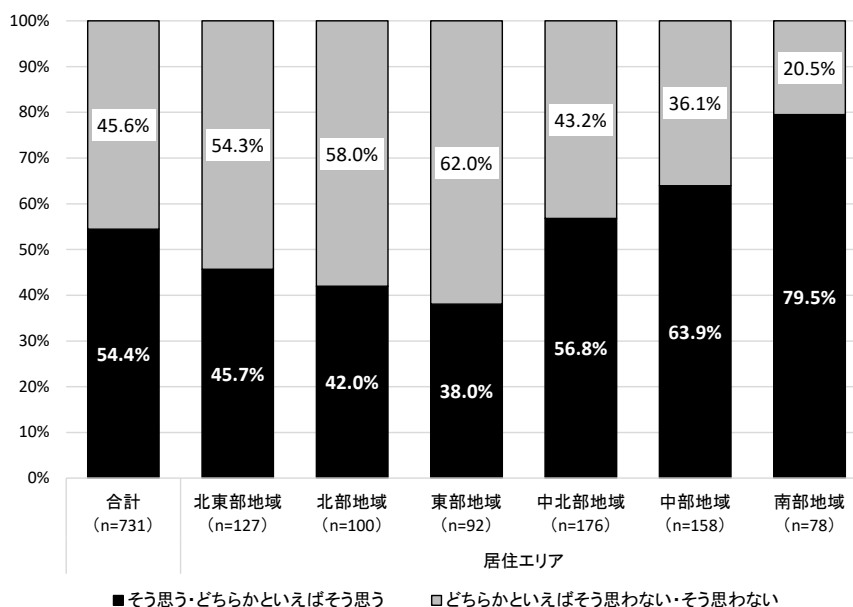
カイ 2 乗値 14.075 有意確率 0.015

図表 62 食料品を安く買える



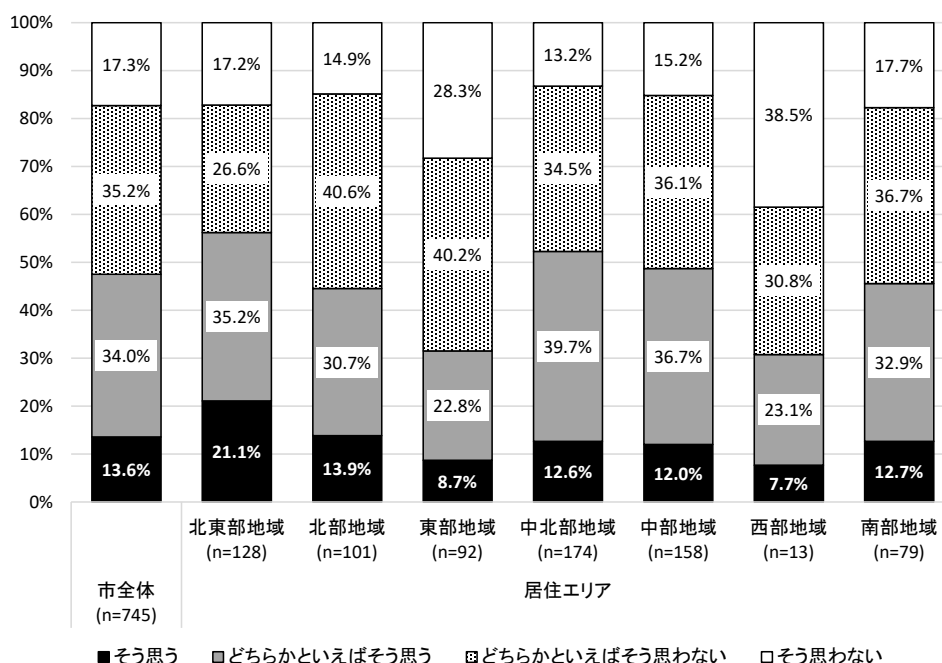
「食料品を安く買える」については、肯定的・否定的回答をそれぞれ集約したところ、南部地域が最も肯定的回答の割合が高くなった（図表 63）。また、単身世帯のライフスタイルを想定して、「ひとりでも気軽に入れる飲食店がある」との質問を設けたが、南部地域で「そう思う」と答えた人の割合は7地域中3番目に高い（図表 64）。

図表 63 食料品を安く買える（集約）



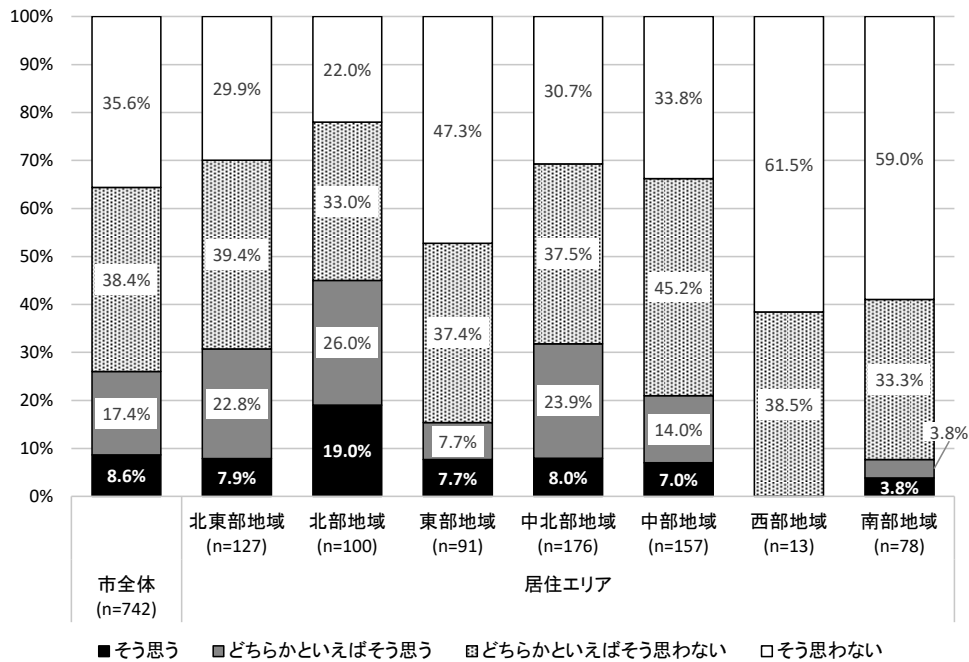
カイ 2 乗値 46.012 有意確率 0.000

図表 64 ひとりでも気軽に入れる飲食店がある

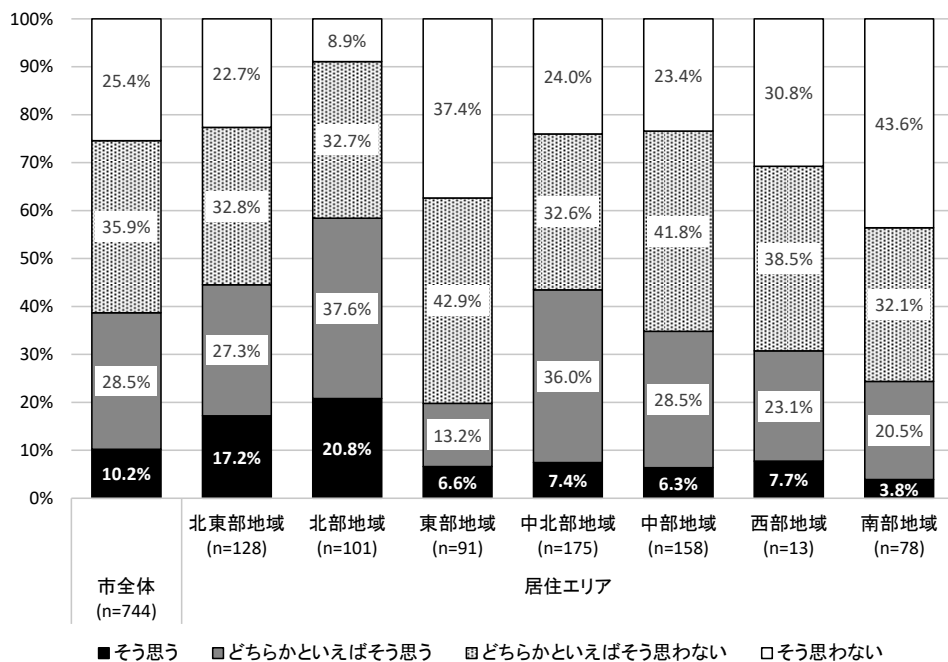


「とっておきのディナーをする店がある」との質問では、「そう思う」と答える人の割合は南部では少なくなっている（図表 65）。「ゆっくり過ごせるカフェ、喫茶店がある」についても同様である（図表 66）。次ページの「街を歩くと美味しそうな食べ物の匂いがする」という質問では、南部地域が「そう思う」と答える人の割合が一番多かった（図表 67）。

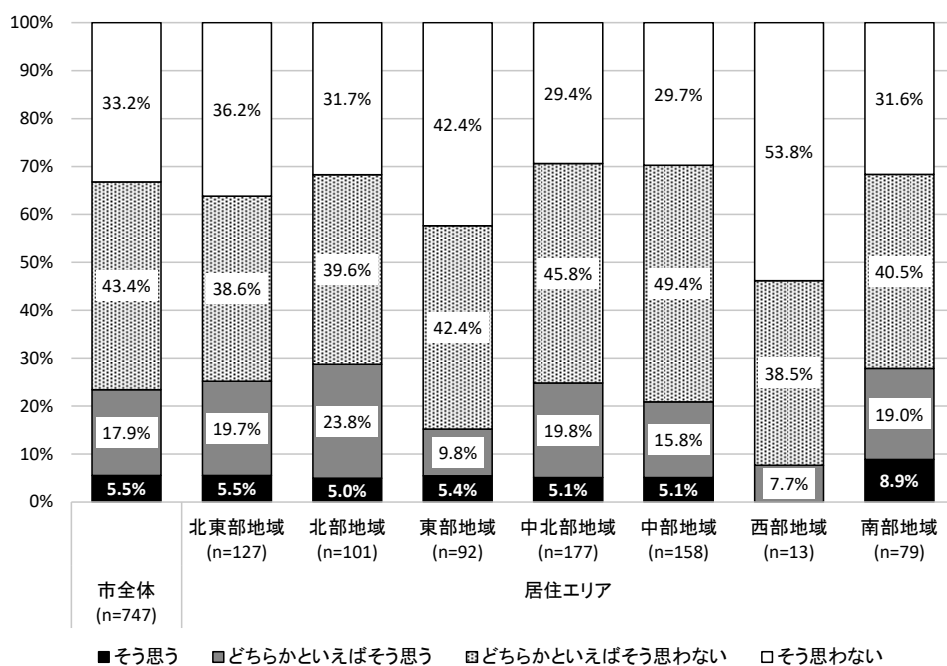
図表 65 とっておきのディナーをする店がある



図表 66 ゆっくり過ごせるカフェ、喫茶店がある



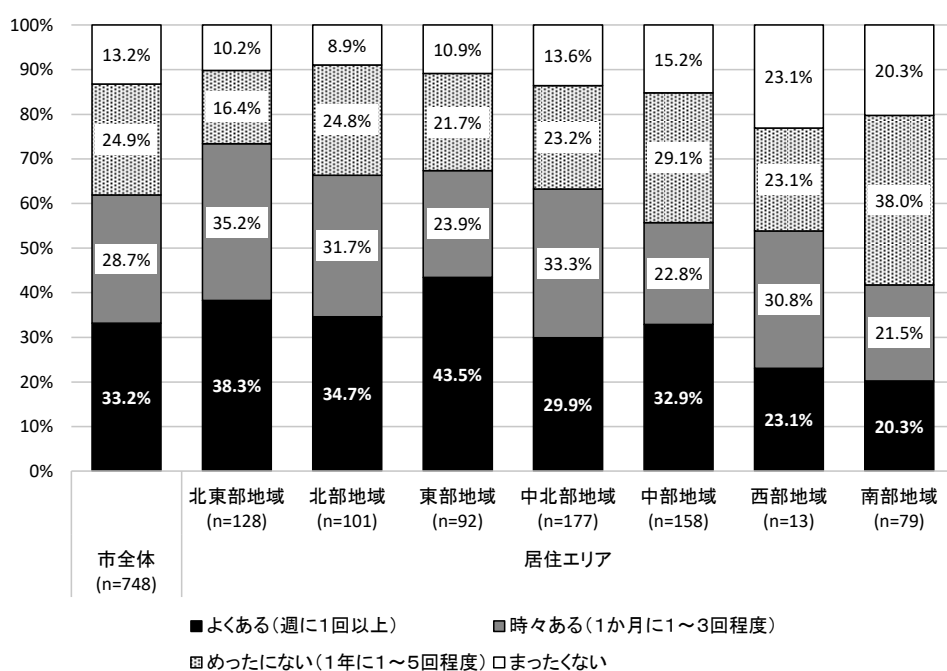
図表 67 街を歩くと美味しそうな食べ物の匂いがする



### 3-3-3. 「スポーツ」について

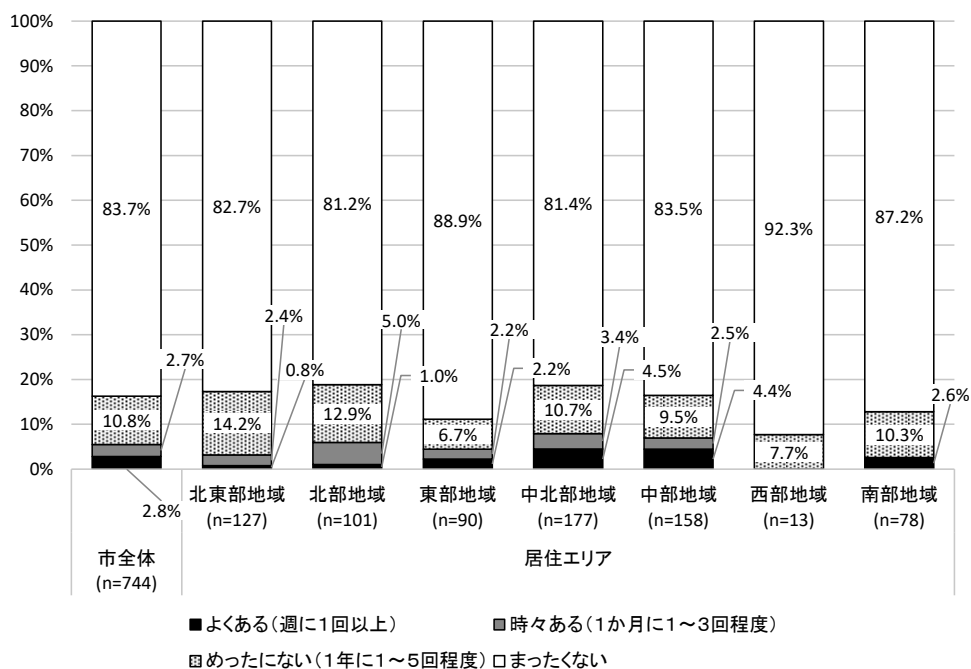
続いて、南部地域の資源として「スポーツ」について尋ねた。南部地域にはスポーツ施設があるほか、神崎川沿いの河川敷などもサイクリングに適した場所である。このような点から以下の設問を配置した。まず「散歩をする」についてであるが南部地域で「よくある」「時々ある」と答える人の割合は相対的に少ない（図表 68）。

図表 68 散歩をする

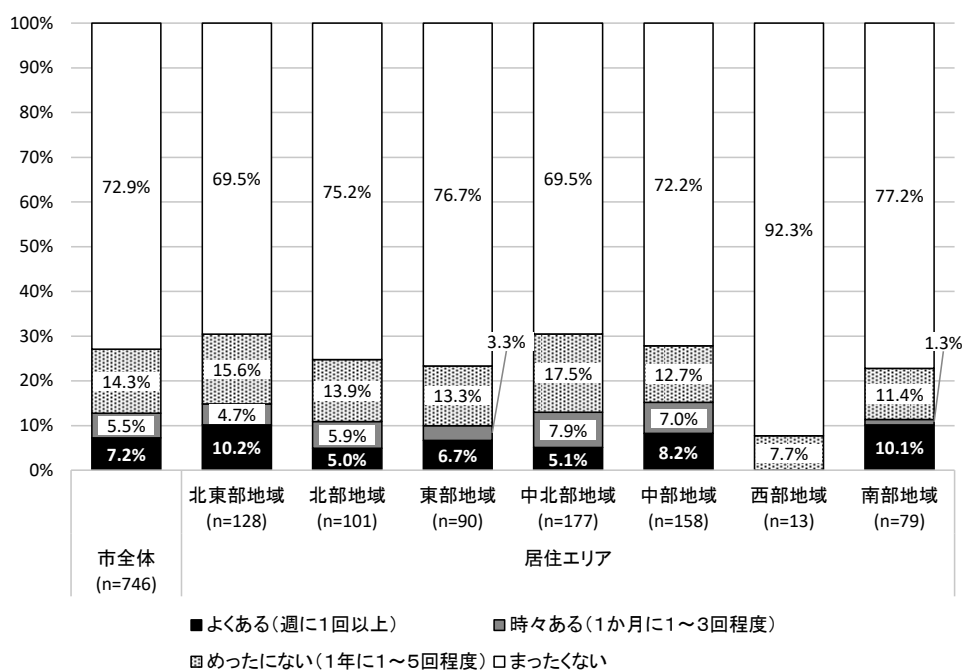


次に「野球やサッカーなどの球技をする」について「よくある」と答える人の割合は全体的に少ない（図表 69）。「室内（ジムなど）で運動をする」について「よくある」と答える人の割合は、北東部、南部地域が相対的に高い（図表 70）。

図表 69 野球やサッカーなどの球技をする

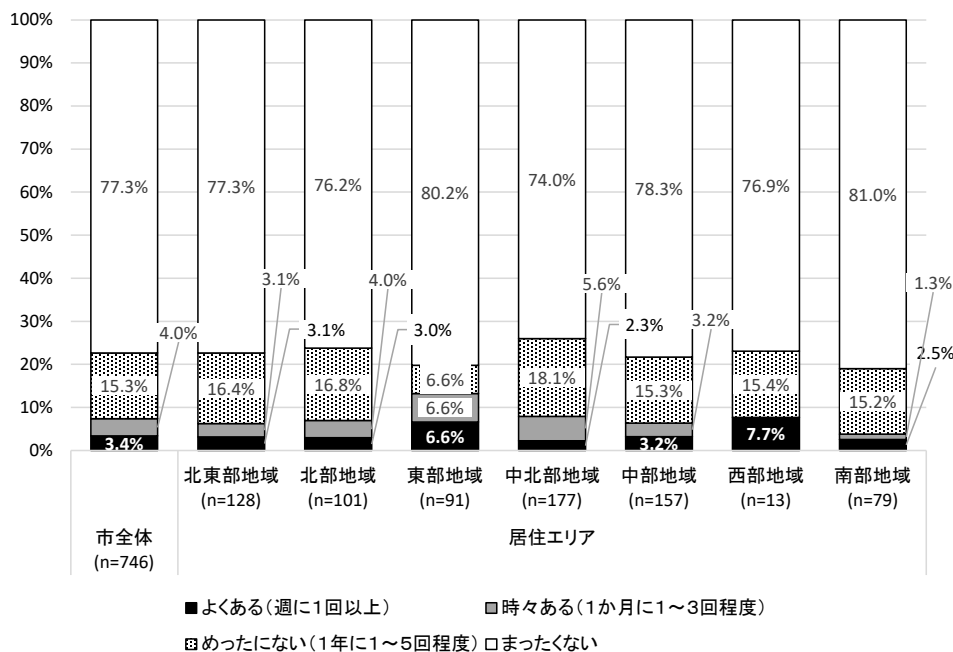


図表 70 室内（ジムなど）で運動をする

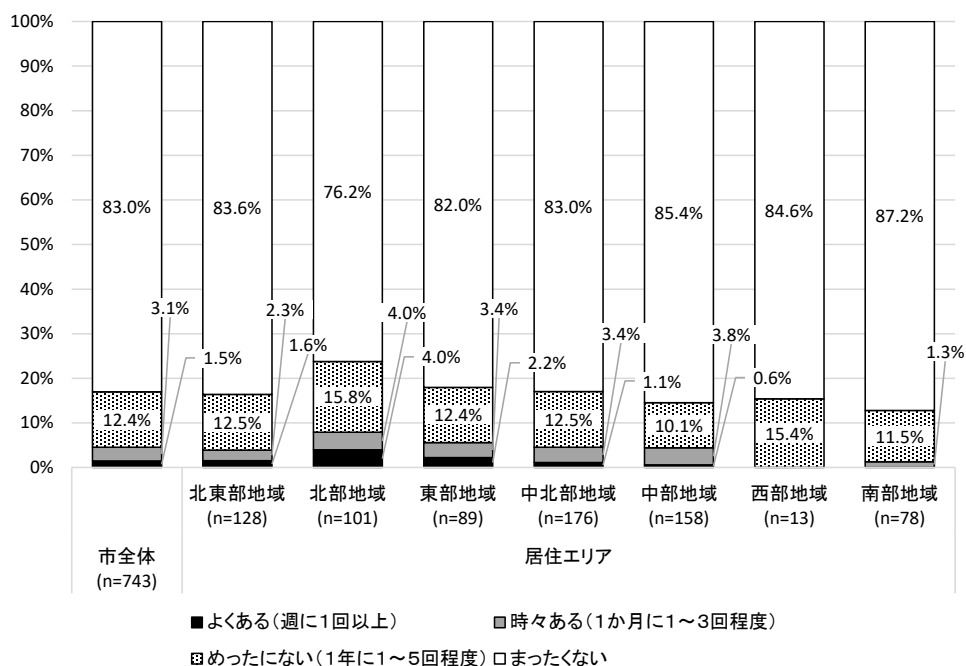


「屋外で体操する」について「よくある」と答える人は全体的に少ないが、その中でも東部地域においては比較的「よくある」と回答する人の割合が多い（図表 71）。「プールで泳ぐ」についても「よくある」と答える人は全体に少ないが、北部地域では頻度が高いと答える回答が比較的多いようである（図表 72）。次ページの「サイクリングをする」については「よくある」と答える人の割合が、北部地域・中北部地域・南部地域で比較的多く、市全体の平均を上回っている（図表 73）。

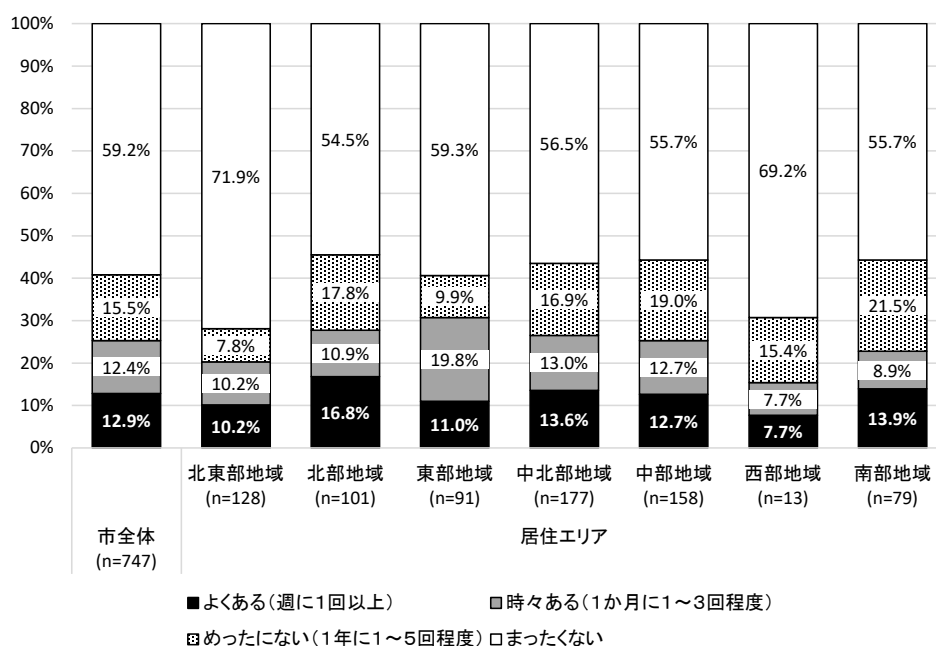
図表 71 屋外で体操する



図表 72 プールで泳ぐ



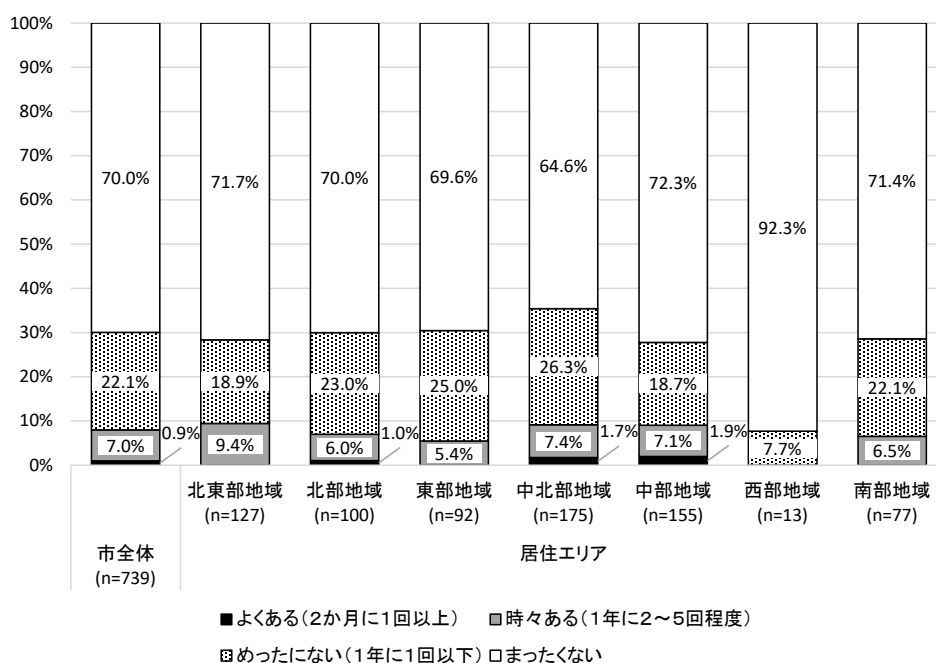
図表 73 サイクリングをする



### 3-3-4. 「音楽」について

次に、南部地域の地域資源の一つである「音楽」について尋ねた。南部地域には大阪音楽大学があり、庄内駅前にもライブハウスなどが立地している。この点から音楽の経験についても調査することとした。「コンサートなどによるクラシック音楽鑑賞」について「よくある」と答える人の割合は全体に少ないが「時々ある」を含めると北東部地域・中北部地域・中部地域が相対的に多い（図表 74）。

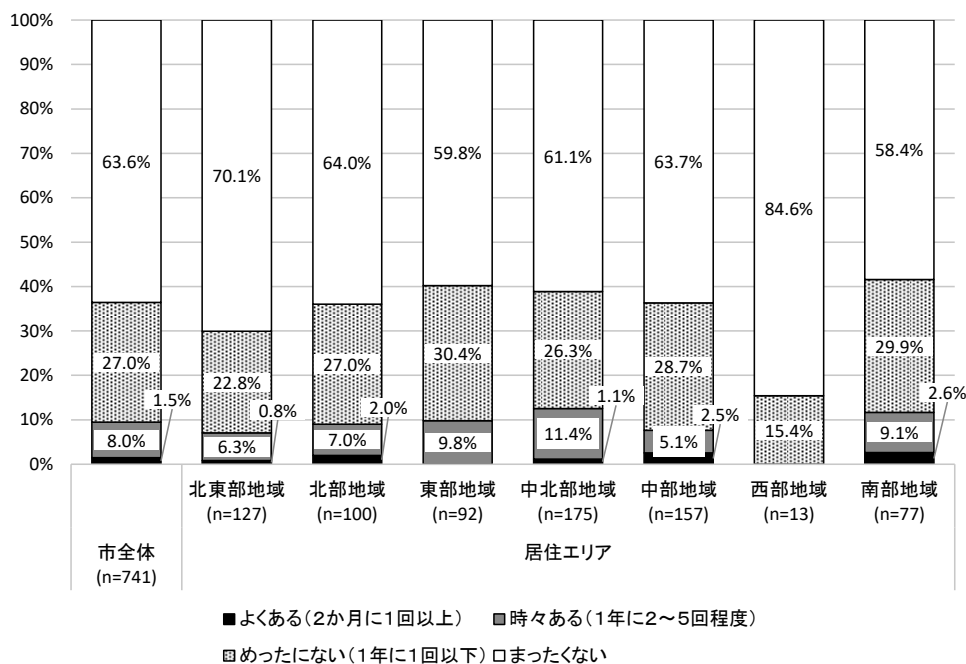
図表 74 コンサートなどによるクラシック音楽鑑賞



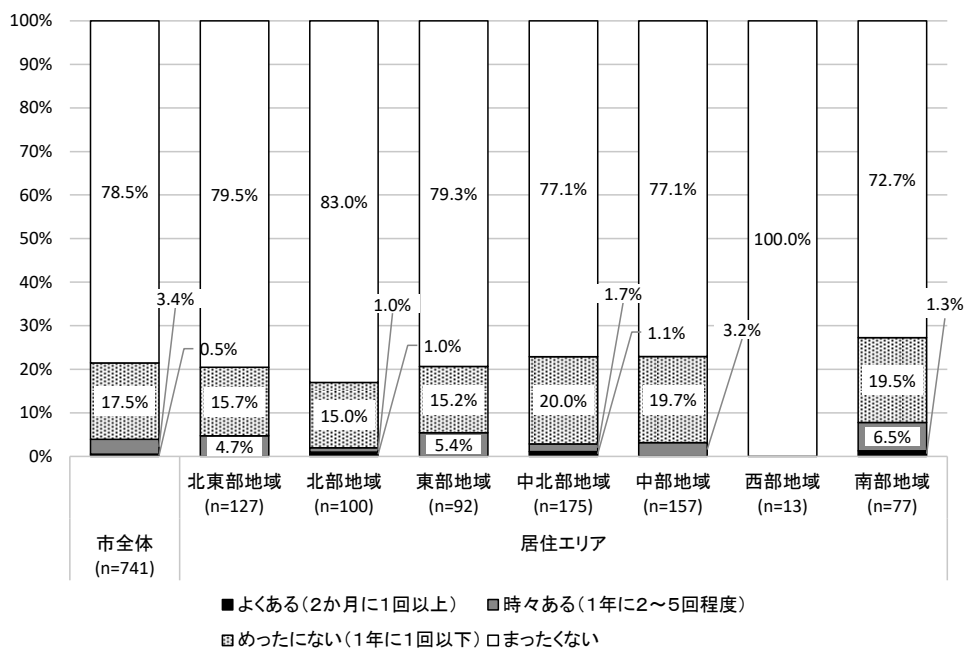


「コンサートなどによるクラシック以外の音楽鑑賞」について「よくある」と答える人の割合は全体的に少ないが、「時々ある」と合わせた場合、南部地域では相対的に多い割合となる（図表 75）。「街角での音楽イベント参加」については「よくある」「時々ある」を合わせると南部地域が最も多い割合となる（図表 76）。

図表 75 コンサートなどによるクラシック以外の音楽鑑賞

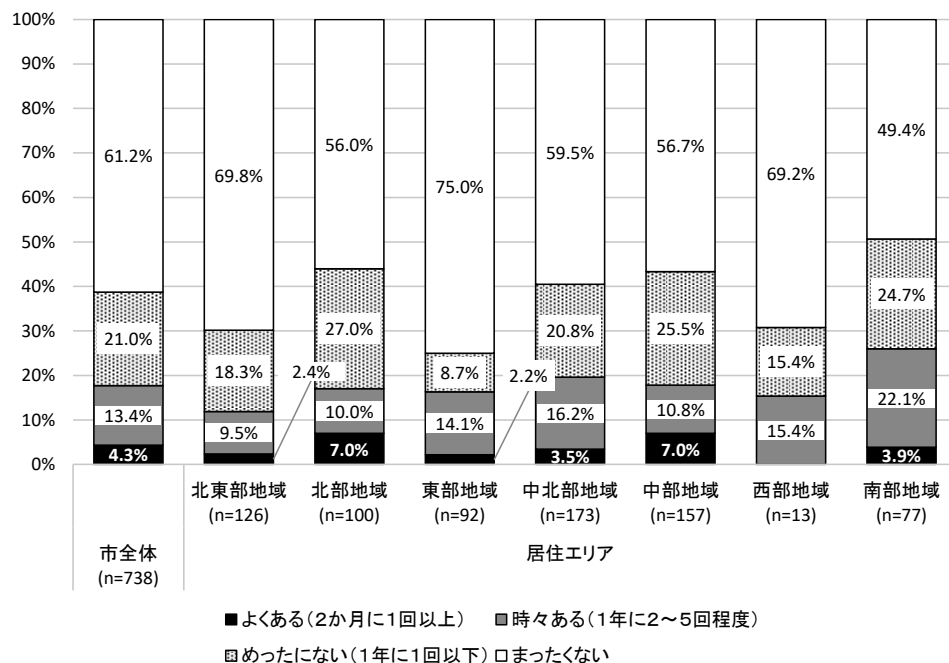


図表 76 街角での音楽イベント参加

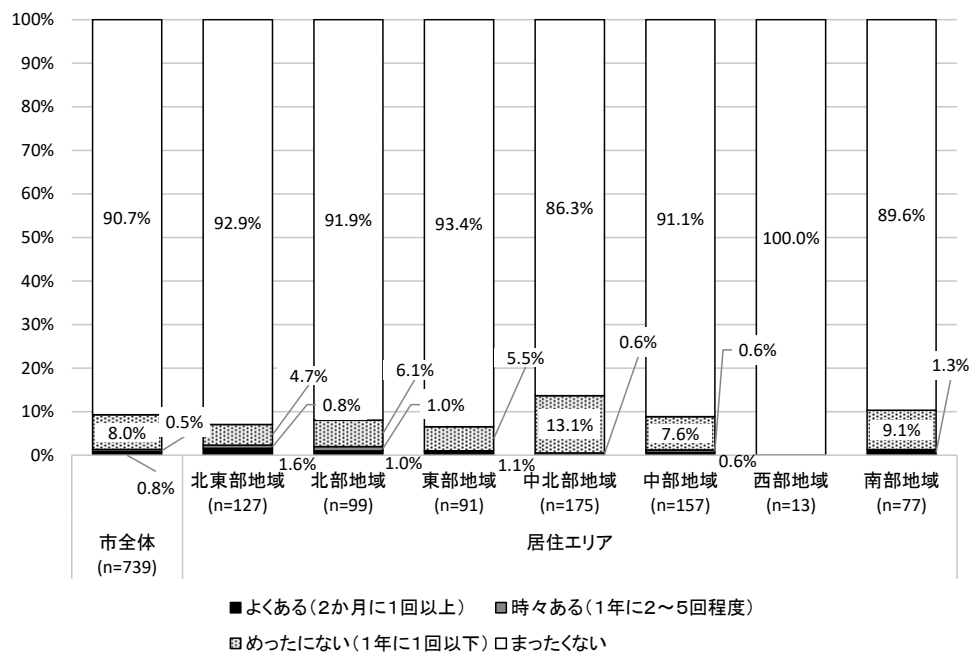


「カラオケ」について「よくある」と答える人の割合は、北部地域と中部地域で相対的に多いが、「時々ある」と合計すると、南部地域での割合が高い（図表 77）。「コーラス・声楽」については「よくある」「時々ある」と答える人の割合が、全体的に少ない（図表 78）。

図表 77 カラオケ

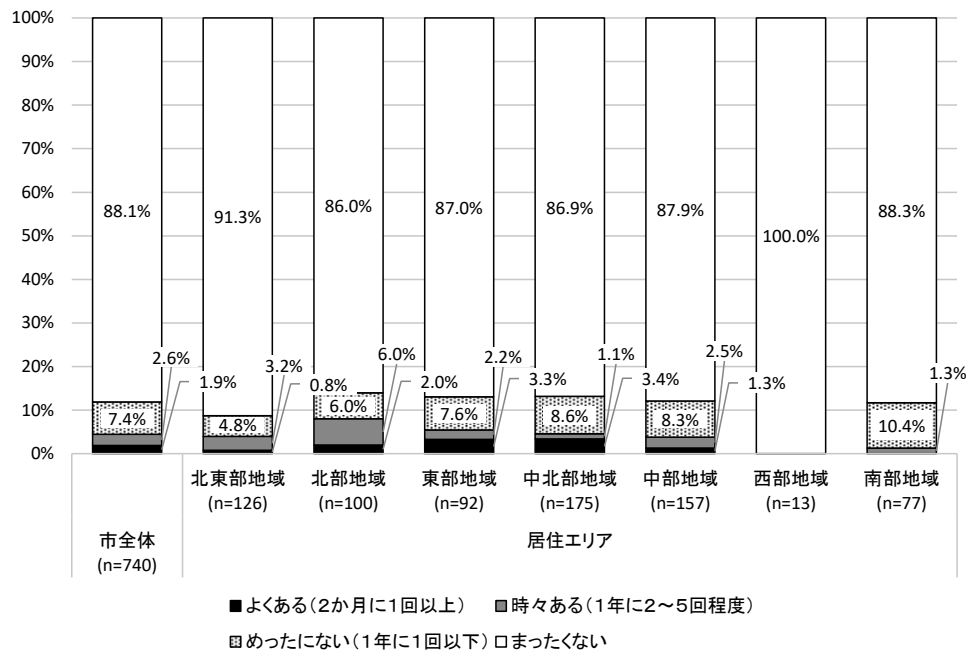


図表 78 コーラス・声楽

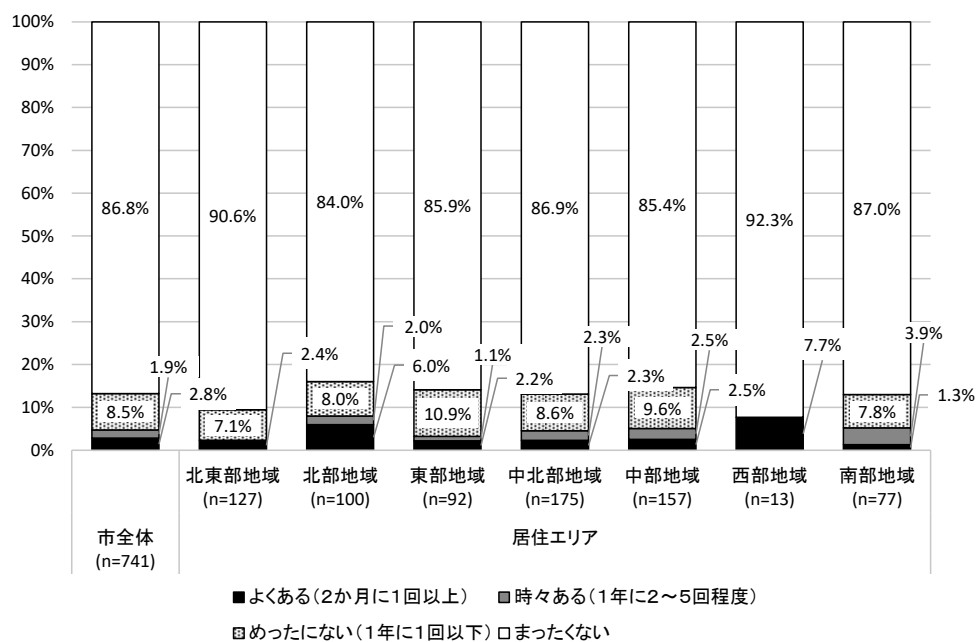


「楽器演奏」をする頻度について尋ねたところ、クラシック音楽について「よくある」と答える人の割合は全体的に少ない（図表 79）。クラシック音楽以外の場合については、クラシック音楽に比べると多いが、「よくある」「時々ある」を足し合わせた場合も、どの地域でも 10%以下である（図表 80）。次ページにグラフを掲載した「邦楽（民謡、日本古来の民謡等）」を演奏する頻度も全体的に少ない（図表 81）。

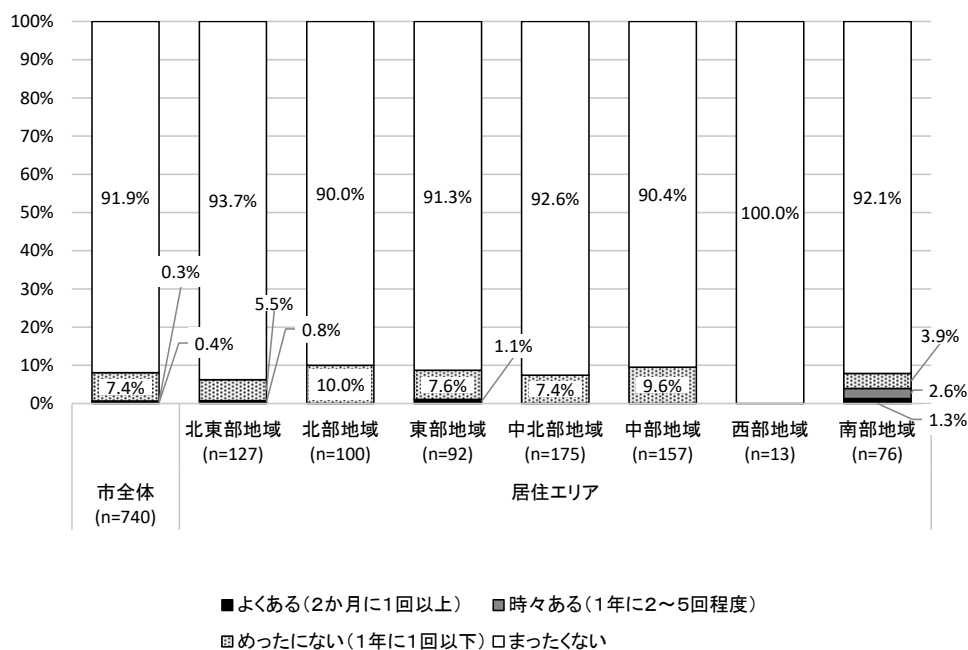
図表 79 楽器演奏（クラシック音楽）



図表 80 楽器演奏（クラシック音楽以外）



図表 81 邦楽（民謡、日本古来の音楽等）



### 3-4. 社会関係について

#### 3-4-1. 信頼

続いて、社会関係に関する質問の回答を取り上げる。ここでは主に「人のつながり」や「人との関わり」について尋ねた。先に地域環境評価のところでも示したように、南部地域では「住民同士のつながりがある地域である」という回答が市の平均を上回っている（図表 53）。このような人とのつながりの強さをより詳しく見ることによって地域の特徴をさらに明確に把握できるのではないだろうか。

次ページ以降に掲載した図表 82～図表 84 は、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）、簡単に言えば「人とのつながり」を示す指標としての「信頼」に関するものである<sup>15</sup>。パットナム（1993）によって述べられているように、ソーシャル・キャピタルは人びとの自発的な協力を促進するものであり、社会の効率性を改善するものである（Patnam1993=2001：206-207）。例えば、人と何かを協力して行おうというとき、私たちには人を信頼して任せるか、細かなルールを設定して裏切られるリスクをコントロールするかという選択がある。人を信頼すれば相手に裏切られてしまうというリスクはあるが、互いに信頼し合うことができれば、ルールにのみ頼るよりもより効率的に成果を出すことができる。一般的には、他者と互いに信頼し合う関係が築けるような社会は、人のつながりの力の大きい社会すなわちソーシャル・キャピタルが充実した社会といえる。

ただし、このようなソーシャル・キャピタルにも 2 つの側面があると言われる。一つは異質な者同士を結びつけるブリッジング（橋渡し）型のソーシャル・キャピタルであり、もう一つは同質な者同士が結びつくボンディング（結束型）のソーシャル・キャピタルである。稲葉陽二によれば、様々な経歴

<sup>15</sup> なお、パットナムはソーシャル・キャピタルを「信頼、規範（互酬性）、ネットワーク（市民参加）」の 3 要素として規定しているが、ここではソーシャル・キャピタルに関する社会調査で広く用いられている信頼についてのみ取り上げる。また、ソーシャル・キャピタルおよび信頼についてはパットナム（1993）、山岸（1999）、稲葉（2011）に詳しく述べられている。

の人々が集まる NPO などはブリッジングのものであり、大学の同窓会や地縁組織などはボンディングなものであるという（稲葉 2011:31）。ブリッジング型のソーシャル・キャピタルは、「しがらみ」が少なく外部への情報伝播などにおいても優れているが、メンバー間の協調性を欠くことがあり、他方ボンディング型のそれはメンバー間の結束を強化する一方で「しがらみ」の弊害があるという（稲葉 2011:167-169）。

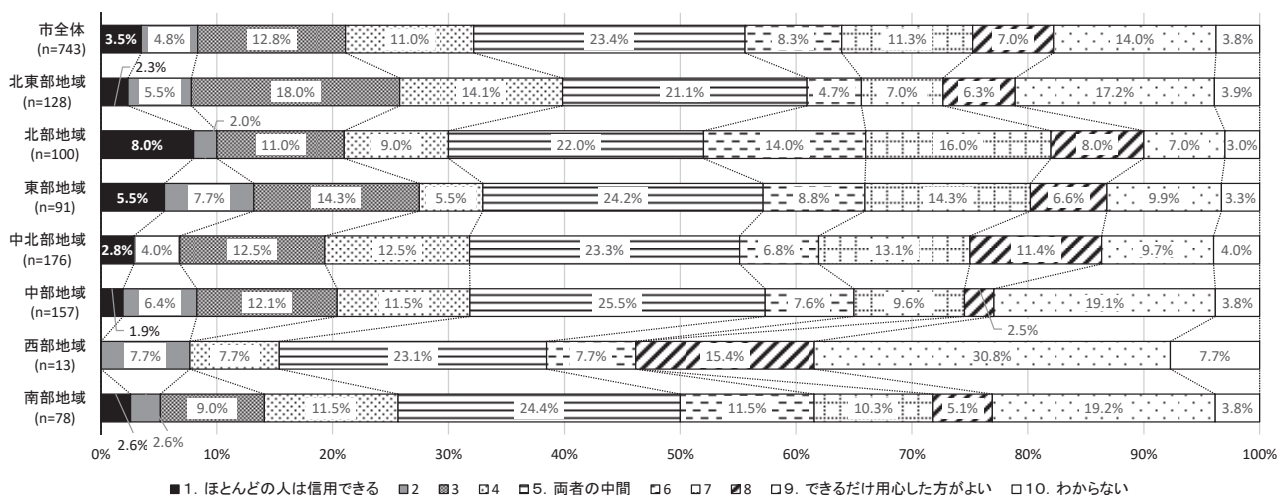
それでは以上を踏まえて調査結果に戻ることとする。図表 82 は「あなたは、一般的に人（家族、仲のよい友人や同僚など、身近な人をのぞく）は信用できると思いますか。それとも、人と付き合うときには、できるだけ用心したほうがよいと思いますか」という設問に対し、「1. ほとんどの人は信用できる」から「9. できるだけ用心したほうがよい」までの中であてはまるレベルの数値を選んだ回答の結果である。これは「一般的信頼」と呼ばれるもので、社会全般への信頼度を示し、対象となる集団やコミュニティでのソーシャル・キャピタルの広がり示すものと考えられる。

南部地域における一般的信頼の程度は、レベル 1「ほとんどの人は信用できる」からレベル 5「両者の中間」を選択した人までの範囲を見てみると、市全体よりも少ない割合となっている。

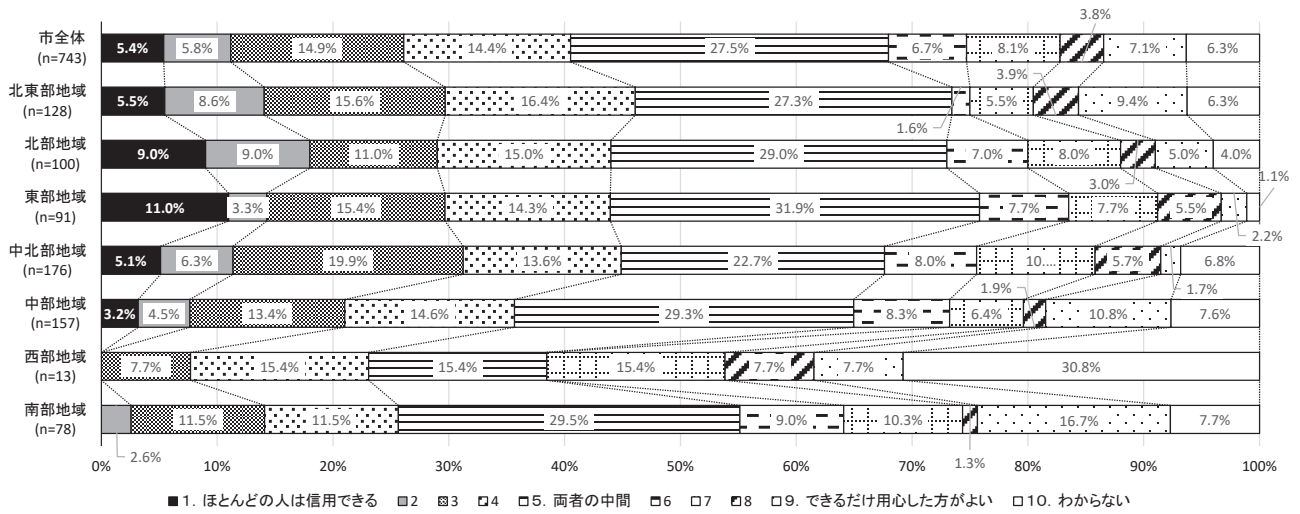
続いて次ページの図表 83 は「近くに住んでいる人」に対する信頼度を同様の方法で回答してもらったものである。一般的信頼に比べ「近くに住んでいる人」への信頼度は、地域を問わず全体的に大きくなる。レベル 1 からレベル 5「両者の中間」までの範囲が一般的信頼に比べ広がっていることがグラフからも確認できる。南部地域についても全体の傾向と同じく一般的信頼に比べて割合は大きくなるが、地域別に比較すると他の地域の多くや市全体よりも少ない割合となっている。

図表 83 は「旅先・見知らぬ土地」で出会う人への信頼度を、やはり同様の方法で答えてもらったものであり、一般的信頼以上に「関わりのない人」が想定されていると言える。回答結果を見ると全体に信頼度は一般的信頼より低くなっており、南部地域の回答を見てもレベル 5 までの範囲は、一般的信頼、近くに住んでいる人への信頼と同様、市全体や他地域の多くよりも少なくなっている。

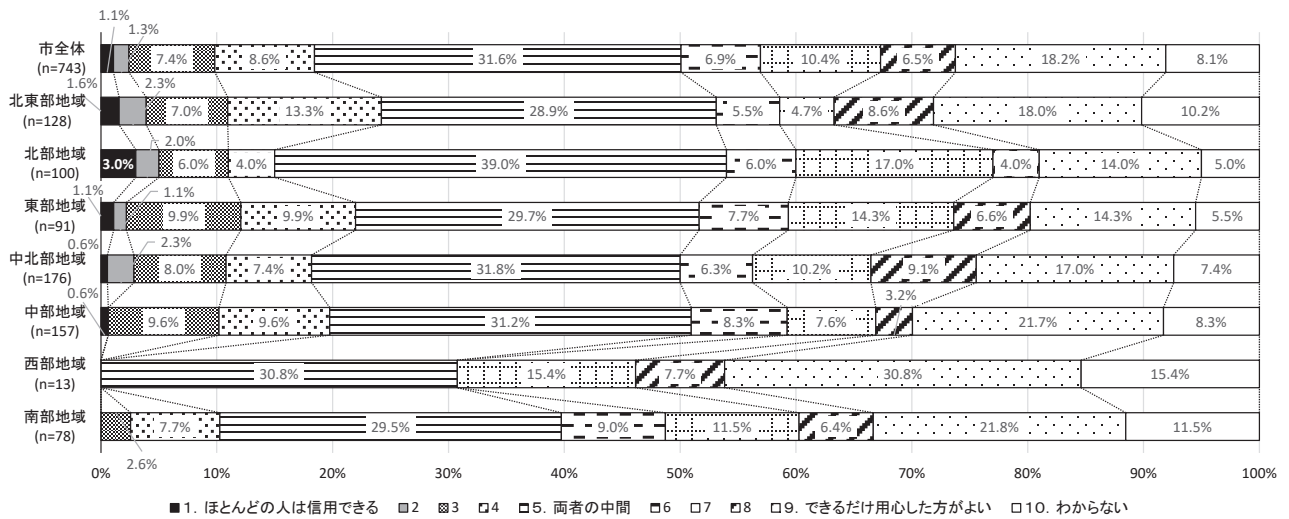
図表 82 信頼（人一般）



図表 83 信頼（近くに住んでいる人）



図表 84 信頼（旅先・見知らぬ土地）



以上の結果を見ると、一般的信頼およびそのバリエーションとしての「近くに住む人」「旅先・見知らぬ土地で会う人」への信頼は、南部地域においては他地域よりも度合いが低い。この要因としては推論ではあるが、例えば単身での転出入が多いことでコミュニティでの活動に参加する機会が少ないことなどが考えられる。

しかしながら、一般的信頼によってソーシャル・キャピタルのすべてが測定できるわけではなく、ここに挙げた結果はソーシャル・キャピタルの一側面を表していると考えた方が良い。例えば、次の設問での回答にあるように町内会、自治会への加入経験は南部地域が多い。このあたりをどのように考えるかであるが、南部地域においてソーシャル・キャピタルが必ずしも少ないというわけではなく、人がある特定の組織・集団に関わった場合は、それらへの信頼が高まるということも考えられる<sup>16</sup>。南部地域

<sup>16</sup> このような特定の人や組織に対する信頼を特定化信頼と呼ぶ（稲葉 2011：38）。

においては、既存のソーシャル・キャピタルをどのような形で地域の活性化につなげていくのかという点に着目することがここでの課題として挙げられる<sup>17</sup>。

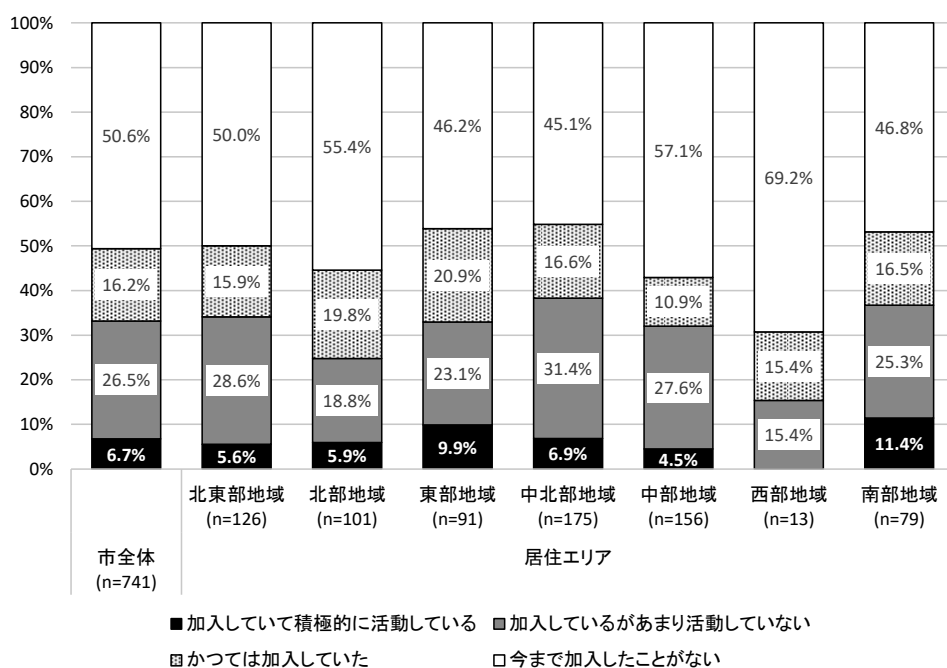
### 3-4-2. 団体への所属

先にも述べたように、ソーシャル・キャピタルを把握するにあたって信頼による測定は広く用いられているが、以下の「団体への所属」も広く用いられているものである。次に示した図表 85 は町内会・自治会への所属を尋ねたものである。加入経験と参加度を合わせた設問となっているが、加入経験の有無だけを取り上げてみれば、南部地域は市全体を上回る割合であるし、「加入して積極的に活動している」という回答も市内で最も高い割合である。

次ページの図表 86 は学校の PTA 等、学校関係の団体・組織への所属を尋ねた設問の結果である。加入経験のみをとって見ると、南部地域は市全体を少し下回っているが、「加入して積極的に活動している」と回答した人の割合は、市全体を上回り、比較的多い地域となっている。

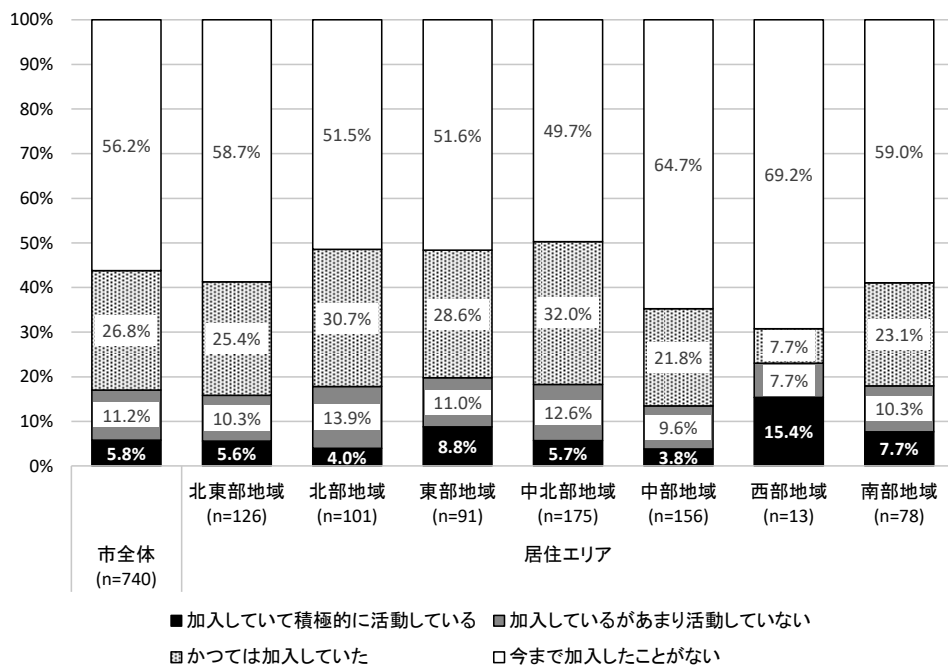
また続く図表 87 は子育てのサークルへの所属である。加入経験があるとの回答が全体的に少ないが、南部地域の回答状況を見ても、他地域とあまり大きな違いはないといえる。

図表 85 町内会・自治会等

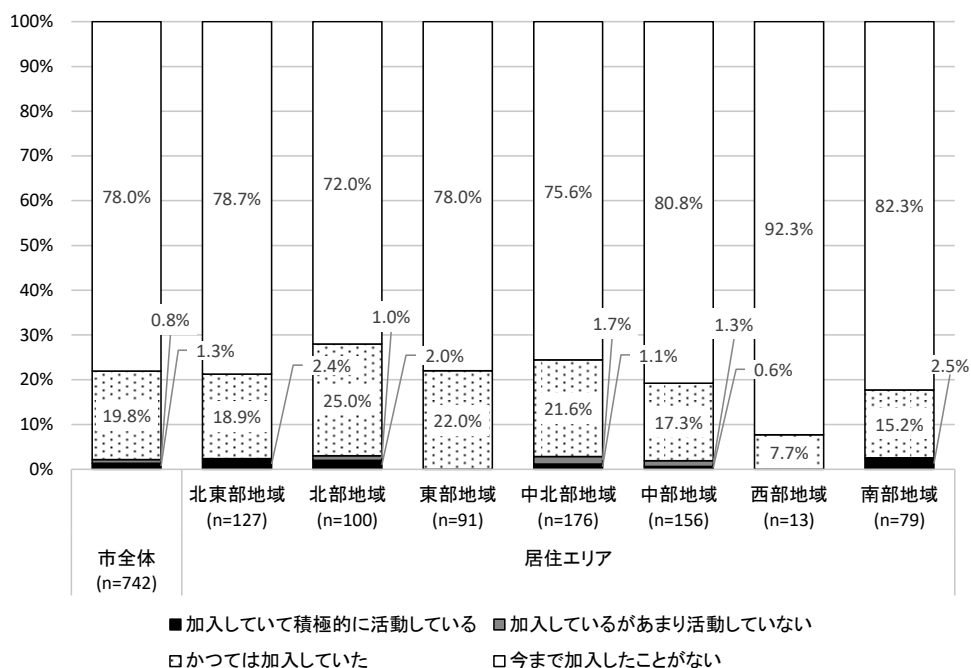


<sup>17</sup> この点については第 5 章「おわりに」で再度取り上げる。

図表 86 学校の PTA 等、学校関係の団体・組織



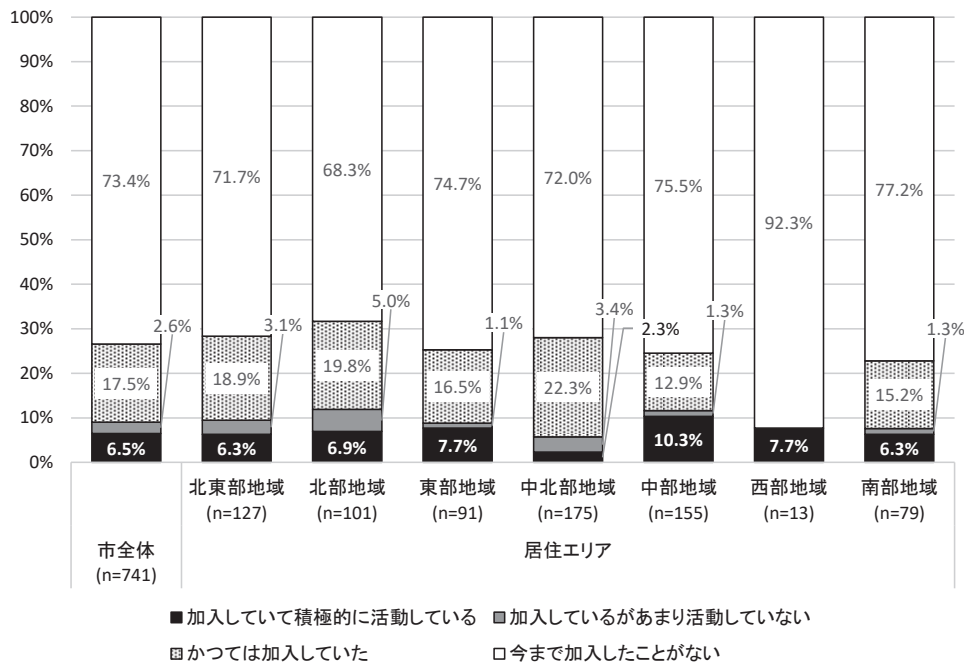
図表 87 子育てのサークル



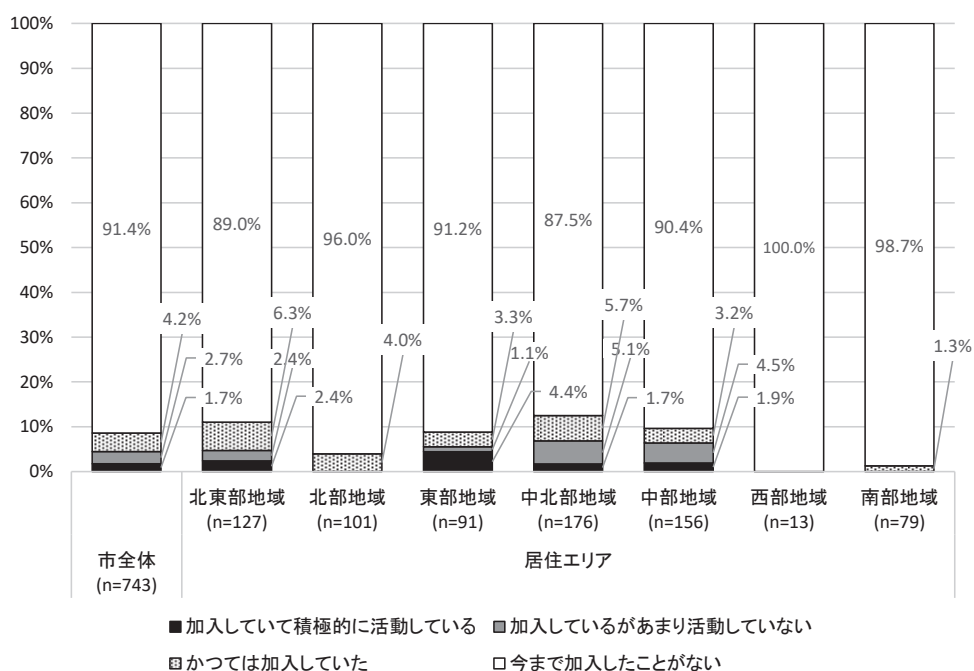


引き続き団体所属の状況を見ていく。趣味のサークル（図表 88）については、参加経験や積極的参加で市全体をやや下回るものの、市全体に近い割合である。業界団体・同業者団体（図表 89）については、南部地域での加入経験を示す回答は少数であった。また次ページのボランティア・NPO 等の市民活動団体やサークル（図表 90）については、全体的に加入経験を占める回答が少ない。南部地域は市全体に比べ現在の加入状況に大きな違いはないが、かつての加入経験は市全体よりも少ない。

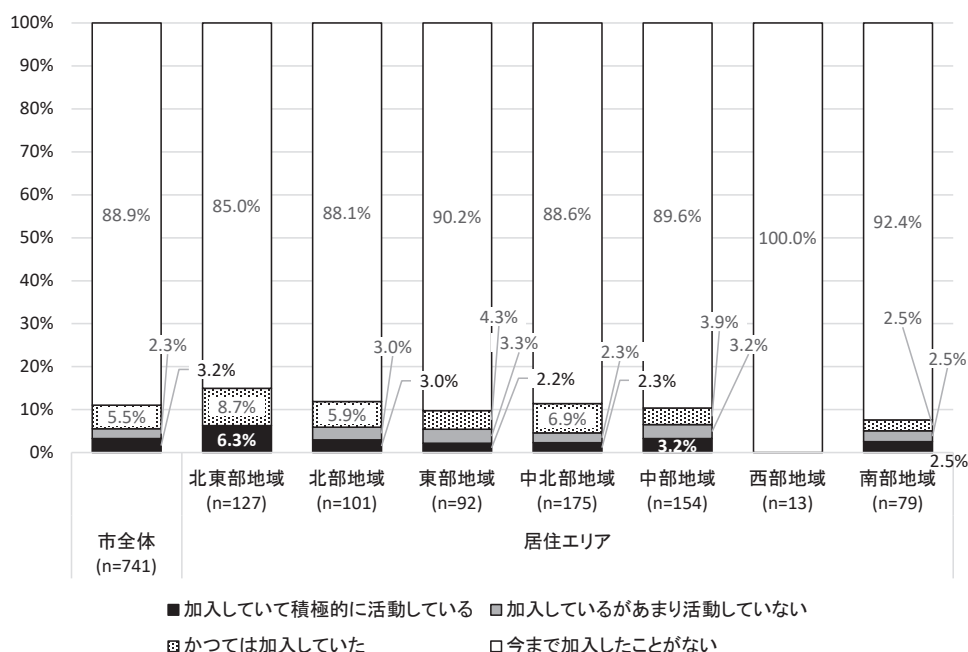
図表 88 趣味のサークル



図表 89 業界団体・同業者団体



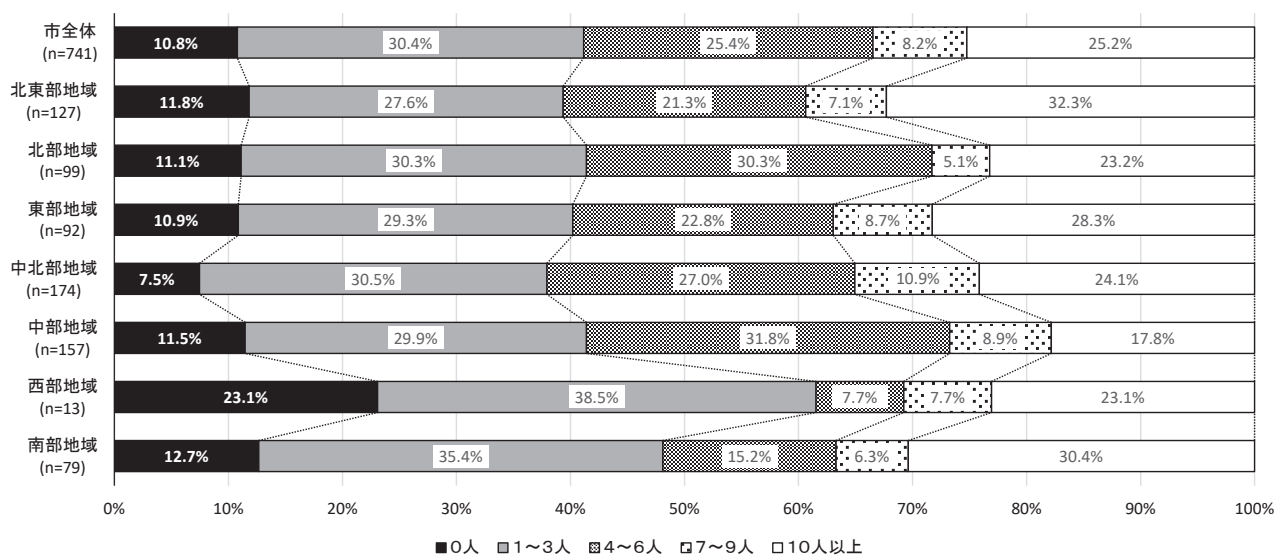
図表 90 ボランティア・NPO等の市民活動団体やサークル



### 3-4-3. 交友関係

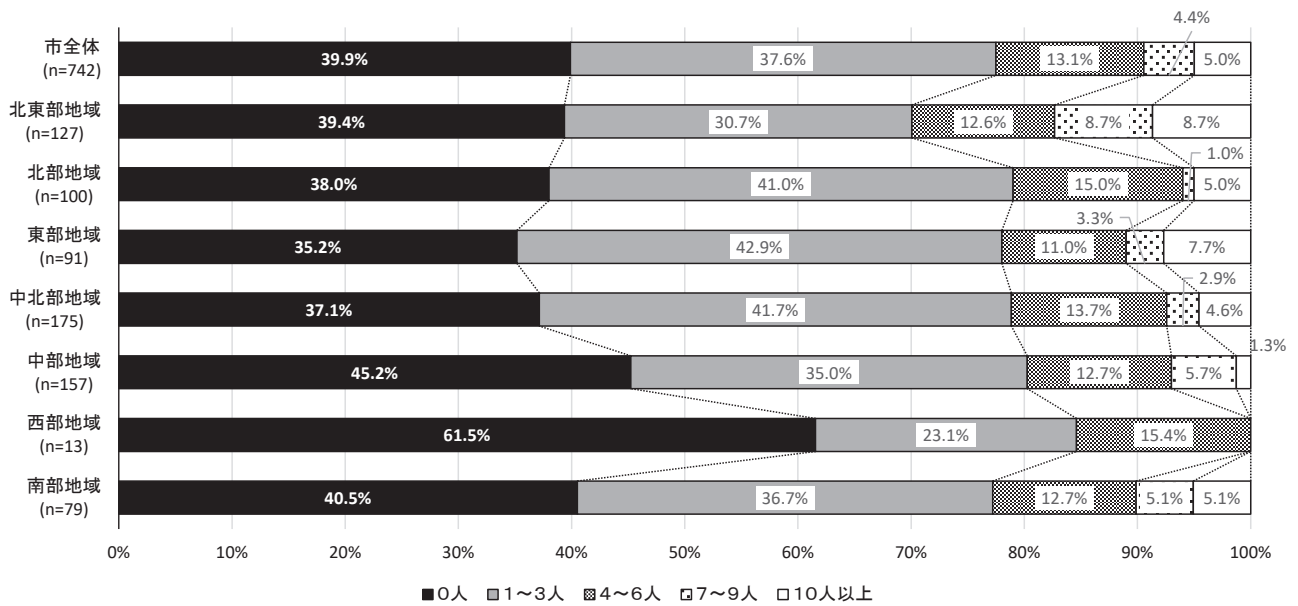
続いて、今度は交友関係から社会関係を見ていく。図表 91 は「道で会えばあいさつを交わすだけの人」の数について尋ねたものであり、日常の人付き合いの程度を示すものである。この人数が 7 人以上の割合をとって見ると、南部地域は市全体を上回り、相対的に多い割合となる。あいさつする人が多くいる人の割合は、南部地域が比較して高い方だということになる。

図表 91 道で会えばあいさつを交わすだけの人

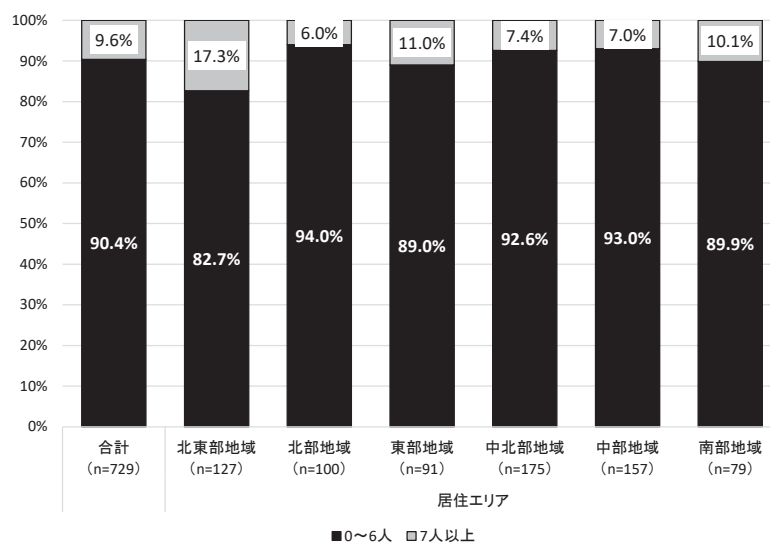


図表 92 は、「会えば、立ち話したくなる人」の人数を尋ねたものである。先に示した「あいさつを交わすだけの人」よりも深い交友関係である。7 人以上の割合をとって見ると、南部地域は市全体よりもわずかに高い割合となる。また、同じ回答を 7 人以上と 6 人以下に集約したのが図表 93 で、統計的にも有意な結果となっている<sup>18</sup>。

図表 92 会えば、立ち話したくなる人



図表 93 会えば、立ち話したくなる人 (集約)

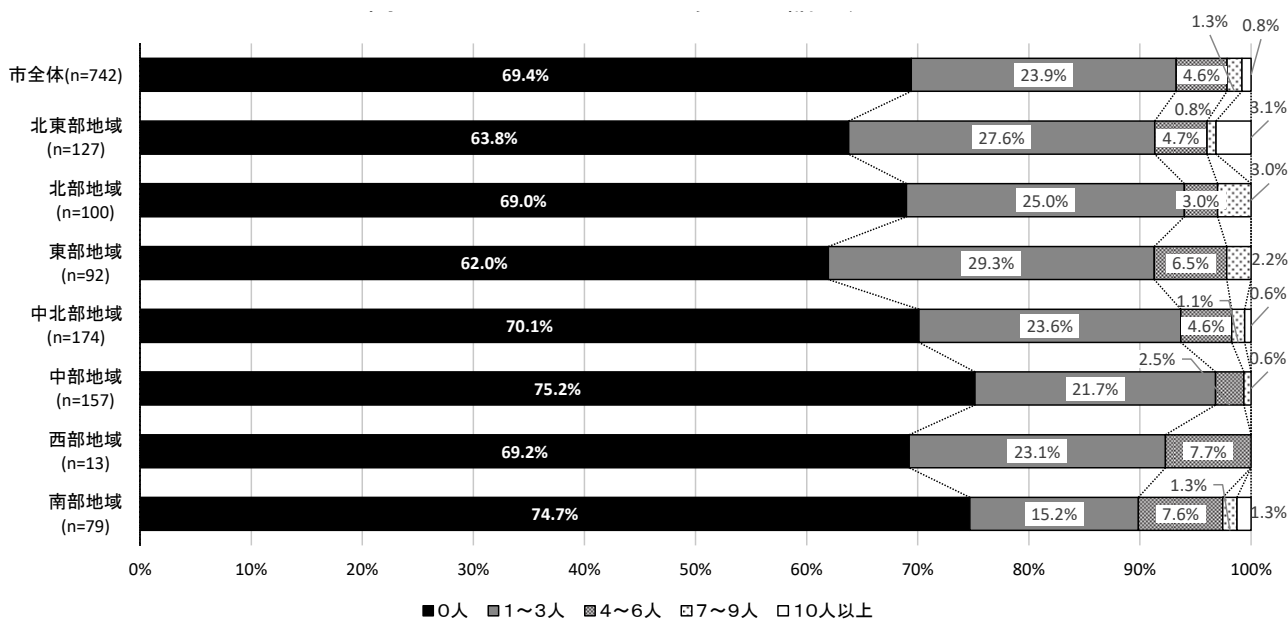


カイ 2 乗値 12.614 有意確率 0.027

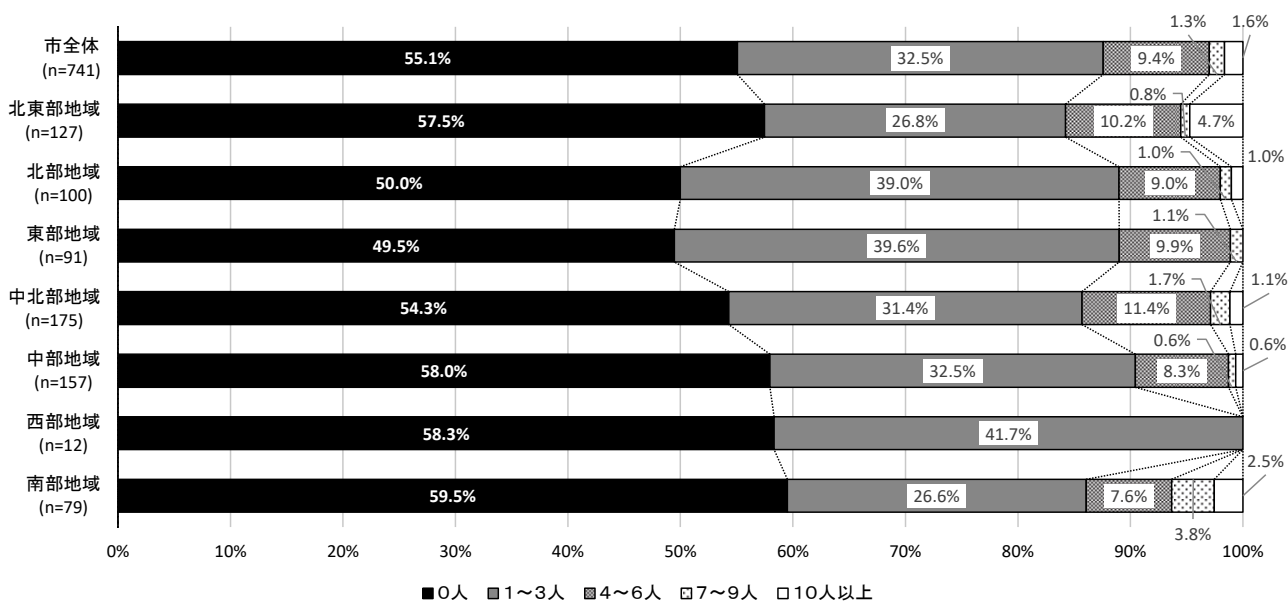
<sup>18</sup> 割合の数値は四捨五入しているため、単純集計と集約した集計の数値が合わない場合がある。

図表 94 は「お互いの家にあがって話をする人」の人数を尋ねたものであり、先の質問よりもさらに交友関係が深い人の数を示す。4人以上と答えた割合は南部地域が最も多いが、一方で0人と答える割合も南部地域が7地域中で2番目に多い。また図表 95 は「旅行に行ったときに、おみやげを買ってくる人」の人数であるが、これも同様の傾向を示しており南部地域は4人以上が比較的多い一方、0人の割合も最も多い。また次ページの図表 96 は「日常生活において、助け合ったり支援してくれたりする人」の数である。4人以上と答えた割合は市全体をやや下回り、0人と答えた割合は市全体よりも多い。

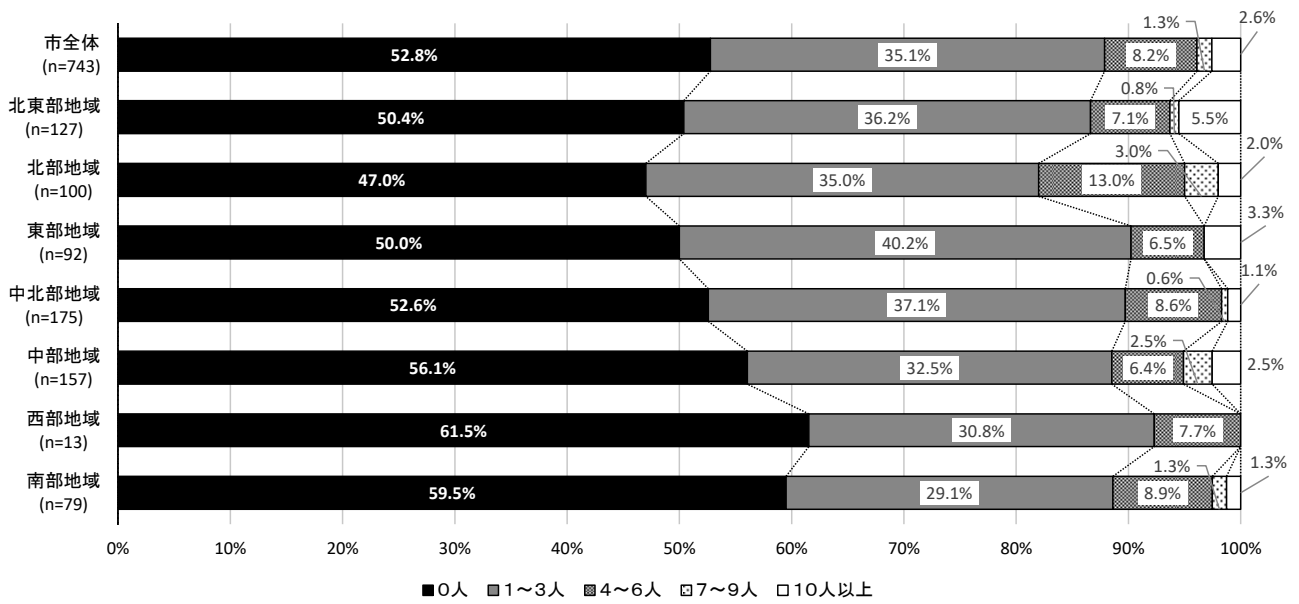
図表 94 お互いの家にあがって話をする人



図表 95 旅行に行ったときに、おみやげを買ってくる人



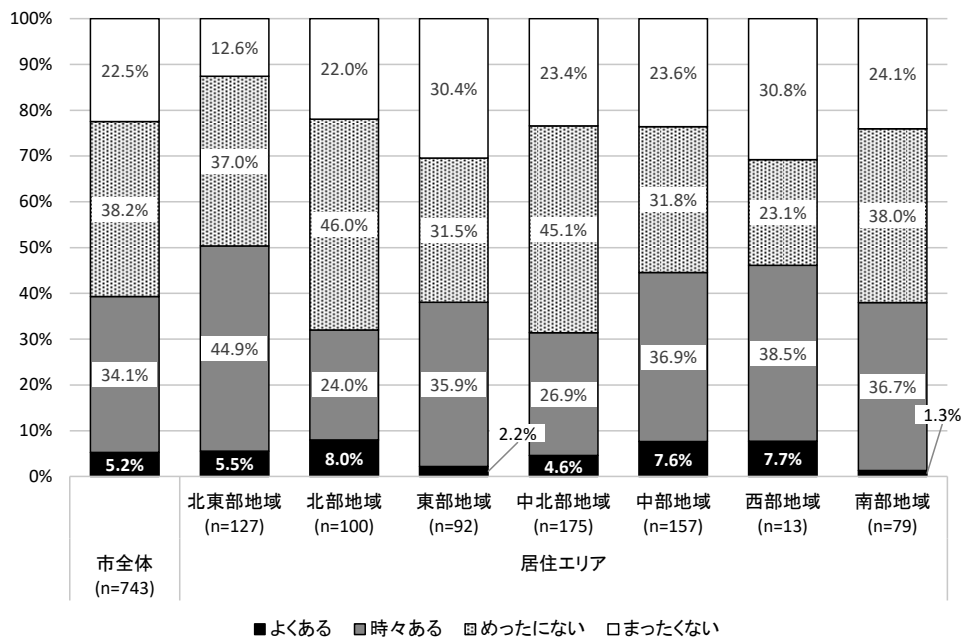
図表 96 日常生活において、助け合ったり支援してくれたりする人



### 3-4-4. 日常での社会関係

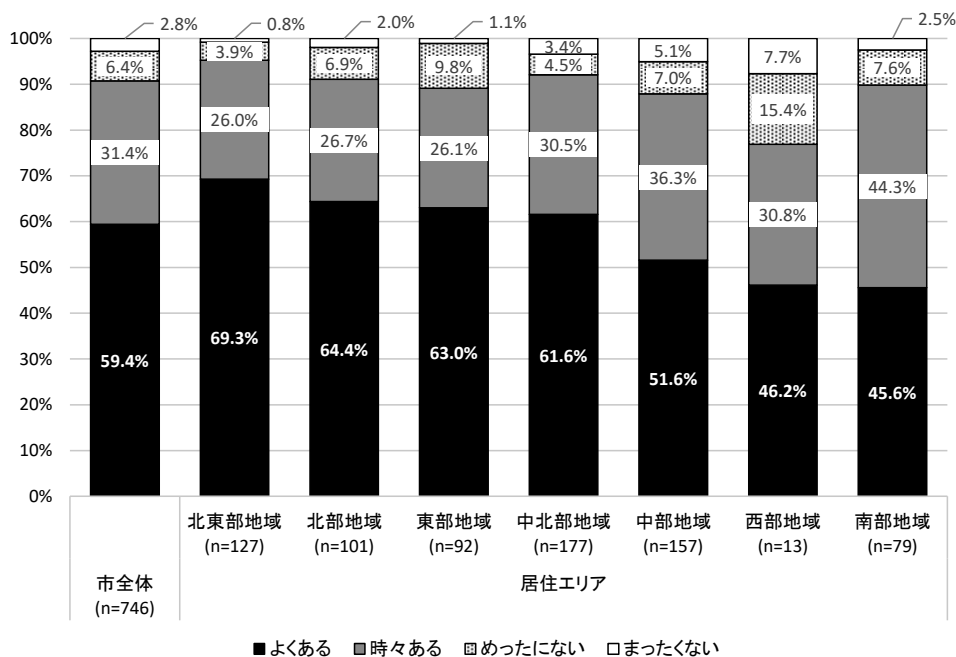
次に、地域における日常での社会関係についての回答を見ていく。これまで信頼、団体所属、交友関係については一般的な設問を行ってきたが、ここでは南部地域の特性も念頭に置いて日常の具体的な生活場面を想定して社会関係を見ていくこととしたい。図表 97 は「通行人に道を聞かれる」で、街頭などでのコミュニケーションの頻度を調べた。南部地域では「時々ある」が市全体より少し多く、「よくある」は最も少ない。商業地が多いか住宅地が多いかの違いなど、地域の特性の影響も考えられる。

図表 97 通行人に道を聞かれる

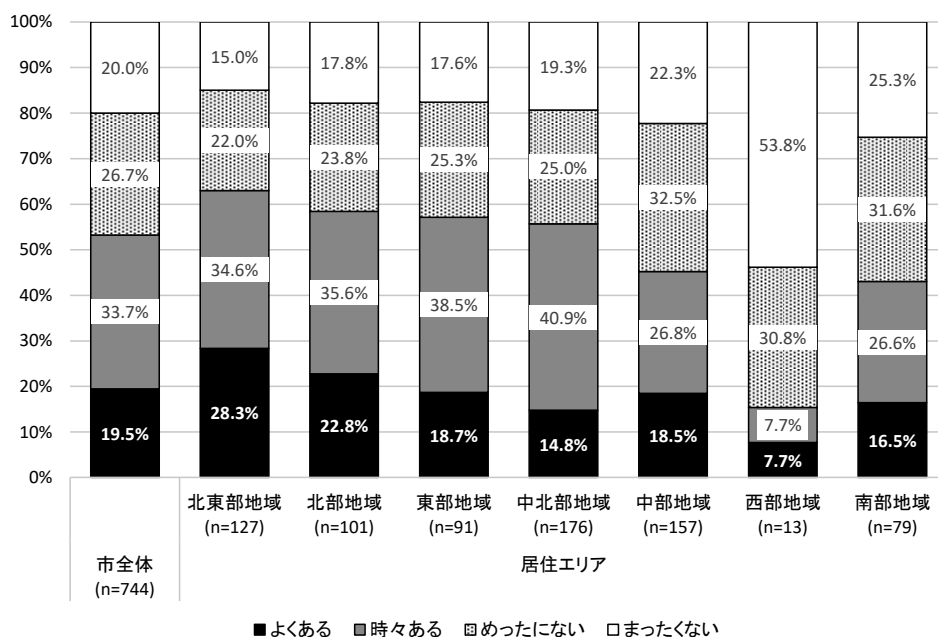


図表 98 は「子どもたちの遊ぶ声が聞こえる」で、日常に子どもたちの存在をどれほど認識するかということを探っている。南部地域の回答では「よくある」が7地域で最も少ない。図表 99 は子どもたちへのあいさつの頻度を尋ねたものである。南部地域で「よくある」と答えた人の割合は比較的少ない。人口に子どもが占める割合や、住民のライフスタイル（日中は地域外で仕事をしている）などの要因が関連していることも考えられる。

図表 98 子どもたちの遊ぶ声が聞こえる

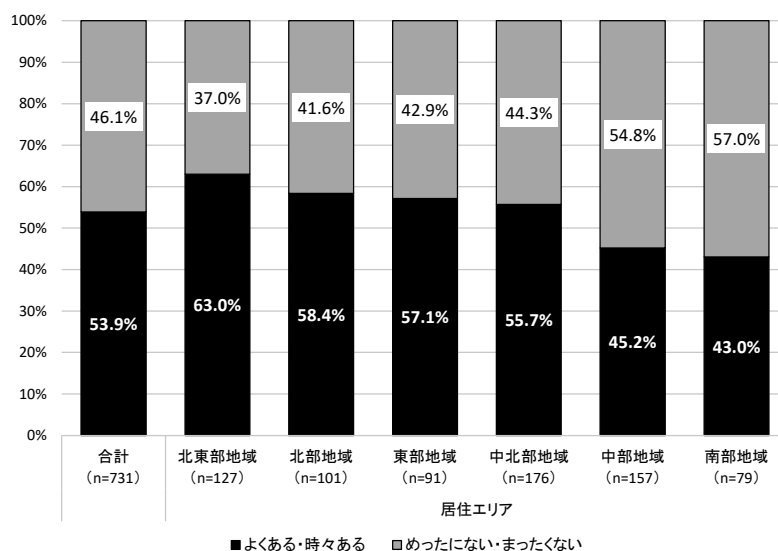


図表 99 近所の子どもたちにあいさつをする



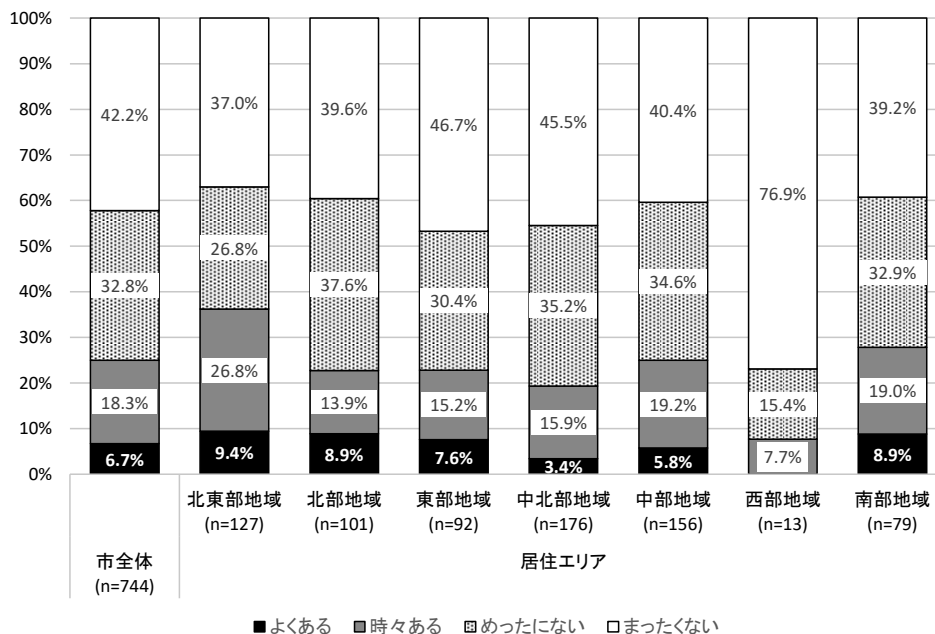
図表 100 は先に示した「近所の子どもたちにあいさつする」について「よくある・時々ある」「めったにない・まったくない」の2つに回答を集約したものである。統計的にも有意な結果となっている。図表 101 は「用がなくても商店街に行く」頻度を尋ねたもので、コミュニケーションや触れ合いの場としての商店街を念頭に置いた設問である。「よくある」と答えた人の割合は、南部地域と北東部地域、北部地域が比較的多い。

図表 100 近所の子どもたちにあいさつをする（集約）



カイ 2 乗値 14.172 有意確率 0.015

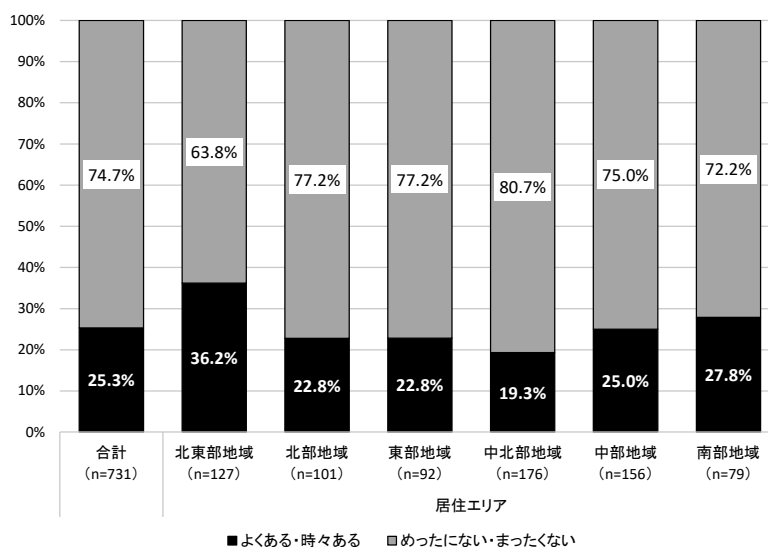
図表 101 用がなくても商店街に行く



図表 102 は先に示した「用がなくても商店街に行く」の回答を「よくある・時々ある」と「めったにない・まったくない」の2つに集約したものである。南部地域では「よくある・時々ある」と答える人が市全体を上回っている。

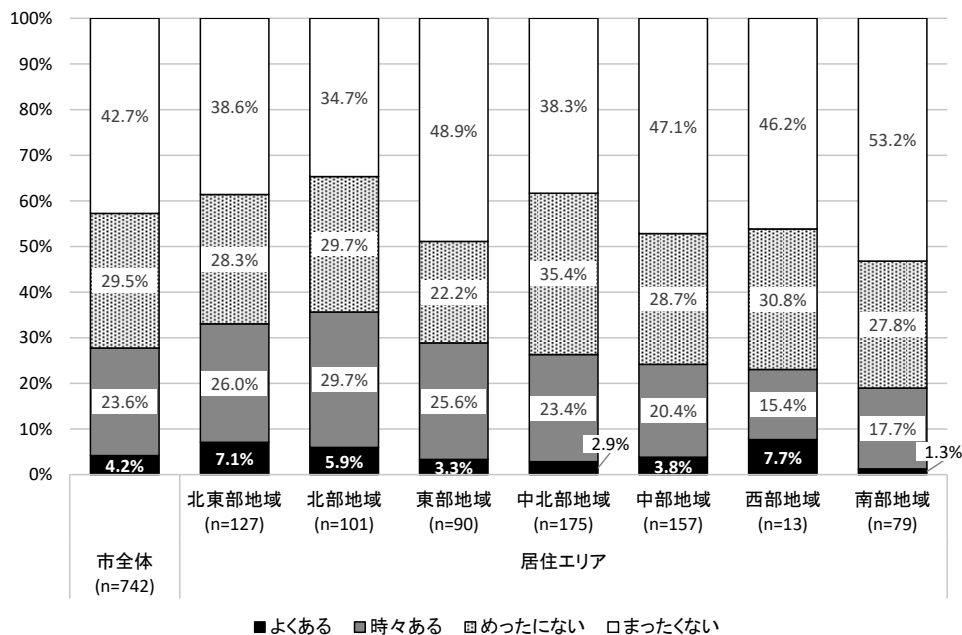
図表 103 は「喫茶店で友達とお茶をする」頻度を尋ねたものである。日常での人付き合いについて尋ねたものであるが、南部地域での回答は他地域に比べて少ない頻度となっている。

図表 102 用がなくても商店街に行く（集約）



カイ 2 乗値 12.262 有意確率 0.031

図表 103 喫茶店で友達とお茶をする

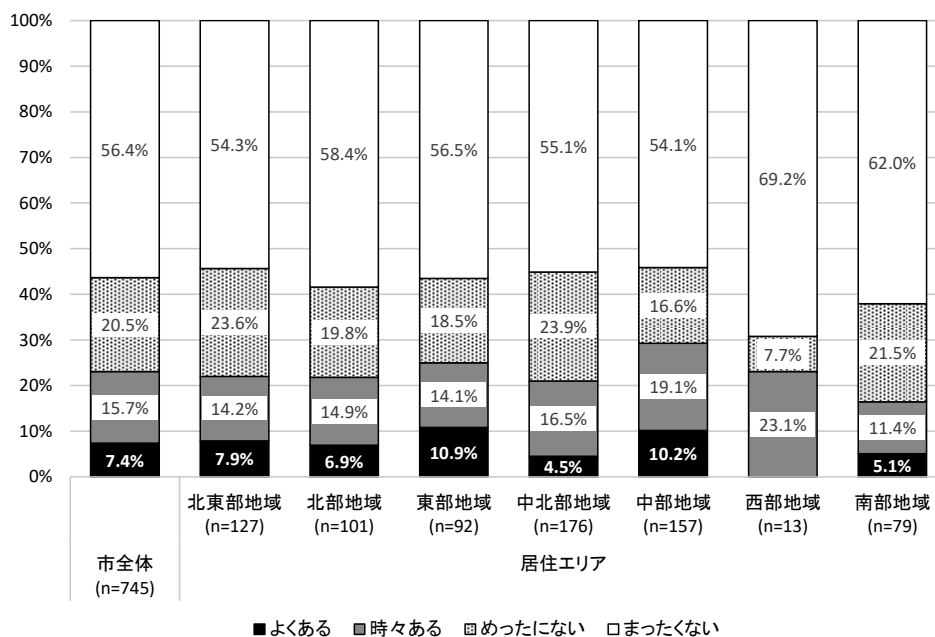




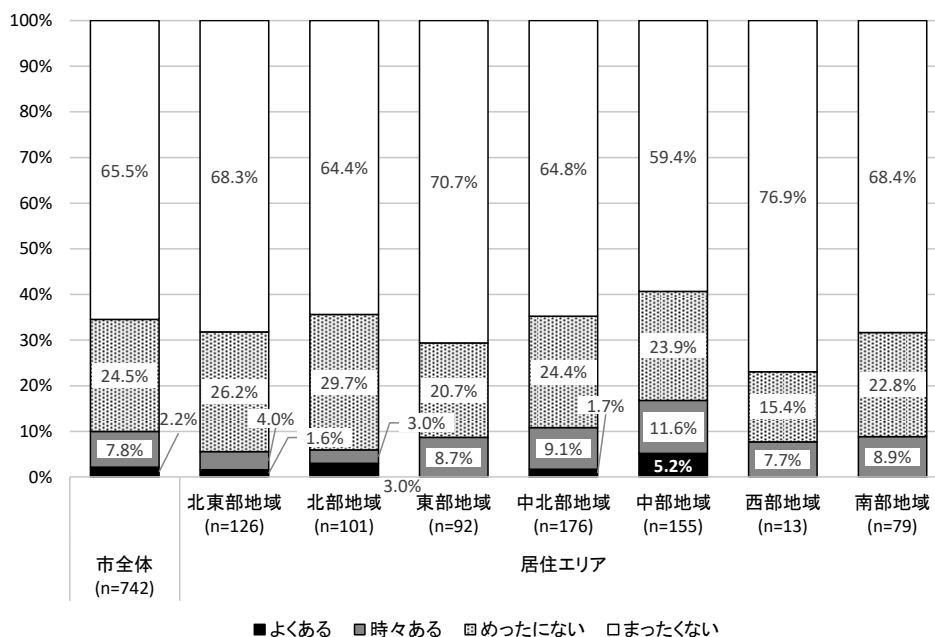
図表 104 は地域に「常連になっている飲食店」があるかどうかを尋ねた結果を示している。南部地域の回答では「よくある」「時々ある」という回答が他地域と比べて少ない割合となっている。

図表 105 は「飲食店で見知らぬ人と会話する」経験について尋ねた質問の回答結果である。コミュニケーションの垣根の低さを示す項目として設問に加えたが、中部地域の回答が高い頻度を示している。南部地域の回答では「よくある」という回答はないが、「時々ある」は比較的多い。

図表 104 常連になっている飲食店がある



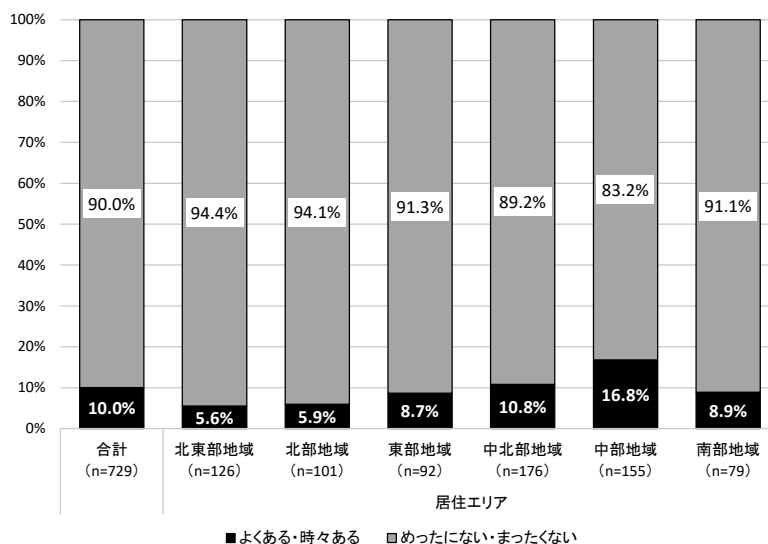
図表 105 飲食店で見知らぬ人と会話する



図表 106 は先に示した「飲食店で見知らぬ人と会話する」の回答を集約したものである。「よくある」「時々ある」の回答を合計した割合を見ると、南部地域は市全体よりもやや少なくなっている。

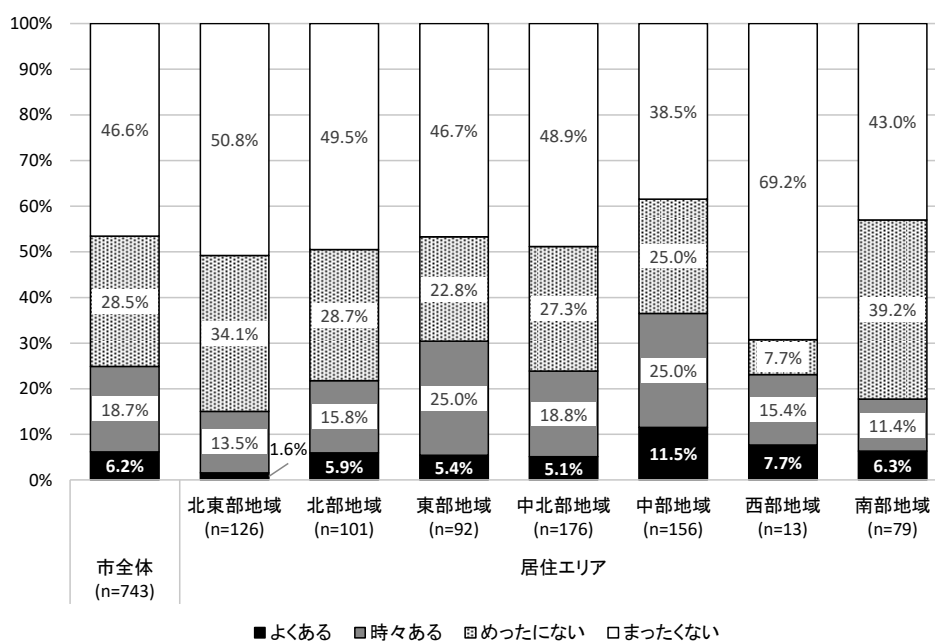
図表 107 は「お店の人と世間話をする」頻度を尋ねたものであり、商店等でのコミュニケーションに着目した設問である。中部地域で高頻度を示す回答が多いが、南部地域も「よくある」の回答では市全体を少し上回っている。

図表 106 飲食店で見知らぬ人と会話する（集約）



カイ 2 乗値 12.914 有意確率 0.024

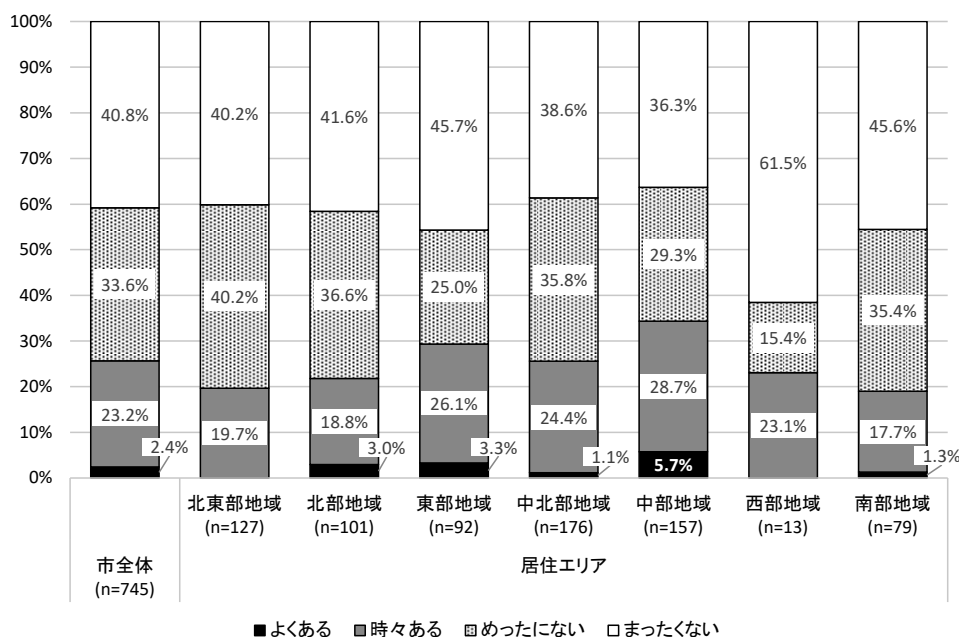
図表 107 お店の人と世間話をする



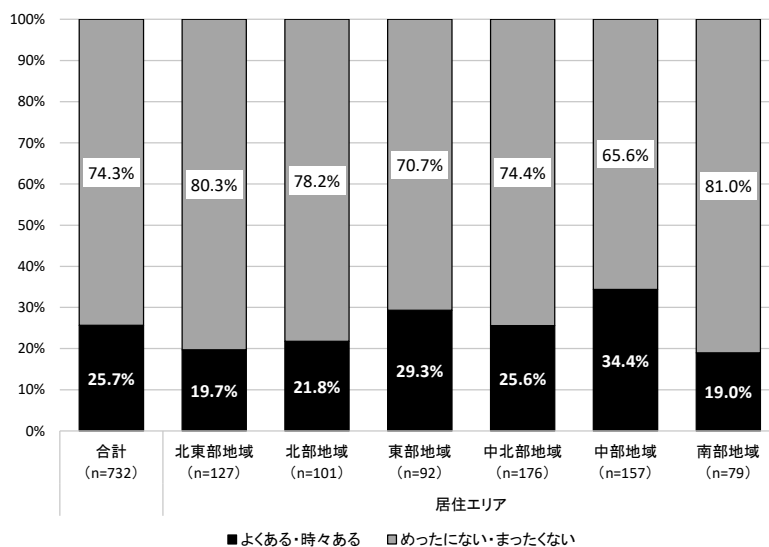
図表 108 は「お店の人や店内の様子にユーモアを感じる」で、「笑い」の要素と「下町」のイメージとの関連を見るため設問に組み入れた。中部地域での高頻度の回答が多く、南部地域は比較的低い頻度となっている。図表 109 は同じ設問の回答を高頻度と低頻度に集約したものである。集約した回答結果は西部を除く 6 地域のものであるが、南部地域の高頻度側の割合は最も低くなっている。

次ページの図表 110 は「買い物をしたらおまけしてもらえる」頻度を尋ねたものである。お店でのコミュニケーションの一つとして設問に加えた。南部地域は「よくある」の回答はないが、「時々ある」は 7 地域中で最も多い割合である。また中部地域が「よくある」「時々ある」を足した割合が最も多い。

図表 108 お店の人や店内の様子にユーモアを感じる

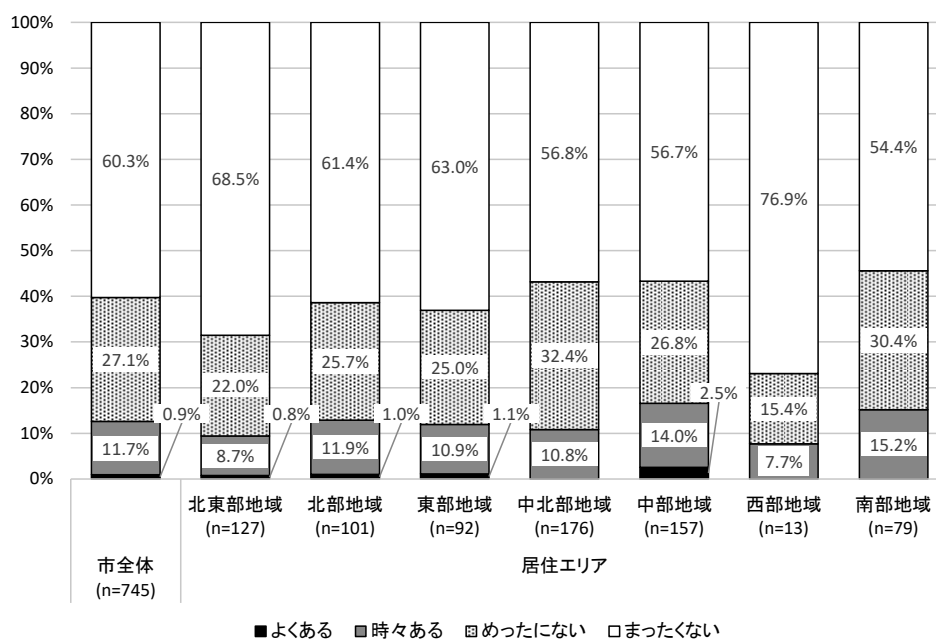


図表 109 お店の人や店内の様子にユーモアを感じる (集約)



カイ 2 乗値 11.946 有意確率 0.036

図表 110 買い物をしたらおまけしてもらえ

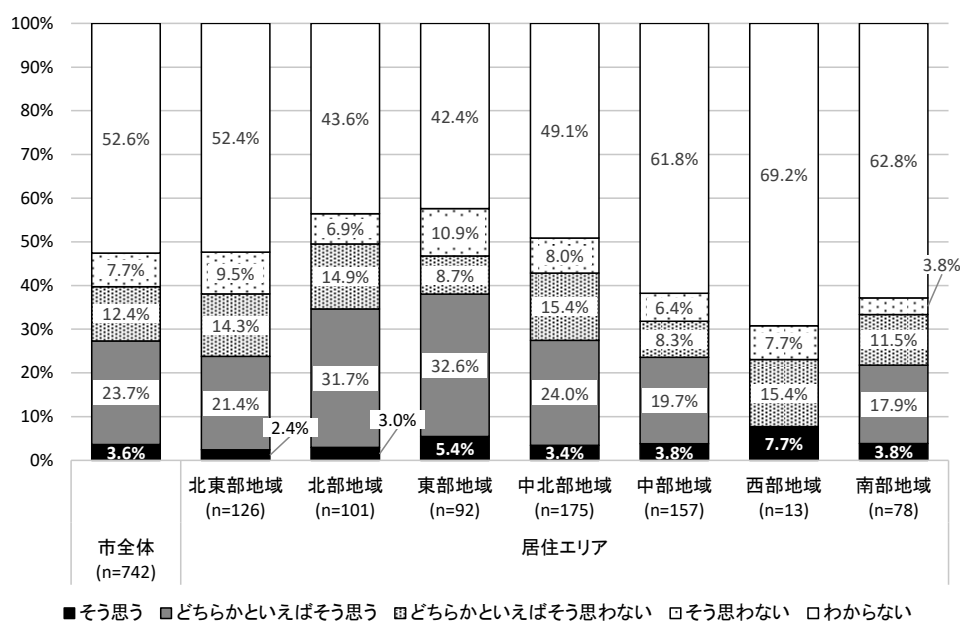


### 3-4-5. 地域の子どもの関わり

次に社会関係に関する設問として地域の子どもたちとの関わりについて尋ねた。

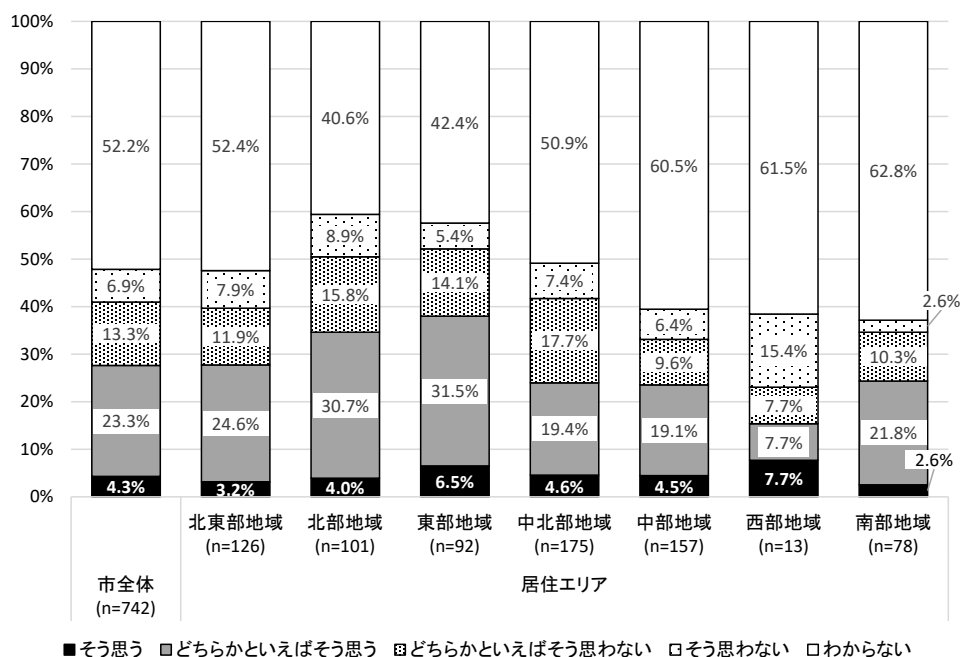
図表 111 は地域の子どもたちの縦のつながりについて調べたもので、「地域の子どもたちは自分より年下の面倒をよく見ている」という項目に対し、東部地域では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が多い。南部地域は「そう思う」の割合が市全体をわずかに上回り、「どちらかといえばそう思う」の割合は他地域に比べて低くなっている。

図表 111 地域の子どもたちは自分より年下の面倒をよく見ている

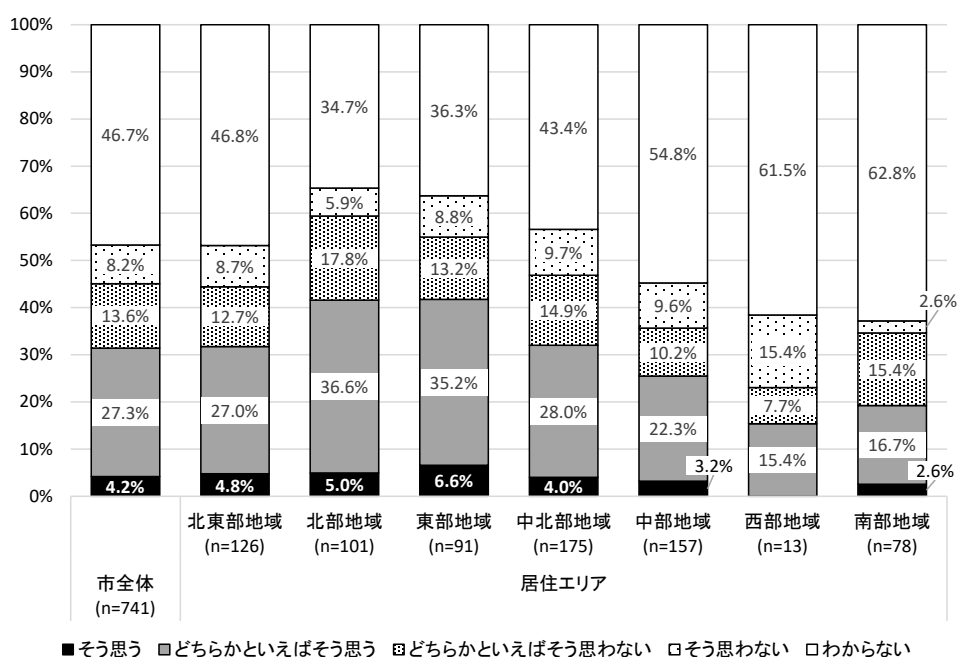


図表 112 は地域の子どもたちのつながり全般について尋ねたものである。「地域の子どもたちの絆が強い」という項目に対して、南部地域で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える人の割合はいずれも市全体に比べて少ない。「わからない」の回答も多いことから、実際に子どもたちと関わる頻度が少ないことも考えられる。図表 113 の保護者同士の交流についても肯定的回答の割合は少なく、同様の傾向を示しているといえる。

図表 112 地域の子どもたち同士の絆が強い



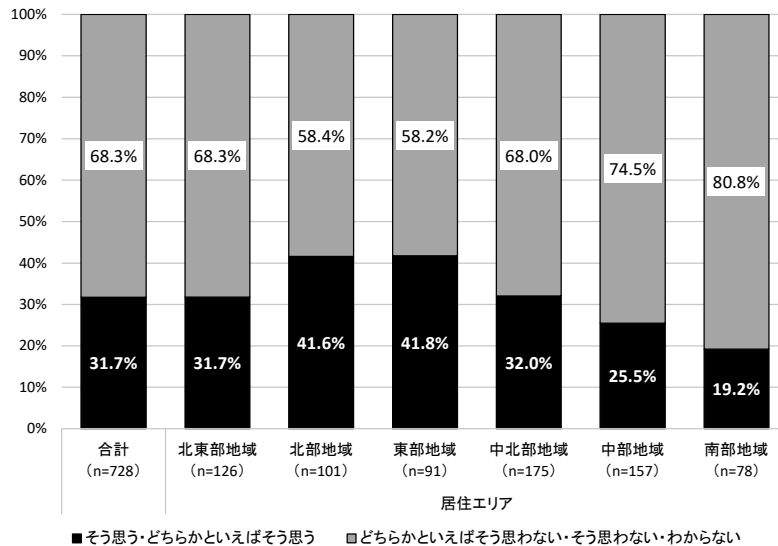
図表 113 保護者同士の交流が活発である



図表 114 は先に示した保護者同士の交流に関する設問の回答を集約したものである。

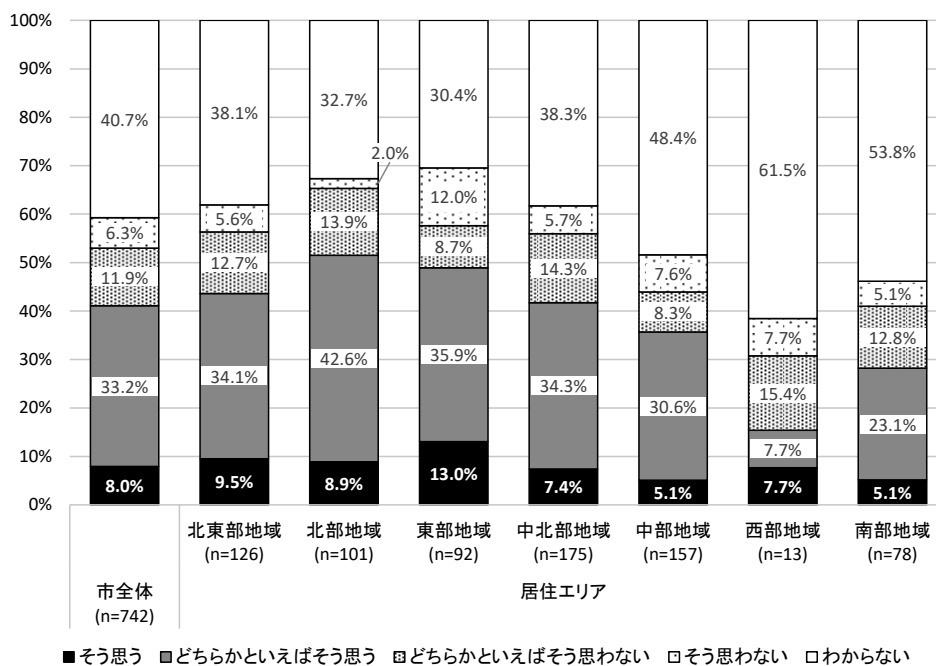
図表 115 は「子どもたちの居場所がある」という項目についての回答を示している。「そう思う」と答える人の割合は東部地域で最も多く、南部地域では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」のいずれにおいても市全体よりも少ない割合となっている。

図表 114 保護者同士の交流が活発である（集約）



カイ 2 乗値 17.217 有意確率 0.004

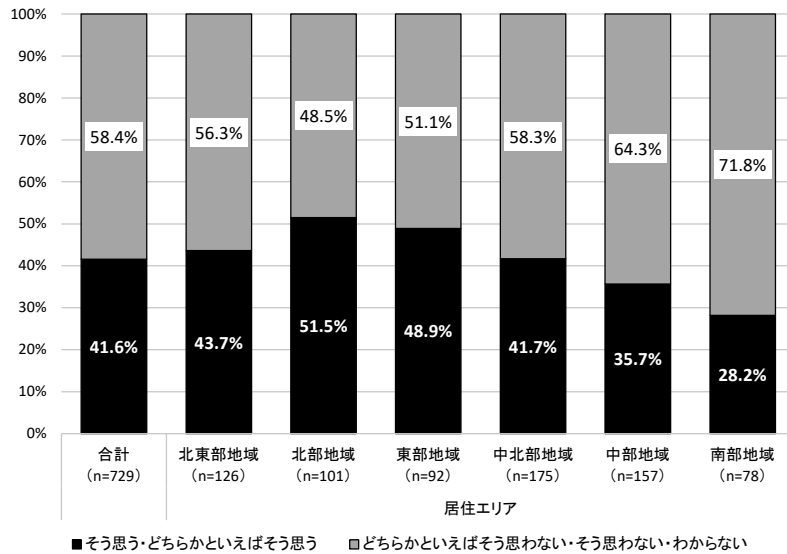
図表 115 地域には子どもたちの居場所がある



図表 116 は先に示した「子どもたちの居場所」に関する回答結果を、肯定的回答とそれ以外に集約したものである。

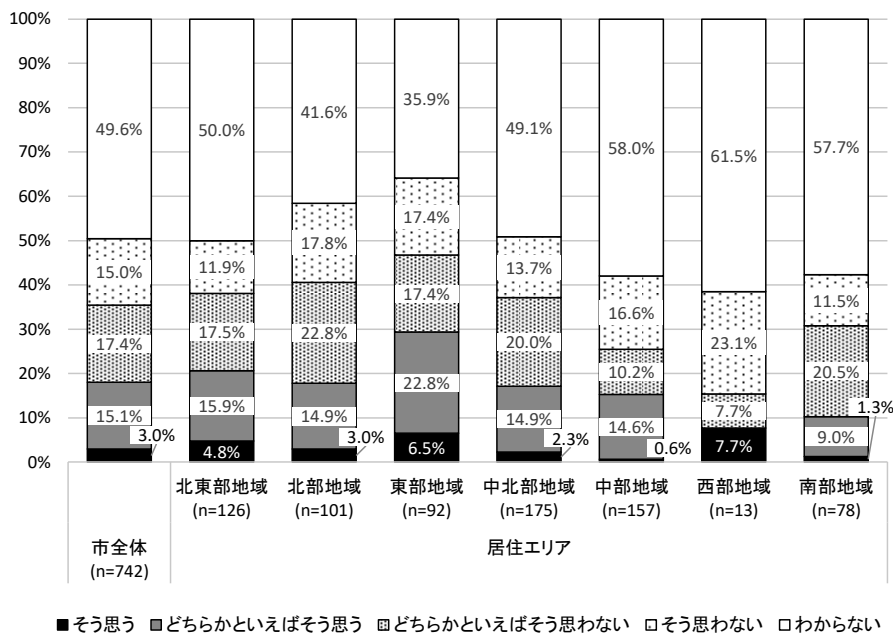
また図表 117 は地域の人々と子どもたちの関わりについて尋ねたものである。「近所の人々が地域の子ども面倒を見ている」という項目については東部地域で肯定的回答の割合が多い。南部地域では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」のいずれも、他地域の多くよりも少ない割合である。同じ項目について、肯定的回答とそれ以外に集約したものを次ページの図表 118 に示した。

図表 116 地域には子どもたちの居場所がある（集約）

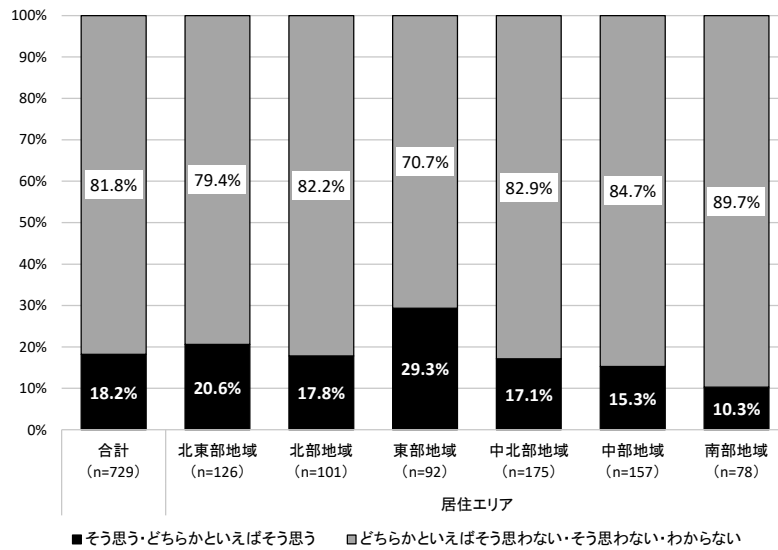


カイ 2 乗値 14.344 有意確率 0.014

図表 117 近所の人々が地域の子ども面倒を見ている



図表 118 近所の人が地域の子どもの面倒を見ている（集約）



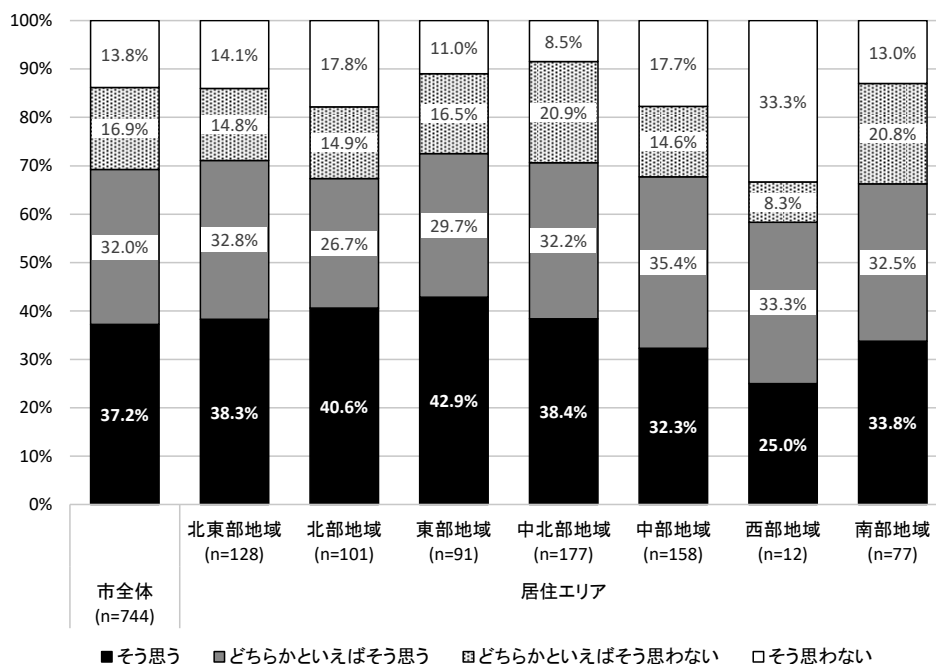
カイ 2 乗値 12.499 有意確率 0.029

### 3-4-6. 防災・防犯

南部地域では、本報告書 41 ページにあるように、防災・防犯の安心感に関して肯定的回答が他地域に比べ少ない。また第 1 章で触れたように、とよなか都市創造研究所によるこれまでの調査研究でも、南部地域の治安に関するネガティブなイメージが指摘されている。防災・防犯面についてより細かく尋ねればこのようなイメージとは違う捉え方もできるのではないかと考え、以下の設問を作成した。

隣人の存在は非常時の助け合いにおいて重要である。図表 119 の「隣の人がどんな人か知っているか」という項目では、南部地域で「そう思う」が市全体をやや下回るものの各地域と似た傾向である。

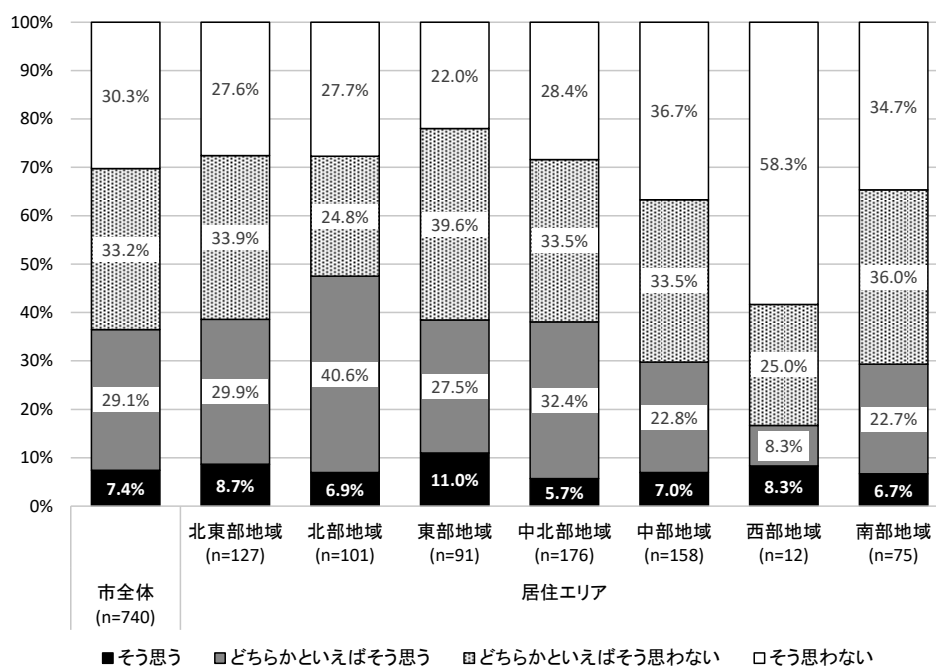
図表 119 隣の人がどんな人か知っている



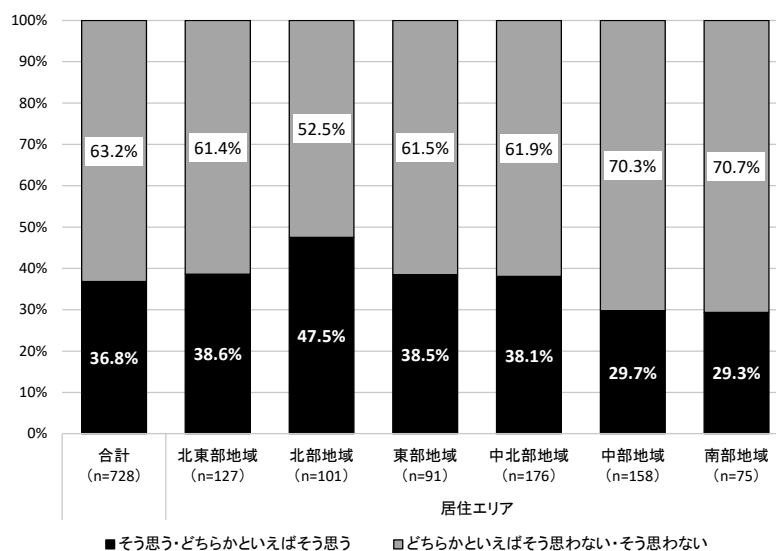


図表 120 は、先に示した隣人と同様の観点で、地域の子もたちの様子がわかるかどうかを尋ねたものである。「そう思う」という回答の割合は市全体よりも少し小さく、「どちらかといえばそう思う」では市全体よりも少ない。また図表 121 には肯定的回答と否定的回答を集約して示したが、南部地域での肯定的回答は他地域よりも少ない。ただし、先に示した「地域の子もたちのと関わり」の項で述べたように、住民のライフスタイルや子ども的人口による影響も考えられる。

図表 120 地域の子もたちの様子がわかる



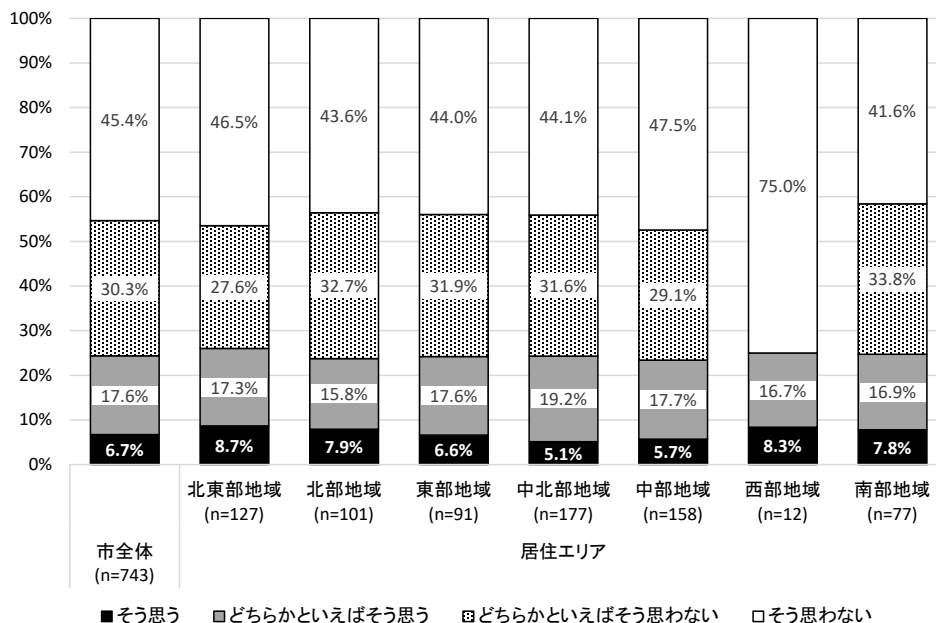
図表 121 地域の子もたちの様子が分かる (集約)



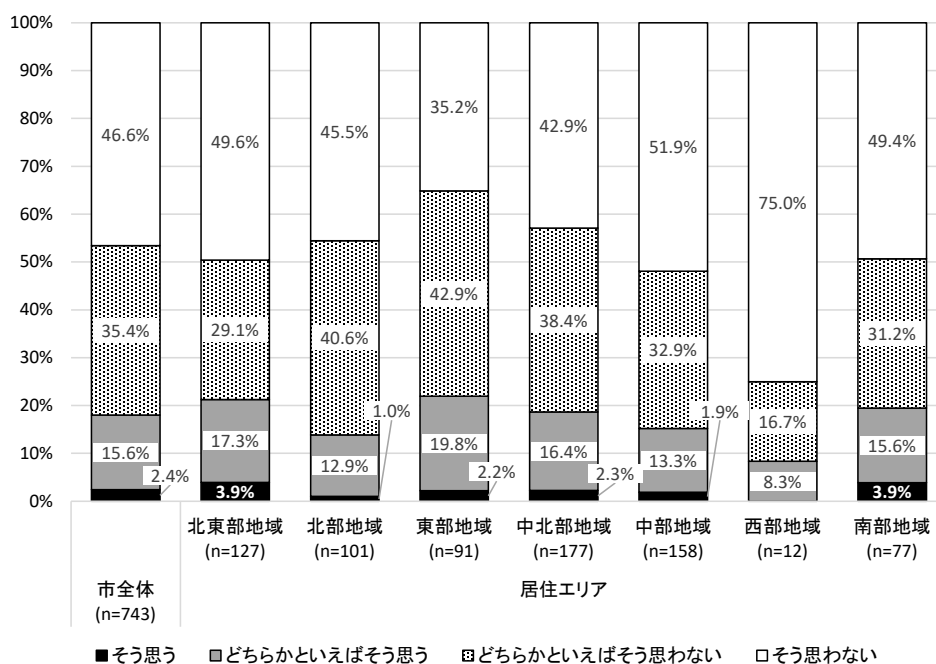
カイ 2 乗値 10.574 有意確率 0.061

図表 122 は「地域に住む高齢者・障がい者の方を知っているか」について尋ねたものである。「そう思う」という回答では南部地域は市全体を上回っており、「どちらかといえばそう思う」も市全体と同水準である。図表 123 は「地域での見回り活動」への参加意向を示したものである。南部地域の回答は「そう思う」で市全体を上回り、「どちらかといえばそう思う」も市全体と同じ割合である。次ページに示した図表 124 は地域での防災訓練・防犯訓練への参加意向である。南部地域では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」ともに市全体の割合を上回っている。

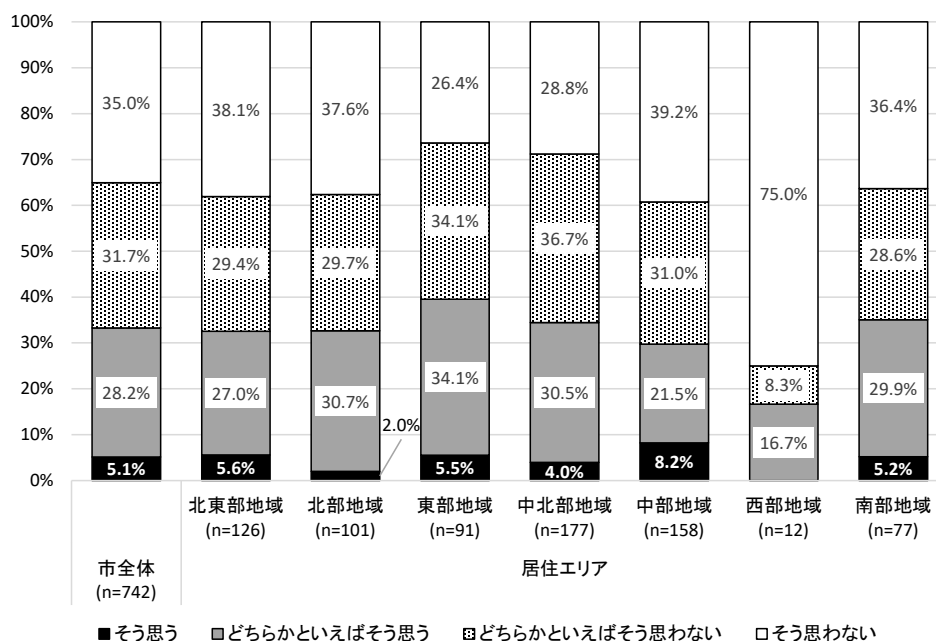
図表 122 地域に住む高齢者・障がい者（いざという時助けが必要な人）の方を知っている



図表 123 地域での見回り活動に参加したい



図表 124 防災訓練あるいは防犯訓練に参加したい

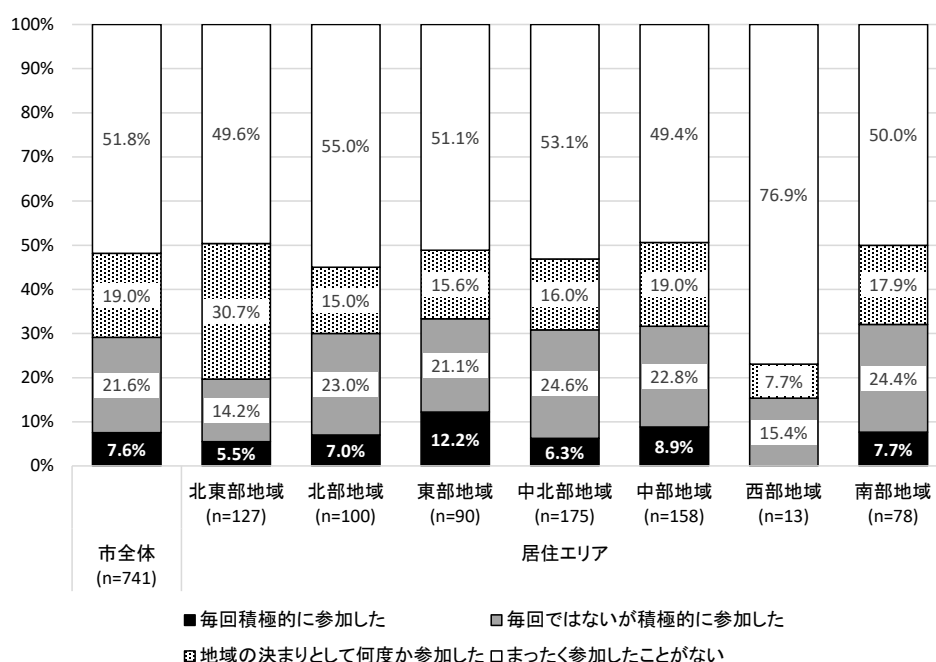


### 3-4-7. 地域の祭り

地域での社会関係を示すものの一つに「祭り」がある。以下では祭りへの参加度を通じて、地域のコミュニティとの関わりを見ていきたい。

図表 125 は来場者としての祭りへの参加を尋ねたものである。南部地域での回答は、「毎回積極的に参加した」「毎回ではないが積極的に参加した」の両方で市全体を上回る割合で、「地域の決まり」としての参加を含めた「参加経験あり」としても見ても比較的多い割合である。

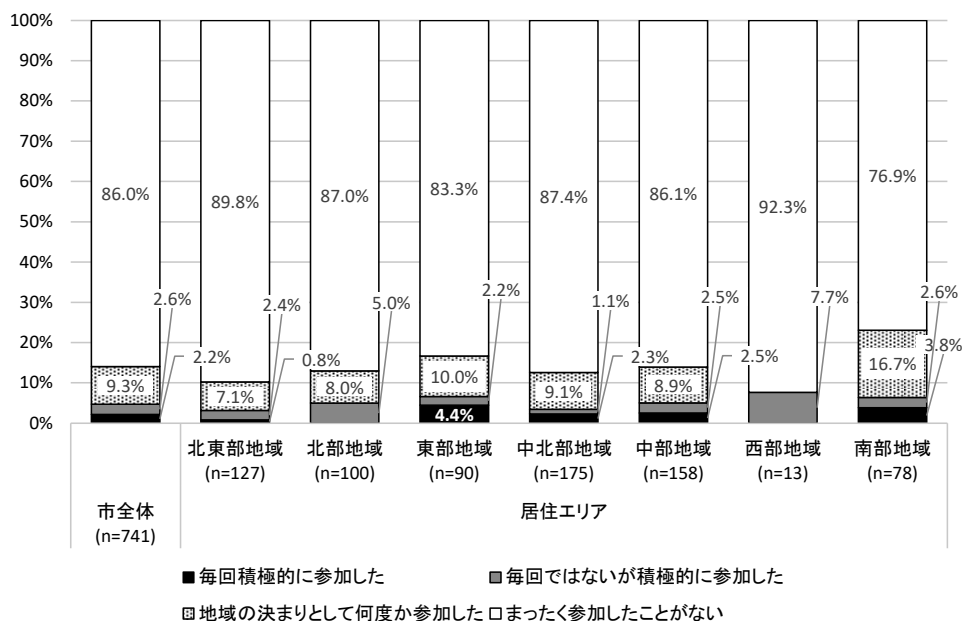
図表 125 地域の祭りに来場者として参加した



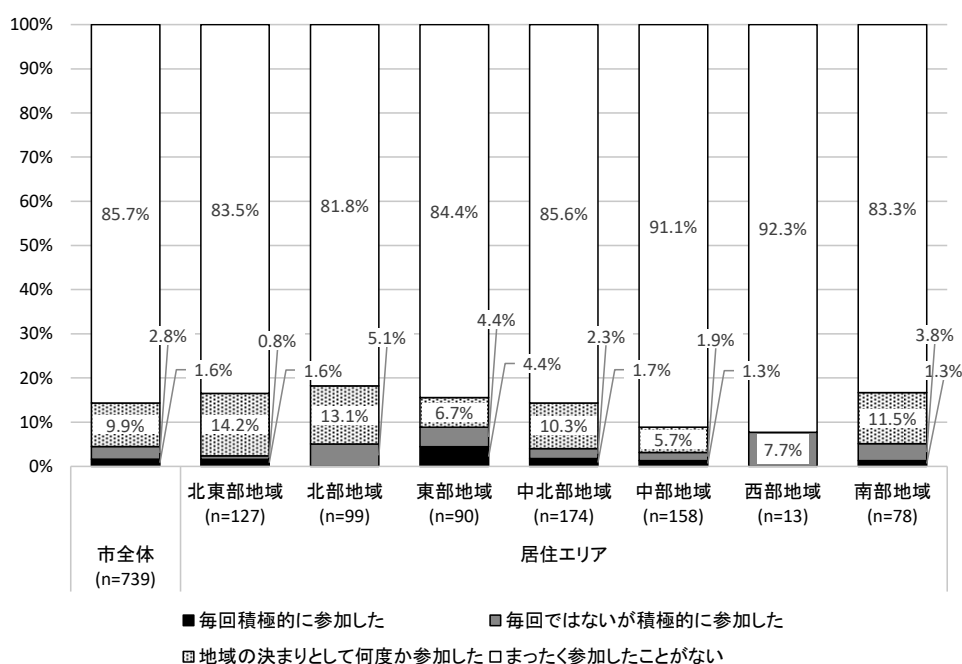
図表 126 は「みこしの担ぎ手等、地域の祭りの担い手」としての参加経験を尋ねている。南部地域での積極的参加の割合は「毎回」「毎回ではない」のいずれも市全体での割合以上であり、「地域の決まり」での参加を含めた参加経験では7地域の中で最も多い割合である。

図表 127 は「事前の準備期間」からの参加で、祭りへのより深い関わりを示すと考えられる。積極的参加について見ると多くの地域で少ない割合となっているが、南部地域は市全体以上の割合となっている。またここでも参加経験全体を見ると南部地域は比較的高い割合となっている。

図表 126 みこしの担ぎ手等、地域の祭りの担い手として参加した

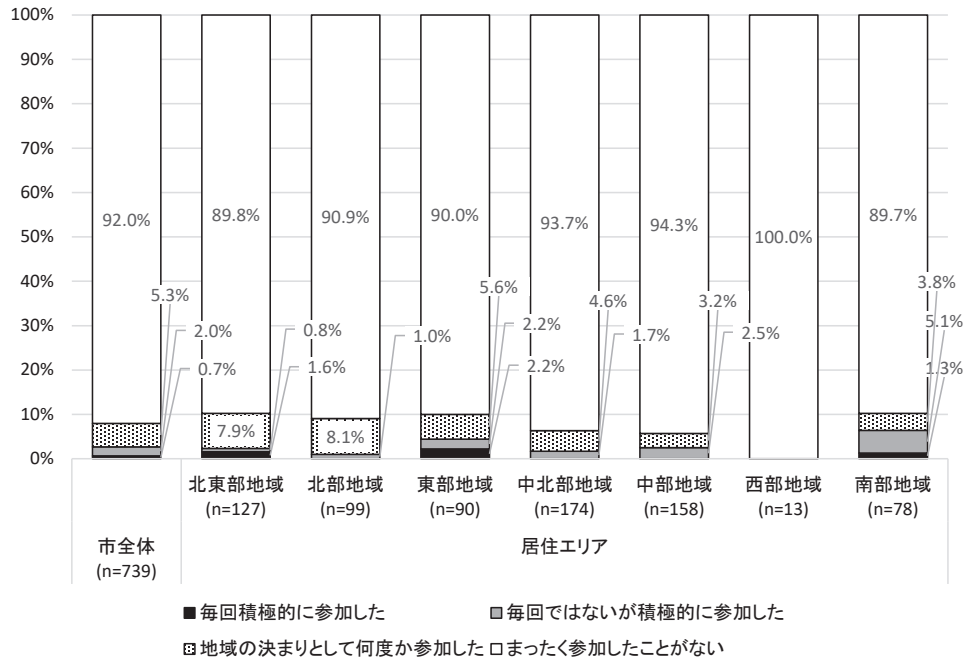


図表 127 地域の祭りに事前の準備期間から参加した



図表 128 は祭りへの「役員として」の参加を尋ねるもので、最も深い関わりを示すと考えられる。これも積極的参加については全体的に少ない割合であるが、南部地域は市全体を上回る割合である。また参加経験をとって見ても南部地域が最も多い割合となっている。

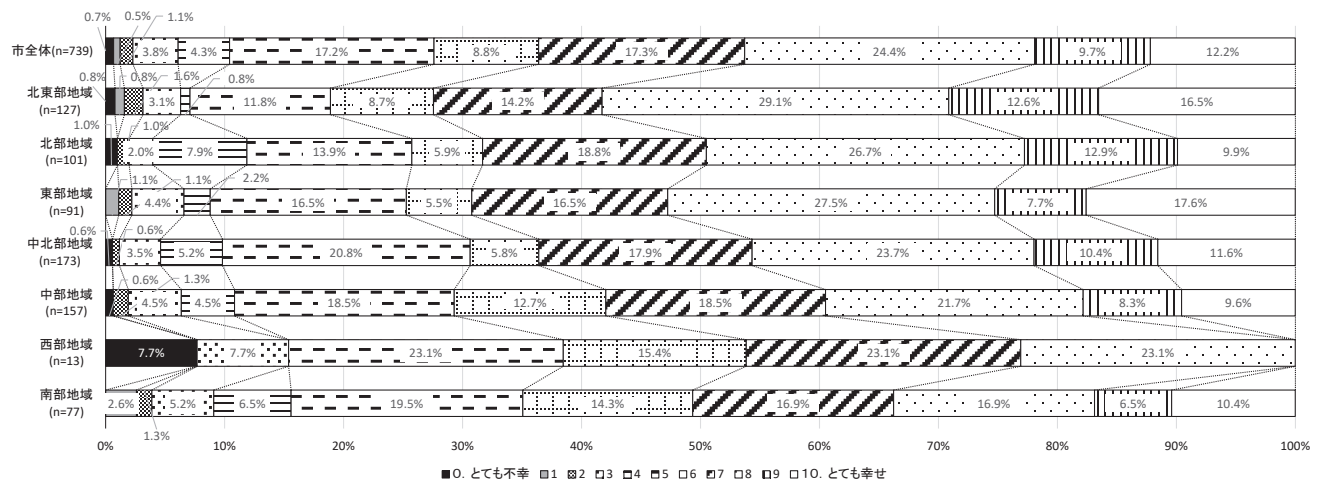
図表 128 地域の祭りの保存等に役員として参加した



### 3-5. 主観的幸福度・満足度

地域の活性化を考える場合、人口や経済活動等の客観的なデータをもとにすることはもちろんであるが、その地域に住む人びとがどのように感じているかという主観的要素も参考になるだろう。ここでは広く用いられている幸福度の設問と回答者自身の生活への満足度をとり上げる。

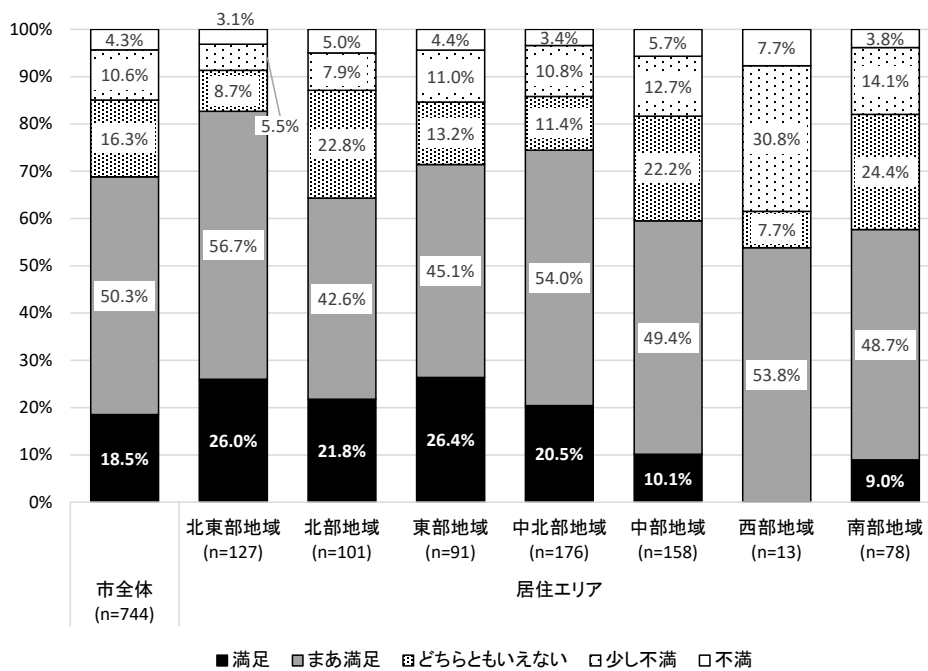
図表 129 幸福度



前ページに示した図表 129 は回答者の主観的幸福度について尋ねた設問への回答結果である。この設問では「0. とても不幸」から「10. とても幸せ」までの間で当てはまるレベルの数値を選んで回答してもらう。ここでは「幸福度 7」のレベルに着眼し、グラフの幸福度 7 を示す領域よりも右側にある範囲の大きさを見ていくこととする。

南部地域の回答は、「幸福度 7」以上が約 50%で、市全体の約 60%に比べ少なくなっている。なお市内で最も高い割合を示しているのは北東部地域（約 70%）である。また、中間にあたる「幸福度 5」以上をみた場合は各地域の差は「幸福度 7」に比べて少なく、すべての地域で 90%前後となっている。

図表 130 自身の生活への満足度

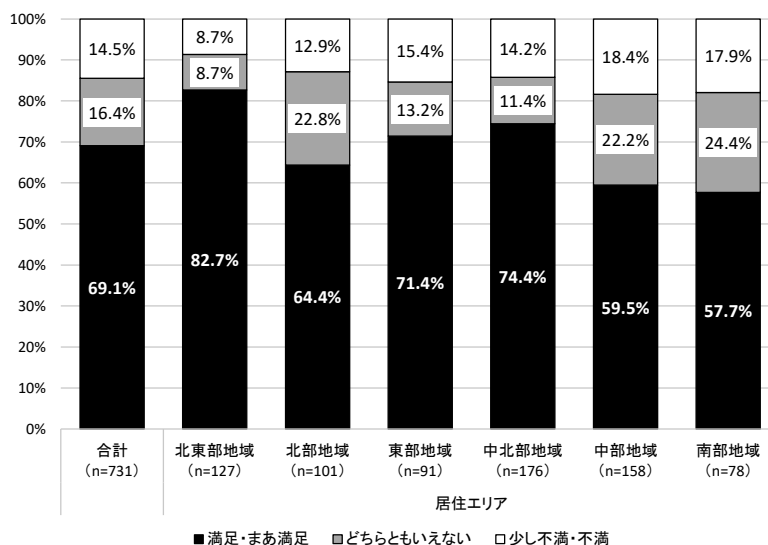


上に掲げた図表 130 は自身の生活への満足度を尋ねた設問の回答結果である。「満足」「まあ満足」「どちらともいえない」「少し不満」「不満」の 5 つの選択肢から 1 つを選んで回答してもらう形である。南部地域の回答を見ると「満足」と答える割合は市全体の半分ほどになっているが、「まあ満足」は市全体の割合に対し大きな隔たりはない。また、中部地域の回答の分布も南部地域と似た傾向になっている。「満足」「まあ満足」ともに北東部において割合が大きい。

上記の回答傾向は先に示した「幸福度」にも当てはまると考えられる。幸福度・自身の生活への満足度ともに、高い度合いを示す回答では地域により割合の差が見られるが、中間以上の度合いをまとめて見た場合その差はより小さくなる。次ページに図表 131 として、自身の生活への満足度での回答結果を集約したグラフを示した。ここでも地域による割合の違いはあるが、上記の図表 130 における「満足」を示す割合とは異なり、図表 131 で南部地域の「満足・まあ満足」を足した割合は市全体のそれに対して約 80%になっている。

なお、ここで取り上げた「幸福度」「自身の生活への満足度」と後に取り上げる「地域の生活への満足度」が、地域評価などにどのような影響を受けるかを本章の末尾で分析する。

図表 131 自身の生活への満足度（集約）



カイ 2 乗値 30.199 有意確率 0.001

### 3-6. 地域の印象

#### 3-6-1. 商店街のイメージ

とよなか都市創造研究所では今回の調査に並行して、本アンケートから内容を抜粋したインターネット調査も試行的に実施した。インターネット調査の内容・結果についてはとよなか都市創造研究所（2022b）を参照されたいが、画面での回答においてより具体的な印象を喚起しやすい画像を用いた質問を取り入れている。また、紙媒体でのアンケートにおいても写真を呈示することにより同じ設問を行っており、2つの設問が画像付きのものとなっている。

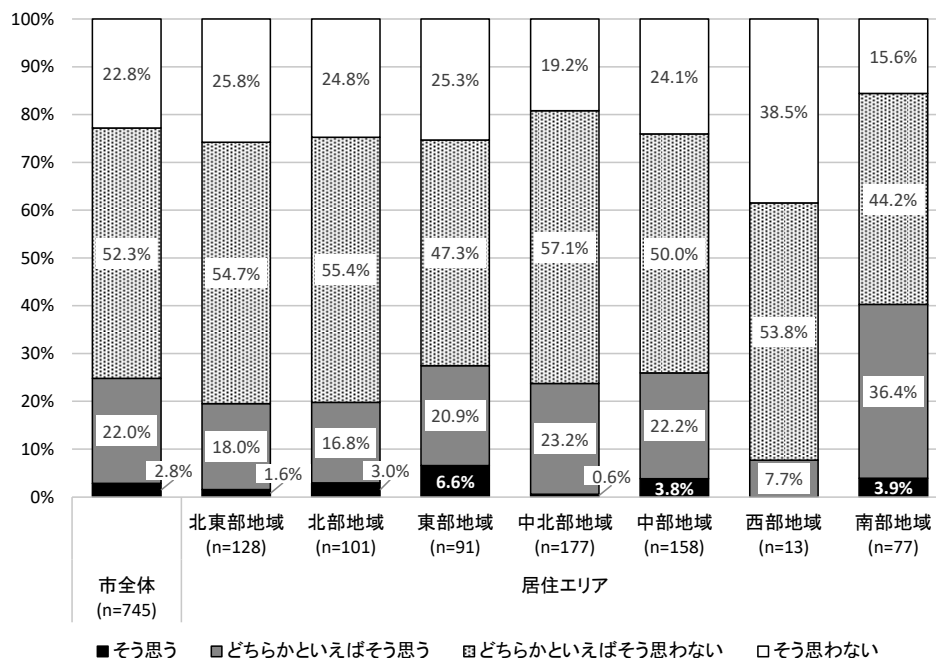
以下はその1つ目で、南部地域の特色でもある商店街のイメージについて尋ねたものである。設問においてはまず商店街の写真（図表 132）を質問紙上で提示したうえで、4つの項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の回答を選んでもらった。

図表 132 商店街の画像

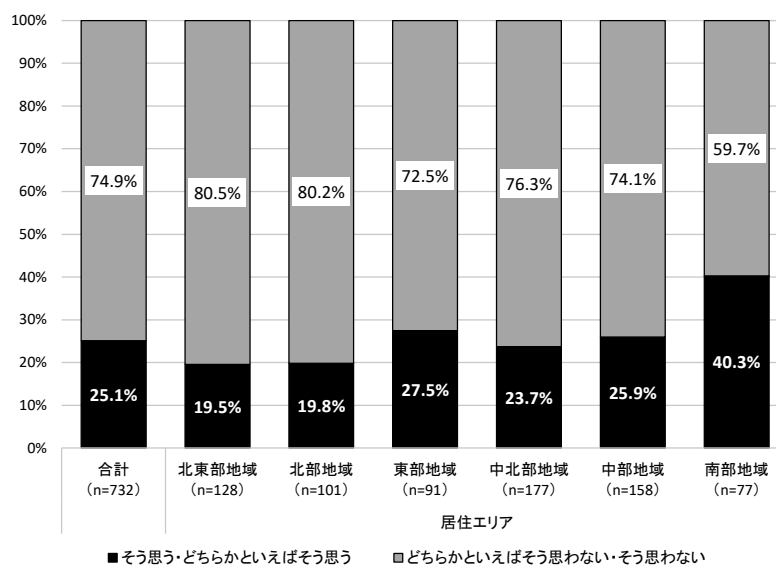


商店街の写真を見て、「活気がある」という項目について「そう思う」と答えた人は全体に少ないが（図表 133）、回答を集約した場合は肯定的回答が南部地域で比較的多くなっている（図表 134）。

図表 133 活気がある



図表 134 活気がある（集約）



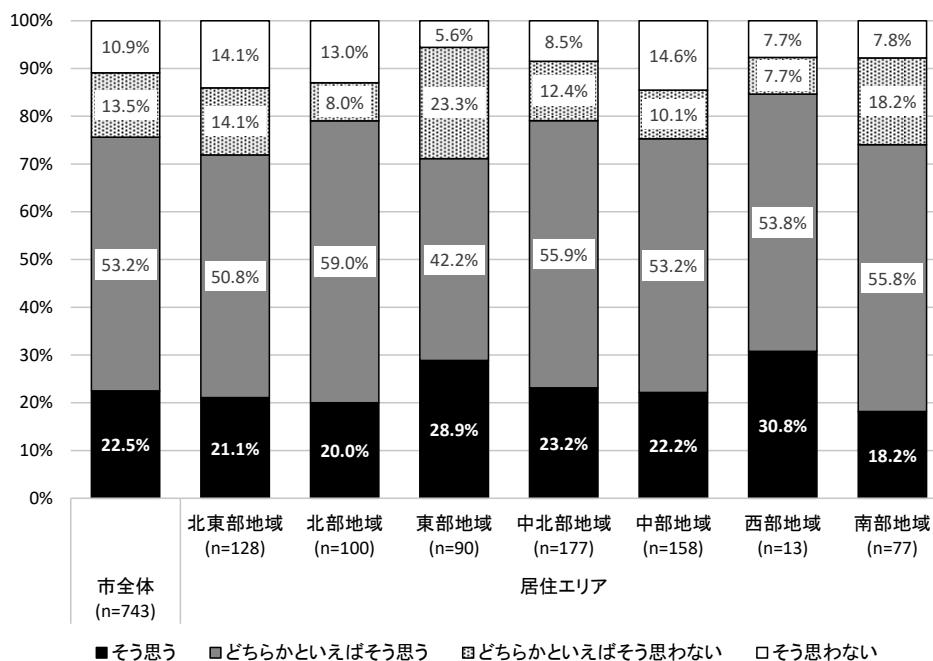
カイ 2 乗値 13.529 有意確率 0.019



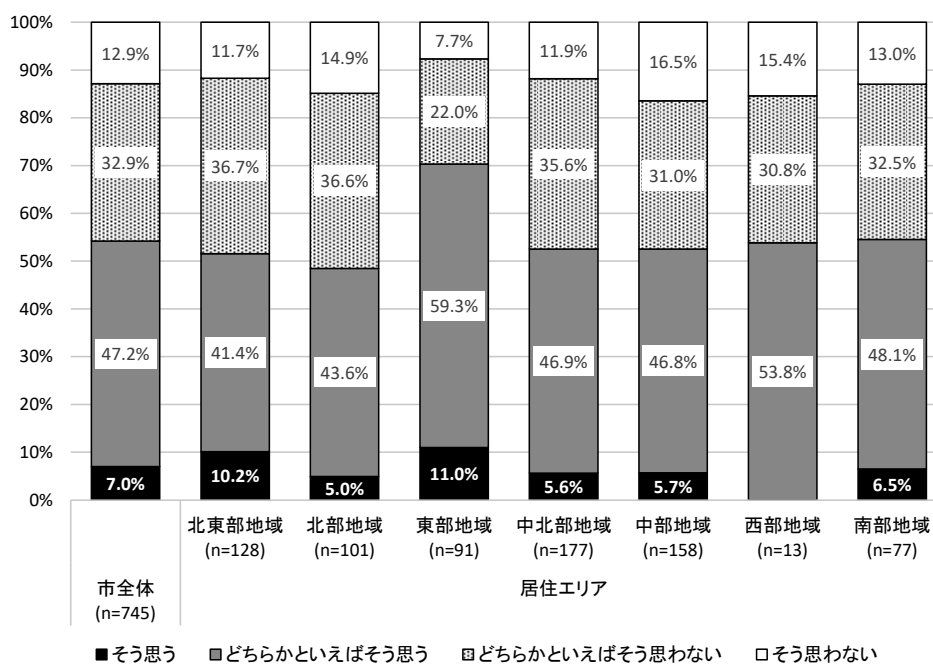
「懐かしい感じがする」については東部地域と西部地域において「そう思う」と答える人の割合が比較的多く、南部地域では市全体に対してやや少なくなっている（図表 135）。

「あたたかみがある」という項目については「そう思う」と答える人が北東部地域と東部地域で相対的に多く、全体には「どちらかといえばそう思う」と答える人が多い（図表 136）。

図表 135 懐かしい感じがする



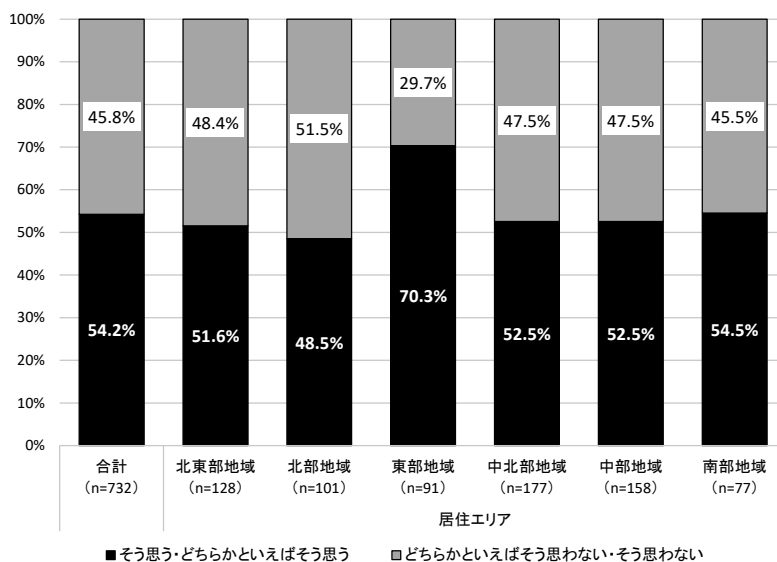
図表 136 あたたかみがある



前ページに示した「あたたかみがある」について肯定的回答・否定的回答を集約すると、東部地域で肯定的回答が多いが他の地域では50%前後の割合である（図表 137）。

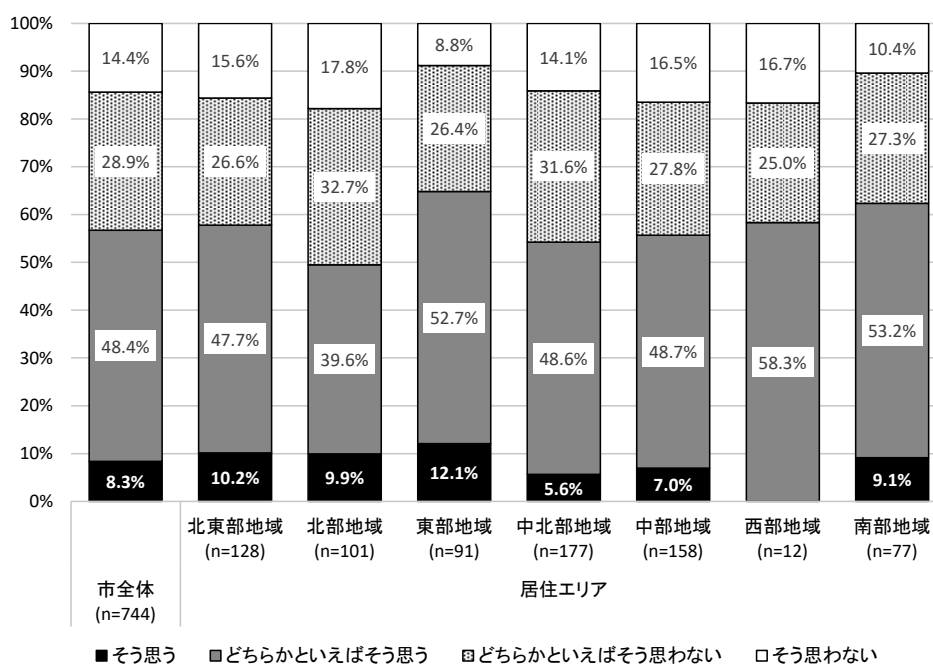
「親しみがある」という項目についても、「どちらかといえばそう思う」を選択する人がどの地域においても多くなっている。「そう思う」を選択する人は東部地域が最も多く、南部地域は市全体をやや上回る割合となっている。

図表 137 あたたかみがある（集約）



カイ 2 乗値 11.589 有意確率 0.041

図表 138 親しみがある



### 3-6-2. 「身近な緑」のイメージ

続いて写真付きの質問の 2 つ目として、「身近な緑」のイメージについて尋ねた結果を以下に示す。今回のアンケートの地域環境評価のところでは「身近な緑の充実」を取り上げたように、住環境を評価する際にこの言葉は多くの調査で使われている。

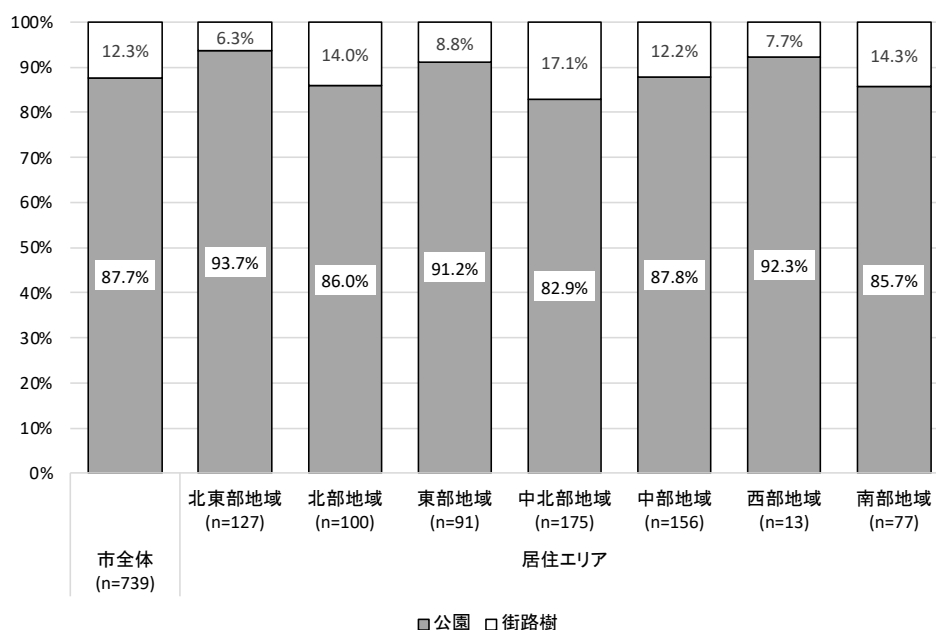
これまでのアンケート調査において、南部地域の回答では「身近な緑」に関してネガティブな評価が多かったこともあり、この言葉がもつイメージがどのようなものであるのかを尋ねる設問を作成した。具体的には、「公園」と「街路樹」の 2 種類の写真（図表 139）を質問紙上にて呈示し、どちらが回答者が持つ「身近な緑」のイメージに近いかを答えてもらった。

図表 139 公園（左）と街路樹（右）



結果としては以下の図表 140 のように大半の人が「公園」を「身近な緑」を示すイメージとして選択した。「身近な緑」という言葉からは、公園のようにかなりまとまった範囲に広がる自然を想起する人が多いことがここから分かる。

図表 140 身近な緑



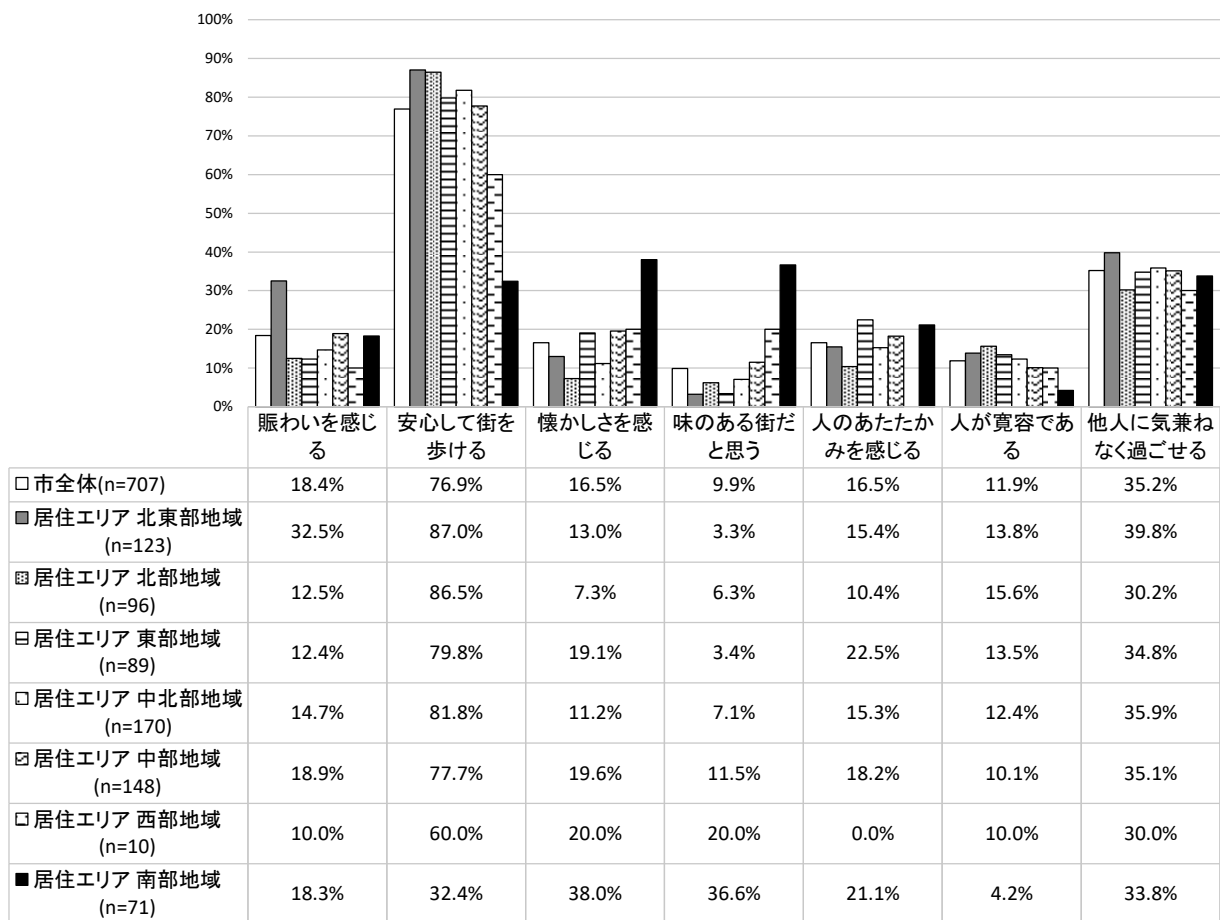
### 3-6-3. 居住地域の印象

これまでアンケート調査の質問紙の流れに沿って回答を示してきたが、今回のアンケートでは地域での「食」「スポーツ」「音楽」に関わる活動や社会関係、人との関わりについて尋ねたのち、改めて地域の印象を尋ねている。居住する地域について意識してもらったうえで、できるだけ日常に近い感覚で回答してもらえるよう設問を作成した。また設問の作成においては、南部地域の特徴も念頭に置きつつ項目を検討した。

以下に示した図表 141 は回答者の居住地域について、「賑わいを感じる」「安心して街を歩ける」「懐かしさを感じる」「味のある街だと思ふ」「ひとのあたたかみを感じる」「人が寛容である」「他人に気兼ねなく過ごせる」の7項目について「当てはまるか当てはまらないか」を尋ね、「当てはまる」とした回答の割合を示したものである。

南部地域の回答を見ると、「懐かしさを感じる」「味のある街だと思ふ」については市全体や他地域に比べて「当てはまる」と答える人が多い。「ひとのあたたかみを感じる」も市全体や多くの地域を上回っている。「賑わいを感じる」「他人に気兼ねなく過ごせる」は市全体と同水準で、「安心して街を歩ける」「人が寛容である」<sup>19</sup>については市全体や他地域を下回る結果になった。

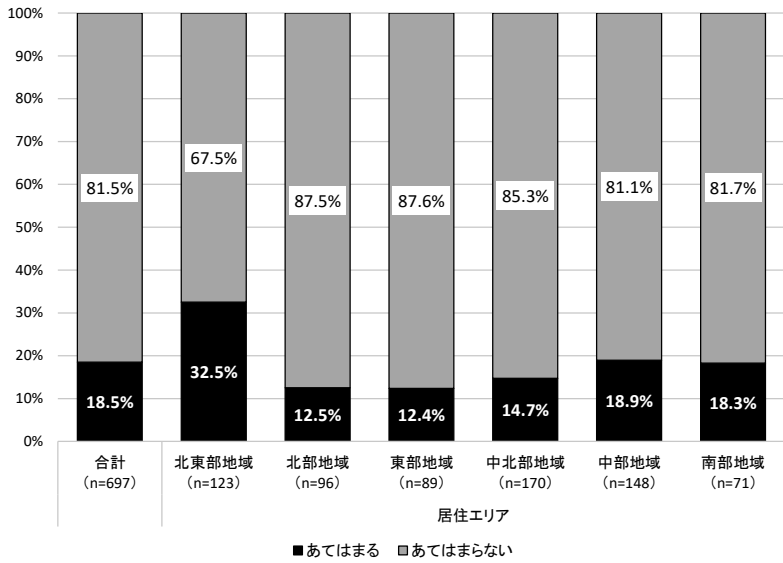
図表 141 地域の印象



<sup>19</sup> 「ひとのあたたかみを感じる」が当てはまると答える人が一定数いる一方、「人が寛容である」が当てはまると答える人が少ない点については、第4章でも触れている。

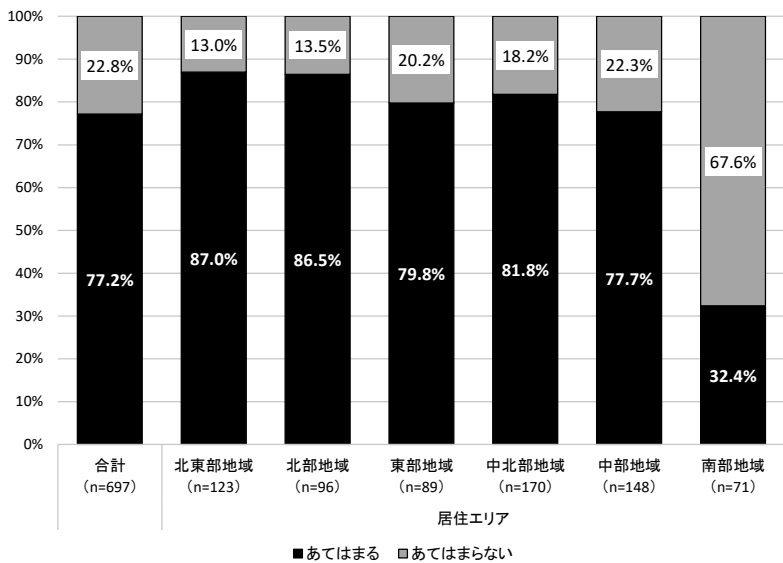
以下、図表 142 から図表 145 までは、先の設問での「地域の印象」について回答数が少ない西部地域を除き、統計的に有意な結果となった項目を示した。図表 142 は、「地域に賑わいを感じる」の項目のみをまとめたものである。南部地域で「当てはまる」と答えた人の割合は 6 地域の合計とほぼ同じ水準である。図表 143 は、「安心して街を歩ける」の項目のみをまとめたものである。南部地域は他地域と比べて「当てはまる」と答える人の割合が少ない。このような治安に関する印象がどのように形成されているのかはこのアンケートからは読み取れないが、今後機会を改めて検討する意義もあると考えられる。

図表 142 地域に賑わいを感じる



カイ 2 乗値 22.188 有意確率 0.000

図表 143 安心して街を歩ける

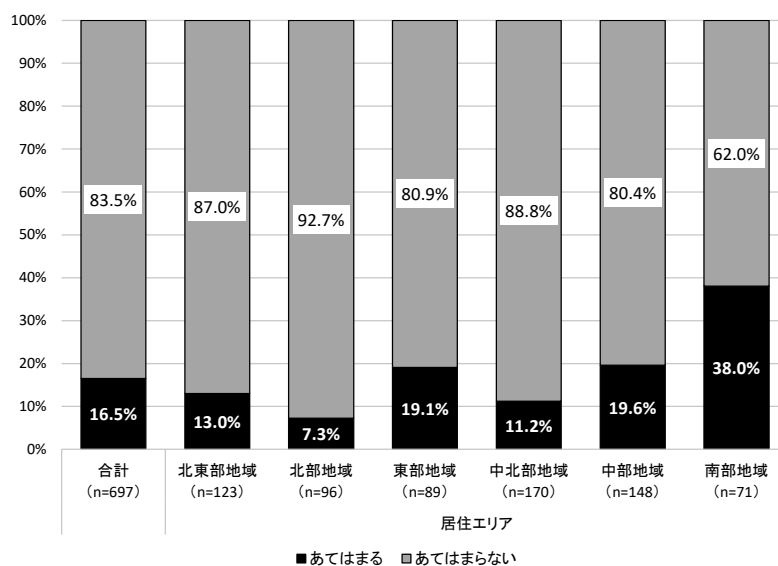


カイ 2 乗値 94.688 有意確率 0.000

図表 144 は居住する地域に「懐かしさを感じる」という項目についてまとめたものである。「当てはまる」と答えた人の割合は、南部地域が他地域と比べてかなり多くなっている。

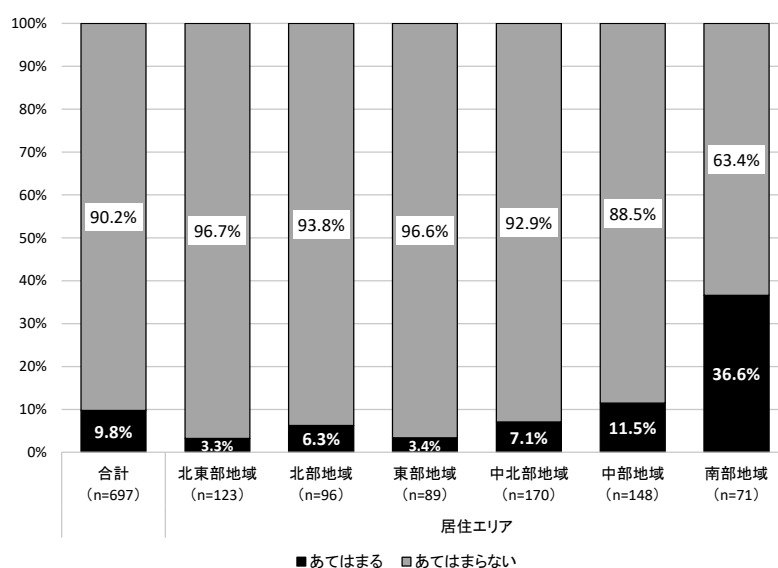
また図表 145 は「味のある街だと思う」の項目についてまとめたもので、この項目でも「当てはまる」と答えた人の割合は、南部地域でかなり多い。何をもち「懐かしさ」「味」とするかという問題もあるが、南部地域ではこのような言葉が当てはまるイメージを自地域に対してもつ住民が多いといえる。

図表 144 懐かしさを感じる



カイ 2 乗値 35.844 有意確率 0.000

図表 145 味のある街だと思う



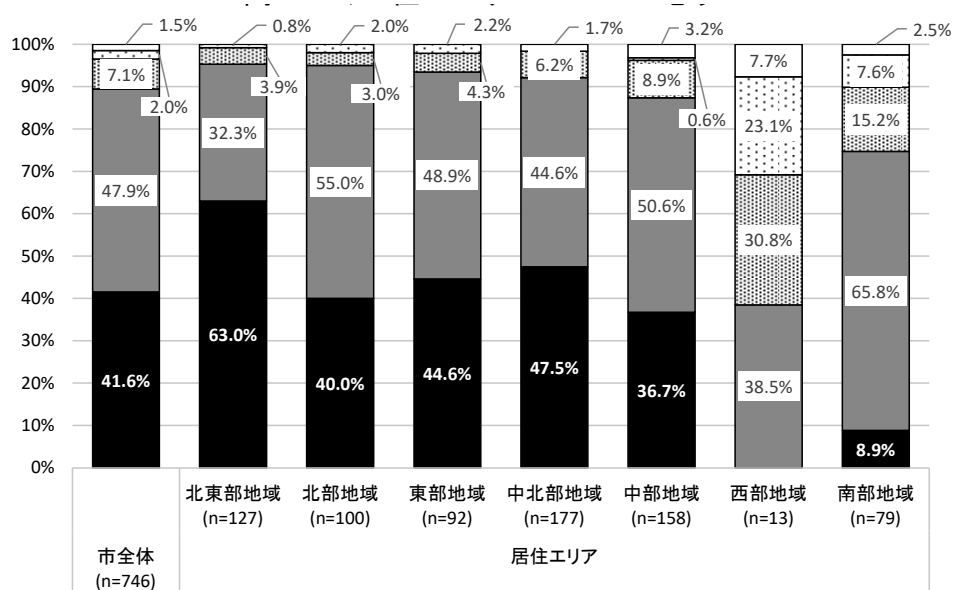
カイ 2 乗値 71.476 有意確率 0.000

### 3-7. 地域への愛着・居留意向・地域生活への満足度

アンケートの終盤には「地域への愛着や居留意向」「地域生活への満足度」を問う設問を配置した。

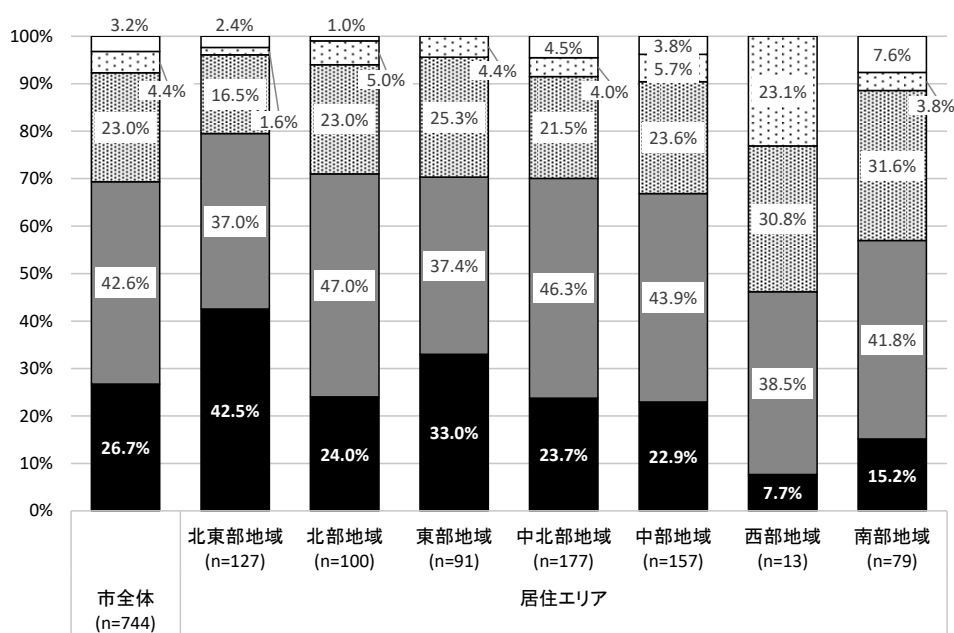
図表 146 は「住みやすいところだと思う」という項目についての回答結果である。南部地域では「そう思う」と答える人の割合は少ないが、「どちらかといえばそう思う」は他地域に比べ多い。図表 147 の「自分にとって大切なところだと思う」は地域への愛着を示す項目の1つであるが、「そう思う」の割合は市全体よりも少なく、「どちらかといえばそう思う」の割合は他地域に近い水準である。

図表 146 住みやすいところだと思う



■ そう思う □ どちらかといえばそう思う ▨ どちらともいえない ▩ どちらかといえばそう思わない ○ そう思わない

図表 147 自分にとって大切なところだと思う

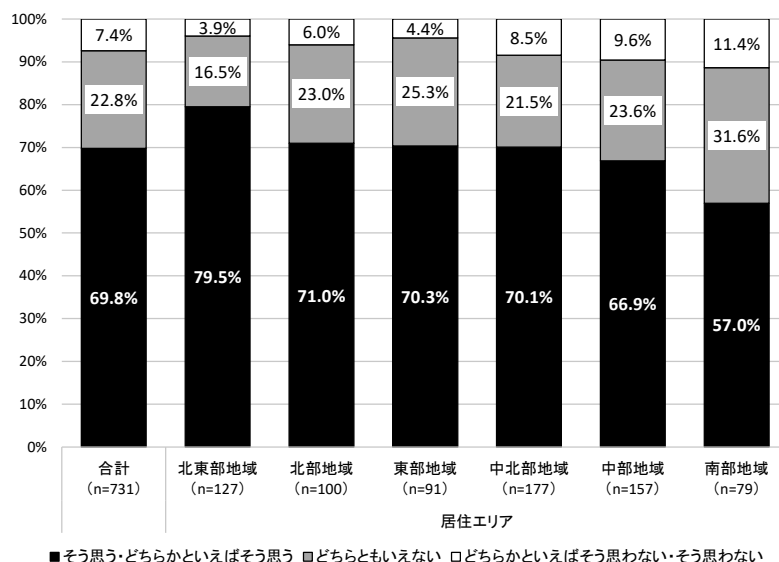


■ そう思う □ どちらかといえばそう思う ▨ どちらともいえない ▩ どちらかといえばそう思わない ○ そう思わない

図表 148 は先に示した「自分にとって大切なところだと思う」の回答を集約したものである。南部地域は肯定的回答が他地域に比べやや少なくなっている。

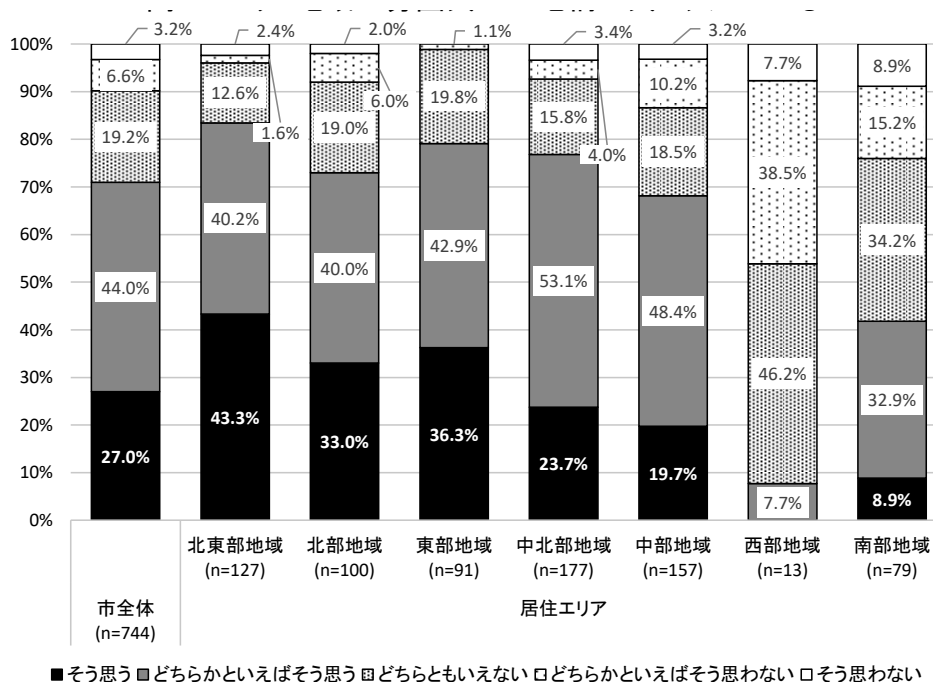
図表 150 は「地域の雰囲気や土地柄が気に入っている」で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」のいずれの割合も他地域の多くに比べて少ない。

図表 148 自分にとって大切なところだと思う（集約）



カイ 2 乗値 15.523 有意確率 0.114

図表 149 地域の雰囲気や土地柄が気に入っている

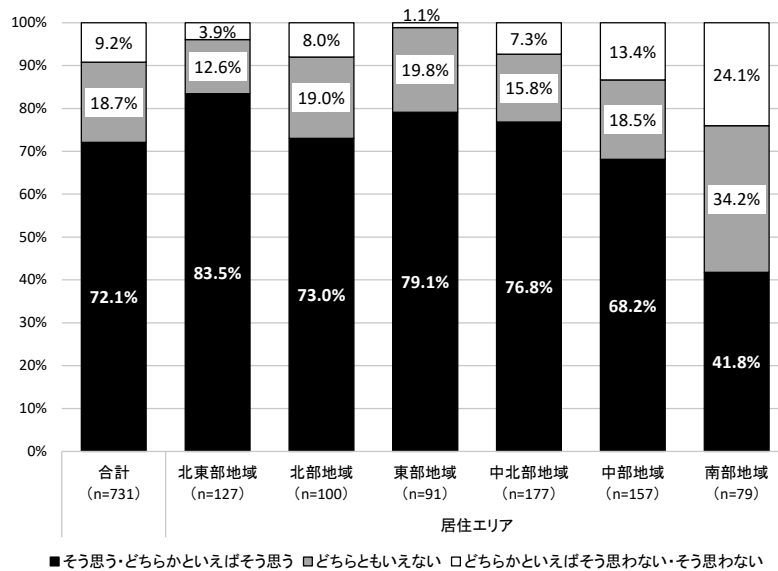




図表 150 は先に示した「地域の雰囲気や土地柄が気に入っている」の回答を集約したものである。肯定的回答の割合を見ると、南部地域は他地域に比べ少なくなっている。

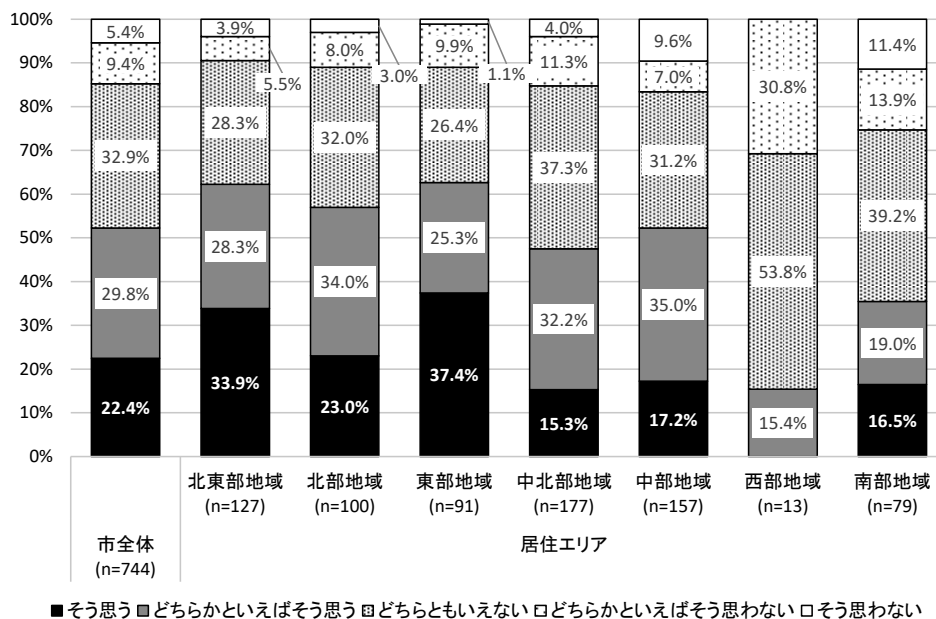
図表 151 は「地域にはいつまでも変わってほしくないものがある」という項目で、これも地域への愛着度を示す。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」のいずれも市全体に比べて少ないが、「そう思う」については他地域にも南部地域と同じ水準にあるところがある。

図表 150 地域の雰囲気や土地柄が気に入っている（集約）



カイ 2 乗値 60.518 有意確率 0.000

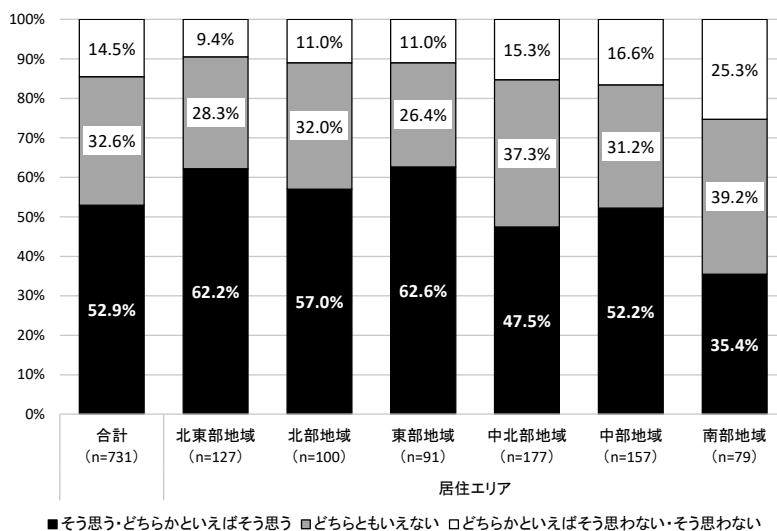
図表 151 地域にはいつまでも変わってほしくないものがある



図表 152 は先に示した「地域にはいつまでも変わってほしくないものがある」という項目への回答を集約したものである。南部地域での肯定的回答は6地域の合計に比べ7割程度の割合である。

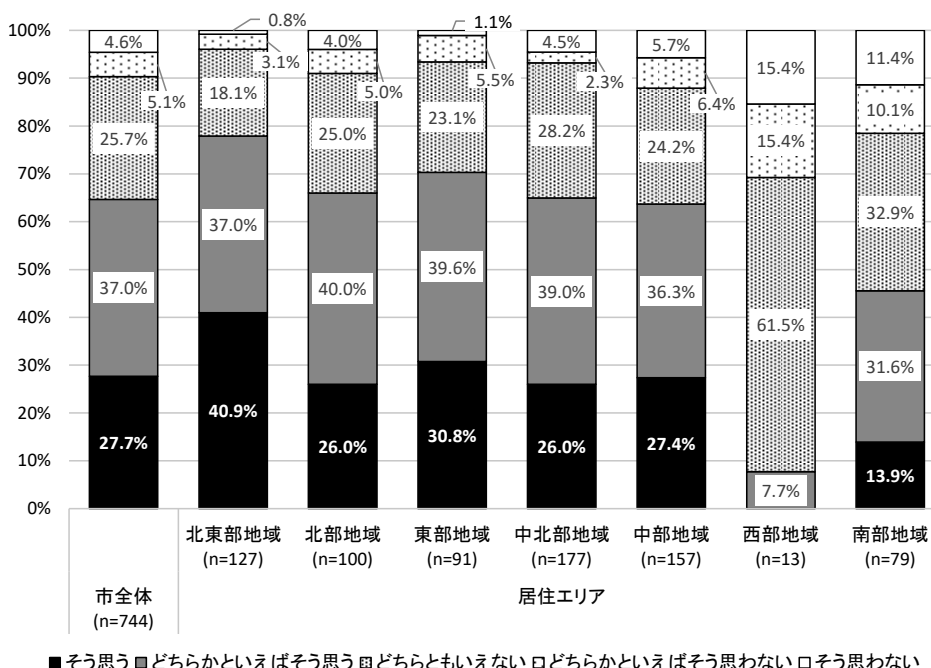
図表 153 は居住意向を示す「今後もいまの地域に住み続けたい」という項目への回答である。南部地域で「そう思う」と回答する割合は他地域に比べて少ないが、「どちらかといえばそう思う」の割合については他地域と差が縮まり、やや少ないという状況である。

図表 152 地域にはいつまでも変わってほしくないものがある（集約）



カイ 2 乗値 24.489 有意確率 0.006

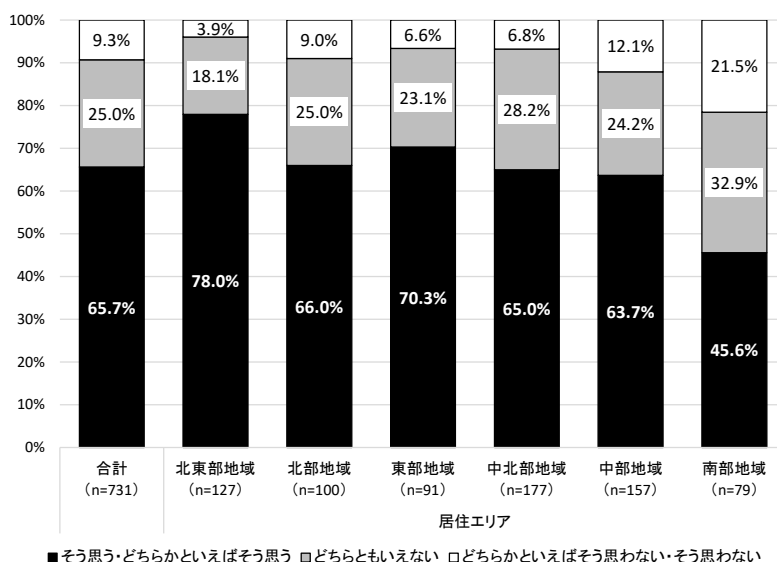
図表 153 今後もいまの地域に住み続けたい



図表 154 は先に示した「今後も今の地域に住み続けたい」という項目への回答を集約したものである。肯定的回答を集約した割合を比較すると、南部地域は市全体の約 7 割となっている。

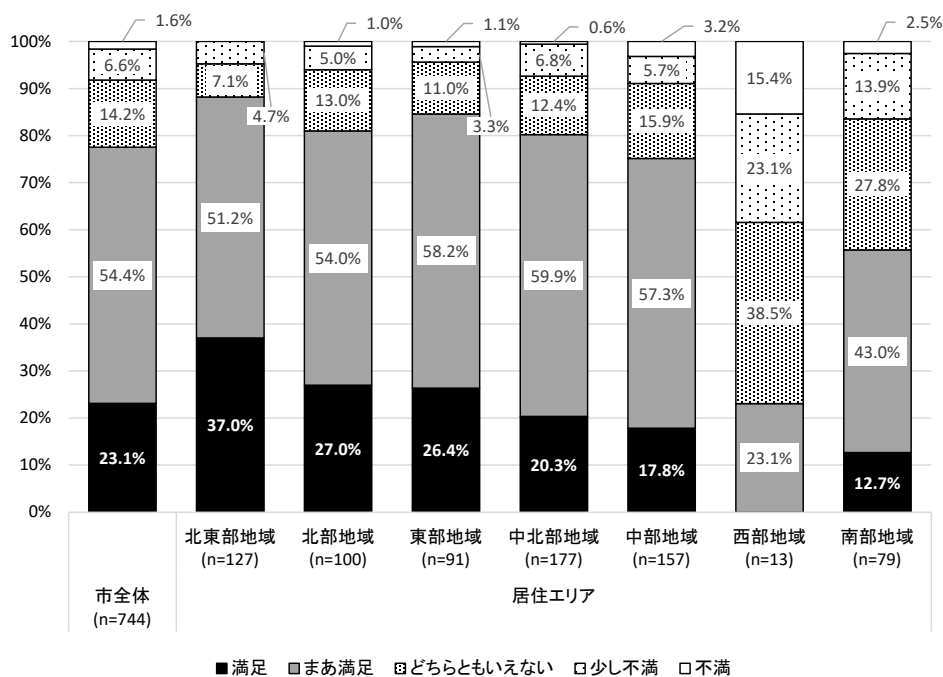
図表 155 は地域での生活への満足度を尋ねた設問への回答である。南部地域の回答は「そう思う」では市全体の割合に比して約 5 割であるが、「ややそう思う」が占める割合は市全体に比して約 8 割となっている。

図表 154 今後もいまの地域に住み続けたい (集約)



カイ 2 乗値 33.357 有意確率 0.000

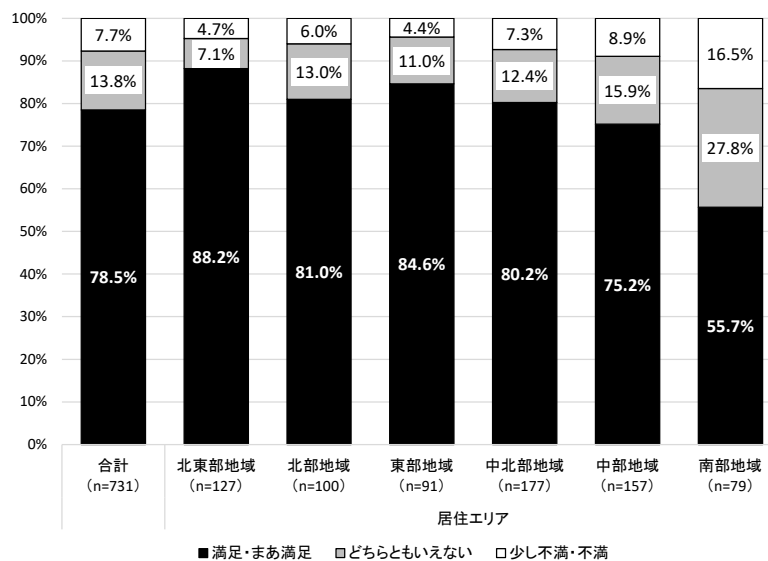
図表 155 地域での生活への満足度



図表 156 に示したのは、地域生活への満足度について回答を集約した結果である。南部地域において肯定的回答が占める割合は、市全体に比して約 7 割である。地域への愛着度、居住意向とも類似の傾向であるといえる<sup>20</sup>。

ただし居住意向については、今後の移動も視野に入れて住居地を選択している場合もあろうし、そのことが愛着度にも影響する可能性はある。特にライフコースの上で、人びとが現在の居住地をどのように位置付けているのかという要因も回答の背景には存在すると考えられる。これらの背景について別途調査が必要であり、今回のアンケートから定まった見解を導き出すことは難しいが、参考として留意したい点である。

図表 156 地域での生活への満足度（集約）



カイ 2 乗値 35.679 有意確率 0.000

### 3-8. 地域の良いところ----自由記述回答から

今回のアンケートにおいては自由記述回答として、居住する地域の「良いところ」について挙げてもらった。ここでは 480 件（北東部地域：79 件、北部地域：66 件、東部地域：66 件、中北部地域：114 件、中部地域：102 件、西部地域：6 件、南部地域：47 件）の回答を、テキストデータを計量分析するアプリケーションである KH Corder を使って分析した<sup>21</sup>。

次ページの図表 157 は、各地域の回答において多く出現している言葉を地域と関連性が強い順に 10 語抽出したものである。それぞれの語の右側に付されているのが、地域との関連の強さを示す係数である。南部地域では「安い」「買い物」「便利」「物価」「交通」など、買い物や交通の利便性を示す語との関連性が強いほか、「人」も関連性の強い 10 語の中に入っている。

また同じく次ページの図表 158 は「共起ネットワーク」という、一定の条件下で「共に出現する」

<sup>20</sup> とよなか都市創造研究所（2017）は地域環境評価と居住意向、地域愛着度が互いに関連することを指摘している。

<sup>21</sup> KH Corder については樋口（2020）を参照。

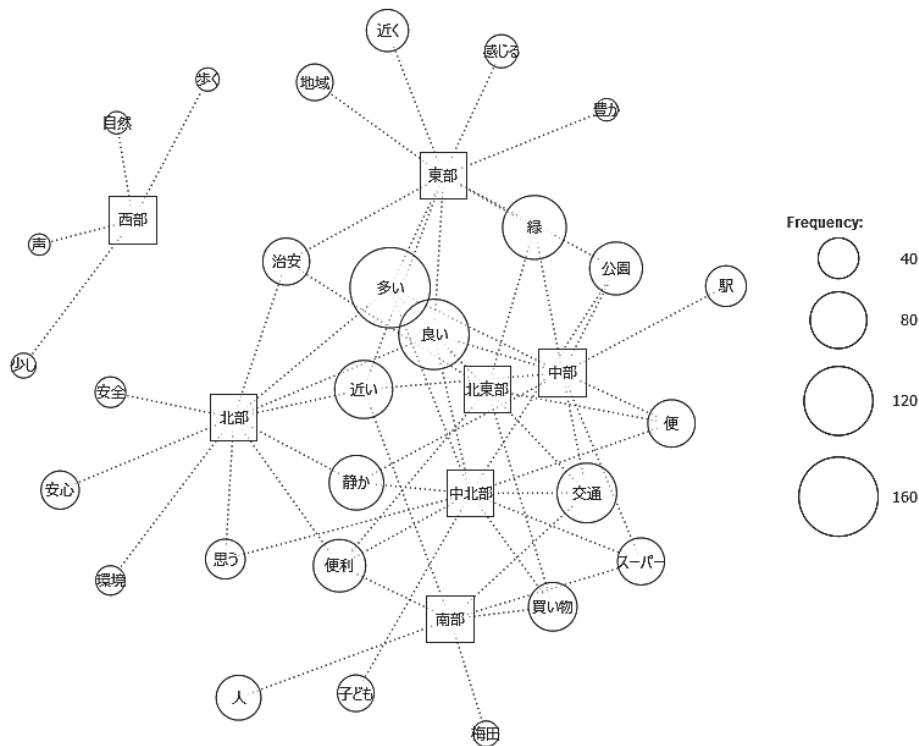
図表 157 7地域ごとの関連語

北東部		北部		東部		中北部	
緑	.223	治安	.123	緑	.235	良い	.163
多い	.194	良い	.111	多い	.148	静か	.153
良い	.142	多い	.104	公園	.111	交通	.118
交通	.131	安全	.101	良い	.104	スーパー	.115
治安	.119	便利	.092	感じる	.099	子ども	.102
便	.107	環境	.089	近く	.097	買い物	.096
買い物	.106	安心	.086	地域	.093	思う	.096
便利	.100	思う	.086	治安	.092	便	.090
人	.082	静か	.085	近い	.085	地域	.076
施設	.081	近い	.085	豊か	.085	生活	.071

中部		西部		南部	
近い	.149	栄える	.167	安い	.149
交通	.133	空	.167	買い物	.106
公園	.107	光	.167	便利	.088
便	.106	工場	.167	物価	.085
スーパー	.093	行動	.167	交通	.082
駅	.085	四方	.167	近い	.080
生活	.070	水	.167	スーパー	.077
病院	.068	生物	.167	人	.074
商店	.066	太陽	.167	梅田	.069
行く	.056	猪名川	.167	便	.063

図表 158 地域を変数とした共起ネットワーク



語同士の関連を示した図である。ここでは地域を変数として、それぞれの地域と共に出現する（すなわち結びつきの強い）語が描かれている。また、複数の地域で頻出する語についても各地域との結びつきが図示されるため、どの語が地域を超えて共通する頻出語であるかも見て取れるようになっている。また、図の右に付された「Frequency」は語の出現頻度である。

南部地域の場合は、「便利」を介して北東部・北部・中北部と、「買い物」を介して北東部・中北部と、「スーパー」を介して中北部・中部と、「交通」を介して北東部・中北部・中部と、「近い」を介して北東部・北部とつながっている。「梅田」「人」は南部地域とのみつながっている語である。ここでは地域の良さについて尋ねているが、南部地域では利便性が強調されているとみられる。

また以下には個別の回答から交通や買い物の利便性以外にも言及されている回答を抽出して引用した。なお、一部重複する箇所等を省略している。「人」についての言及が多いのが特徴的である。

- ・ 下町の雰囲気があり、高速道路も通っているので交通の便がよい。
- ・ 気を遣わず住みやすいところ。
- ・ 割と静か。遅くまでスーパーが開いている。
- ・ みんなやさしく親しみがあるところ。
- ・ 河川敷が近くて散歩するのに適している。道路もきれいに整備されているので、事故なども少なく、安全面では子ども達の通学なども安心できる場所です。
- ・ 音大が近いので、音楽と触れ合える機会が多い。
- ・ 新しい家が増えて、子育て世帯が多い。
- ・ 食料品が安くて良い品が揃う。豊中市の医療のクオリティはかなり高いと感じ、誇れる事である。
- ・ 物価が安い。電車の便がよい。坂がない。気さくな雰囲気がある。
- ・ 駅利用が2路線。梅田までのアクセスがよい。買い物に便利。飲食店も多種類ある。
- ・ 昔からの馴染みの人たちばかりでのんびり暮らせている。
- ・ 買い物しやすい。人がやさしい。交通の便が良い。
- ・ 安心して暮らせる。お店が多い。人が温かい。
- ・ 地元で長く住んでいる人が多く、早朝散歩している人をよく見かける。商店街では色々な世代の方が買い物などに来てにぎわっている。普段通る道が定期的に草刈やゴミ拾いされていてきれい。
- ・ 利便性が良い。物価が高すぎない。近所の人が良い。
- ・ どの道も歩道があり、他の市に住んでいたが豊中が一番整備されている。
- ・ 子供達の遊べる公園がある所。
- ・ 物価が安い。自転車で移動できる範囲でお店が集まっている。
- ・ 病院も近くにあって安心。
- ・ 小学校が少人数で目が行き届きやすい。
- ・ 緑があって静か。

### 3-9. 幸福度・満足度に関する回帰分析

本調査研究ではアンケート調査に基づいて統計的分析を行った。ここでは集計結果の中から、幸福度・個人生活への満足度・地域生活への満足度を従属変数（結果）とし、「食」「スポーツ」「音楽」「社会関係」「地域の印象」を説明変数（要因）とする二項ロジスティック回帰分析を用いている。

ロジスティック回帰分析とは、ある要因が（それが無い場合に比べて）結果にどの程度影響を及ぼすか、あるいは年齢層のように複数に区分けされたカテゴリーを要因とする場合は、カテゴリー内の特定の変数を基準として他の変数がどの程度影響するかを分析するものである。今回調査した「幸福度」を例に挙げれば、「幸福度 7」以上を結果とした場合、ある回答に当てはまるものが、どの程度「幸福度 7」以上に該当する確率を上げるか（あるいは下げるか）を計算するものである。

以下に掲げた図表の中では、質問項目に当てはまることで生じる影響をプラス・マイナスの記号で示した。プラスの記号がついている項目は、結果に対してプラスの要因、マイナスの記号がついている項目はマイナスの要因となる。また影響力の有無については、分析結果が母集団（ここでは豊中市民全体）にも当てはまることを確認する統計的検定によって判断した。ここでは 10%水準で有意な結果（90%の確率でこの結果は母集団にも当てはまる）の場合にプラス・マイナスの記号を付している。

また以下の図表における幸福度は「幸福度 7 以上」としている。また個人生活満足度・地域生活満足度は個人・地域ともに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の肯定的回答を集約したものである。説明変数についても、属性による影響を統制するために含めた年齢・性別・社会的制約（四分位）はそれぞれのカテゴリーであるが、それ以外の質問項目についてはサンプル数を考慮し、肯定的回答・否定的回答等を集約して 2 値の変数とした。

以下の表のうち、説明変数に付された☆印は南部地域の回答が単純集計での市全域の平均を上回っている項目である。※印は今回のアンケートで主に追加された項目を示し、一般的な地域環境評価の項目で関連があるものと合わせて分析している。ただし、分析に際しては、少数であった西部地域の回答は除外した。また説明変数についても類似の変数がある場合は選択してから分析に付すとともに、肯定的回答の度数が極端に少ない項目も説明変数に含めなかった。また本文中では結果のみを示しているため、数値については巻末資料を参照されたい<sup>22</sup>。

なお、各項目に含めている属性（性別・年齢・社会的制約）についてであるが、どのグループにおいても、概ね男性は女性に比して、幸福度に対してはマイナスの結果が出やすい。年齢については 10 歳代・20 歳代に対し、30 歳代と 40 歳代の方が、幸福度にプラスの結果が出るよう作用している場合が多く、個人生活満足度について言えば 10 歳代・20 歳代に対し、上の年齢層の方がプラスの結果が出るよう作用している。地域生活満足度については 40 歳代と 60 歳代でプラスの結果が出やすい。また社会的制約については、幸福度と 2 つの満足度ともに、制約最大に比べ、制約大・制約小・制約最小の方がプラスの影響がある。

それでは以下に、質問項目のグループごとに結果を見ていく。まず「食」に関する項目であるが、☆印を付した項目（南部地域において市全体を上回る比率の項目）を見ると、「買い物が便利な地域である」「新鮮な食材が買える店がある」は、地域生活満足度に対してプラスの影響である（図表 159）。

これに対して「スポーツ」に関する項目では、☆印を付した項目がない。南部地域での回答状況を考

<sup>22</sup> なお、南部地域の特性を踏まえ単身者のみでの分析も試行したが、有意な結果が少なかったため今回の報告には含めていない。

慮せず一般的に言えば、「ランニング」が幸福度、「散歩をする」が個人生活満足度にプラスの影響を及ぼしている（図表 160）。

図表 159 「食」に関する項目の影響

食		幸福度	個人生活満足度	地域生活満足度
性別	対女性			
	男性	-		
年齢	対10歳代・20歳代			
	30歳代	+	+	
	40歳代	+	+	+
	50歳代		+	
	60歳代		+	+
社会的制約	対制約最大			
	制約大	+	+	+
	制約小	+	+	+
	制約最小	+	+	+
	買い物が便利な地域である			☆
	駅周辺の商業地が魅力的な地域である			+
	自分好みの飲食店が充実した地域である		+	
	食に関するイベントが盛んである			※
	ランチをするお気に入りの店がある			※
	新鮮な食材が買える店がある			☆ ※
	食料品を安く買える			☆ ※
	ひとりでも気軽に入れる飲食店がある			※
	とっておきのディナーをする店がある			※
	ゆっくり過ごせるカフェ、喫茶店がある			※
	街を歩くと美味しそうな食べ物の匂いがする			☆ ※

図表 160 「スポーツ」に関する項目の影響

スポーツ		幸福度	個人生活満足度	地域生活満足度
性別	対女性			
	男性	-	-	
年齢	対10歳代・20歳代			
	30歳代	+	+	
	40歳代	+	+	+
	50歳代		+	
	60歳代		+	+
社会的制約	対制約最大			
	制約大			+
	制約小	+	+	+
	制約最小	+	+	+
	公共施設が利用しやすい地域である	+	+	+
	散歩をする		+	
	野球やサッカーなどの球技をする			※
	室内（ジムなど）で運動をする			※
	屋外で体操する			※
	プールで泳ぐ			※
	サイクリングをする			※
	ランニングをする	+		※



図表 161 は「音楽」に関する項目の影響力を示したものである。ここでは☆印のついた項目で影響力が確認されたものはなかった。音楽については高頻度の回答が少数だったことにもよると思われる。

図表 161 「音楽」に関する項目の影響

音楽	幸福度	個人生活満足度	地域生活満足度
性別 対女性			
男性	-		
年齢 対10歳代・20歳代			
30歳代	+	+	
40歳代	+	+	+
50歳代		+	
60歳代		+	+
社会的制約 対制約最大			
制約大	+	+	+
制約小	+	+	+
制約最小	+	+	+
公共施設が利用しやすい地域である	+	+	+
コンサートなどによるクラシック音楽鑑賞 ※			
コンサートなどによるクラシック以外の音楽鑑賞 ☆ ※			
街角での音楽イベント参加 ☆ ※			
カラオケ ☆ ※			
楽器演奏（クラシック音楽） ※			
楽器演奏（クラシック音楽以外） ☆ ※			

図表 162 団体所属・社会関係に関する項目の影響

社会関係：団体所属	幸福度	個人生活満足度	地域生活満足度
性別 対女性			
男性	-		
年齢 対10歳代・20歳代			
30歳代	+	+	
40歳代	+		+
50歳代			
60歳代		+	
社会的制約 対制約最大			
制約大	+	+	+
制約小	+	+	+
制約最小	+	+	+
住民同士のつながりがある地域である ☆			+
町内会・自治会等 ☆			
学校のPTA等、学校関係の団体・組織 ☆			
子育てのサークル ☆			
趣味のサークル			
業界団体・同業者団体		-	
ボランティア・NPO等の市民活動団体やサークル			
道で会えばあいさつを交わすだけの人 ☆	+	+	+
会えば、立ち話したくなる人			
お互いの家にあがって話をする人			
旅行に行ったときに、おみやげを買ってくる人			

前ページの図表 162 は団体所属や一般的な社会関係が及ぼす影響力についてである。ここで☆印を付したもので影響力が確認されたのはまず「住民同士のつながりがある地域である」で、地域生活満足度にプラスの影響がある。また「道であえばあいさつを交わす人が7人以上」に当てはまることは、幸福度・個人生活満足度・地域生活満足度の全てにプラスの影響を有している。

また以下の図表 163 は日常の関わりについて項目の影響をまとめたものである。☆印をつけた項目のうち、「住民同士のつながりがある地域である」は地域生活満足度にプラスの影響である。「用がなくても商店街に行く」については幸福度・個人生活満足度にマイナスの影響が出ている<sup>23</sup>。☆印を付してはいないが、「近所の子どもたちにあいさつをする」が高頻度であることは、幸福度、個人生活満足度、地域生活満足度の全てにプラスの影響がある。

図表 163 日常の関わりについての項目の影響

社会関係：日常の関わり		幸福度	個人生活満足度	地域生活満足度
性別	対女性			
	男性	-		
年齢	対10歳代・20歳代			
	30歳代	+	+	
	40歳代	+	+	+
	50歳代		+	
	60歳代		+	+
社会的制約	対制約最大			
	制約大	+	+	+
	制約小	+	+	+
	制約最小	+	+	+
	住民同士のつながりがある地域である ☆			+
	通行人に道を聞かれる ※			
	子どもたちの遊ぶ声が聞こえる ※			
	近所の子どもたちにあいさつをする ※	+	+	+
	用がなくても商店街に行く ☆ ※	-	-	
	喫茶店で友達とお茶をする ※			-
	常連になっている飲食店がある ※			
	飲食店で見知らぬ人と会話する ※			
	お店の人と世間話をする ※			
	お店の人や店内の様子にユーモアを感じる ※			+
	買い物をしたらおまけしてもらえる ☆ ※			

<sup>23</sup> この要因が何であるのかについてはここでの結果から直接判断することはできないが、同様の調査票を用いる場合があれば、再度質問項目などを精査する必要があると思われる。

図表 164 は地域の祭りに関する項目の影響である。「祭りへの来場者としての参加」は地域生活満足度にプラスの影響、「地域の祭りの保存等に役員として参加すること」は、個人生活満足度にプラスの影響である。

図表 165 は子ども・教育に関する項目の影響であるが、☆印を付した項目はない。回答全般をみれば、「子どもたちが年下の面倒を見ている」が幸福度・個人生活満足度にプラス、「地域には子どもたちの居場所がある」が地域生活満足度にプラスである。

図表 164 祭りに関する項目の影響

祭り		幸福度	個人生活満足度	地域生活満足度
性別	対女性			
	男性	-		
年齢	対10歳代・20歳代			
	30歳代	+	+	
	40歳代	+	+	+
	50歳代		+	
	60歳代		+	+
社会的制約	対制約最大			
	制約大	+	+	+
	制約小	+	+	+
	制約最小	+	+	+
	住民同士のつながりがある地域である	☆	+	+
	地域の祭りに来場者として参加した	☆ ※		+
	みこしの担ぎ手等、地域の祭りの担い手として参加した	☆ ※		
	地域の祭りに事前の準備期間から参加した	☆ ※		
	地域の祭りの保存等に役員として参加した	☆ ※	+	

図表 165 子ども・教育に関する項目の影響

子ども・教育		幸福度	個人生活満足度	地域生活満足度
性別	対女性			
	男性	-	-	
年齢	対10歳代・20歳代			
	30歳代	+	+	
	40歳代	+	+	+
	50歳代		+	
	60歳代		+	+
社会的制約	対制約最大			
	制約大	+	+	+
	制約小	+	+	+
	制約最小	+	+	+
	子どもの教育環境として良好な地域である	+		+
	地域の子どもたちは自分より年下の面倒をよくみている	※	+	
	地域の子どもたち同士の絆が強い	※		
	保護者同士の交流が活発である	※		
	地域には子どもたちの居場所がある	※		+
	近所の人々が地域の子どもたちの面倒を見ている	※		

図表 166 は防災・防犯に関する項目の影響である。☆印を付した項目のうち、「地域に住む高齢者・障がい者（いざという時助けが必要な人）の方を知っている」が肯定的回答の場合、地域生活満足度にプラスの影響、「防災訓練あるいは防犯訓練に参加したい」が肯定的回答の場合、幸福度にプラスの影響である。

図表 166 防災・防犯に関する項目の影響

防災・防犯		幸福度	個人生活満足度	地域生活満足度
性別	対女性			
	男性	-		
年齢	対10歳代・20歳代			
	30歳代	+	+	
	40歳代	+	+	+
	50歳代		+	
	60歳代		+	
社会的制約	対制約最大			
	制約大	+	+	+
	制約小	+	+	+
	制約最小	+	+	+
	防犯面で安心できる地域である		+	+
	災害に対して安全な地域である	+		+
	隣の人がどんな人か知っている		+	+
	地域の子どもの様子がわかる			+
	地域に住む高齢者・障がい者（いざという時助けが必要な人）の方を知っている	☆		+
	地域での見回り活動に参加したい	☆		
	防災訓練あるいは防犯訓練に参加したい	☆		

図表 167 地域の印象に関する項目の影響

地域の印象		幸福度	個人生活満足度	地域生活満足度
性別	対女性			
	男性	-		
年齢	対10歳代・20歳代			
	30歳代	+	+	
	40歳代	+	+	+
	50歳代		+	
	60歳代		+	+
社会的制約	対制約最大			
	制約大			
	制約小	+	+	+
	制約最小	+	+	+
	まちなみが魅力的な地域である			+
	賑わいを感じる	☆	+	+
	安心して街を歩ける	+	+	+
	懐かしさを感じる	☆		
	味のある街だと思う	☆		
	人のあたたかみを感じる	☆		+
	人が寛容である			+
	他人に気兼ねなく過ごせる			+

前ページの図表 167 は地域の印象に関する項目の影響である。☆印を付した項目のうち、「賑わいを感じる」が個人生活満足度・地域生活満足度の双方にプラスの影響がある。また「人の温かみを感じる」は地域生活満足度にプラスの影響力がある。

以上、単純集計で南部地域が市全体を上回った項目を中心に、幸福度と個人生活満足度・地域生活満足度への影響を確認してきた。「新鮮な食材」や「賑わい」「人の温かさ」など、これまでも南部地域の特性と考えられてきたことが影響力を持っていることが確認できる。また「祭りへの参加」も一定の影響力を示している。

また「買い物が便利な地域である」「公共施設が利用しやすい地域である」「住民同士のつながりがある地域である」「子どもの教育環境として良好な地域である」など、これまでのアンケートでも用いられていた項目についても統計的に有意な水準で影響力があつた。このことは、従来からの項目の意義も合わせて確認することのできる結果であつたといえる。

### 3-10. 小括

第 3 章では、アンケート調査結果の集計・分析をもとにして南部地域の良いところ、魅力について考察してきた。先のロジスティック回帰分析の項の末尾で述べたように、これまで南部地域の特性と考えられてきたことに関する設問は幸福度や満足度にプラスの影響をもたらしている。

一方で今回のアンケートで重点を置いた、行動や日常の社会関係に関する設問では、南部地域の回答がアンケート作成時に想定したほど高い水準になる項目が多くなかった。特に音楽やスポーツに関する項目は、南部地域のみでなく市全体で高頻度の回答が少なくなる傾向がある。この点は今後同種の調査研究を行う際には、調査票の再設計の可能性を含め検討課題となる点である。

しかしながら、日常生活でのさまざまな活動や社会関係について、詳細にわたって調査を行えたことは意義のある試みで、同種の調査研究を行う際には参照点となるデータを蓄積できたと考えている。

## 第4章 地域の魅力について「聴く」

### 4-1. インタビューの概要

これまで人口を中心としたデータの分析、アンケート調査結果の集計と分析を通じて南部地域の状況を見てきた。第4章では、地域での居場所づくりなど様々な活動に携わっている方々へのインタビューから、南部地域の現状と「良いところ」を考察していく。

ここでは個別の取り組みを取り上げることにより、南部地域の「良いところ」や可能性に着目していきたい。インタビューの概要は以下図表168の通りである。

図表 168 インタビュー調査の概要

南部地域活性化推進に関する調査研究 インタビュー概要	
実施時期	令和3年（2021年）11月～令和4年（2022年）1月
対象者	南部地域で居場所づくり等の活動に携わる方 4名 井関敦子さん（CJIBOX株式会社代表 ゲストハウス日本宿屋168運営） 上野敏子さん（ごはん処おかえり） 小池繁子さん（しょうないREK、とよなかESDネットワーク） 佐々木妙月さん（株式会社情報の輪サービス代表取締役、NPO法人ZUTTO理事）
方法	半構造化インタビュー
テーマ	南部地域の良いところについて等

インタビュー対象者は、これまで南部地域で地域の住民や事業者、行政とともに公益活動や居場所づくりの取り組みを進め、地域にさまざまなネットワークを持ち、現状をよく知るキーパーソンとして活動してこられた人々である。今回の調査研究を進めるにあたり、アンケート調査の結果も踏まえつつ、地域の状況や特色について聴くために協力を依頼した。

今回インタビューに応じてくださった方々は、第1章でも紹介したとよなか都市創造研究所で実施したまちあるき等に協力いただいております、その際に筆者から調査研究への協力を依頼したほか、研究所の職員を通じて協力への依頼を行った場合もある。またインタビューの分析方法としては、語られた内容からいくつかトピックを抽出し、まとめるという形を取った。ここで抽出したトピックは以下の通りである。

1. 人への関わり
2. 地域の開放性
3. 個店のネットワーク
4. 事業などのスタートに適した街
5. 日常と観光資源
6. 居場所と拠点
7. 南部（庄内）の歴史と現在

インタビュー内容の分析に当たっては、事前に許可を得てインタビューを録音した音声を文字化したうえでその内容から上記のトピックを抽出している。文字化されたインタビューからの引用に際しては発言内容を損なわない範囲内で、間合いを取るために会話に挿入された言葉を省略する等の修正を加えている。また、報告書発行に際しては、事前にインタビュー内容に基づいた箇所をそれぞれの対象者に確認いただき、了承を得たうえで収録した。

それでは、以下にそれぞれのトピックごとにインタビュー内容を参照しつつ考察を進めていきたい。

## 4-2. 南部地域を語るトピック

### 4-2-1. 人への関わり

本報告書の「はじめに」でも触れたように、南部地域のイメージを表すキーワードとして「人情、人のあたたかさ」が良く取り上げられる。このイメージについては、以下のような回答が得られた。

庄内駅前でゲストハウスを営む井関さんは、以前に学校に通訳として派遣されていた経験から、次のようなエピソードを語っている。

でも、人懐っこいところとか人情味があるところとか、そういうのは全然変わってないとは。地元の小学校に行ってたと思うんですけど、自分のこと出来なくても他の子のことが気になる。だから私、通訳行ってた時も外国人の子ども通訳やってるじゃないですか。ちょっと勉強遅れたりとか出来ないとかあったりするんですけど、その時は周りの子どもに頼むんですよ。ちょっと一緒に手伝ってあげてほしいとか、どこどここの教室行く時もどこどこ連れて行ってあげてとか言って。お願いしておけば絶対やってくれるんですよ。次の時に行ったら、「先生、こないだな、僕な連れていったからな」ってちゃんと報告してくれて。そういうことが出来る子ども達がたくさんいたりとか、親御さんも自分しんどくても周りの子どものこととか面倒みないといけないって気にしてくれたり。子ども食堂さんたくさんあるのも、そういう地元のみんを助けよう、みんなで助け合いしようっていうね。そういう気持ちをみんな持ってらっしゃるからだろうなあと思います。自分だけ良かったらいいんじゃないくて、みんなで困ったらサポートしようとか。

ここでは「人との関わり」という点から「誰かをサポートする」ことが取り上げられているが、興味深いことに同種のエピソードは他の人の語りにも見出すことができる。佐々木さんは、庄内駅前にシングルマザーへの就労支援の機能を併せ持った食堂を開店した際、「良いもの」を出すために設定した価格設定について、近隣で働く人々から「値段が高い」と言われたというが、実はそのやり取りには次のような背景がある。

S:「こんなやめとき」とか。でもね、みんな来てくれてましたし、そういう風に言ってた人なんかほとんど毎日来てました。

R: 面白いですね。

S: それは本当にね、親切心でしょうね。「そんなことして続かんやんか」。親切心やと思う。そういう意味ではすごくいい関係性が作れている。それと、今日のテーマにもあるように、繋がりというところをね。やっぱり親しみやすさは、商売してはるからみんな愛想がいいんですよ。当たり前のように

DNAに入ってるから。「まいどー」言いほります、初めての人でも。そこはやっぱり言われて悪い気はしないですね。そういう良さはありますよね。

(※引用文中、Sは佐々木さん、Rは調査者である)

新しく開店した食堂の近隣で働いていた人びとの言い方はストレートではあるが、ここには身近な人を放っておけないという親切心が語られていると思われる。こうした身近な他者に対して世話好きとも言える点が、「人のあたたかさ」のイメージにも寄与しているのではないだろうか。

「しょうない REK」<sup>24</sup>を始め、南部地域での様々な地域活動に携わる小池さんは、地域に住む人の近所づきあいについて、次のような例を出し、語ってくれた。

びっくりしたのは、あの…おばあちゃん。…看護師さんなんですね。一人住まいとかのお住まいの高齢者の家に血圧測りに行ったりするんです。「どうですか」とか。で、(空き家になっているところに)、定期的に郵便物を取ったり、前を掃いたりとかっていうのをしていらっしゃいますよね。なんか自主的にそういうことをされているような感じで。

また庄内駅前で食事の無料提供などの活動を行ってきた「ごはん処おかえり」を営む上野さんも、次のように述べている。

地域の魅力の人の温かさとか下町のっていうのは、絶対、まだ色濃くは残ってると思うんですよ。ここを、うまいことをそれ、それこそ活性化じゃないですけど、やっていくっていうか掘り起こしていくっていうか、のがいいのかな。

しかしながら第3章で見たように、南部地域のアンケートへの回答では「人のあたたかみを感じる」と答える人の割合が市全体を上回っているのに対し、「人が寛容である」と答える人は逆に少なくなっている。この点については「つながりが強い分閉じていくところもあるのではないかと述べた調査者に対し、小池さんは以下のように話している。

多分そんなところあると思うんですけど、いけずじゃないので。いけずじゃないって言ったら変なんですけど、オープンに接していこうとしたら向こうも全然閉じることがなく、オープンに迎えて下さるのかなっていう。

アンケートの回答に見られるように、「人のあたたかさ」に対する肯定的回答が南部地域では多くあり、地域のイメージの基調を成していると考えられる。一方で、その「あたたかさ」は、地域との関わ

<sup>24</sup> しょうない REK は、R (Recycle)、E (Event)、K (瓦版) の頭文字をとって命名された公益活動で、図書館で利用されなくなった本の販売で得た売上金で地域でのイベント等を行う。豊中市市民公益活動推進条例に基づき、豊中市共同事業市民提案制度のもとで、市と市民の協働により行われている。

(豊中市立図書館「リサイクル本の販売 しょうない REK」(<https://www.lib.toyonaka.osaka.jp/web/recicre.html>)を参照)。



りを持つ場面でより顕著に感じられるのではないだろうか。そこで、次に地域の開放性についての語りを見ていくこととする。

#### 4-2-2. 地域の開放性

佐々木さんはもともと大阪市内で事業を営んだのち、庄内で就労支援や居場所づくり、飲食の事業を始めたが、「地域の外」から来た人に対する反応について調査者が尋ねたところ、次のように話してくれた。

私はむしろ、ここの街はね、誰も排除しないかなという印象ですよ。それはなぜかという、それこそ歴史的にここはね、高度成長期にやっぱりたくさんの方が、労働者が入ってきましたよね。そういうことがもう、この街全体に染み付いてますから、その労働者が入ることによってここは潤った街ですからね。そういう意味では、住宅もたくさんできたし、お店もできたし、労働者がたくさん入ってくることによってお風呂屋さんもたくさんできたしということが歴史的にもある街だから。

つまり、歴史的な経緯として高度成長期に多くの人口流入があったことで、地域の開放性が生まれたのではないかということである。佐々木さんはこの「排除しない」ということについては、次のようにも語っている。

庄内は、男性女性がどんな方であれ、生きやすい。で、生きていい、むしろね。居ていい。っていう風に私は思ってた。それがいつも誰も排除しない街って言う風に言ってたんですよ。

すなわち、ここでいう開放性とは「誰であっても」というところにつながってくる。この点では、井関さんも、ゲストハウスを訪れた外国人観光客と地元の人との関わりについて次のように述べている。

ここは多分、地元の方しか会わないので。本当の地元の方の生活とか、そういうのに触れることができるので、地元の方も結構ウェルカムなところがあるから、外国人だからって言うのじゃなく受け入れて下さいますし。そういう素地っていうかな、そういうのはあると思います。

もちろん、地域で他人にどのような関わり方をするのかは人それぞれであるわけだが、先の項での小池さんの話にもあるように、こちらから接していこうとすれば受け入れられるという点が、地域の開放性であるのではないかと考えられる。

#### 4-2-3. 個店のネットワーク

これまで、人との関わり、地域の開放性から地域の魅力に関する語りを見てきたが、次に視点を変えて、人のつながりについて取り上げる。まず以下に紹介するのは、飲食店など地域の個店のネットワークについての語りである。

庄内地域ではこれまで地域の飲食店などによるイベント「庄内バル」が開催されてきた。イベントチケットを購入することで、バルに参加している庄内駅周辺の店舗をリーズナブルな値段で食べ歩きできるという企画である。大阪音楽大学と協力しての音楽イベントと合わせて開催されてきた。

井関さんは、このバルに参加している商店のつながりについて次のように述べている。

地元の商店街さんとかバルやってはった時はすごい飲食店さんとかたくさんあるので、横の繋がりもすごい強いんですよ。なので、私らはバル参加させてもらったりしてたんですけど、その時も泊まってるお客さんにご紹介するじゃないですか。そしたら券買って行ってきて下さったりとかするんですけど、全然知らない人に今日奢ってもらいましたとか。和気あいあいと、雰囲気はバルだからっていうのあるかもしれないですけど。・・・。

そしてそのバルでのつながりが功を奏した例として、グルテンフリーの食事を探す宿泊者に、バルのLINE グループを通じて飲食店を紹介したことを井関さんは挙げている。

その時、バルのLINE グループにグルテンフリーの店ありますかってバーッと投げたら、うちありますーって。ちょうどね、手挙げて下さるんですよ。なので、全然助かったみたい。お客さんにここいけるみたいですよって言って。そんな感じで紹介したりとか、すごいお互いに。普段みんなで集まって何かするってことはないですけど、バルっていうグループが出来たらそこの中でやり取りしたりとか。

ここで示したような個店のネットワークは、庄内地域における「人のつながり」の要素の一つとして捉えることができる。佐々木さんもまた、庄内バルと地域の特性とを結びつけて、以下のように語っている。

庄内というのは非常にコンパクトに、駅を中心に東と西とね。で、割と固まっていますから、そういう意味では繋がりを作るのにすごくやりやすかったなあと考えていて。先ほど言ったように、個店なので、1人オーナーなので、みんな何とかしたいと思っててもそんな余裕はないですよ。で、やっぱり繋がりが持ちたいなって思っているもそれぞれ経営者だから、お互いの店に行くことってなかなかできないですよ。でも、それをバルっていう1つの共通のね、お客さん呼ぶというテーマですから。

それをしようとした時に夜中、それこそ11時とか12時とか、終わってからミーティングするっていうような。当初はね。大変だけれども、やったってことはね、大きいですよ。それは、結構庄内は根付いたんじゃないかなと。それは何故、それが根付いたかという、やっぱ1人オーナーでそれぞれの課題だったからですよ。

・・・何も商店街だけじゃなくて、この庄内という街全体のところもやれたのは大きいかなと思いましたがね。そこでね、夜、やっぱりオーナー同士が話をしたり、上手くいくように色々な意見を言ったりっていうのは大きかったと思います。で、逆に言うと、もっと話し足りなかったら、自分の店が終わ

ったらそこ行って自分の店が休んでたらそこ行ったりとか。という交流があれをきっかけにできたんじゃないかと思います。

庄内駅周辺に個店が集積しているという立地特性が、庄内バルというイベントを通じてのつながりが醸成される背景となったと考えられる。このような立地の特性や街の規模については、次の項で紹介する「事業や生活のスタートに適している」ということにも関わりがある。

#### 4-2-4. 事業などのスタートに適した街

南部地域、とりわけ庄内駅周辺での街の規模の特性と商業との関係について、佐々木さんは以前に事業を営んでいた大阪市内（淀屋橋）と比べながら次のように話している。

ここは商売というかなんだらうな、商売の街でもないんですけど、まあでも暮らしやすい。暮らしと商売が混合しているところなんでしょうね。淀屋橋っていうのは、もう完全にオフィス街ですもんね。

実際、現実に商売やってる飲食やってる人達、または、雑貨やってる人達もやっぱり、1人オーナー多いですよ。それをやはり商売しやすいということだと思いますよね。親方っていうか、1人で商売している人が多い。1人または2人ですよ。2人というのは、一番理想的なのは多分、カップルであったり夫婦であったりっていう。そういう街でもあるな一と思っていて。やはりこの商売がスタートの時がすごくしやすいとこかなと思って。それは、1つは家賃も安いし、買い物もすぐ仕入れもすぐ行けるし、またそこそこに人口があるっていうことで、で、1人暮らしが多い街なので、やっぱり外食ってことがね、確率として多くなると思います。

大きな企業の誘致は大変だけど、何とか起業しようという人達、スタートダッシュに応援できるようなきっかけを作るだけで街は変わるなあって気がします。そういうことができる地域になってほしい。

1人オーナーの個店が開業しやすい家賃、街の規模、人口、といったことが庄内駅周辺の特性としてここでは挙げられている。以下に引用した同じく佐々木さんの語りと合わせて、「新しい生活を始める街」としての南部地域という位置づけが考えられる。

20代の若い世帯が転入しやすい場所っていうのは、暮らしやすい、住宅が安いというところ。それは、言い換えれば、起業もやりやすいってことですよね。物件が安いわけですからね。ある程度、物件を持ちながら住まいも安いわけですから、スターティングにはすごくいいかなっていう風に思っているってことと、それから利便性がいいっていうこと。大阪に10分、新大阪に15分ってね、便利。

以上では、起業など新たな事業をスタートする街としての庄内にスポットが当てられているが、同様のことは「住む」ことに関しても当てはまるのではないかと考えられる。居住についても「新生活」の場として南部地域を位置付けていくというのは一つの考え方であろう。

#### 4-2-5. 日常と観光資源

続いて今回の調査の中で気づかされたことに、南部地域における賑わいの「日常」が、訪れる人にとっての魅力になるということである。以下に引用した語りでは、井関さんが営むゲストハウスに宿泊した外国人観光客が、地域の日常の暮らしを楽しんでいることが取り上げられている。

近くで行けることを知ってるのは、私たちが一番ここに居られてずーっと育ってるからで、「地元の人が行くところに行きましょうか」って。絶対連れて行った所に他の外国の方いないんですよ。自分たちだけなんですよ。それは逆にね、すごく喜ばれましたよ。

また、宿泊客が寄せたコメントにも以下のようなことが書かれていたという。

・・・本当の日本の下町っていう言い方おかしいんですけど、日本の人がどんな風に暮らしてるのか、本当に皆さんが生き生き生活してる様子が体験できる場所だった、みたいに書いてくれて。もうありがとう、それを言って欲しかったみたいな。

ここでは、観光名所ではなく日常の風景自体が訪れた外国人宿泊客にとって魅力的であったことが示されている。そして、周辺のお店への宿泊客の訪問についても「横の繋がりがあるので、すごいお店の方もアットホームですし、お客さん自体もアットホームなので」と井関さんが語るように、これまでに述べてきた「人との関わり」や「個店のネットワーク」といった要素も加味されているように思われる。

#### 4-2-6. 居場所と拠点

ここまでの語りの紹介では、南部地域における「人の温かさ」や「つながり」などポジティブな面に目を向けてきた。一方で本報告書の第1章「はじめに」で述べたような子どもたちの学習課題や、第3章のアンケートで示されたような生活での満足感が相対的に低いことなど、地域が抱える社会課題もある。

次に紹介するのは、このような社会課題に関して人びとをサポートする「居場所」「拠点」についての語りである。今回インタビューに応じてくださった方々は、いずれも「居場所」「拠点」づくりに携わっていて、そこでの体験が下記に引用した語りのもととなっている。

佐々木さんは、女性の就労支援を目的とした食堂（銀座食堂）を開いたことについて、次のように述べている。

例えば、銀座食堂だったら、調理師の資格をね、そこで取って。国家試験だからね。国家試験を取るということはすごい自信になったみたい。履歴書に書けるということと。今まで、そのシングルマザーの多くはやはり、高校中退の方も結構。……。でも、資格があれば、資格とキャリアがあればね、この業界いけますので、そういう意味では働きながら、ただ資格を持つだけではダメなので、経験を積んでいくために銀座食堂であったりとか、場が必要だったんですね。

こうした「場」での活動がそこで働く人の資格取得やスキル・自信の獲得につながったというケースである。このような、課題を抱えた人をサポートする「場」は他にもある。佐々木さんは、運営に携わる「若者居場所ぐーてん」<sup>25</sup>で子ども食堂も開いている。以下はその子ども食堂についての語りである。

今は広がってますけど、こども食堂は校区ごとにね、全部あればいいなど。やっぱり、大体、基本校区ですから、あんまり遠くからね、来れないですし、危ないですしね、夜はね。私たちは、ごはん食べて、6時にごはん食べて、7時にね、片付けしてあと1時間遊んで、色んな事して遊んで、8時になったら「8時やで」って言うってお家に連れて帰る。一緒にね、帰ります。

上野さんは、ごはん処おかえりでの無料弁当の配布などを通じ、地域で困難を抱える人々の話を聴き、さまざまな支援につなげる活動をしている。地域の子どもたちが店を訪れていることも多い。そうした子どもたちとの関わりの中で、生活改善の積み上げが大事なことであり、次のように話してくれた。

その生きていくための力を付けるための教育であるとは私には考えてるので、その積み上げは民間がするしかないのかなみたいな。って言うてもね、そんな大層なこと何もしてないよね。  
立って食べないとかね。食べながらゲームしないとか。普通のオカンが言うてることです。家で。

井関さんもまた、ゲストハウスの活用法として、子どもの居場所づくりを考えているとして以下のよう話してくれた。

今ちょっと、こうインバウンド下火なので、ちょうどね今は地元の方に使っていただけるように色々考えている途中なんですけど、今NPOの方々と繋がりが出来てきたので、子どもの居場所とか、こども食堂はちょっとうちは難しいんですけど、どうしてもお家の都合でお勉強がなかなかしんどい子どもさんとか、日常生活しんどい子どもさんとかいらっしやったり。。。私、しんどいって言葉あんまり使いたくなくて。先が楽しみな子どもさんっていう風に言いたいなと思ってるんですけど。色んなことができる、可能性を持ってる子どもさんたくさんいるので、そういった方々をサポート出来るような場所にしたいなと思っていて。

小池さんも、子どもの居場所づくりについて次のように語っている。ここでは学習塾としての活動に触れられているが、語りの末尾にある「全部子どもから」という点は、他の人の語りとも通ずる点であり、多くの人の活動において「子ども」への関わりが重要な契機になっているのではないかと考えられる。

<sup>25</sup> NPO 法人 ZUTTO により運営されている。不登校やひきこもりなど生きづらさを抱えた若者が定期的に通うことのできる居場所として活動している（「居場所ぐーてん」ホームページ ([https://guten.npo-zutto.com/?page\\_id=7](https://guten.npo-zutto.com/?page_id=7)) を参照)。

で、子どもの居場所をしないといけないなと思ったのは、やっぱり家出する子とか、家におれない子とかがいるみたいなのを聞いてたから、それやったらうちにいいから連れておいで言ったんです。で、何回かやっぱりそういう子来たんですけど、その家でみんな受け入れることできないし、やっぱり何か要るよなっていうことをその時に思ったっていうのが始まりかもしれないし、あの子どもたちが、大きくなるにつれて課題ってどんどん変わっていくというか、話題も変わってくるし、ちょっとそれ良くないよねっていう話になった時に、それなら何かできないかなって自分で考えて、じゃあまあ、例えば学習塾するから来てもらって勉強したらと、なんかそういうふうなのがきっかけですね。全部子どもからかなっていう気がします、今思えば。

また、小池さんは体験を通じた子どもの教育について以下のように語っている。これも、市民による特色ある居場所づくりの例である。

しょうないREKでいろいろやったのが、塾に行っていない分とか勉強しない分、もっと文化的なものとか、情操教育とか、そういうものに力を入れて、絶対生きていく力はそっちのほうがつくと思うから、あの「なんで庄内の子らってあんななん」で思わせるような体験をあのちっちゃい時からさせていこうみたいな感じで、歌舞伎の先生呼んで子ども歌舞伎やったり。なんか大道芸教えてもらったりとか、そういうことも含めて、子どものことをいろいろやってきてたんです。

以上、この項では課題を抱えた人びと、また子どもたちの居場所、サポートの場としての拠点について述べてきた。社会課題への対応は、地域の魅力という本章の趣旨からはやや逸れるかもしれないが、南部地域で重点的に取り組まれていることであり、ここで紹介した様々な拠点は地域にとっての重要な資源であると言える。

#### 4-2-7. 南部（庄内）の歴史と現在

インタビューから得られた視点の最後に、「南部（庄内）地域の歴史と現在」というトピックを紹介しておきたい。南部地域には、庄内駅周辺を中心に昭和時代、戦後の高度成長期の中で多くの人口が流入したが、時代が変わるにつれて人口減少に転じていったという経緯がある。第3章のアンケートで、地域の印象として「懐かしさを感じる」という項目が当てはまるという回答の割合は南部地域が最も多かったように、南部地域の街並みには昭和時代の雰囲気の色濃く残しているところがある。一方で、住宅の建て替えが進んでいるところもあり、第1章でも述べたように地域が変化の中にあるとも言える。この歴史的な経緯と現在の変化も地域の特色と考えられる。

まず地域の歴史についての語りを見てみる。例えば、井関さんはゲストハウスが入居している建物がかつて映画館だったことに触れ、次のように述べている。

私ら小さい時はちょうどマクドナルドが出来て。マクドナルドなかったんですよ。マックが出来て珍しいから、お母さんにマック買って一っお願いして食べてたんですよ。今は百円とか二百円で食べれますけど、小さい時は三百円とか四百円とか。・・・で、夏休みとか冬休みになったらここで東映まんがまつりって映画やってたんですよ。それも行きたいから、お父さんお母さんに頼んで、映画行きた

ーいって頼んで映画行ってたんですよ。だから、ここでね、私ね、できるかどうか分からないんですけど、自主上映っていうんですか、映画。自主上映をやりたいなあって思ってた。

ここではマクドナルドが日本に店舗を展開しだした頃や街の映画館の存在など、昭和年代の後期の風景をこの語りから想起することができる。かつて映画館であった建物で映画会を行うことは、当時の街を思い出し、地域の歴史を意識することにもつながるだろう。また、地域の歴史が重要ではないかという調査者の問いに対して、佐々木さんも次のように述べている。

今単身のね、高齢男性たちはみんな、高度成長期に十分の働きをして……。で、そういう人達を大事にしていく。で、そこら辺は理解しておくことが大事なので。それこそ、この街の歴史をね、ちょっと簡単に冊子で置いておくとか、いいですよ。

都市が変化する中で、歴史を記録しておくということも重要なことである。その意味では、南部地域はその歴史が現状から想起できる状況にもあるといえよう。現存している建物を活用したりするなどして都市の歴史を認識できる場にもなりうると考えられる。

他方、地域の変化を示す語りもある。上野さんは地域活動の担い手について次のように話している。

そうですね、ちょうど 50 代、私らの世代っていうのは、今若いママ達のおばあちゃん世代になるんですね。で、この世代って、なんだかんだ言って庄内に残ってるんですね。それで、やっぱり代々、この庄内に居付くというか、住み付いてるというか、そういう世代は横繋がりも結構ありますし。ただ、阪神淡路の震災でだいぶね、中に居てる人の入れ替わりも大きかったんで、その辺りから歪みっていうか、その前から居てる層と新しい層でちょっと色んな、言い方悪いんですけど、分断っていうのは始まってきてるのかなって。だから、いきなりどの人かも南部に居てるからできるかって言ったら、まずできない。だから、やっぱり、その要になってくるのは 50 代以上。元気に動ける 70 代前半とか。その辺の層の人達なのかなって。

新たに転入してくる人びとと以前から居住している人びととのネットワークの違いは、もちろんある。人のつながりの変化もここでは示唆されているように思われる。

また小池さんは、南部地域での新しい住宅の状況について次のように述べている。

でも、あの最近私、赤ちゃん訪問<sup>26</sup>も行ってて思うのは、あのえっと工場とかの倉庫とかの空き地に新しい一戸建てが建ち始めてるんですよ。で、そこの一戸建てにその赤ちゃんの産まれたおうち……。行くと、そういうおうちが何戸かあったので、今まで。マンションだと賃貸で借りてると、もうちょっといいとこ住むかって言って、北の方に行っちゃうけど、家買うのは絶対チャンスだと思うんですよ。

<sup>26</sup> 「赤ちゃん訪問」は、「豊中市こんにち赤ちゃん事業（豊中市乳児家庭全戸訪問事業）」を指す。生後 4 か月までの乳児のいる全家庭を保健師や保育士が訪問し、相談や情報提供を行う。

このように地域において住宅の更新が進めば、戸建てに居住するというのが一つのポイントとなる可能性ももちろん考えられるのである。また、小池さんは以下のようにも述べている。教育環境の変化や住宅の更新からの地域の可能性がここには示唆されているように思われる。

それこそ小中一貫校ができて、それを売りに教育環境も新しいそういうものでやっていけるっていうことであれば、その怖いとこっていうのは、もうずっと昔の昔の人たちの話で、今はもうこんなふうになってるんだよみたいなふうになれば、結構集まってくれるような気はしますけど。豊中の人、豊中好きなんで絶対出ないんですよ。なかなか外に。で自分が生まれ育ったそのエリアに住みたい感じがすごく多いんで。なかなか・・・無理かもしれないけど、でも、あの新しく豊中に来られる人たちがこっちの戸建てを買ってくれると良いなっていうのを。

以上、地域の歴史と変化についての語りを見てきた、現在の南部地域におけるこれまでの歴史を感じられる街並みと新たな住宅、以前からの人のつながりと新たな住民の関わり、このような歴史と変化が混合する状況を活かした地域の活性化も考えられるのではないだろうか。

#### 4-3. 小括

本章では、地域での活動に携わる方々へのインタビューを通じて、魅力を中心とした地域の特徴について考察してきた。限られた人数のインタビューではあったが、それぞれの方から示唆に富んだ視点を得ることができたと考えられる。

特に南部地域の特徴として言われてきた「人のつながり・あたたかさ」や「街の賑わい」、そして「街の懐かしさ」といった特性に対して、新たな住民・住宅などの地域の変化があることがここでは確認できた。

また、居場所・拠点といった「場」づくりは、地域の社会課題に対応するものであるが、これまでの地域のあり方と変化する地域のあり方をつなぐものとして機能するようにも思われる。ここまでの研究結果を踏まえて、次章ではこのような「場」の可能性も踏まえつつ、本調査研究全体を振り返って結論を述べていくこととしたい。



## 第5章 おわりに

### 5-1. 調査研究の主な結果

本調査研究報告書では、地域のイメージと人との関わりという視点から、南部地域の活性化に寄与するため、特に地域の良さ・魅力というポジティブな側面を意識して現状の把握と分析を行ってきた。本章では報告書のまとめとして全体の内容を振り返るとともに結論を述べる。

第1章で示した調査研究の背景と目的に従って、第2章では人口などのデータ分析、第3章ではアンケート調査の回答集計と分析、第4章では地域のキーパーソンへのインタビューを通じた視点の深化という順序で考察を行ってきた。

第2章での人口データの分析からは、南部地域の人口減少が続いているものの、人口移動の傾向が変化していることを指摘した。転入増となる年代が多くなっていることなど、これまでとは異なる傾向が生じてきている。ここでは現状の確認が主であり、転入増加の要因等については確定したことを述べられないが、今後もこの傾向が続くのかどうか、また続くのであればその要因は何であるのかを調査していくことは地域の活性化にとっても重要な参照点になると考えられる。

第3章のアンケート調査の結果からは「問い方を変えればポジティブな評価がより多く得られる」という当初想定した成果について、顕著に確認することはできなかった。しかしながら、日常の様々な要素にわたって、地域での生活への満足度や幸福度との関連を見出してきたことは、地域の活性化を考える上での参考になるのではないかと考えている。

第4章のインタビュー調査の結果からは、地域での人のつながりなど南部地域の魅力・良いところについて様々な興味深いエピソードから、「人への関わり」「地域の開放性」「個店のネットワーク」「事業などのスタートに適した街」「日常と観光資源」「居場所と拠点」「南部（庄内）の歴史と現在」という7つのトピックを抽出した。これらは、第3章でのアンケート調査での現状把握と併せて、地域の活性化についての視点を考察する手がかりとなる。

以下では特に第3章でのアンケート調査の結果、第4章でのインタビュー調査での結果を組み合わせながら、本調査研究報告書の結論として南部地域の活性化に関する視点を提示したい。

### 5-2. 地域資源の可視化とアンケート調査について

本報告書の第3章ではアンケート調査結果の集計・分析を通じて、南部地域の魅力・良いところについて統計的手法を用いて確認する試みであった。先に「5-1. 調査研究の主な結果」で述べたように当初想定したほど顕著な結果は得られなかったが、南部地域が市全体での回答を上回った項目も一定数あることから、これらの項目で示されていることを地域資源として可視化する（アピールポイントとする）ことも活性化にとって一つのポイントである。

またアンケートの中で「食」に関する項目でみられたように「強い肯定」では比較して南部地域が多い割合であっても、肯定的回答を集約すると他地域に比べて少なくなる場合がある。これは地域の魅力が、それにマッチする人には強く訴えかけるということである。こうした「強い肯定」を引き寄せる地域資源について着目することも一つの方向である。

さらに、逆に「強い肯定」は比較的少ないものの、肯定的回答を集約すると他地域に近い割合になる回答もある。このような場合は当該の要素をより振興するなどの策も考えられる。

合わせて、今回のアンケートでの試みのように地域資源を調査研究すること自体が可視化の作用の一つである。その意味では調査票の設計も含め、本調査研究で明らかになった課題がある。第3章での小括で触れたような「音楽」や「スポーツ」など設問でのワーディング（問い方）、その他にも対象者数の設定など、質問紙や調査手法・手順をより洗練させていくことで、さらに正確な結果を得られるように改善することが重要である

### 5-3. 地域の開放性と「人が交わる場」の重要性

本調査研究を振り返ると、南部地域の良いところ・魅力といった点では「人の温かさ」をベースとした「人との関わり」が確かに存在するように思われる。しかしながら、一方でアンケート調査において一般的信頼について尋ねた際には他地域と比較して高信頼度となる割合が少ない。第4章のインタビュー調査の結果において「人との関わり」「地域の開放性」の項で取り上げたように、南部地域のベースとしてある「人の温かさ」は地域への関わりによってより強く感じられるものになるとすれば、一般的信頼なども地域への接点を設けることで、信頼度を高めていくことができるのではないだろうか。

特に第4章で「地域の開放性」について触れたように、関わりを持つことによってその開放性がより発揮されるのであれば、その関わりを醸成し、促進する「場」の存在が重要である。

第2章の人口データの分析で見えてきたように南部地域では若い世代の転入・転出の動きが活発になっており、転入が超過する状況となっている。また第4章のインタビューにもあるように、住宅の更新に伴い移住してくる人もあると考えられる。これらの点を考え合わせると、従来からある南部地域の「人の温かさ」などのポテンシャルを、新たな住民を含めて、ある程度オープンな形で発揮できる仕組みを整えていくことが考えられる。

その意味では南部地域に「人が交わる場」が設けられることは重要な意味を持つ。ここで述べたことは現在建設中の（仮称）南部コラボセンターの機能に当てはまり、現在進行中の活性化施策との符合もある。

特に今回の調査研究は地域の良いところ・魅力を主題としているが、この研究を通して地域の課題について改めて認識することも多かった。例えば「子どもの居場所がある」と思えることなど、現時点のアンケートでの南部地域での回答が少ない項目でも、幸福度などにプラスに影響する項目がある。このような点は「人が交わる場」が設けられることで、南部地域においても肯定的評価が増えることが期待できる。

以上の点から考えれば本調査研究の主な結論は、南部地域のポテンシャルの発揮を促進する場所づくりの重要性であり、現在進行中の活性化施策にも接続されうるものであると考える。

### 5-4. 今後の課題

以上、本調査研究を通して、南部地域のイメージをめぐる考察を行ってきた。調査研究の結論は以上であるが、最後に今後に残された調査研究上の課題について述べておきたい。

本調査研究の意義としては、南部地域のイメージについてこれまでさまざまな文脈で述べられてきたことを、一定の客観的な根拠をもって示すことができた点にある。「人の温かさ」「人との関わり」などは確かなものとして、南部地域の良いところであるといえる。

ただし、今回の調査研究では南部地域の資源の中でも「音楽」「スポーツ」「食」については触れることができたが、「ものづくり」についてはほとんど言及することができなかった。南部地域の「ものづくり」も地域の活性化を語るには大事な要素であり、調査研究に組み入れることが重要である。

また地域のイメージや資源について、アンケート調査ではできるだけ具体的な言葉や日常的な言葉で抽出できるよう工夫を重ねたが、その効果については1回の調査のみでは測りきれないところがある。例えば、地域の印象で「味のある地域である」という項目については南部地域で多くの肯定的回答を得られたが、ここでいう「味」とは何を指し示しているのだろうか。このような項目について問いを細分化しさらに調査していくことも興味深い点である。同様のことは肯定的回答が少なかった「安心して街を歩ける」のような防犯・防災に関する意識に関する項目にもあてはまる。治安に関するネガティブな意識があるとすれば、それについて細分化して問うことも有益である。

さらにアンケート調査についていえば、本調査研究は南部地域活性化についての研究であると同時にアンケート調査での問いに日常性を取り入れるなど、調査手法についての研究にもなっている。この点はまだ洗練が必要であると考え、今後同種の調査研究がなされる場合には、留意しておきたい点である。

インタビュー調査では地域のキーパーソンにお話を伺い多くの有益な視点を得た。今回は調査研究報告書の上でアンケート調査の集計・分析に多くの紙幅を割くこととなったが、今回の調査研究の主題に関していえばインタビューなど質的なアプローチに重点をおいた研究の展開もまた可能である。この点も今後の調査研究上の留意点としておきたい。

以上が本調査研究から得られた今後の課題である。

## 参考文献

- 樋口耕一, 2020, 『社会調査のための計量テキスト分析——内容分析の継承と発展を目指して[第2版]』ナカニシヤ出版.
- 稲葉陽二, 2011, 『ソーシャル・キャピタル入門』中央公論新社.
- お茶の水女子大学, 2014, 『平成25年度全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究』.
- Putnam, Robert, 1993, "Making Democracy Work", Princeton University Press. (=2001, 河田潤一訳『哲学する民主主義——伝統と改革の市民的構造』NTT出版.)
- 島原万丈+HOME'S 総研, 2016, 『本当に住んで幸せな街 全国「官能都市」ランキング』光文社.
- 鈴木淳子, 2016, 『質問紙デザインの技法 [第2版]』ナカニシヤ出版.
- 豊中市, 2014, 『(仮称) 南部コラボセンター基本構想』.
- 豊中市, 2018, 『南部地域活性化基本構想』.
- 豊中市, 2020, 『南部地域活性化基本計画』.
- 豊中市教育委員会, 2017, 『庄内地域における「魅力ある学校」づくり計画』.
- 豊中市教育委員会, 2020, 『(仮称) 庄内さくら学園・(仮称) 南校リーフレット』.
- とよなか都市創造研究所, 2013, 『道路整備に伴う居住者特性の変化の調査—庄内駅西部地区を事例として—』
- とよなか都市創造研究所, 2014, 『道路整備に伴う居住者特性の変化の調査Ⅱ—庄内駅西部地区における都市更新状況をふまえて—』
- とよなか都市創造研究所, 2017, 『南部地域の活性化に向けた調査研究Ⅰ』.
- とよなか都市創造研究所, 2018, 『南部地域の活性化に向けた調査研究Ⅱ』.
- とよなか都市創造研究所, 2022a, 『少子高齢社会における人口の変化と市政への影響に関する調査研究Ⅳ—人口の現状把握および人口把握手法の精緻化—』.
- とよなか都市創造研究所, 2022b, 『豊中市のアンケート調査の活用に関する調査研究—市民ニーズ等の把握手法の検討—』.
- 山岸俊男, 1999, 『安心社会から信頼社会へ——日本型システムの行方』中央公論新社.
- 総務省統計局, 2021, 『令和3年社会生活基本調査』(<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2021/index.html>, 2021年7月1日閲覧.)

## 謝辞

本調査研究を行うにあたり、多くの方にご指導、ご協力をいただきました。

特に、アンケートにご回答いただいた市民の皆様、インタビューに応じてくださった地域の皆様にはご多用中のところご協力をいただき、まことにありがとうございました。

とよなか都市創造研究所運営委員会の皆様には、調査研究の計画から実施に至るまで様々なご助言を賜りました。感謝を申し上げます。

# 資料

## 【資料1】二項ロジスティック回帰分析の結果

設問内容の右側に付した☆印は南部地域の回答割合が市全体よりも上回っている項目を示し、※印は今回のアンケートで新たに盛り込んだ項目を示す。

「食」について	幸福度			個人生活満足度			地域生活満足度		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
性別 対女性									
男性	-0.737 ***	0.183	0.478	-0.275	0.195	0.759	-0.111	0.227	0.895
年齢 対10歳代・20歳代									
30歳代	0.719 **	0.344	2.052	0.700 **	0.355	2.014	0.274	0.407	1.315
40歳代	0.813 **	0.317	2.255	0.689 **	0.321	1.992	0.920 **	0.392	2.510
50歳代	0.401	0.314	1.494	0.761 **	0.326	2.140	0.535	0.378	1.708
60歳代	0.307	0.323	1.359	0.978 ***	0.340	2.658	0.812 **	0.400	2.252
社会的制約 対制約最大									
制約大	0.415 *	0.252	1.514	0.491 *	0.254	1.633	0.604 **	0.285	1.830
制約小	0.923 ***	0.262	2.517	1.231 ***	0.273	3.426	1.557 ***	0.322	4.747
制約最小	0.820 ***	0.267	2.271	1.521 ***	0.291	4.578	1.635 ***	0.351	5.129
買い物が便利な地域である ☆	0.027	0.240	1.027	-0.193	0.250	0.824	0.473 *	0.267	1.605
駅周辺の商業地が魅力的な地域である	0.188	0.215	1.207	0.279	0.229	1.321	0.790 ***	0.297	2.202
自分好みの飲食店が充実した地域である	0.408	0.256	1.504	0.548 *	0.282	1.730	0.487	0.367	1.628
食に関するイベントが盛んである ※	-0.180	0.260	0.835	0.399	0.290	1.490	-0.126	0.343	0.881
ランチをするお気に入りの店がある ※	0.365	0.231	1.440	0.014	0.241	1.015	0.496	0.305	1.642
新鮮な食材が買える店がある ☆ ※	0.260	0.220	1.297	0.322	0.227	1.379	0.514 *	0.264	1.672
食料品を安く買える ☆ ※	0.085	0.207	1.089	0.204	0.218	1.226	0.073	0.261	1.076
ひとりでも気軽に入れる飲食店がある ※	-0.129	0.206	0.879	-0.061	0.215	0.941	0.148	0.252	1.160
とっておきのディナーをする店がある ※	-0.041	0.241	0.959	0.213	0.261	1.238	0.797 **	0.354	2.220
ゆっくり過ごせるカフェ、喫茶店がある ※	0.080	0.225	1.083	-0.020	0.236	0.980	0.092	0.281	1.096
街を歩くとき美味しそうな食べ物の匂いがする ☆ ※	0.023	0.248	1.023	0.051	0.267	1.052	-0.333	0.326	0.717
定数	-0.592	0.391	0.553	-0.968 **	0.405	0.380	-1.362 ***	0.465	0.256
	疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.137			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.165			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.256		
	対数尤度 753.314			対数尤度 693.184			対数尤度 534.497		
	カイ2乗値 66.128***			カイ2乗値 77.929***			カイ2乗値 113.232***		
	N=628			N=632			N=632		
	*p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			*p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			*p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01		

「スポーツ」について	幸福度			個人生活満足度			地域生活満足度		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
性別 対女性									
男性	-0.814 ***	0.188	0.443	-0.331 *	0.199	0.718	-0.148	0.223	0.862
年齢 対10歳代・20歳代									
30歳代	0.851 **	0.347	2.342	0.956 ***	0.363	2.600	0.329	0.390	1.389
40歳代	0.960 ***	0.316	2.611	0.887 ***	0.322	2.429	1.068 ***	0.376	2.908
50歳代	0.462	0.312	1.588	0.867 ***	0.327	2.379	0.430	0.358	1.537
60歳代	0.400	0.323	1.492	1.017 ***	0.341	2.766	0.737 *	0.378	2.089
社会的制約 対制約最大									
制約大	0.320	0.250	1.378	0.388	0.251	1.475	0.584 **	0.270	1.794
制約小	0.822 ***	0.264	2.275	1.109 ***	0.274	3.031	1.421 ***	0.312	4.142
制約最小	0.879 ***	0.264	2.408	1.572 ***	0.290	4.816	1.805 ***	0.337	6.077
公共施設が利用しやすい地域である	0.422 **	0.180	1.525	0.681 ***	0.188	1.976	0.937 ***	0.212	2.552
散歩をする ※	0.278	0.190	1.321	0.506 **	0.200	1.658	0.342	0.224	1.407
野球やサッカーなどの球技をする ※	-0.105	0.415	0.900	0.489	0.501	1.631	-0.135	0.523	0.873
室内（ジムなど）で運動をする ※	0.054	0.288	1.056	0.018	0.307	1.018	-0.081	0.346	0.922
屋外で体操する ※	0.405	0.425	1.500	0.439	0.478	1.551	0.700	0.566	2.013
プールで泳ぐ ※	-0.164	0.450	0.849	-0.659	0.460	0.518	-0.724	0.510	0.485
サイクリングをする ※	0.002	0.222	1.002	-0.079	0.233	0.924	0.262	0.273	1.300
ランニングをする ※	0.739 **	0.340	2.093	0.405	0.355	1.499	0.041	0.394	1.042
定数	-0.691 **	0.352	0.501	-1.291 ***	0.368	0.275	-0.817 **	0.398	0.442
	疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.148			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.181			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.193		
	対数尤度 755.417			対数尤度 691.511			対数尤度 574.806		
	カイ2乗値 72.265***			カイ2乗値 86.976***			カイ2乗値 85.118***		
	N=636			N=640			N=641		
	*p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			*p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			*p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01		

「音楽」について	幸福度			個人生活満足度			地域生活満足度		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
性別 対女性									
男性	-0.759 ***	0.182	0.468	-0.263	0.192	0.769	-0.136	0.220	0.873
年齢 対10歳代・20歳代									
30歳代	0.806 **	0.341	2.239	0.930 ***	0.354	2.534	0.351	0.391	1.421
40歳代	0.933 ***	0.315	2.543	0.854 ***	0.320	2.348	1.021 ***	0.377	2.777
50歳代	0.342	0.310	1.407	0.769 **	0.323	2.158	0.332	0.360	1.394
60歳代	0.367	0.315	1.444	0.953 ***	0.331	2.593	0.761 **	0.375	2.140
社会的制約 対制約最大									
制約大	0.445 *	0.249	1.560	0.444 *	0.249	1.558	0.612 **	0.269	1.844
制約小	0.993 ***	0.262	2.701	1.153 ***	0.269	3.167	1.483 ***	0.308	4.407
制約最小	1.055 ***	0.264	2.871	1.578 ***	0.286	4.846	1.911 ***	0.340	6.763
公共施設が利用しやすい地域である	0.431 **	0.178	1.539	0.663 ***	0.186	1.941	0.963 ***	0.213	2.620
コンサートなどによるクラシック音楽鑑賞 ※	-0.197	0.356	0.821	0.219	0.403	1.245	-0.262	0.441	0.770
コンサートなどによるクラシック以外の音楽鑑賞 ☆ ※	0.260	0.356	1.297	-0.087	0.361	0.917	0.235	0.437	1.265
街角での音楽イベント参加 ☆ ※	0.152	0.541	1.165	0.326	0.588	1.385	0.598	0.724	1.818
カラオケ ☆ ※	0.402	0.249	1.495	0.087	0.253	1.091	0.154	0.289	1.166
楽器演奏（クラシック音楽） ※	-0.388	0.472	0.679	0.021	0.533	1.021	-0.810	0.538	0.445
楽器演奏（クラシック音楽以外） ☆ ※	0.217	0.462	1.243	0.144	0.510	1.155	-0.061	0.548	0.941
定数	-0.615 *	0.348	0.540	-1.007 ***	0.358	0.365	-0.598	0.395	0.550
	疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.131 対数尤度 767.483 カイ2乗値 63.956*** N=635 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.148 対数尤度 712.454 カイ2乗値 70.421*** N=639 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.186 対数尤度 578.088 カイ2乗値 81.363*** N=640 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01		

団体所属・社会関係について	幸福度			個人生活満足度			地域生活満足度		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
性別 対女性									
男性	-0.567 ***	0.192	0.567	-0.172	0.204	0.842	-0.032	0.232	0.968
年齢 対10歳代・20歳代									
30歳代	0.587 *	0.347	1.799	0.747 **	0.361	2.110	0.137	0.391	1.147
40歳代	0.653 **	0.330	1.922	0.541	0.334	1.717	0.730 *	0.391	2.074
50歳代	0.042	0.325	1.043	0.472	0.334	1.603	0.144	0.371	1.155
60歳代	-0.095	0.338	0.909	0.662 *	0.351	1.938	0.637	0.400	1.891
社会的制約 対制約最大									
制約大	0.487 *	0.254	1.628	0.425 *	0.250	1.529	0.548 **	0.274	1.730
制約小	0.962 ***	0.268	2.617	1.095 ***	0.272	2.989	1.455 ***	0.317	4.283
制約最小	0.978 ***	0.269	2.659	1.583 ***	0.290	4.872	1.887 ***	0.344	6.601
住民同士のつながりがある地域である ☆	-0.050	0.211	0.951	0.300	0.220	1.350	1.087 ***	0.286	2.966
町内会・自治会等 ☆	0.219	0.211	1.245	0.268	0.221	1.308	0.011	0.253	1.011
学校のPTA等、学校関係の団体・組織 ☆	-0.238	0.291	0.789	0.060	0.305	1.061	0.320	0.379	1.377
子育てのサークル ☆	0.471	0.694	1.602	0.780	0.790	2.180	0.028	0.833	1.029
趣味のサークル	-0.230	0.307	0.794	0.156	0.338	1.168	0.238	0.408	1.269
業界団体・同業者団体	-0.463	0.439	0.629	-1.112 **	0.443	0.329	0.163	0.610	1.178
ボランティア・NPO等の市民活動団体やサークル	0.577	0.468	1.780	0.409	0.482	1.506	0.765	0.656	2.150
道で会えばあいさつを交わすだけの人 ☆	0.624 ***	0.237	1.867	0.517 **	0.246	1.676	0.652 **	0.295	1.919
会えば、立ち話したくなる人	0.149	0.232	1.160	-0.101	0.243	0.904	0.002	0.274	1.002
お互いの家にあがって話をする人	0.281	0.283	1.324	-0.235	0.292	0.791	-0.420	0.347	0.657
旅行に行ったときに、おみやげを買ってくる人	-0.110	0.251	0.896	-0.023	0.259	0.978	0.134	0.296	1.143
定数	-0.364	0.342	0.695	-0.552	0.348	0.576	-0.401	0.387	0.670
	疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.154 対数尤度 746.114 カイ2乗値 74.794*** N=631 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.148 対数尤度 704.523 カイ2乗値 69.713*** N=634 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.198 対数尤度 565.287 カイ2乗値 86.509*** N=635 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01		

日常の関わりについて	幸福度			個人生活満足度			地域生活満足度		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
性別 対女性									
男性	-0.662 ***	0.191	0.516	-0.229	0.201	0.795	-0.118	0.231	0.888
年齢 対10歳代・20歳代									
30歳代	0.681 **	0.345	1.976	0.733 **	0.357	2.081	0.013	0.400	1.013
40歳代	0.703 **	0.323	2.019	0.639 *	0.327	1.895	0.760 *	0.390	2.138
50歳代	0.277	0.316	1.319	0.654 **	0.327	1.924	0.250	0.371	1.285
60歳代	0.255	0.327	1.291	0.877 **	0.342	2.403	0.718 *	0.396	2.050
社会的制約 対制約最大									
制約大	0.431 *	0.250	1.540	0.424 *	0.249	1.529	0.511 *	0.276	1.667
制約小	0.990 ***	0.264	2.692	1.232 ***	0.271	3.427	1.604 ***	0.321	4.973
制約最小	0.975 ***	0.263	2.651	1.598 ***	0.283	4.941	1.928 ***	0.340	6.872
住民同士のつながりがある地域である ☆	0.100	0.197	1.106	0.332	0.209	1.394	1.057 ***	0.275	2.878
通行人に道を聞かれる ※	-0.068	0.193	0.934	0.162	0.202	1.176	0.103	0.236	1.109
子どもたちの遊ぶ声が聞こえる ※	-0.037	0.315	0.964	-0.074	0.329	0.929	0.441	0.337	1.554
近所の子どもたちにあいさつをする ※	0.436 **	0.192	1.547	0.471 **	0.200	1.601	0.715 ***	0.234	2.044
用がなくても商店街に行く ☆ ※	-0.495 **	0.207	0.610	-0.367 *	0.217	0.693	-0.226	0.256	0.797
喫茶店で友達とお茶をする ※	0.257	0.225	1.292	-0.177	0.232	0.837	-0.594 **	0.271	0.552
常連になっている飲食店がある ※	0.244	0.246	1.276	0.419	0.261	1.520	0.311	0.309	1.365
飲食店で見知らぬ人と会話する ※	0.281	0.375	1.324	0.184	0.399	1.202	-0.524	0.477	0.592
お店の人と世間話をする ※	-0.245	0.283	0.783	-0.231	0.294	0.794	-0.116	0.358	0.890
お店の人や店内の様子にユーモアを感じる ※	0.362	0.260	1.436	0.390	0.275	1.478	0.753 **	0.347	2.123
買い物をしたらおまけてもらえる ☆ ※	0.303	0.313	1.354	0.087	0.321	1.091	0.396	0.407	1.487
定数	-0.466	0.419	0.628	-0.844 *	0.433	0.430	-0.965 **	0.472	0.381
	疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.152 対数尤度 757.082 カイ2乗値 75.004*** N=637 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.158 対数尤度 708.572 カイ2乗値 75.739*** N=641 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.232 対数尤度 554.252 カイ2乗値 103.489*** N=642 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01		

祭りについて	幸福度			個人生活満足度			地域生活満足度		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
性別 対女性									
男性	-0.750 ***	0.178	0.473	-0.286	0.189	0.751	-0.133	0.215	0.875
年齢 対10歳代・20歳代									
30歳代	0.742 **	0.334	2.100	0.850 **	0.345	2.339	0.300	0.385	1.349
40歳代	0.785 **	0.309	2.192	0.690 **	0.313	1.995	0.898 **	0.370	2.455
50歳代	0.307	0.307	1.359	0.668 **	0.317	1.950	0.328	0.355	1.388
60歳代	0.357	0.316	1.430	0.950 ***	0.329	2.586	0.843 **	0.377	2.323
社会的制約 対制約最大									
制約大	0.447 *	0.245	1.564	0.511 **	0.245	1.666	0.707 ***	0.270	2.027
制約小	0.962 ***	0.257	2.616	1.240 ***	0.266	3.457	1.584 ***	0.310	4.876
制約最小	0.979 ***	0.256	2.663	1.642 ***	0.280	5.164	1.954 ***	0.331	7.057
住民同士のつながりがある地域である ☆	0.122	0.195	1.129	0.366 *	0.209	1.442	1.143 ***	0.272	3.138
地域の祭りに来場者として参加した ☆ ※	0.312	0.198	1.367	0.167	0.205	1.182	0.502 **	0.243	1.652
みこしの担ぎ手等、地域の祭りの担い手として参加 ☆ ※	0.203	0.351	1.225	0.349	0.377	1.418	0.069	0.437	1.072
地域の祭りに事前の準備期間から参加した ☆ ※	-0.205	0.396	0.815	-0.441	0.407	0.643	-0.461	0.501	0.631
地域の祭りの保存等に役員として参加した ☆ ※	0.236	0.465	1.266	1.075 **	0.545	2.931	0.012	0.582	1.012
定数	-0.383	0.334	0.681	-0.794 **	0.344	0.452	-0.585	0.384	0.557
	疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.117 対数尤度 780.008 カイ2乗値 57.393*** N=643 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.143 対数尤度 723.013 カイ2乗値 68.965*** N=647 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.186 対数尤度 582.648 カイ2乗値 82284*** N=646 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01		



子ども・教育について		幸福度			個人生活満足度			地域生活満足度		
		係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
性別	対女性									
	男性	-0.842 ***	0.183	0.431	-0.358 *	0.191	0.699	-0.228	0.223	0.796
年齢	対10歳代・20歳代									
	30歳代	0.604 *	0.344	1.829	0.775 **	0.353	2.172	0.225	0.402	1.252
	40歳代	0.753 **	0.316	2.123	0.726 **	0.317	2.067	1.014 ***	0.384	2.757
	50歳代	0.371	0.313	1.450	0.806 **	0.322	2.238	0.545	0.368	1.724
	60歳代	0.281	0.317	1.324	0.997 ***	0.330	2.710	0.908 **	0.388	2.480
社会的制約	対制約最大									
	制約大	0.440 *	0.249	1.552	0.461 *	0.248	1.585	0.634 **	0.280	1.886
	制約小	0.966 ***	0.260	2.627	1.166 ***	0.267	3.208	1.441 ***	0.315	4.223
	制約最小	0.875 ***	0.261	2.400	1.517 ***	0.283	4.561	1.631 ***	0.343	5.108
	子どもの教育環境として良好な地域である	0.426 **	0.190	1.531	0.297	0.195	1.346	1.255 ***	0.225	3.509
	地域の子どもたちは自分より年下の面倒をよくみている ※	0.553 *	0.291	1.739	0.705 **	0.308	2.024	0.038	0.365	1.039
	地域の子どもたち同士の絆が強い ※	0.050	0.300	1.051	-0.049	0.318	0.952	0.531	0.397	1.701
	保護者同士の交流が活発である ※	0.014	0.261	1.014	-0.081	0.276	0.922	-0.116	0.338	0.890
	地域には子どもたちの居場所がある ※	0.300	0.221	1.350	0.354	0.232	1.425	0.729 ***	0.280	2.073
	近所の人々が地域の子どもの面倒を見ている ※	-0.183	0.287	0.833	-0.017	0.305	0.983	-0.155	0.388	0.856
定数		-0.610 *	0.343	0.543	-0.974 ***	0.350	0.378	-1.052 ***	0.400	0.349
		疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.151 対数尤度 758.931 カイ2乗値 74.643*** N=640 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.158 対数尤度 711.979 カイ2乗値 76.165*** N=644 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.253 対数尤度 545.028 カイ2乗値 114.115*** N=645 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01		

防災・防犯について		幸福度			個人生活満足度			地域生活満足度		
		係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
性別	対女性									
	男性	-0.719 ***	0.182	0.487	-0.248	0.194	0.780	-0.149	0.229	0.862
年齢	対10歳代・20歳代									
	30歳代	0.705 **	0.342	2.024	0.827 **	0.357	2.286	0.247	0.408	1.280
	40歳代	0.714 **	0.316	2.042	0.636 **	0.323	1.889	0.804 **	0.390	2.235
	50歳代	0.276	0.317	1.318	0.641 *	0.331	1.898	0.226	0.383	1.253
	60歳代	0.093	0.323	1.098	0.786 **	0.341	2.196	0.537	0.406	1.710
社会的制約	対制約最大									
	制約大	0.482 *	0.251	1.619	0.568 **	0.252	1.764	0.853 ***	0.288	2.347
	制約小	0.923 ***	0.263	2.517	1.249 ***	0.275	3.486	1.581 ***	0.331	4.862
	制約最小	0.900 ***	0.264	2.460	1.559 ***	0.288	4.756	1.739 ***	0.351	5.690
	防犯面で安心できる地域である	0.247	0.212	1.281	0.564 ***	0.218	1.758	0.991 ***	0.246	2.694
	災害に対して安全な地域である	0.351 *	0.206	1.421	0.173	0.215	1.189	0.722 ***	0.244	2.059
	隣の人々がどんな人か知っている ※	0.262	0.206	1.300	0.377 *	0.214	1.458	0.550 **	0.251	1.734
	地域の子どもたちの様子がわかる ※	0.122	0.204	1.129	0.231	0.217	1.260	0.223	0.264	1.250
	地域に住む高齢者・障がい者（いざという時助けが必要な人）の方を知っている ☆ ※	0.286	0.231	1.332	0.369	0.249	1.447	0.566 *	0.305	1.761
	地域での見回り活動に参加したい ☆ ※	-0.123	0.283	0.885	-0.011	0.301	0.989	-0.551	0.352	0.576
	防災訓練あるいは防犯訓練に参加したい ☆ ※	0.478 **	0.230	1.613	0.289	0.242	1.335	0.377	0.293	1.458
定数		-0.896 **	0.362	0.408	-1.486 ***	0.376	0.226	-1.545 ***	0.426	0.213
		疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.152 対数尤度 758.623 カイ2乗値 74.951*** N=735 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.181 対数尤度 698.375 カイ2乗値 88.079*** N=644 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.274 対数尤度 529.248 カイ2乗値 123.584*** N=643 *p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01		

地域の印象について	幸福度			個人生活満足度			地域生活満足度		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
性別 対女性									
男性	-0.861 ***	0.187	0.423	-0.322	0.197	0.725	-0.310	0.243	0.733
年齢 対10歳代・20歳代									
30歳代	0.710 **	0.351	2.034	0.828 **	0.363	2.288	0.548	0.436	1.731
40歳代	0.787 **	0.320	2.196	0.771 **	0.323	2.162	1.124 ***	0.408	3.076
50歳代	0.279	0.319	1.322	0.799 **	0.330	2.223	0.650	0.400	1.915
60歳代	0.186	0.324	1.204	0.987 ***	0.339	2.683	0.881 **	0.415	2.412
社会的制約 対制約最大									
制約大	0.358	0.258	1.431	0.373	0.259	1.452	0.404	0.309	1.498
制約小	0.870 ***	0.269	2.388	1.019 ***	0.278	2.771	1.061 ***	0.346	2.889
制約最小	0.866 ***	0.270	2.378	1.395 ***	0.292	4.035	1.313 ***	0.367	3.717
まちなみが魅力的な地域である	0.238	0.190	1.269	0.045	0.200	1.046	1.110 ***	0.261	3.035
賑わいを感じる ☆ ※	0.268	0.251	1.308	0.550 **	0.280	1.734	0.913 **	0.380	2.492
安心して街を歩ける ※	0.710 ***	0.234	2.034	0.821 ***	0.244	2.273	1.477 ***	0.284	4.380
懐かしさを感じる ☆ ※	0.003	0.252	1.003	0.154	0.269	1.167	0.296	0.332	1.344
味のある街だと思う ☆ ※	-0.169	0.315	0.844	0.304	0.346	1.356	-0.126	0.391	0.881
人のあたたかみを感じる ☆ ※	0.323	0.279	1.382	0.410	0.298	1.507	1.113 **	0.443	3.045
人が寛容である ※	0.355	0.319	1.426	0.251	0.329	1.285	0.968 *	0.568	2.632
他人に気兼ねなく過ごせる ※	0.147	0.195	1.158	-0.151	0.204	0.860	0.325	0.271	1.384
定数	-0.839 **	0.387	0.432	-1.205 ***	0.401	0.300	-1.714 ***	0.490	0.180
	疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.162			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.155			疑似決定係数 (Nagelkerke) 0.308		
	対数尤度 727.648			対数尤度 676.419			対数尤度 470.557		
	カイ2乗値 77.633***			カイ2乗値 71.527***			カイ2乗値 132.115***		
	N=620			N=624			N=625		
	*p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			*p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01			*p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01		

◆はじめにお読みください◆

◆調査の対象について  
この調査では、豊中市内にお住まいの、令和3年（2021年）8月31日時点で18歳から69歳の市民の皆さまの中から、2000人を無作為に選びアンケート調査票をお送りしています。

◆調査の取り扱いについて  
本アンケートの回収は無記名で行いますので、回答内容から個人名が特定されることはありません。  
お答えいただいた内容は公表させていただきますが、プライバシーに関わる内容が公表されたり、調査研究の目的以外に使用されたりすることは一切ありません。

◆ご記入に際してのお願い  
封筒のあて名はご本人さまがお答えになってください。なお、ご記入にあたっては、ご家族、ご友人などに代筆いただいても結構です。  
お答えは、このアンケート調査票に直接ご記入ください。回答方法は、あてはまる番号を選んで○印をつけていただく形式と、□の中に直接ご記入いただく形式があります。  
できるだけすべての質問に回答いただきたいのですが、回答したくない質問については未記入でも結構です。

◆アンケートの受付  
ご記入いただいたアンケート調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、11月5日（金）までにポストに入れてください。切手は不要です。名前を書く必要ありません。

【調査実施機関（委託先）】

〒541-0051  
大阪市中央区備後町2丁目4番9号 日本精化ビル6階  
株式会社エム・アールビジネス

## 豊中市における地域のイメージと人との関わりについてのアンケート

### アンケートご協力をお願い

日頃から、豊中市の市政の推進にご協力いただき、ありがとうございます。豊中市では、地域特性や社会環境の変化に伴う課題を整理し、市民・事業者と行政が共有できる中長期的なまちづくりの方向性を示すことで、さまざまな施策を一体的に推し進めています。

このたび、これらの施策をより一層推進する上での参考とさせていただきますため、都市経営部とよなか都市創造研究所にて市民の皆さまを対象としたアンケートを実施することに致しました。

十分な調査結果を得るためには、できるだけ多くのお答えをいただく必要があります。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年（2021年）10月

豊中市 都市経営部  
とよなか都市創造研究所長

※調査に関する質問などは、下記までお問合せください。よろしくお願いいたします。

<お問い合わせ先>

豊中市 都市経営部 とよなか都市創造研究所  
〒561-0884 豊中市岡町北3丁目13番7号 人権平和センター豊中3階  
電話：06-6858-8811 FAX：06-6858-8801  
（担当：平田）

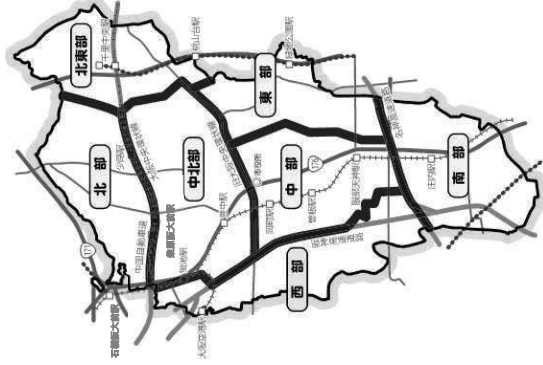
**I. まず、現在お住まいの地域についておたずねします。**

問 1. あなたが現在お住まいの地域は、次のうちどちらになりますか。(○は1つだけ)  
 ※地域の区分は下の地図をご参照ください。

- |          |         |         |          |
|----------|---------|---------|----------|
| 1. 北東部地域 | 2. 北部地域 | 3. 東部地域 | 4. 中北部地域 |
| 5. 中部地域  | 6. 西部地域 | 7. 南部地域 |          |

**豊中市地域区分**

地域	地域区分
北東部	千里ニュータウンおよび上新田からなる地域
北部	大阪中央環状線以北の地域及び千里緑地以西の地域
東部	北大阪急行・御堂筋線沿線地域で天竺川以東および名神高速道路以北の地域
中北部	阪急宝塚線沿線地域で千里緑地以西および旧大阪中央環状線以北の地域
中部	阪急宝塚線沿線地域で旧大阪中央環状線以南および名神高速道路以北の地域
西部	阪神高速道路および大阪国際空港緑地以西の地域と阪急堂島駅周辺の地域
南部	名神高速道路以南の地域



**【問2～問7は、問1で回答されたあなたが現在お住まいの地域を想定してお答えください】**

問 2. あなたは現在お住まいの地域に、通算で何年お住まいですか。(○は1つだけ)

- |              |               |             |
|--------------|---------------|-------------|
| 1. 1年未満      | 2. 1年以上3年未満   | 3. 3年以上5年未満 |
| 4. 5年以上10年未満 | 5. 10年以上20年未満 | 6. 20年以上    |

問 3. あなたは中学校卒業の時点で、どこにお住まいでしたか。(○は1つだけ)

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 現在の地域                          |
| 2. 現在の地域以外の豊中市内                   |
| 3. 豊中市以外の大府市内                     |
| 4. 大阪府以外の大府圏内（京都・兵庫・滋賀・奈良・和歌山・三重） |
| 5. 東京都内・神奈川県                      |
| 6. その他（海外を含む）                     |

問 4. あなたは現在お住まいの地域の現状について、どのように感じていますか。  
 次のア～スの各項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。  
 (○は各項目それぞれ1つずつ)

	選択肢					
	そう思う	どちらか といえ ば そう 思う	どちら とも いえ ない	どちら とも いえ ない	どちらか といえ ば そう 思う	そう 思わ ない
ア 買い物が便利な地域である	1	2	3	4	5	5
イ 鉄道やバスでの移動が便利な地域である	1	2	3	4	5	5
ウ 病院が利用しやすい地域である	1	2	3	4	5	5
エ 公共施設が利用しやすい地域である	1	2	3	4	5	5
オ 防犯面で安心できる地域である	1	2	3	4	5	5
カ 災害に対して安全な地域である	1	2	3	4	5	5
キ 身近な緑が充実した地域である	1	2	3	4	5	5
ク まちなみが魅力的な地域である	1	2	3	4	5	5
ケ 駅周辺の商業地が魅力的な地域である	1	2	3	4	5	5
コ 自分好みの飲食店が充実した地域である	1	2	3	4	5	5
カ 子ども教育環境として良好な地域である	1	2	3	4	5	5
シ 住民同士のつながりがある地域である	1	2	3	4	5	5
ス 若い世代が暮らしやすい地域である	1	2	3	4	5	5

問 5. あなたがお住まいの地域での「食」にかかわる事柄についてどのようにお感じでしょうか。  
 次のア～クの各項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。  
 (○は各項目それぞれ1つずつ)

	選択肢			
	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう 思わない	そう 思わない
ア 食に関するイベントが盛んである	1	2	3	4
イ ランチをするお気に入りの店がある	1	2	3	4
ウ 新鮮な食材が買える店がある	1	2	3	4
エ 食料品を安く買える	1	2	3	4
オ ひとりでも気軽に入れる飲食店がある	1	2	3	4
カ ひとつおきのディナーをする店がある	1	2	3	4
キ ゆっくり過ごせるカフェ、喫茶店がある	1	2	3	4
ク 街を歩くと美味しそうな食べ物の匂いがある	1	2	3	4

問 6. あなたがお住まいの地域での「スポーツ」にかかわる活動についておたずねします。  
 地域内の公園、体育館、民間施設等において、次のような経験はどのくらいありますか。次のア～キの各項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。  
 (○は各項目それぞれ1つずつ)

	選択肢			
	よくある (週に1回 以上)	時々ある (1か月に 1～3回程度)	めったにない (1年に 1～5回程度)	まった ない
ア 散歩をする	1	2	3	4
イ 野球やサッカーなどの球技をする	1	2	3	4
ウ 室内(ジムなど)で運動をする	1	2	3	4
エ 屋外で体操する	1	2	3	4
オ プールで泳ぐ	1	2	3	4
カ サイクリングをする	1	2	3	4
キ ランニングをする	1	2	3	4

問 7. あなたがお住まいの地域での「音楽」にかかわる活動についておたずねします。  
 日常生活の中で、次のような経験はどのくらいありますか。次のア～クの各項目について、あて  
 はまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。(○は各項目それぞれ1つずつ)  
 ※なお、現在新型コロナウイルス感染症予防の観点から、自粛されている音楽活動も多くあります。コロナウィルス流行  
 前の状況をお答えください。

	選択肢			
	よくある (2か月に1回 以上)	時々ある (1年に 2～5回程度)	めったにない (1年に 1回以下)	まった くない
ア コンサートなどによるクラシック 音楽鑑賞	1	2	3	4
イ コンサートなどによるクラシック 以外の音楽鑑賞	1	2	3	4
ウ 街角での音楽イベント参加	1	2	3	4
エ カラオケ	1	2	3	4
オ コーラス・声楽	1	2	3	4
カ 楽器演奏(クラシック音楽)	1	2	3	4
キ 楽器演奏(クラシック音楽以外)	1	2	3	4
ク 邦楽(民謡、日本古来の音楽等)	1	2	3	4

## II. 社会関係についておたずねします。

問 8-1. あなたは、一般的に人（家族、仲のよい友人や同僚など、身近な人をのぞく）は信用できると  
 思いますか。それとも、人と付き合うときには、できるだけ用心したほうがよいと思いますか。  
 あなたの考え方に近いと思うレベルの数字を1つ選び、その数字に○を付けてください。

(○は1つだけ)

ほとんどの人は信用できる				両者の中間				できるだけ用心した方がよい	わからない
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

問 8-2. それでは、あなたの近くに住んでいる人は信用できると思えますか。(○は1つだけ)

ほとんどの人は信用できる				両者の中間				できるだけ用心した方がよい	わからない
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

問 8-3. それでは、「旅先」や「見知らぬ土地」で出会う人は信用できると思えますか。(○は1つだけ)

ほとんどの人は信用できる				両者の中間				できるだけ用心した方がよい	わからない
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

問 9. あなたは以下にあげる団体・組織に加入していますか。次のア～カの各項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。(○は各項目それぞれ1つずつ)

	選択肢			
	加入して積極的に活動している	加入しているがあまり活動していない	かつては加入していた	今まで加入したことがない
ア 町内会・自治会等	1	2	3	4
イ 学校のPTA等、学校関係の団体・組織	1	2	3	4
ウ 子育てのサークル	1	2	3	4
エ 趣味のサークル	1	2	3	4
オ 業界団体・同業者団体	1	2	3	4
カ ボランティア・NPO等の市民活動団体やサークル	1	2	3	4

問 10. あなたのご近所に、以下のような方は何人くらいいらっしゃいますか(ただし、ご自身の親類縁者は除きます)。次のア～オの各項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。(○は各項目それぞれ1つずつ)

	選択肢				
	0人	1～3人	4～6人	7～9人	10人以上
ア 道で会えばあいさつを交わすだけの人の人	1	2	3	4	5
イ 会えば、立ち話したくなる人	1	2	3	4	5
ウ お互いの家にあがって話をする人	1	2	3	4	5
エ 旅行に行ったときに、おみやげを買ってくれる人	1	2	3	4	5
オ 日常生活において、助け合ったり支援してくれたりする人	1	2	3	4	5

【問11～問14は、問1で回答されたあなたがお住まいの地域を想定してお答えください】

問11. あなたがお住まいの地域での人との関わりについておたずねします。  
日常生活の中で、次のような経験はどのくらいありますか。次のア～コの各項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。(○は各項目それぞれ1つずつ)

	選択肢			
	よくある	時々ある	めったにない	まったくない
ア 通行人に道を聞かれる	1	2	3	4
イ 子どもたちの遊ぶ声が聞える	1	2	3	4
ウ 近所の子どもたちにあいさつをする	1	2	3	4
エ 用がなくても商店街に行く	1	2	3	4
オ 喫茶店で友達とお茶をする	1	2	3	4
カ 常連になっている飲食店がある	1	2	3	4
キ 飲食店で見知らぬ人と会話する	1	2	3	4
ク お店の人と世間話をする	1	2	3	4
ケ お店の人や店内の様子にユーモアを感じる	1	2	3	4
コ 買い物をしたらおまけしてもらえる	1	2	3	4

問12. あなたがお住まいの地域での子どもたちの様子についてどのよう感じていますか。次のア～オの各項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。  
(○は各項目それぞれ1つずつ)

	選択肢			
	そう思う	どちらかといえそうですが思う	どちらかといえませんが思う	そう思わない
ア 地域の子どもたちは自分より年下の面倒をよく見ている	1	2	3	4
イ 地域の子どもたち同士の間が強い	1	2	3	4
ウ 保護者同士の交流が活発である	1	2	3	4
エ 地域には子どもたちの居場所がある	1	2	3	4
オ 近所の人が地域の子どもの面倒を見ている	1	2	3	4

問13. あなたがお住まいの地域での「防災・防犯」にかかわる活動についておたずねします。

日常生活の中で、次のような経験はどのくらいありますか。次のア～オの各項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。(○は各項目それぞれ1つずつ)

	選択肢			
	そう思う	どちらかといえそうですが思う	どちらかといえませんが思う	そう思わない
ア 隣の人がどんな人か知っている	1	2	3	4
イ 地域の子どもたちの様子がわかる	1	2	3	4
ウ 地域に住む高齢者・障がい者(いざという時助けが必要な人)の方を知っている	1	2	3	4
エ 地域での見回り活動に参加したい	1	2	3	4
オ 防災訓練あるいは防犯訓練に参加したい	1	2	3	4

問14. あなたがお住まいの地域での「祭り」についておたずねします。

新型コロナウイルス禍以前に、地域の祭りへの参加はどのくらいありましたか。次のア～エの各項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。  
(○は各項目それぞれ1つずつ)

	選択肢			
	毎回積極的に参加した	毎回ではないが積極的に参加した	地域ではあまりして参加した	まったく参加したことがない
ア 地域の祭りに来場者として参加した	1	2	3	4
イ みこしの担ぎ手等、地域の祭りの担い手として参加した	1	2	3	4
ウ 地域の祭りに事前の準備期間から参加した	1	2	3	4
エ 地域の祭りの保存等として参加した	1	2	3	4

問15. あなたは普段どの程度幸せだと感じていますか。「とても不幸」を0点、「とても幸福」を10点として、あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。(○は1つだけ)

とても不幸											とても幸福
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	

問 16. あなたは現在のご自身の生活にどの程度満足していますか。あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。(○は1つだけ)

- |         |              |         |
|---------|--------------|---------|
| 1. 満足   | 3. どちらともいえない | 4. 少し不満 |
| 2. まあ満足 |              | 5. 不満   |

**Ⅲ. まちの環境についておたずねします。**

問 17. 以下に示した街並みの印象はどのようなものでしょうか。次のア～エの各項目についてあてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。(○は各項目それぞれ1つずつ)



	選択肢			
	そう思う	どちらか といえは そう思う	どちらか といえは そう	そう 思わない
ア 活気がある	1	2	3	4
イ 懐かしい感じがする	1	2	3	4
ウ あたたかみがある	1	2	3	4
エ 親しみがある	1	2	3	4

問 18. あなたにとって「身近な緑」とはどのようなものでしょうか。以下に示した写真のうち、あなたが思う「身近な緑」のイメージに近いものを1つ選び、○をつけてください。(○は1つだけ)

1	2

**Ⅳ. あらためて、あなたがお住まいの地域についておたずねします。**

【問 19～問 22 は、問 1 で回答されたあなたが現在お住まいの地域を想定してお答えください】

問 19. あなたがお住まいの地域の印象についておたずねします。あなたがお住まいの地域の印象としてあてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 1. 賑わいを感じる      | 2. 安心して街を歩ける |
| 3. 懐かしさを感じる     | 4. 味のある街だと思ふ |
| 5. 人のあたたかみを感じる  | 6. 人が寛容である   |
| 7. 他人に気兼ねなく過ごせる |              |

問 20. あなたは現在お住まいの地域について、どのように感じていますか。次のア～オの各項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。  
(○は各項目それぞれ1つずつ)

	選択肢				
	そう思う	どちらか といえは そう思う	どちら とも いえない	どちらか といえは そう 思わない	そう 思わない
ア 住みやすいところだと思ふ	1	2	3	4	5
イ 自分にとって大切なところだと思ふ	1	2	3	4	5
ウ 地域の雰囲気や土壌柄が気に入っている	1	2	3	4	5
エ 地域にはいつまでも変わってほしくないものがある	1	2	3	4	5
オ 今後もいまの地域に住み続けたい	1	2	3	4	5

問 21. 総合的にみて、あなたは現在お住まいの地域での生活にどの程度満足していますか。あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

- |         |              |         |
|---------|--------------|---------|
| 1. 満足   | 3. どちらともいえない | 4. 少し不満 |
| 2. まあ満足 |              | 5. 不満   |

問 22. あなたがお住まいの地域の「良いと思える点」をお書きください。



最後にあなたご自身についておたずねします。

問 23. あなたの性別を教えてください。(○は1つだけ)

1. 男性                      2. 女性                      3. その他・答えたくない

問 24. あなたの現在の年齢を教えてください。(○は1つだけ)

※令和3年(2021年)8月31日時点の年齢でお答えください。

1. 18歳～19歳              2. 20歳～24歳              3. 25歳～29歳              4. 30歳～34歳  
5. 35歳～39歳              6. 40歳～44歳              7. 45歳～49歳              8. 50歳～54歳  
9. 55歳～59歳              10. 60歳～64歳              11. 65歳～69歳

問 25. あなたを含めて、現在同居されている方の人数を数字でご記入ください。

※ひとり暮らしの場合は「1」とご記入ください。

あなたご自身を含めて  人

問 26. 現在、あなたはあなたと一緒にお住まいですか。あなたとの続柄で、あてはまる人すべてをお答えください。(○はいくつでも)

※各選択肢には、配偶者の祖父母、親、兄弟姉妹など「義理の関係」も含まれます。

1. いない(ひとり暮らし)              2. 配偶者・パートナー(事実婚を含む)  
3. 祖父母                                  4. 父  
5. 母    6. 子ども  
7. 孫    8. 兄弟姉妹  
9. その他の親族                          10. 友人など親族以外  
11. その他(具体的に: )

問 27. 現在のあなたのお仕事(複数ある場合は主なもの)を教えてください。(○は1つだけ)

1. 正規雇用の社員・職員  
2. 非正規雇用の社員・職員(パート・アルバイト、契約・派遣社員、非常勤職員など)  
3. 自営業(家族従業者、自由業を含む)  
4. 学生(予備校生を含む)  
5. 家事専業(主婦・主夫)  
6. 働いていない(年金生活者含む)  
7. その他(具体的に: )

問 28. あなたの通勤先・通学先(複数ある場合は主なもの)を教えてください。(○は1つだけ)

1. 豊中市内(ご自宅の場合を含む)              2. 大阪市内  
3. 豊中市・大阪市以外の大府内              4. 兵庫県内  
5. その他、大阪府・兵庫県以外の地域              6. 勤務したり学校に行ったりしていない

問 29. あなたがお住まいになっている住宅の種類を教えてください。(○は1つだけ)

1. 持ち家(一戸建て)                                  2. 持ち家(集合住宅)  
3. 賃貸(一戸建て)                                  4. 賃貸(集合住宅)  
5. 社宅・寮    6. その他(具体的に: )

問 30. あなたの世帯全体の過去1年の所得(税金・社会保険料などを除いた手取り額)はおおよそどのくらいですか(公的年金やその他の給付も含まれます)。(○は1つだけ)

1. 所得はない    2. 50万円未満  
3. 50～100万円未満                                  4. 100～150万円未満  
5. 150～200万円未満                                  6. 200～300万円未満  
7. 300～400万円未満                                  8. 400～500万円未満  
9. 500～600万円未満                                  10. 600～700万円未満  
11. 700～800万円未満                                  12. 800～900万円未満  
13. 900～1,000万円未満                                  14. 1,000～1,250万円未満  
15. 1,250～1,500万円未満                                  16. 1,500～1,750万円未満  
17. 1,750～2,000万円未満                                  18. 2,000万円以上

問 31. あなたが最後に卒業された学校、あるいは在学中の学校を教えてください。(○は1つだけ)

1. 中学校    2. 高校  
3. 専門学校    4. 短大・高専  
5. 大学    6. 大学院  
7. その他(具体的に: )

ご協力ありがとうございます。

このアンケート調査票を三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、  
11月5日(金)までにポストに入れてください。

---

南部地域活性化推進に関する調査研究

No.22-02

令和4(2022)年3月

編集・発行 とよなか都市創造研究所

〒561-0884 大阪府豊中市岡町北3丁目13番7号(人権平和センター豊中3階)

TEL : 06-6858-8811

FAX : 06-6858-8801

URL : <https://www.tcct.zaq.ne.jp/tium> E-mail : [tium@tcct.zaq.ne.jp](mailto:tium@tcct.zaq.ne.jp)

---

